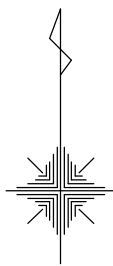


津市消防団白山方面団第4分団詰所・車庫整備に伴う
旧津市白山郷土資料館改修工事

図面リスト							
建築工事					電気設備工事・機械設備工事		
図面番号	図面名称	図面番号	図面名称	図面番号	図面名称	図面番号	図面名称
	【建築工事】	(A－ 25)	改修後 断面詳細図 1	(S－ 01)	構造設計標準仕様書		【電気設備工事】
(A－ 01)	表題・目次	(A－ 26)	改修後 断面詳細図 2	(S－ 02)	鉄筋コンクリート構造配筋標準図(1)	(E－ 01)	電気設備工事特記仕様書 1
(A－ 02)	附近見取図、工事概要	(A－ 27)	改修後 階段詳細図	(S－ 03)	鉄筋コンクリート構造配筋標準図(2)	(E－ 02)	電気設備工事特記仕様書 2
(A－ 03)	改修特記仕様書 1	(A－ 28)	改修前 展開図 1	(S－ 04)	鉄骨構造標準図(1)	(E－ 03)	電気設備工事特記仕様書 3
(A－ 04)	改修特記仕様書 2	(A－ 29)	改修前 展開図 2	(S－ 05)	鉄骨構造標準図(2)	(E－ 04)	電気設備 改修後 配置図
(A－ 05)	改修特記仕様書 3	(A－ 30)	改修前 展開図 3	(S－ 06)	改修前 基礎伏図・基礎詳細図	(E－ 05)	分電盤結線図
(A－ 06)	改修特記仕様書 4	(A－ 31)	改修前 展開図 4	(S－ 07)	改修後 基礎伏図・基礎詳細図	(E－ 06)	照明器具姿図
(A－ 07)	改修特記仕様書 5	(A－ 32)	改修前 展開図 5	(S－ 08)	改修前 2階梁伏図・小屋伏図	(E－ 07)	電灯設備 改修後 平面図
(A－ 08)	改修特記仕様書 6	(A－ 33)	改修後 展開図 1 (車庫)	(S－ 09)	改修後 2階梁伏図・小屋伏図	(E－ 08)	コンセント設備 改修後 平面図
(A－ 09)	改修後 配置図、面積表	(A－ 34)	改修後 展開図 2 (事務室・便所)	(S－ 10)	改修前 軸組図・部材リスト	(E－ 09)	誘導灯設備・テレビ共同受信設備 改修後 平面図
(A－ 10)	改修後 敷地求積表	(A－ 35)	改修後 展開図 3 (和室)	(S－ 11)	改修後 軸組図・部材リスト	(E－ 10)	電灯設備 改修前 平面図
(A－ 11)	改修後 床面積求積表	(A－ 36)	改修後 天井伏図	(S－ 12)	改修後 架構詳細図	(E－ 11)	コンセント設備・自動火災報知設備 改修前 平面図
(A－ 12)	改修後 法規チェック表	(A－ 37)	建具配置図				
(A－ 13)	外部仮設計画図	(A－ 38)	建具表 1 (新設SS・AD・AW・AP・改修AW)				
(A－ 14)	外部仕上表	(A－ 39)	建具表 2 (新設WD・TB撤去)				【機械設備工事】
(A－ 15)	内部仕上表 1	(A－ 40)	雑詳細図 1			(M－ 01)	機械設備工事特記仕様書 1
(A－ 16)	内部仕上表 2	(A－ 41)	雑詳細図 2			(M－ 02)	機械設備工事特記仕様書 2
(A－ 17)	改修前 平面図兼建具配置図	(A－ 42)	雑詳細図 3			(M－ 03)	給排水衛生設備 器具表・樹明細
(A－ 18)	改修後 平面図	(A－ 43)	雑詳細図 4(撤去)			(M－ 04)	給排水衛生設備 配置図
(A－ 19)	改修前 立面図					(M－ 05)	給排水衛生設備 平面図
(A－ 20)	改修後 立面図					(M－ 06)	給排水衛生設備 平面詳細図
(A－ 21)	改修前 1階平面詳細図					(M－ 07)	空調・換気設備 機器表 計算書
(A－ 22)	改修前 2階平面詳細図					(M－ 08)	空調・換気設備 平面図
(A－ 23)	改修後 1階平面詳細図						
(A－ 24)	改修後 2階平面詳細図						



附 近 見 取 図

工事場所：三重県津市白山町中ノ村地内

■ 計 画 概 要

工 事 名 称	津市消防団白山方面団第4分団詰所・車庫整備に伴う 旧津市白山郷土資料館改修工事
工 事 場 所	三重県津市白山町中ノ村地内
敷 地 面 積	1,189.58㎡
用 途 地 域	都市計画区域外
防 火 指 定	
その他の地域	
建 べ い 率	12.29%
容 積 率	13.78%
道 路 幅 員	8.750m
道路接道長さ	69.317m

■ 工 事 内 容

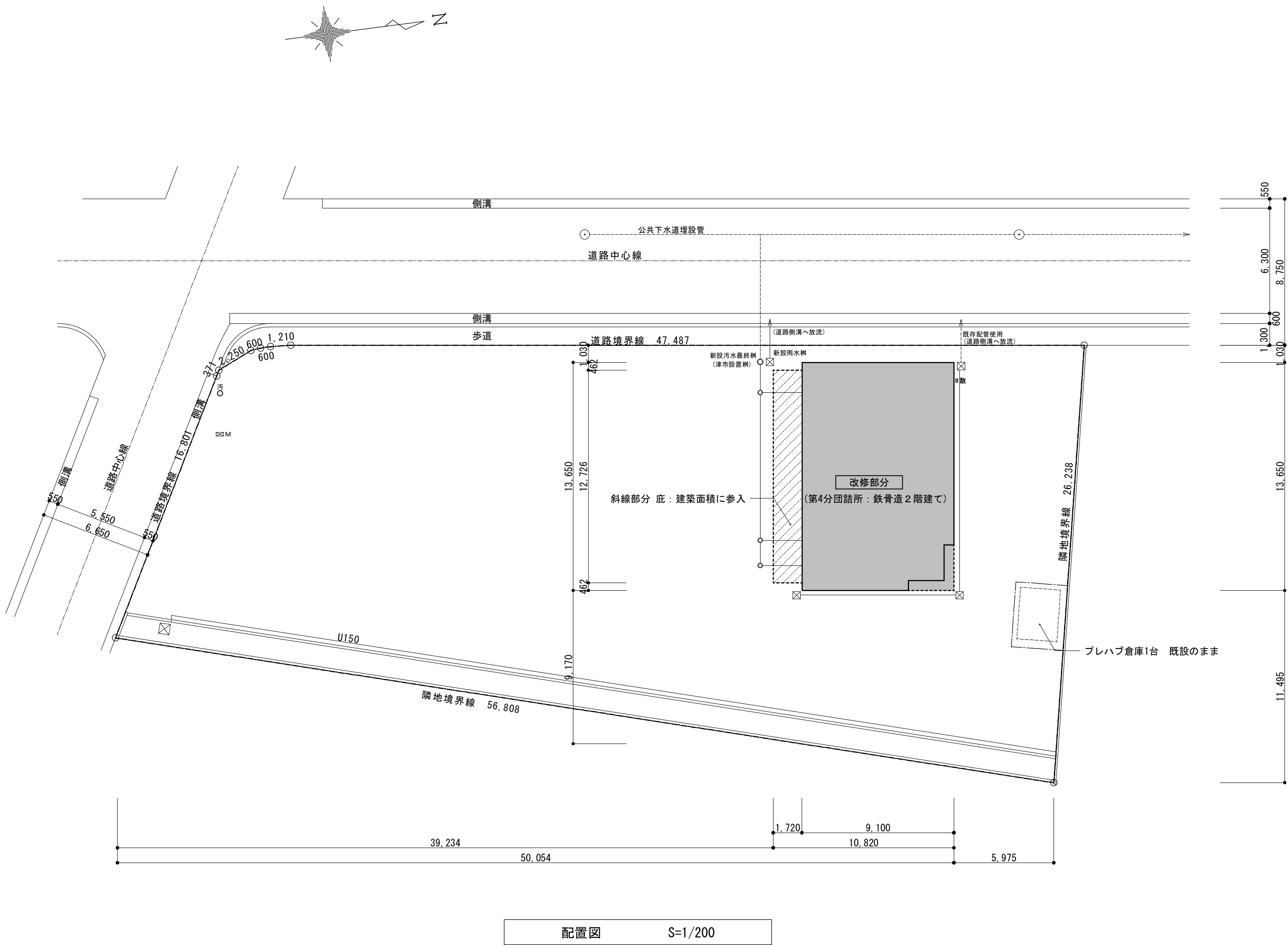
1. 津市消防団白山方面団第4分団詰所・車庫（鉄骨造2階建）
・旧資料館1階部分を事務室及び車庫、便所として改修する。
・旧資料館2階部分を和室として改修する。
・外部においては、腰壁ヲルを撤去し外壁塗装改修を基本とする。

原図:A2

原図:A2

⑧ の 5 耐 震 改 修 工 事 あ と 施 工 ア ン カ ー 工 事	(8. 21. 5)	柱頭柱脚の隙間部間の型枠 ・ 発泡プラスチック保温材等を埋込む ・ ()
	9 増設壁工事後の 仕上げ (8. 19. 10)	柱頭柱脚の隙間寸法 ・ 図示 (図面番号:)
		打ち込みコンクリート又はグラウト材の厚さ ・ 図示 (図面番号:) ・ 60mm ・ ()
		・ 図示 (図面番号:)
⑧ の 6 耐 震 改 修 工 事 鉄 骨 工 事	(あと施工アンカー) ① あと施工アンカ ーの材料 (8. 2. 4) (表8. 2. 2)	種類 ○ 金属系 セットの方式 ・ 本体打込み式 (○ 改良型 ・ 従来型) 径及び埋込み深さ ○ 図示 (図面番号: A-40) 引張耐力 ・ 図示 (図面番号:) せん断耐力 ・ 図示 (図面番号:) 接合筋の種類・径・長さ ○ 図示 (図面番号: A-40)
	② あと施工アンカ ーの施工 (8. 11. 2) (8. 11. 4) (8. 11. 5)	○ 接着系 カプセル型回転 ○ 打撃式 ・ 有機系 ・ 無機系 径及び埋込み深さ ○ 図示 (図面番号: S-07) 引張耐力 ・ 図示 (図面番号:) せん断耐力 ・ 図示 (図面番号:) アンカー筋の種類 ○ 図示 (図面番号: S-07) アンカー筋の新設壁内への定着長さ 図示 (図面番号:) あと施工アンカーの性能確認試験 ・ 行う ○ 行わない
	(場所打ちコンクリ ート壁の増設工事) 3 シアコネクタ (8. 11. 2)	穿孔 埋込み配管等の探査の範囲及び方法 範囲 ○ 図示 (図面番号:) ○ あと施工アンカー施工部分全て ・ () 方法 ○ 鉄筋探知機 (金属探知機) により検査し、鉄筋、配管類の位置に墨出しを行う。 ・ ()
		あと施工アンカーの施工確認試験 ○ 実施する ・ 実施しない 確認試験方法 ・ 改修標準仕様書 (8. 11. 5) による ○ (打音検査のみ)
8 の 8 耐 震 改 修 工 事 連 続 繊 維 補 強 工 事	1 鉄骨製作工場 (8. 1. 5)	㈱日本鉄骨評価センター又は㈱全国鉄骨評価機構の「鉄骨製作工事の性能評価基準」に定めるグレードとして国土交通大臣 から認定を受けた工場又は同等以上の能力のある工場 ・ J ・ R ・ M ・ H ・ S
	2 施工管理技術者 (8. 1. 5)	施工管理技術者 (鉄骨製作管理技術者、鉄骨工事管理責任者等) の適用 ・ しない ・ する
	3 鋼材 (8. 2. 8)	材質・形状及び寸法 ・ 図示 (図面番号:)
	4 高力ボルト (8. 2. 9) (8. 1. 6) (8. 13. 2) (8. 13. 7)	高力ボルトの適用 ・ トルシア形高力ボルト 2 種 (S10T) ・ JIS形高力ボルト 2 種 (F10T) ・ 溶融亜鉛めっき高力ボルト I 種 (F8T相当)
8 の 9 耐 震 補 強 工 事 ス リ ット 新 設 工 事	9 増設壁工事後の 仕上げ (8. 19. 10)	高力ボルトの径 ・ 図示 (図面番号:)
		ボルトの繰端距離、ボルト間隔、ゲージ等 ・ 図示 (図面番号:)
		すべり係数試験 ・ 行う 試験方法等 ・ 図示 (図面番号:) JIS形・ナット回転法かつボルト長がねじの 5 倍を超える場合の回転量 ・ ()
		仮組の実施 ・ 実施する () ・ 実施しない
8 の 10 そ の 他 工 事	6 技能資格者 (8. 14. 3)	溶接作業における技能資格者の技量付加試験 ・ 実施する () ・ 実施しない
	7 溶接部の試験 (8. 14. 11)	完全溶込み溶接部の超音波探傷試験 工場溶接の場合 ・ 全数試験とする ・ 公共建築工事標準仕様書 (平成25年版) (7. 6. 11) (b) による。 平均出検査品質限界 (A0QL) ・ 4. 0% ・ 2. 5% ・ () 検査水準 ・ 第 6 水準 ・ () ロットの構成 ()
		工事現場溶接の場合 ・ 全数試験とする ・ 公共建築工事標準仕様書 (平成25年版) (7. 6. 11) (b) による。 平均出検査品質限界 (A0QL) ・ 4. 0% ・ ()
8 の 7 耐 震 改 修 工 事 グ ラ ウ ト 工 事	8 溶接材料 (8. 2. 10)	・ 改修標準仕様書 (8. 2. 10) (a) (b) 以外の溶接材料
	9 溶接接合 (8. 14. 4) (8. 14. 7)	材料及び使用箇所 ・ 図示 (図面番号:) 開先の形状 ・ 図示 (図面番号:) スカーラップの形状 ・ 図示 (図面番号:)
	10 錆止め塗装 (8. 16. 3)	鉄骨鉄筋コンクリート造の鋼製スリーブの内面 (鉄骨に溶接されたものに限る) ・ 改修標準仕様書 (7. 3. 2) (表7. 3. 1) () 種 耐火被覆材の接着する面への塗装 ・ 行う ・ 行わない
	11 耐火被覆材の 種別及び性能 (8. 17. 2) (8. 17. 3)	適用箇所 図示 (図面番号:) 種類 ・ 改修標準仕様書 (7. 3. 2) (表7. 3. 1) () 種
8 の 8 耐 震 改 修 工 事 連 続 繊 維 補 強 工 事	12 プレース設置 工事後の仕上げ	・ 図示 (図面番号:)
	8 (グラウト工事) 1 モルタル及びグ ラウト材 (8. 2. 6) (8. 2. 11) (表8. 2. 5) (表8. 2. 10)	構造体用モルタル ・ 改修標準仕様書 (8. 2. 6) 及び (8. 2. 11) による。 無収縮モルタル ・ 改修標準仕様書 (8. 2. 11) (b) による () グラウト材 ・ 改修標準仕様書 (8. 2. 11) (c) による。
	(現場打ち鉄筋コンク リート壁の増設工事 及び鉄骨プレースの 設置工事等) 2 既存構造体との 取合部の処理方 法 (8. 19. 9) (8. 20. 7)	増設の現場打ち鉄筋コンクリート壁と既存構造体との隙間の処置方法 部位 処理方法 備考 ・ 増設壁の上部 ・ グラウト材を注入 ・ 寸法は図示による ・ () ・ () ・ ()
	8 (連続繊維補強工事) 1 連続繊維シート 等による工法 (8. 21. 7)	連続繊維による補強、補修工法 ・ (財) 日本建築防災協会の評価を受けた工法とする。 ・ ()
9 環 境 配 慮 改 修 工 事	2 連続繊維シート 及び含浸接着樹 脂等の材料 (8. 2. 12)	連続繊維の材料 ・ () 工法 ・ () 引張強度 (含浸硬化後) ・ () ヤング係数 (含浸硬化後) ・ ()
	3 連続繊維シート の施工準備	仕上げモルタルの除去 ・ 既存構造体面まで除去する ・ モルタル除去は行わない ・ () 既存モルタルの圧縮強度測定 ・ 行う () ・ 行わない
	4 鋼板巻き工法及 び帯板巻き付け 工法 (8. 21. 6)	ひび割れ部の改修工法 ・ 樹脂注入工法 ・ Uカットシール材充填工法 ・ シール工法
	5 耐震補強後の仕 上げ (8. 21. 8)	柱頭柱脚の隙間寸法 ・ 図示 (図面番号:)
9 環 境 配 慮 改 修 工 事	6 炭素繊維シート の施工	炭素繊維の目付量 ・ 図示 (図面番号:) ・ 200g/m2 ・ 300g/m2 ・ () 炭素繊維シートの巻き数 ・ 図示 (図面番号:) ・ 1 巻き ・ 2 巻き ・ ()
7 連続繊維補強材 の強度試験 (8. 21. 7)	引張強度試験 ・ 実施する (JIS A119Hに準拠する) 試験数量 () ・ 実施しない	
	8 (耐震スリット新設工 事) 1 スリットの種類 (8. 22. 1) (8. 22. 2)	付着強度試験 ・ 実施する (JIS A6909に準拠する) 試験数量 () ・ 実施しない 耐震スリットの種類及び形状 完全スリットの形状
	2 スリットの施工	部分スリットの形状
		スリット部の配管等の調査 範囲 ・ スリット新設部に伴う鉄筋コンクリートの撤去範囲全て。 ・ 図示 (図面番号:) () 方法 ・ 鉄筋探査機 (金属探知器) により探査し、鉄筋、配管類の位置に墨出しを行う。 スリットの逃げ位置 壁上端部 ・ 梁との接合部 ・ () 壁の柱きわ部 ・ 柱の仕上げを逃けたきわ部 ・ () 壁下端部 ・ 床仕上げ上部 ・ 床体上部 ・ () 撤去部の補修 ・ 図示 (図面番号:) 充填材 ・ 耐火材 使用箇所 () 仕様 () ・ 遮音材 使用箇所 () 仕様 ()
8 の 10 そ の 他 工 事	・ 免震改修、制震改修に関する仕様は、図示する。	
9 環 境 配 慮 改 修 工 事	1 アスベスト含有 建材の処理工事 (9. 1. 1) (9. 1. 3) ~ (9. 1. 5)	施工調査 ・ アスベスト含有建材の事前調査 工事着手に先立ち、目視及び貨与する設計図書等によりアスベストを含有している吹き付け材、成形板、建築材料等の 使用の有無について調査し、監督職員に報告する。 調査範囲 ・ 図示 (図面番号:) ・ () 貨与資料 () ・ 分析によるアスベスト含有建材の調査 分析対象 アクチノライト、アモサイト、アンソフィライト、クリソタイル、クロシドライト、トレモライト 分析方法 ・ JIS A 1481-1 (建材製品中のアスベスト含有率測定方法-第 1 部:市販バルク材からの試料採取及び定性的判定方 法) による ・ JIS A 1481-2 (建材製品中のアスベスト含有率測定方法-第 2 部:試料採取及びアスベスト含有の有無を判定する ための定性分析方法) による ・ JIS A 1481-3 (建材製品中のアスベスト含有率測定方法-第 3 部:アスベスト含有率の X 線回折定量分析方法) による 材料名 定性分析 定量分析 ・ 箇所数 () ・ 箇所数 () ・ 箇所数 () ・ 箇所数 () ・ 箇所数 () ・ 箇所数 () ・ 箇所数 () ・ 箇所数 () サンプル数 1 箇所あたり 3 サンプル 採取箇所 ・ 図示 (図面番号:) ・ ()

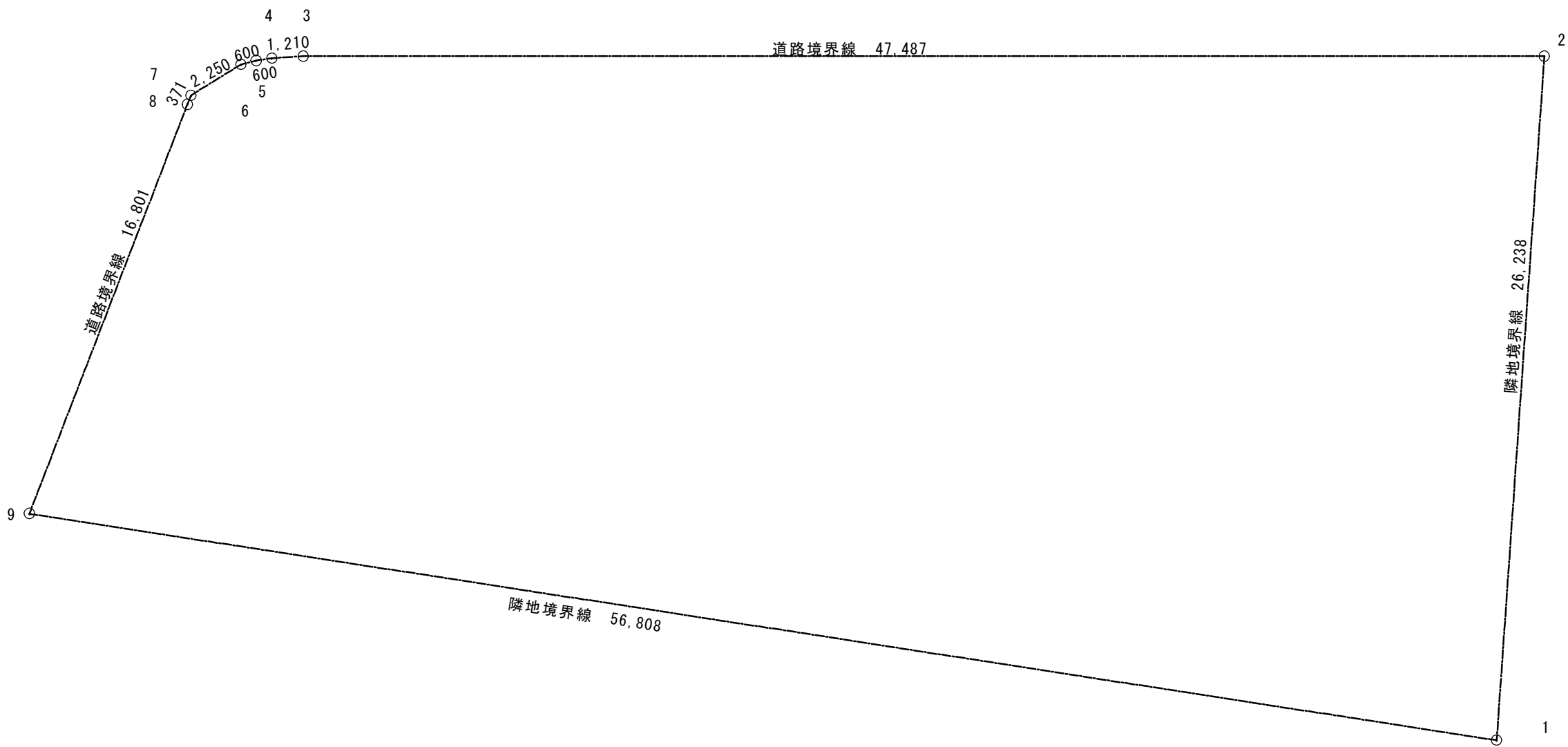
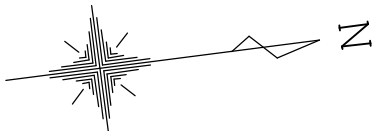
原図: A2



改修建物 面積表		
敷地面積	1189.58 m ²	(359.9坪)
建築面積	146.10 m ²	(44.1坪)
1階床面積	121.30 m ²	(36.6坪)
2階床面積	42.54 m ²	(12.8坪)
延べ面積	163.84 m ²	(49.4坪)

(坪換算: 敷地・3.305124m²/坪 建物・3.3124m²/坪)

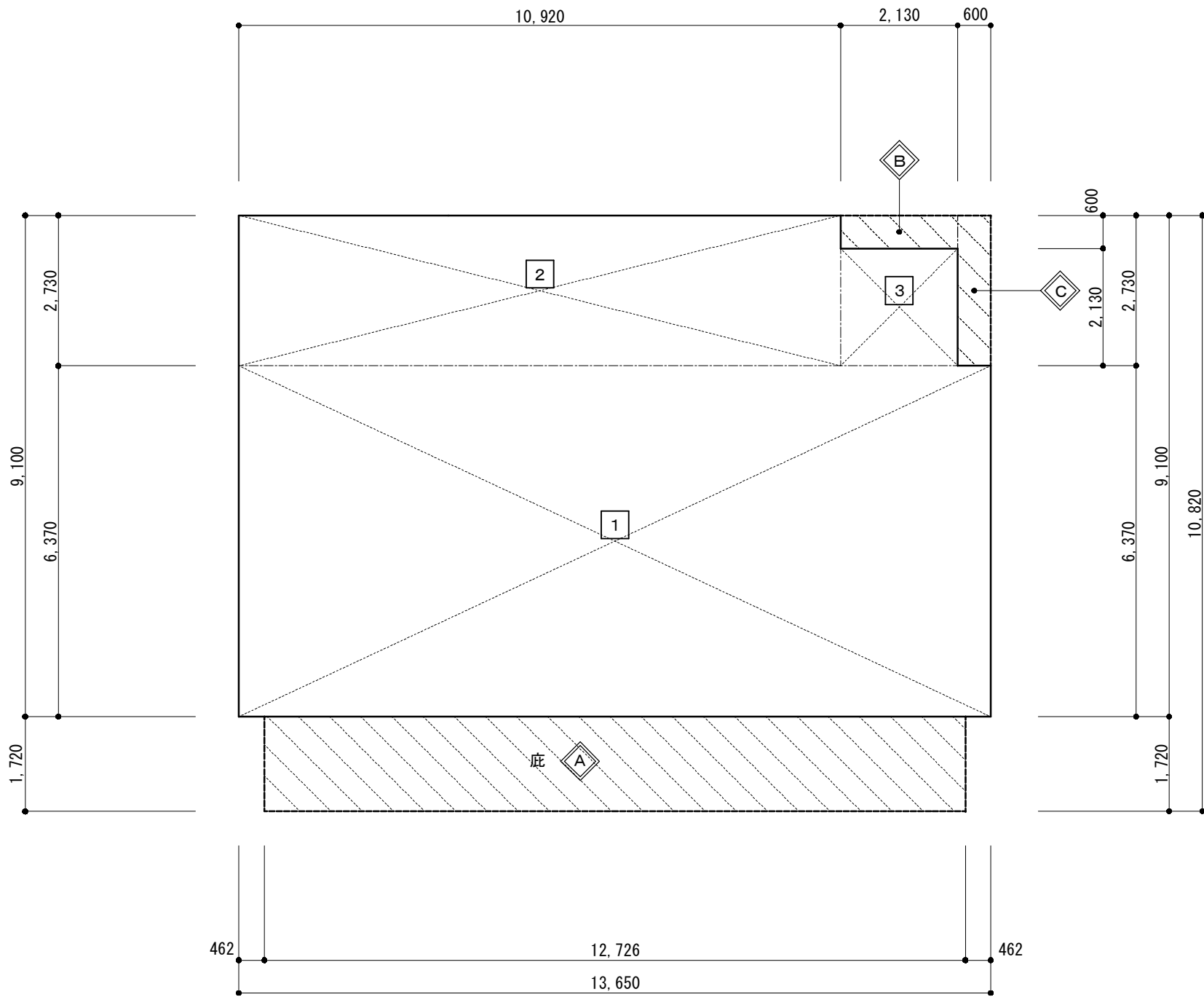
改修後



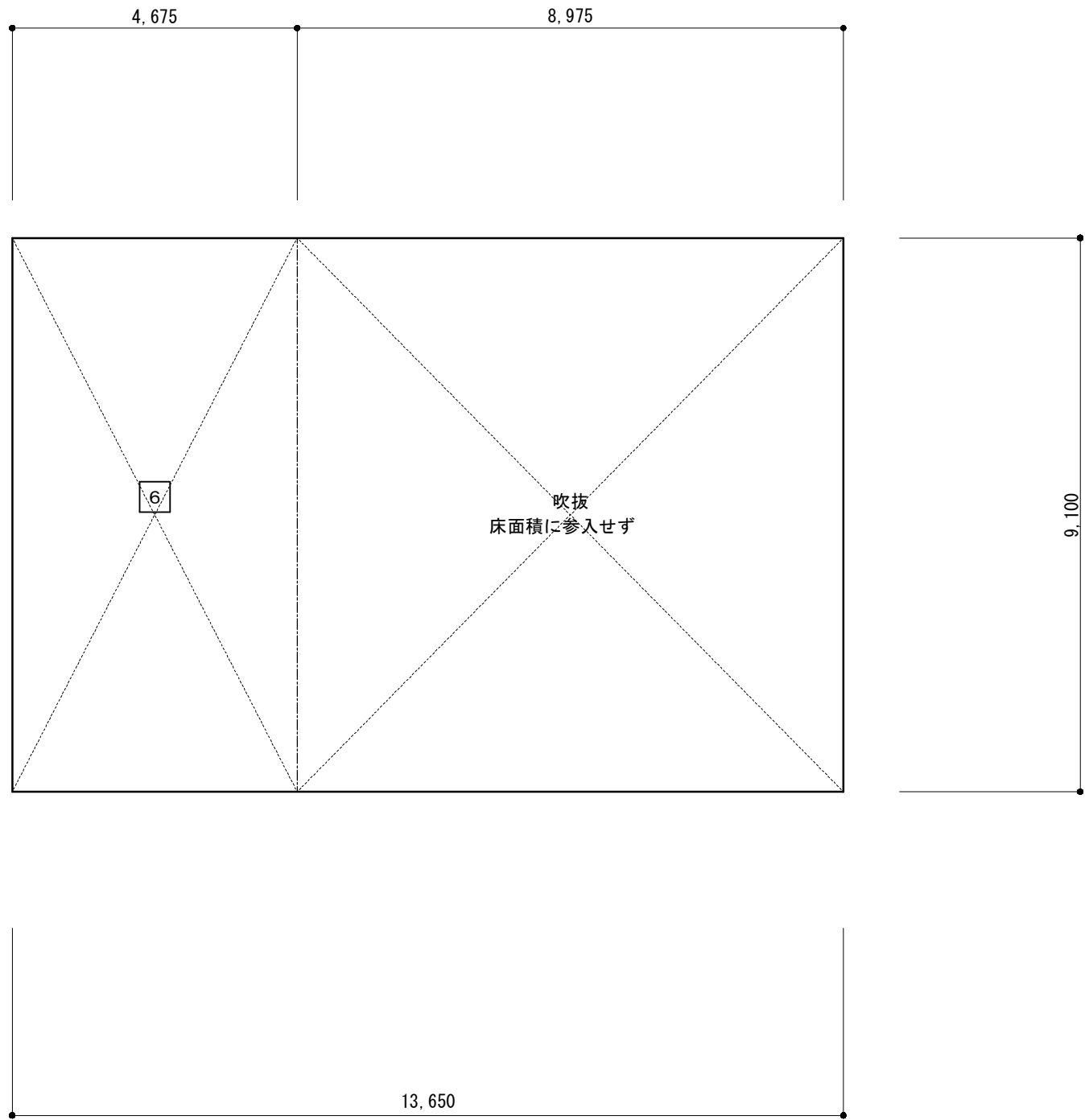
座 標 面 積 計 算 表				
測点	X 座標	Y 座標	辺 長	計 算
1	-1.000	1.000	26.238	51.33485
2	0.822	27.175	47.487	-2580.91845
3	-46.665	27.175	1.210	-65.50389
4	-47.872	27.095	0.600	-32.0813
5	-48.465	27.005	0.600	-31.34943
6	-49.047	26.860	2.250	-100.66664
7	-50.963	25.680	0.371	-6.784862
8	-51.096	25.334	16.801	-211.637664
9	-57.144	9.659	56.808	598.438896
倍 面 積				-2379.16849
× 1/2				-1189.584245
地 積 面 積				1189.58㎡

敷地求積図

S=1/200



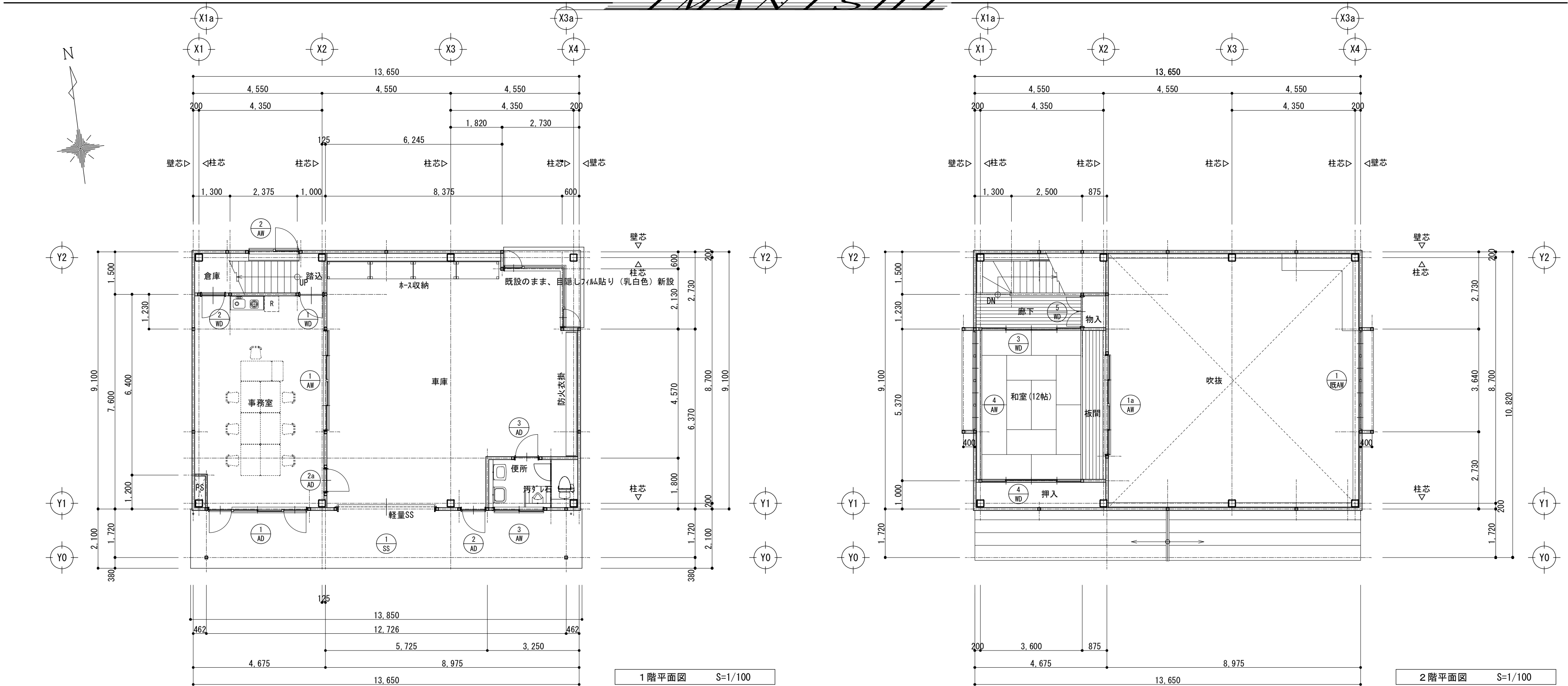
1 階面積求積図 S=1/100



2 階面積求積図 S=1/100

改修後

■床面積 求積表■						■面積表■				
1階床面積			建築面積		2階床面積・延床面積		建築面積	146.10 m ²		
1	6.37 × 13.65	= 86.9505	A	1.72 × 12.726	= 21.88872	6	9.10 × 4.675	= 42.5425	1 階床面積	121.30 m ²
2	2.73 × 10.92	= 29.8116	B	0.6 × 2.13	= 1.278				2 階床面積	42.54 m ²
3	2.13 × 2.13	= 4.5369	C	2.73 × 0.6	= 1.638				延床面積	163.84 m ²
			計	24.80472						
			1 階床面積	121.30		2 階床面積	42.54 m ²			
計	121.299									
1 階床面積	121.30 m ²		建築面積	146.10 m ²		延床面積	163.84 m ²			
										原図・A2



1 階 室面積 求積 (㎡)							2 階 室面積 求積 (㎡)							
車庫	5.725 × 1.8	= 10.305		便所	3.25 × 1.8	= 5.85	5.85 (㎡)	和室	4.675 × 5.37	= 25.10475	25.10 (㎡)			
	8.975 × 4.57	= 41.01575												
	8.375 × 2.13	= 17.83875		事務室	4.213 × 1.2	= 5.0556	5.0556	廊下	3.8 × 1.23	= 4.674	4.67 (㎡)			
	6.245 × 0.6	= 3.747			4.675 × 6.4	= 29.92	29.92							
					計 34.9756		34.97 (㎡)	階段室	4.675 × 1.5	= 7.0125	7.01 (㎡)			
		計 72.9065	72.91 (㎡)	倉庫	3.675 × 1.5	= 5.5125	5.51 (㎡)							

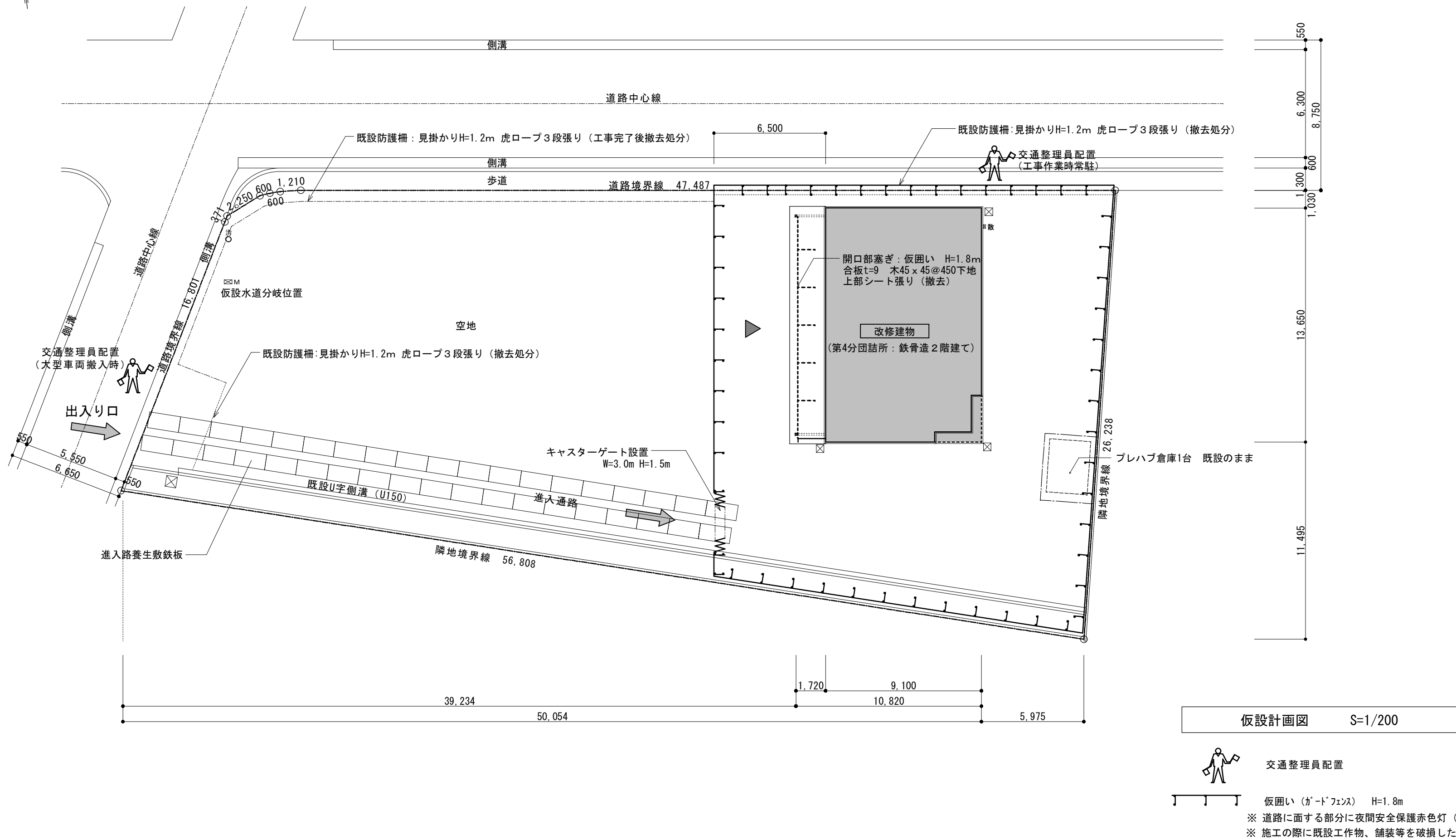
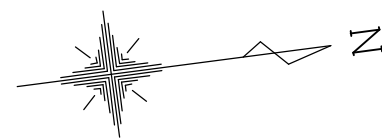
■法規チェック

		換気チェック (1/20)					採光チェック (1/20)					排煙チェック (1/50)					
居室名	床面積	必要換気面積	有効換気面積		判定	備考	必要採光面積	有効採光面積		判定	備考	必要排煙面積	有効排煙面積		判定	備考	
事務室	34.97	1.7485	AD1	1.7×1.2×1/2 + 0.8×1.2 = 1.98	3.58	OK	AD1	1.7×1.2 + 0.8×1.2 = 3.0	3.8	OK	AD1	0.6994	1.7×0.35×1/2 + 0.8×0.35 = 0.5775	0.8575	OK	CH=2450 AD1 内法H=2000、有効H=350	
			0.8×2.0 = 1.6					0.8×2.0×1/2 = 0.8 ※採光補正係数を採用せずに等倍で可能とした。				0.8×0.35 = 0.28					
和室	25.10	1.255	AW4	3.2×0.45 = 1.44	1.44	OK	既AW1	3.2×0.45 = 1.44	1.44	OK	既AW1	0.502	AW4 3.2×0.18 = 0.576	0.576	OK	CH=2550 AW4 内法H=1930、有効H=180	
消防法による無窓階チェック (x 1/30)																	
	床面積	必要開口面積	有効開口面積		判定	備考		床面積	必要開口面積	有効開口面積			判定	備考			
1階	121.30 ㎡	4.044	AD1	1.7×1.2×1/2 + 0.8×1.2 = 1.98	15.68	OK	AD1、AD2、SS1	2階	42.54 ㎡	1.418	無窓居室の為、誘導灯設置						
			0.8×2.0 = 1.6														
			AD2 0.8×2.0 = 1.6														
			SS1 3.5×3.0 = 10.5														

改修後

改修後

原図:A2

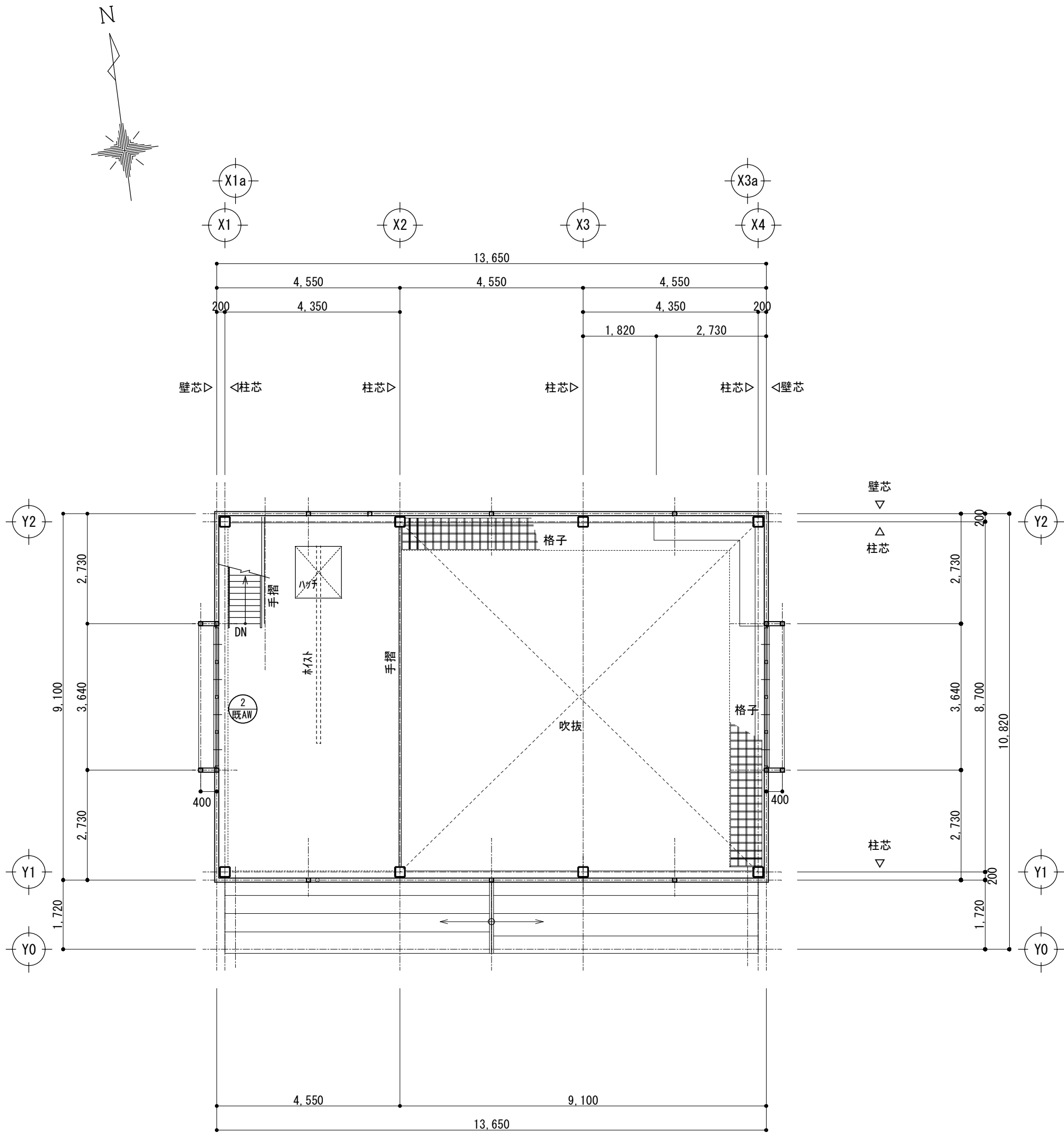
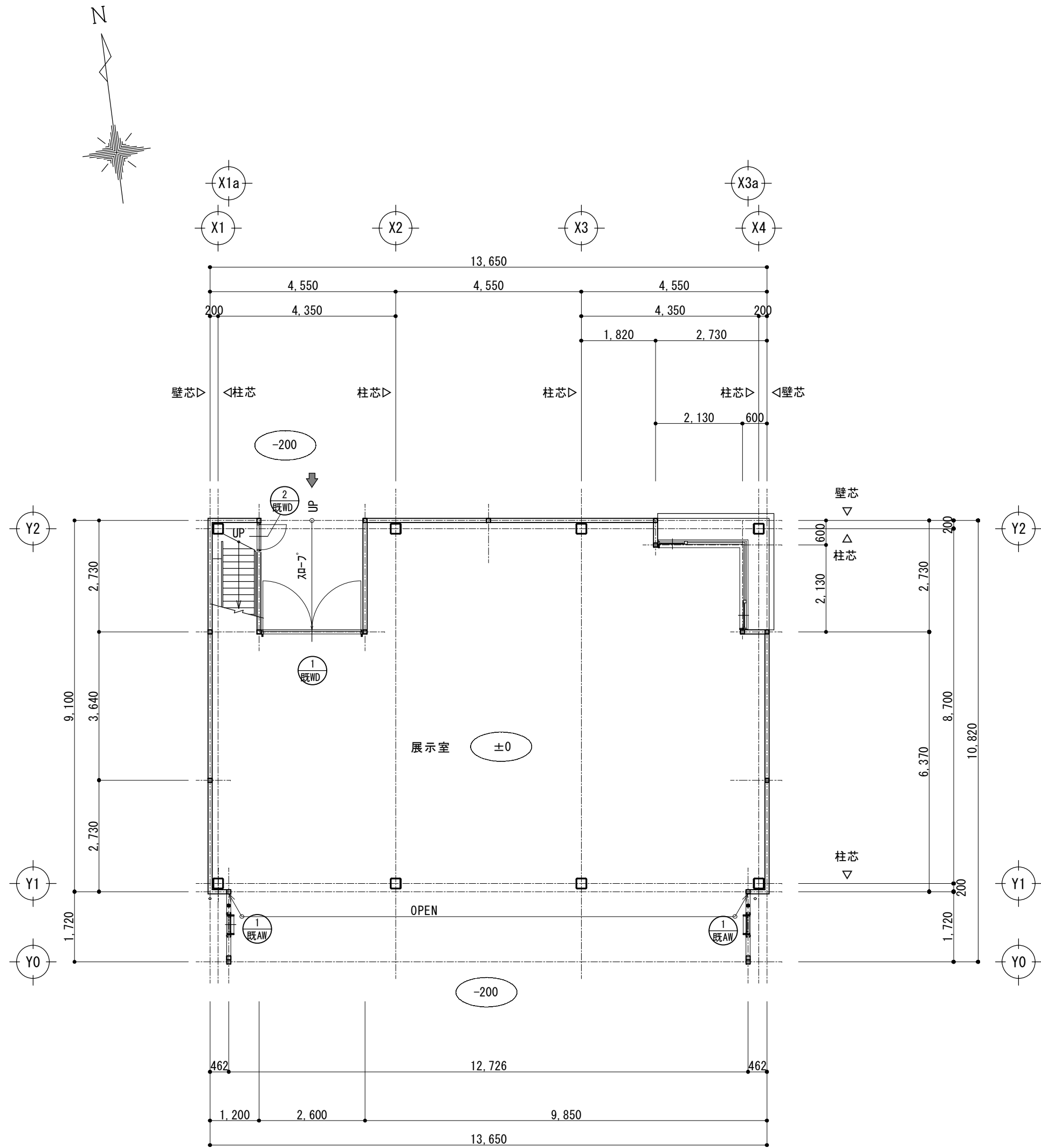


内 部 仕 上 表												
※車庫内装制限 壁：繊維混入ケイ酸カルシウム板 不燃 第NM-8578号、 角波鉄板張り 建令108-2 不燃材料 天井：化粧石膏ボード 準不燃 第QM-9824号												
※新設鉄部：SOP塗り、既設鉄部：既設SOP塗りのまま												
※改修材料：クロルビリホス及び石綿材の使用はしない。												
	室名	区分	床	床高	巾木	壁	天井	天井高	備考		区分	
1階	郷土資料館 (吹抜)	既設	土間コンクリートt=100 クッションフロア貼り(重歩行用t=3.0)	GL+200	米松 H=75 OP塗り	合板 t=5張り OP塗り (鉄骨胴縁下地) 鉄部：SOP塗り 2G梁型下端PL：OP塗り	コーナー窓天端：米松 t=36板張り OS塗り	吹抜	展示台、坪庭		既設	
			スロープ：モルタル塗り刷毛引き仕上			2G梁上部：角波鉄板張り (鉄骨胴縁下地) 鉄部：SOP塗り	野地板 米松 表し	4,800～7,075	木製格子			
	↓ 車庫 便所	撤去	斜線部分：床材、土間コンクリート=100 + モルタルt=30 + 砕石 t=80 全て撤去処分(カッター処理)		米松 H=75 OP塗りのまま 特記部分のみ 撤去処分	既設のまま、特記部分のみ撤去処分	既設のまま		展示台、坪庭撤去処分		撤去	
			斜線以外：床材(クッションフロア重歩行用t=3.0) +モルタルt=30 撤去処分 ：スロープ 全て撤去処分(カッター処理)						木製格子 撤去処分			
	事務室	改修 車庫	斜線部分：土間コンクリートt=150 新設	GL+200	【A面】ビニル巾木 H=60 新設	【A面】ケイ酸カルシウム板 t=8張り EP塗り (新設LGS W65下地)	化粧石膏ボード t=9.5張り (900角) 一部勾配天井 LGS下地	4,430～5,400	ホース収納棚新設、防火衣掛(12着)新設		改修	車庫
			コンクリート金コシ仕上げ(伸縮目地 W=20mm 施工)		コーナー窓部分：既設巾木撤去処分 ビニル巾木 H=60 新設	コーナー窓部分：既設合板張りの上 ケイ酸カルシウム板 t=8直張り EP塗り	コーナー窓天端： 既設板張りの上、化粧ガラン鋼板 t=0.6mm 直張り		天井点検口 新設			
						2G梁上部：既設角波鉄板張りのまま						
						2G梁上端及び2C柱側面：PL新設 2.3×140 SOP塗り 溶接止め@300						
					【B面】ビニル巾木 H=60 新設	【B面】ケイ酸カルシウム板 t=8張り EP塗り (新設LGS W65下地)						
					コーナー窓部分：既設巾木撤去処分 ビニル巾木 H=60 新設	コーナー窓部分：A面と同じ						
						便所壁：ケイ酸カルシウム板 t=8張り EP塗り (新設LGS W100下地)						
						2G梁上部：既設角波鉄板張りのまま						
						2G梁上端及び2C柱側面：PL新設 2.3×140 SOP塗り 溶接止め@300						
					【C面】ビニル巾木 H=60 新設	【C面】ケイ酸カルシウム板 t=8張り EP塗り (新設鉄骨胴縁下地)						
						便所壁：ケイ酸カルシウム板 t=8張り EP塗り (新設LGS W100下地)						
						シャッターBOX上部壁：ケイ酸カルシウム板 t=6張り EP塗り (新設鉄骨胴縁組)						
						2G梁上部：既設角波鉄板張りのまま						
						2G梁上端：PL新設 2.3×140 SOP塗り 溶接止め@300						
						2G梁下端(特記部分)：PL新設 2.3×140 SOP塗り 溶接止め@300						
						柱側面：PL新設 2.3×140 SOP塗り 溶接止め@300						
					【D面】ビニル巾木 H=60 新設	【D面】ケイ酸カルシウム板 t=8張り EP塗り (新設LGS W100下地)						
						2G梁上端：PL新設 2.3×140 SOP塗り 溶接止め@300						
	便所		土間コンクリートt=120 新設	GL+250	【A面】ビニル巾木 H=60 新設	【A面】ケイ酸カルシウム板 t=6張り EP塗り (新設LGS W100下地)	便所上部：硬質木片セメント板張り t=15mm	2,400	面台新設：ステンレスHL加工t=1.2、洋便器新設、小便器新設、汚垂ケイル新設、		改修	便所
			モルタルt=30塗り下地 長尺塩ビシートt=2.5mm貼り		【B面】既設巾木撤去処分 ビニル巾木 H=60 新設	【B面】既設合板張りの上 ケイ酸カルシウム板 t=6直張り EP塗り	ケイル：C-75x45x15×2.3 @450 鉄骨下地		手洗い新設、SK新設、スクリーン新設			
					【C面】ビニル巾木 H=60 新設	【C面】ケイ酸カルシウム板 t=6張り EP塗り (新設鉄骨胴縁下地)	面台腰壁：ケイ酸カルシウム板t=8下地 化粧不燃板t=6張り H=1,185 (LGS W=100下地)					
						2G梁下端(特記部分)：PL新設 2.3×140 SOP塗り 溶接止め@300						
					【D面】ビニル巾木 H=60 新設	【D面】ケイ酸カルシウム板 t=6張り EP塗り (新設LGS W100下地)						
						面台腰壁：ケイ酸カルシウム板t=8下地 化粧不燃板t=6張り H=1,185 (LGS W=100下地)						
						【X4・Y1通り柱】ケイ酸カルシウム板 t=6 EP塗り (新設LGS下地)						

原図:A2

内 部 仕 上 表																
※改修材料：クロルピリホス及び石綿材の使用はしない。																
※新設鉄部：SOP塗り、既設鉄部：既設SOP塗りのまま																
	室名	区分	床	床高	巾木	壁	天井	天井高	備考		区分					
1 階	郷土資料館 (吹抜) ↓ 事務室 便所 事務室	既設	土間コンクリートt=100 クッションフロア貼り(重歩行用t=3.0)	GL+200	米松 H=75 OP塗り	合板 t=5張り OP塗り (鉄骨胴縁下地) 鉄部：SOP塗り 2G梁型下端PL：OP塗り	コーナー窓天端：米松 t=36板張り OS塗り	吹抜	展示台、坪庭		既設					
			スロープ：モルタル塗り刷毛引き仕上			2G梁上部：角波鉄板張り (鉄骨胴縁下地) 鉄部：SOP塗り	野地板 米松 表し	4,800～7,075	木製格子							
		撤去	斜線部分：床材、土間コンクリートt=100 + モルタルt=30 + 砕石 t=80 全て撤去処分(カッター処理)		米松 H=75 OP塗りのまま 特記部分のみ 撤去処分	既設のまま、特記部分のみ撤去処分	既設のまま		展示台、坪庭撤去処分		撤去					
			斜線以外：床材(クッションフロア-重歩行用t=3.0) +モルタルt=30 撤去処分 (カッター処理)						木製格子 撤去処分							
		改修	事務室	斜線以外：既設土間コンクリート目荒し下地 土間コンクリートt=50 新設	GL+250	【全面】ビニル巾木 H=60 新設	【A面】PB t=12.5 EP塗り (新設LGS W100下地) 【B面】PB t=12.5 EP塗り (新設LGS W100下地) 【C面】PB t=12.5 EP塗り (新設鉄骨胴縁下地) PB t=12.5 EP塗り (新設LGS W65下地) Y1通り梁型のみ：PB t=12.5 EP塗り (新設LGS下地) 【D面】PB t=12.5 EP塗り (新設LGS W65下地) 【X2・Y1通り柱】PB t=12.5 EP塗り (新設LGS下地)	化粧石膏ボード t=9.5張り LGS下地 【Y1通り梁型】PB t=12.5 EP塗り (新設LGS下地)	2,450 梁下2,360	ミニキッチン=1200新設(IHタイプ)、天井点検口		改修	事務室			
			倉庫	斜線以外：既設土間コンクリート目荒し下地 土間コンクリートt=50 新設	GL+250	【A面】既設巾木撤去処分 ビニル巾木 H=60 新設	【A面】既設合板張り 撤去処分後 PB t=12.5 EP塗り (既設胴縁下地) PB t=12.5 EP塗り (新設鉄骨胴縁下地)	木製階段 段裏表し					改修	倉庫		
			踏込	斜線以外：既設土間コンクリート目荒し下地 土間コンクリートt=50 新設	GL+250	【A面】既設巾木撤去処分 ビニル巾木 H=60 新設	【A面】既設合板張り 撤去処分後 PB t=12.5 EP塗り (既設胴縁下地) PB t=12.5 EP塗り (新設鉄骨胴縁下地) 2G梁上部：既設角波鉄板張りの上 PB t=12.5 EP塗り (新設LGS W65下地)		吹抜				下足箱14足		改修	踏込
							【B・C面】ビニル巾木 H=60 新設	【B・C面】PB t=12.5 EP塗り (新設LGS W100下地)								
			2 階	倉庫 ↓ 廊下・階段室 和室 押入・物入	既設	米松 t=36板張り OS塗り (鉄骨下地)	2G天+40	木製雑巾摺	角波鉄板張り (鉄骨胴縁下地)				野地板 米松 表し	2,400	ホストクレン(取外し)、ゴンドラ、ハッチ床開口、7㍓手摺、木製階段、内倒し窓	
撤去	既設のまま、特記部分のみ撤去処分				既設のまま	既設のまま	既設のまま		ホストクレン：(取外し)		撤去					
									ゴンドラ、ハッチ床開口、7㍓手摺、木製階段(7㍓手摺共)：撤去処分							
改修	廊下 ・ 階段室	既設床の上、複合フローリング t=12張り 一部床板張り(既設と同程度)の上、複合フローリング t=12張り 新設木製階段：段板 木製化粧踏板 t=30 CL塗り			2G天+110	【全面】ビニル巾木 H=60 新設	【A面】PB t=12.5 EP塗り (新設LGS W65下地) 腰壁：PB t=12.5 EP塗り (新設LGS W100下地) 【B面】PB t=12.5 EP塗り (新設LGS W100下地) 【C・D面】PB t=12.5 EP塗り (新設LGS W65下地)	化粧石膏ボード t=9.5張り 一部勾配天井 LGS下地	2,400～ 勾配天井	手摺腰壁、木製手摺：集成材CL、壁付手摺35φ	改修		廊下 ・ 階段室			
	和室12帖	タタミ敷込み、板間：複合フローリング t=12張り			2G天+110	タタミ寄せ、雑巾摺り	【A・B面】PB12.5下地 ビニルクロス貼り (新設LGS W100下地) 【C・D面】PB12.5下地 ビニルクロス (新設LGS W65下地)	化粧石膏ボード t=9.5張り 一部勾配天井 LGS下地	2,000～2,550	木製額縁:新設		和室12帖				
	押入	ラワン合板 t=15張り			2G天+110	雑巾摺り	【A・C・D面】吸放湿化粧せっこうボード12.5張り (新設LGS W65下地) 【B面】壁：吸放湿化粧せっこうボード12.5張り (新設LGS W100下地)	PB t=9.5素地張り 一部勾配天井 LGS下地	1,595～1,842	中段		押入				
	物入	複合フローリング t=12張り			2G天+110	雑巾摺り	【A・B面】壁：吸放湿化粧せっこうボード12.5張り (新設LGS W100下地) 【C・D面】壁：吸放湿化粧せっこうボード12.5張り (新設LGS W65下地)	PB t=9.5素地張り 一部勾配天井 LGS下地	2,270～2,400			物入				

原図:A2



面積表

敷地面積	申請部分	坪換算
1,189.58	m ²	359.91
建築面積	146.10	44.10
1階床面積	117.12	35.35
2階床面積	41.40	12.50
延床面積	158.52	47.85

(坪換算:敷地・3.305124m²/坪 建物・3.3124m²/坪)

■平均地盤面■

※平均地盤面:建物周囲において、GL±0であるため
平均地盤面=設計GLとする。
※FL±0=GL+200

■凡例■

■改修工事 ー 本工事においての改修及び撤去項目(別図参照)

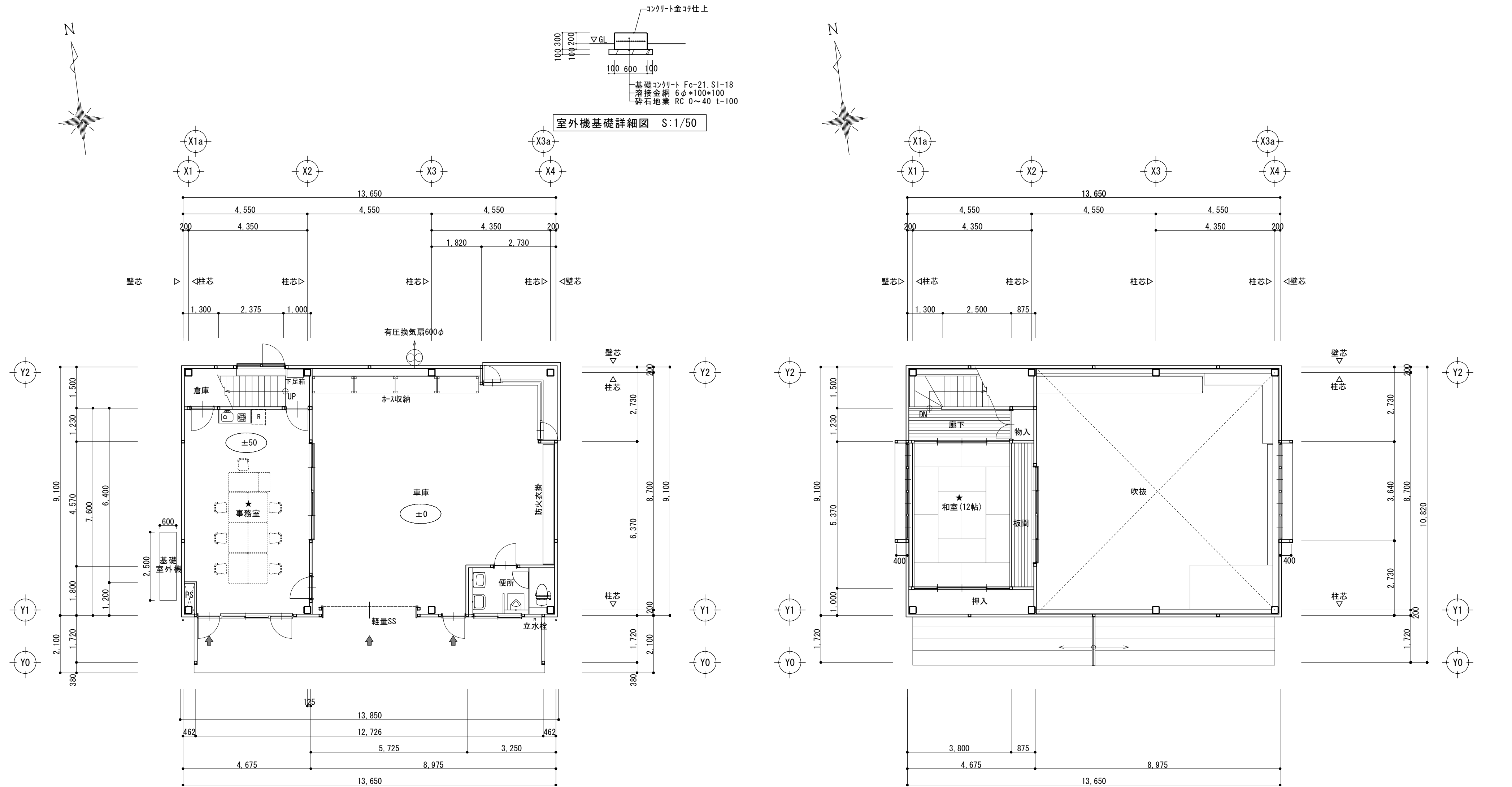
- ・1階床材全面撤去処分、特記部分の土間コンクリート撤去処分(カッター処理施工)
- ・壁、建具、その他は、特記部分のみ撤去処分
- ・展示台:撤去処分 (a) ~ (b)
- ・木製階段 撤去処分 (アルミ手摺共)

- ・1階内部坪庭撤去処分
- ・木製格子棚 撤去処分

- ・2階ホイスクレーン鉄骨、ハッチ、撤去処分
- ・2階アルミ手摺 撤去処分

原図:A2

改修前



面積表

	申請部分	坪換算
車庫床面積	72.91㎡	22.0坪
事務所床面積	90.93㎡	27.4坪
1階床面積	48.39㎡	14.6坪
2階床面積	42.54㎡	12.8坪
延床面積	163.84㎡	49.4坪

(坪換算:敷地・3.305124㎡/坪 建物・3.3124㎡/坪)

1階平面図

S=1/100

面積表

	申請部分	坪換算
敷地面積	1,189.58㎡	359.9坪
建築面積	146.10㎡	44.1坪
1階床面積	121.30㎡	36.6坪
2階床面積	42.54㎡	12.8坪
延床面積	163.84㎡	49.4坪

(坪換算:敷地・3.305124㎡/坪 建物・3.3124㎡/坪)

2階平面図

S=1/100

改修後

■平均地盤面■

※平均地盤面：建物周囲において、GL±0であるため

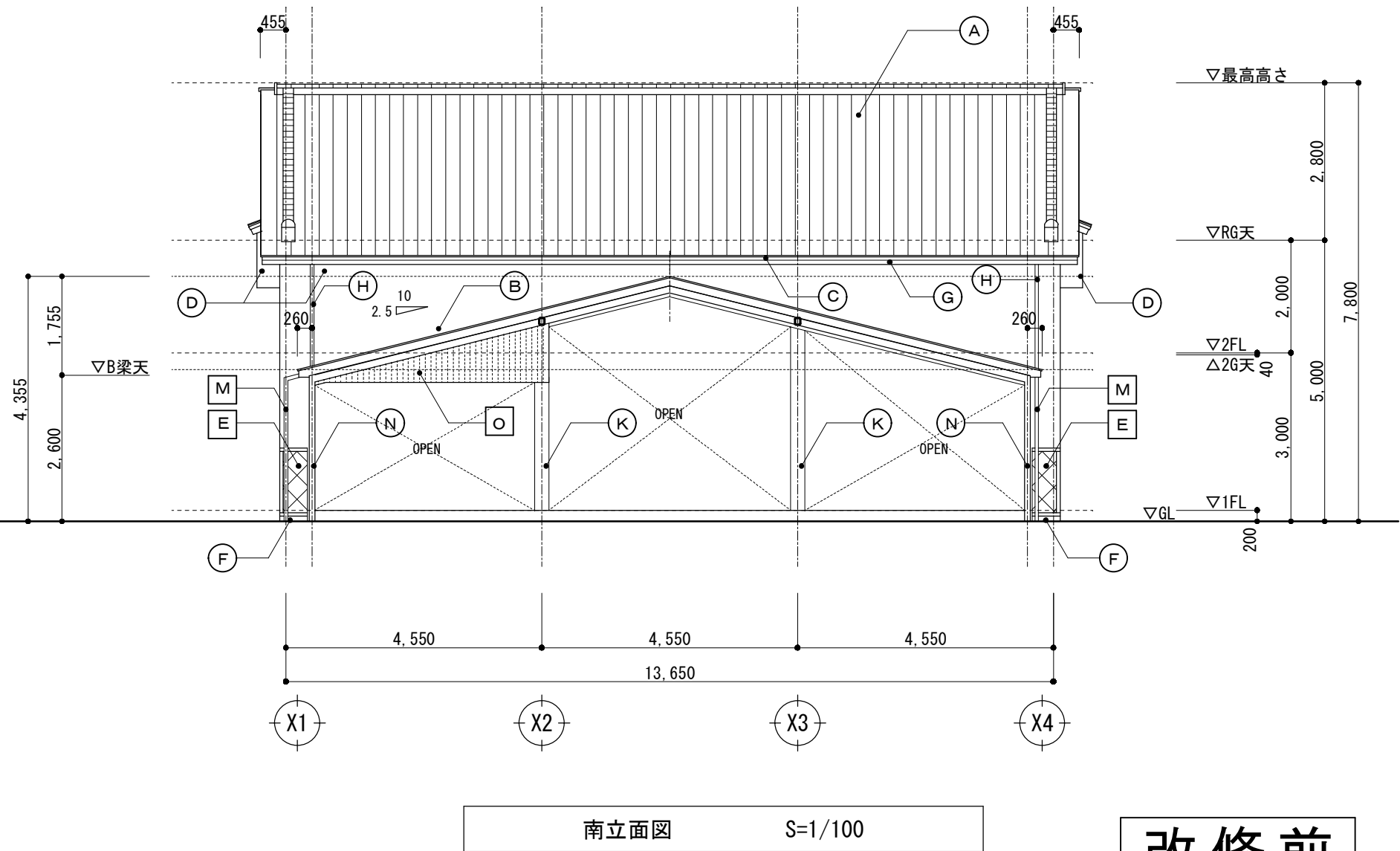
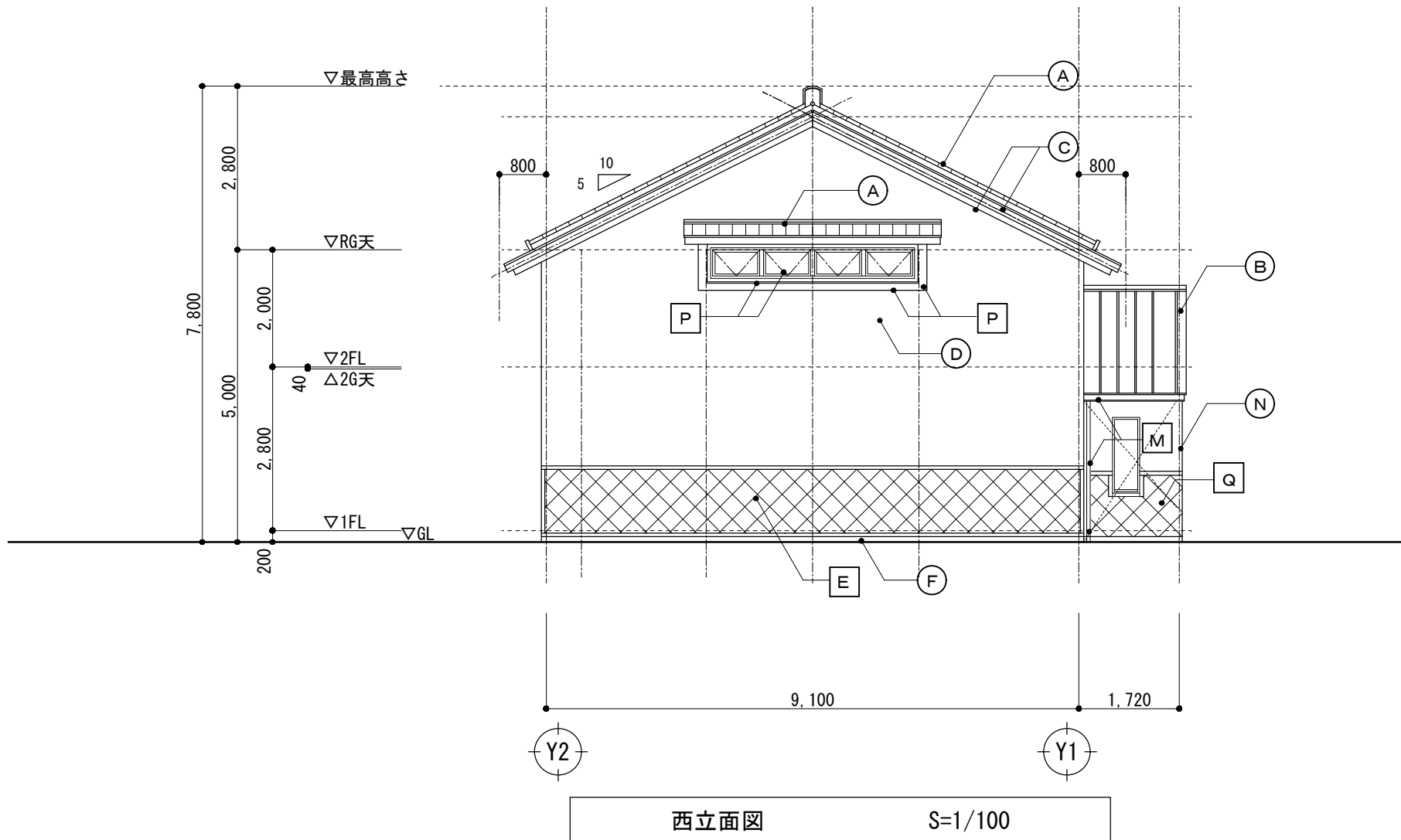
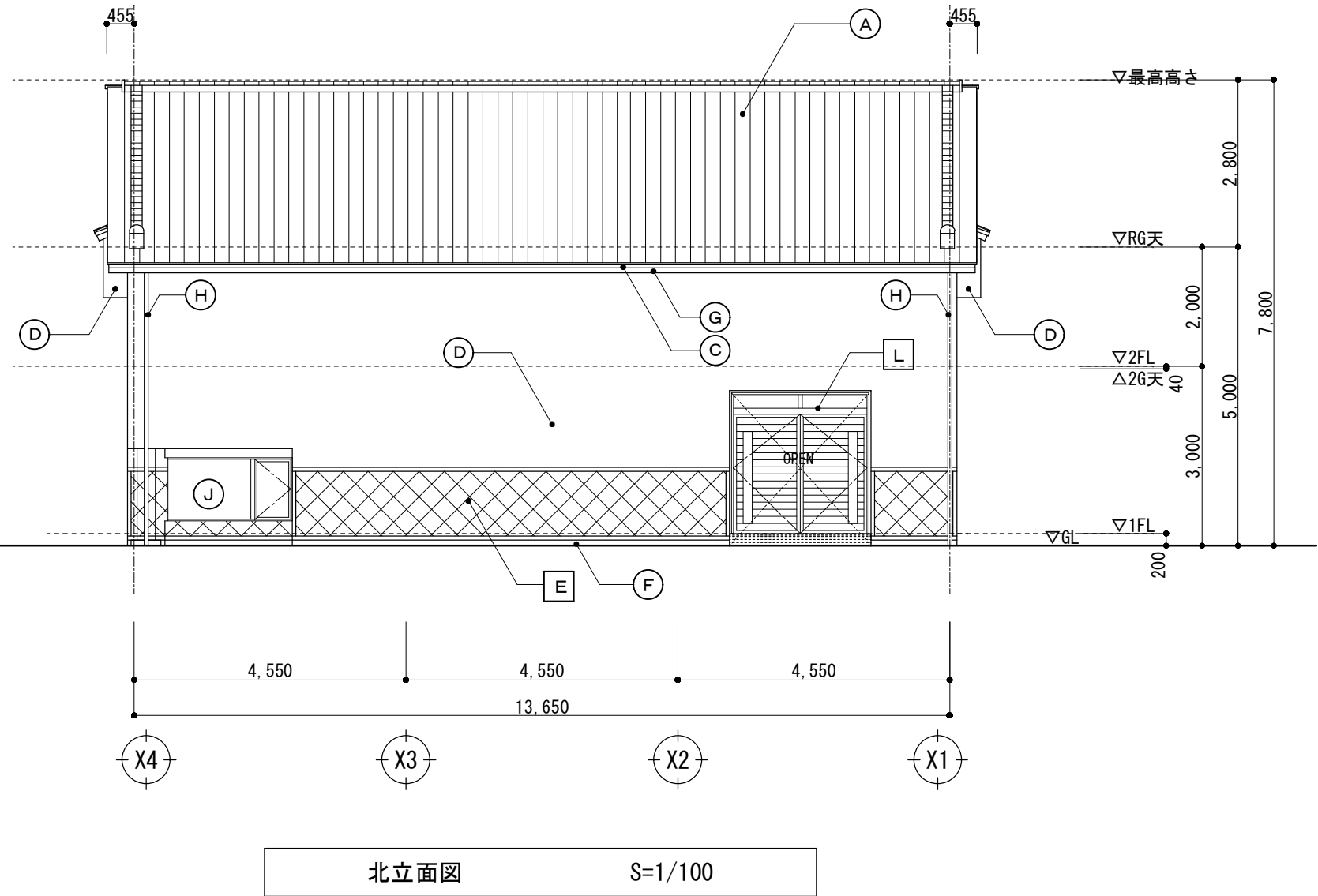
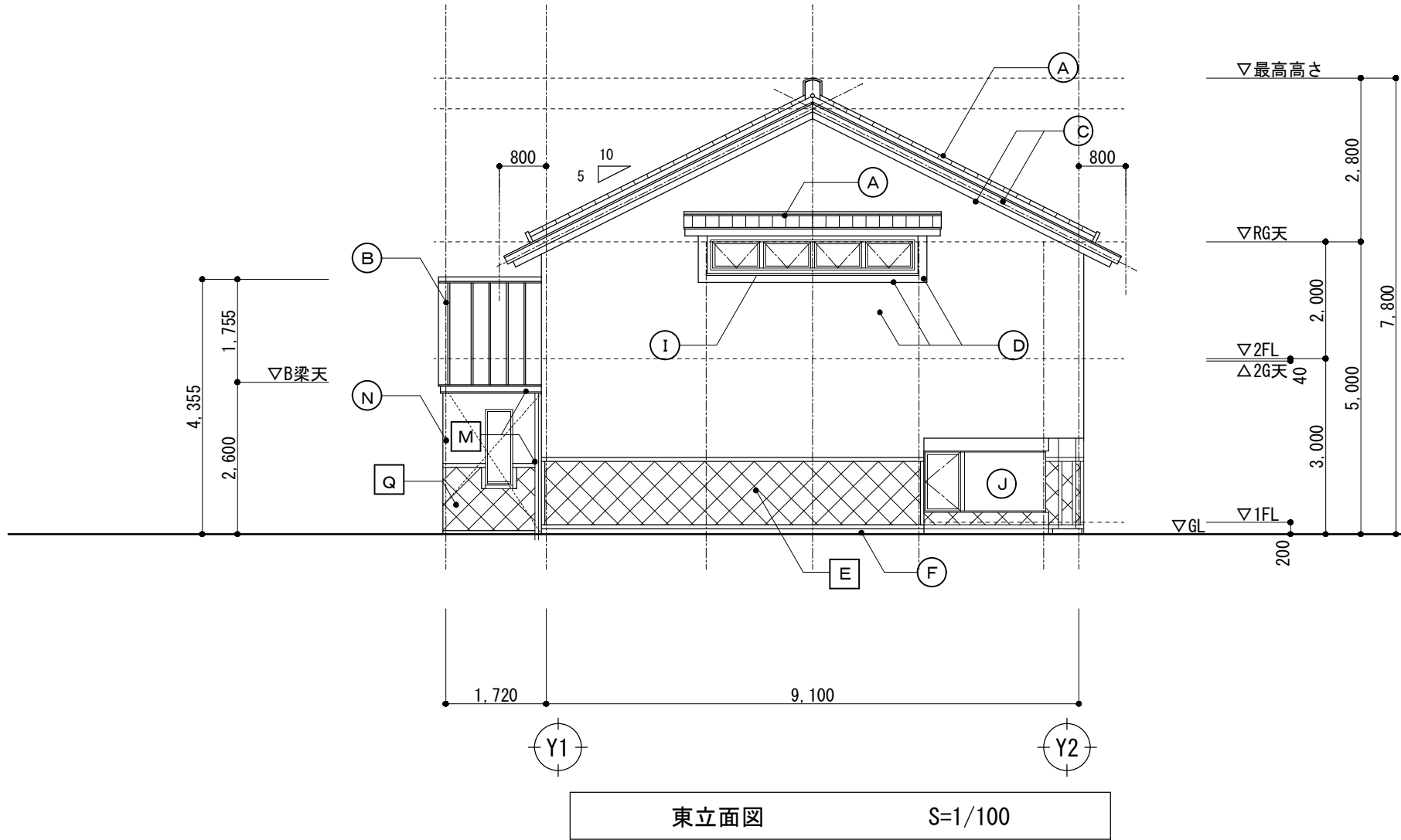
平均地盤面＝設計GLとする。

※FL±0=GL+200

■凡例■

★:化学物質濃度測定個所を示す

原図:A2

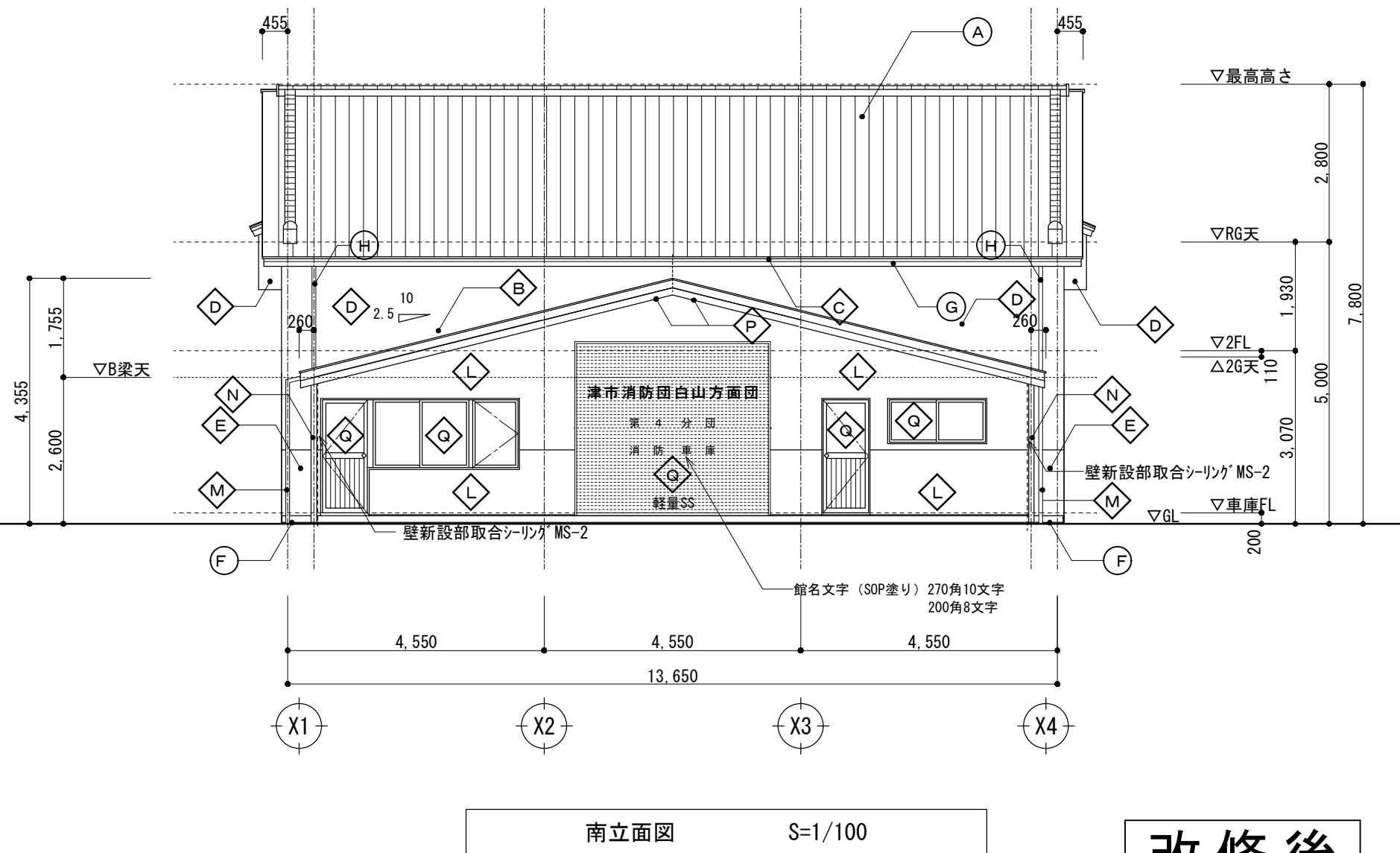
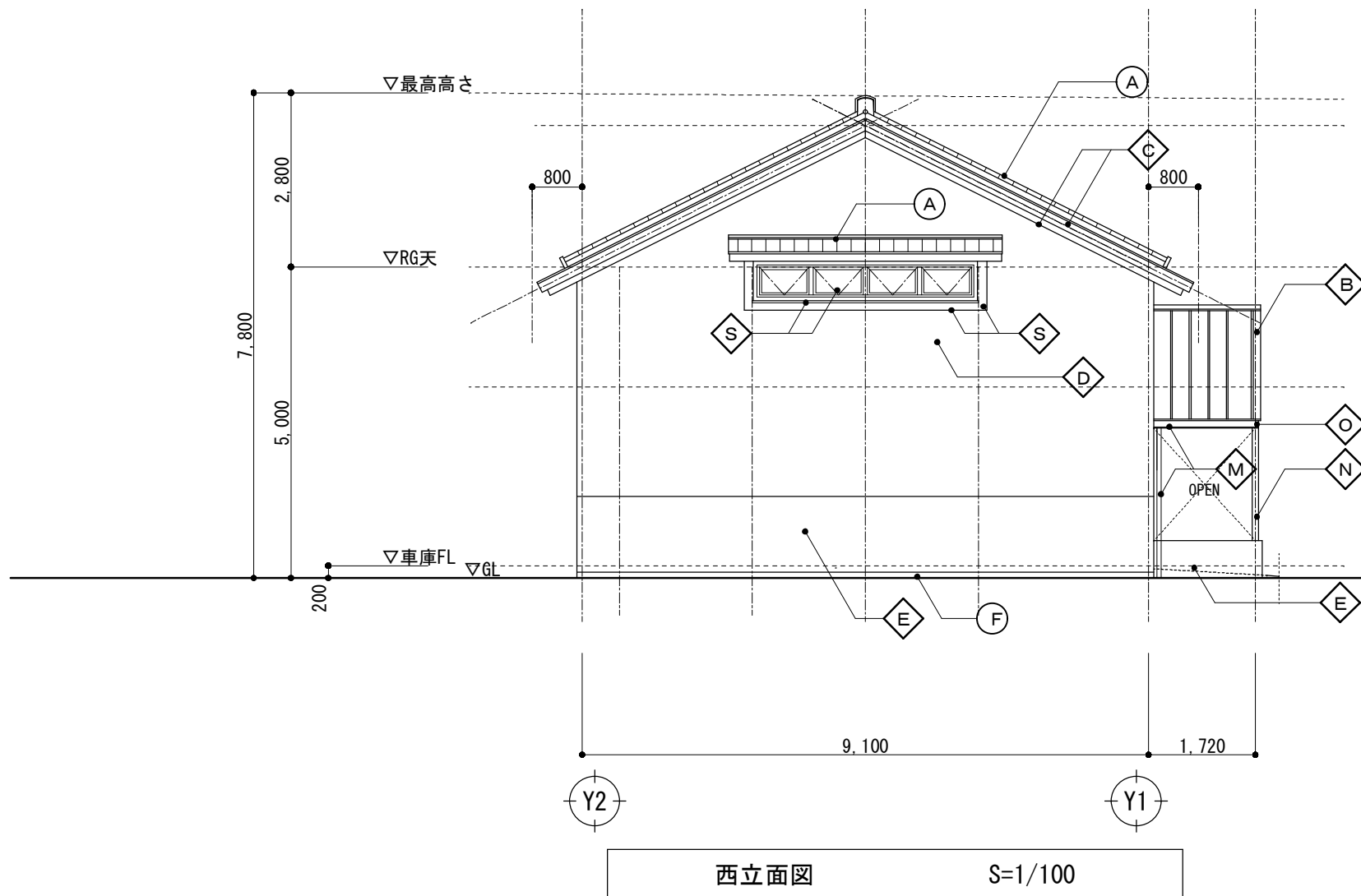
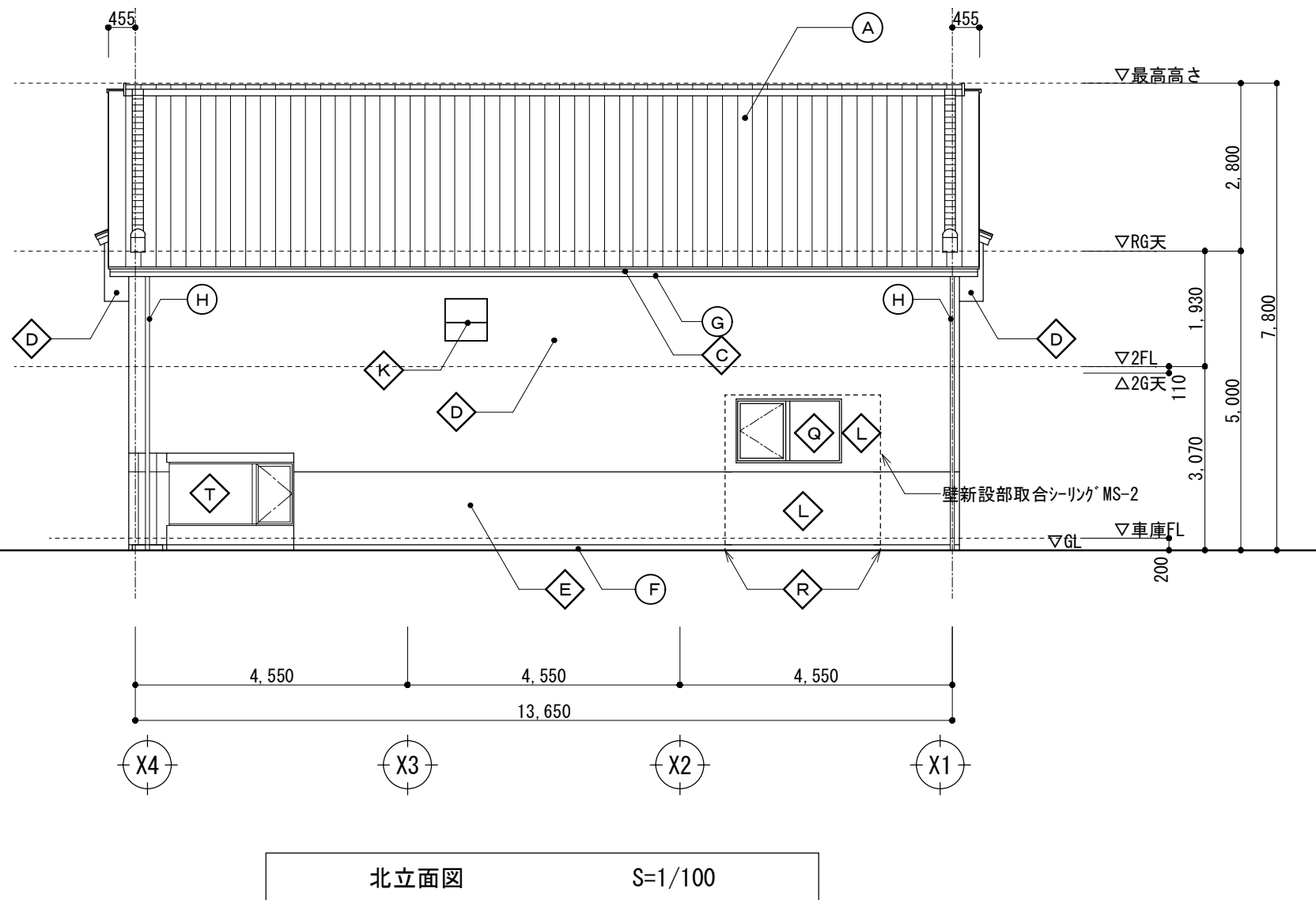
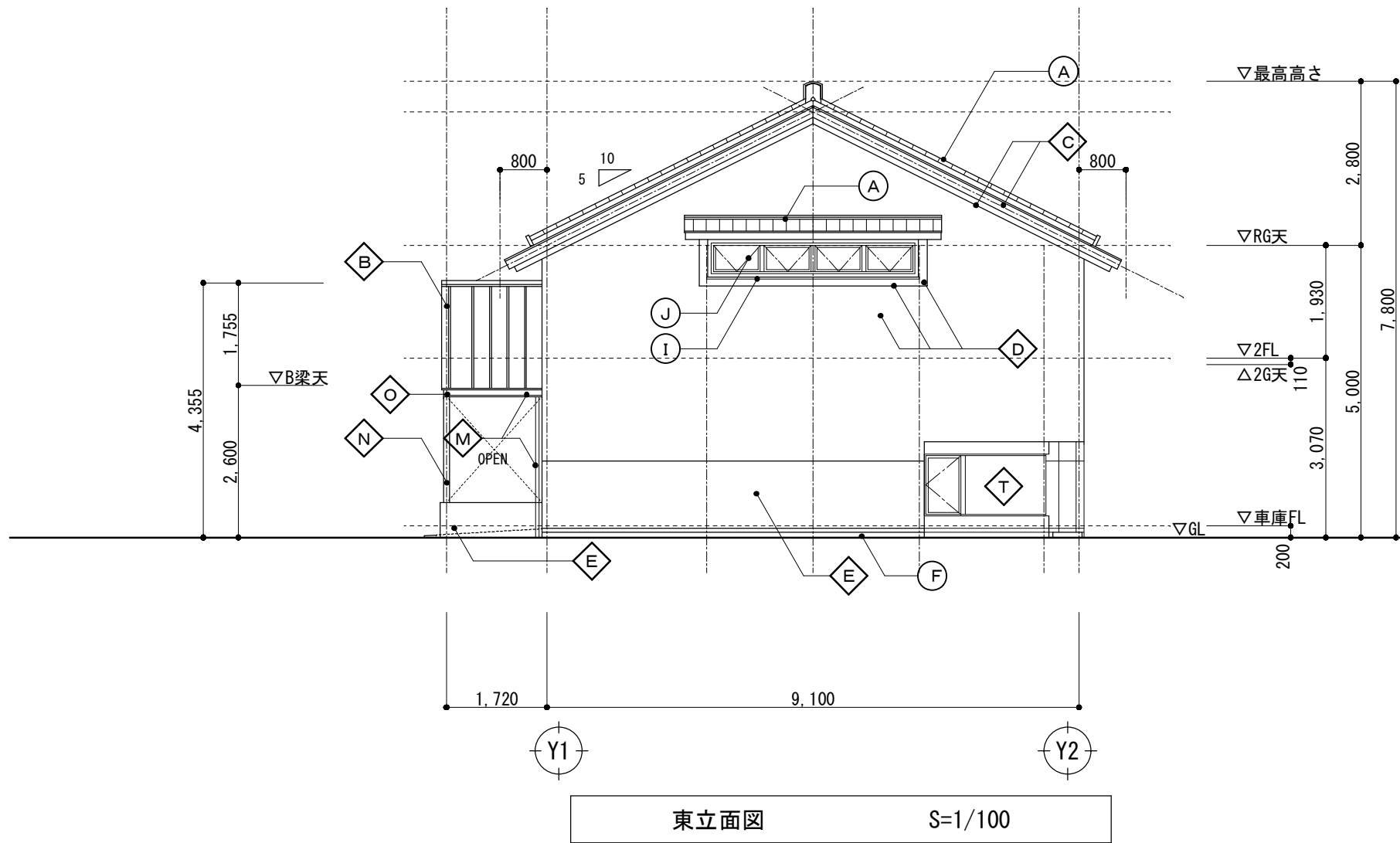


改修前

- 【註記】
- ・ひび割れ補修等は、施工数量調査を行い、市監督員による確認後施工すること。
 - ・外壁^{カック}処理：1.0mm以下：シール工法にて処理を行う
 - 1.0mm以上：Uカットシール材充填の上^上 杉樹脂シール工法にて処理を行う

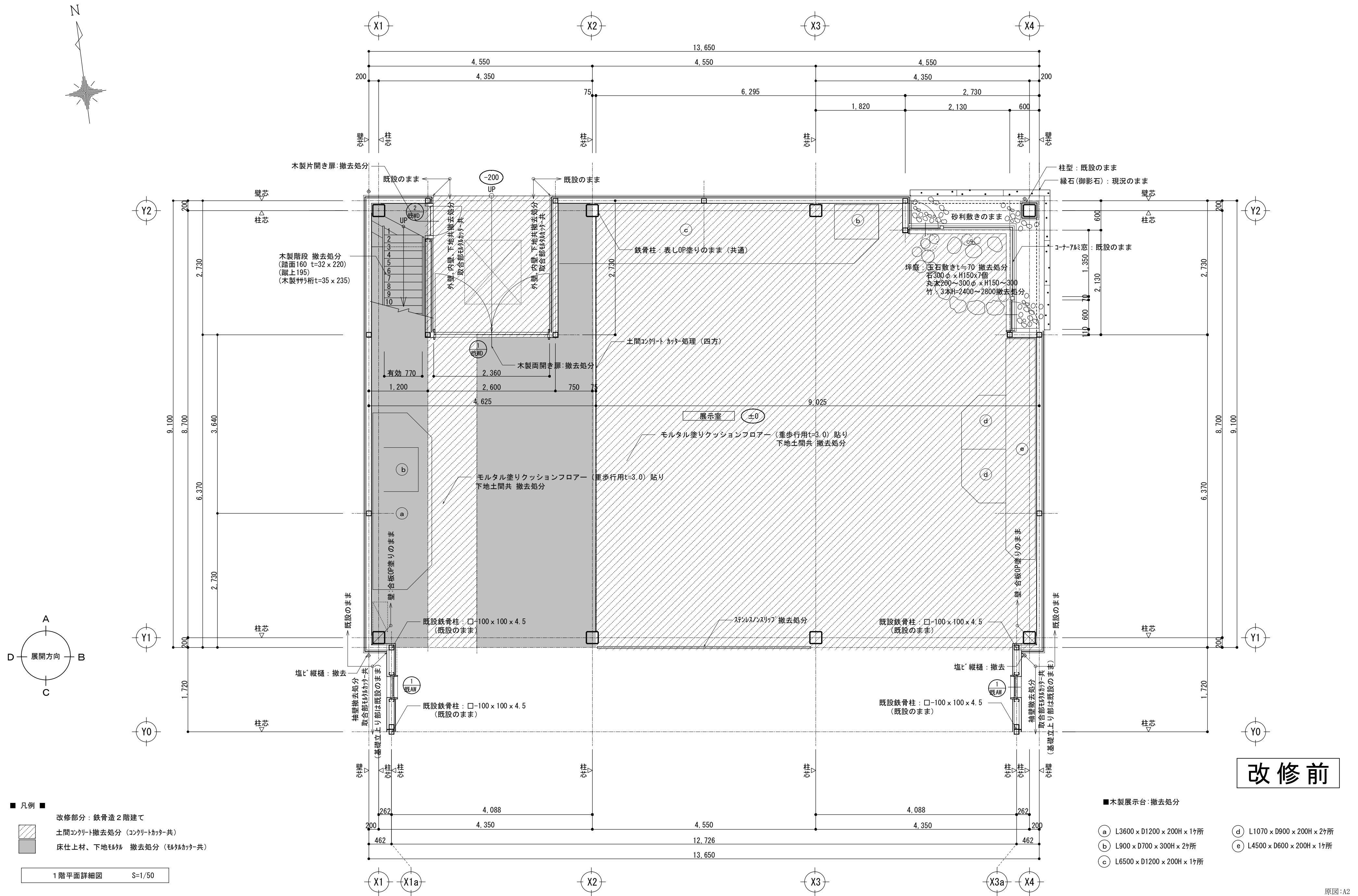
○ — 既設のまま □ — 撤去処分

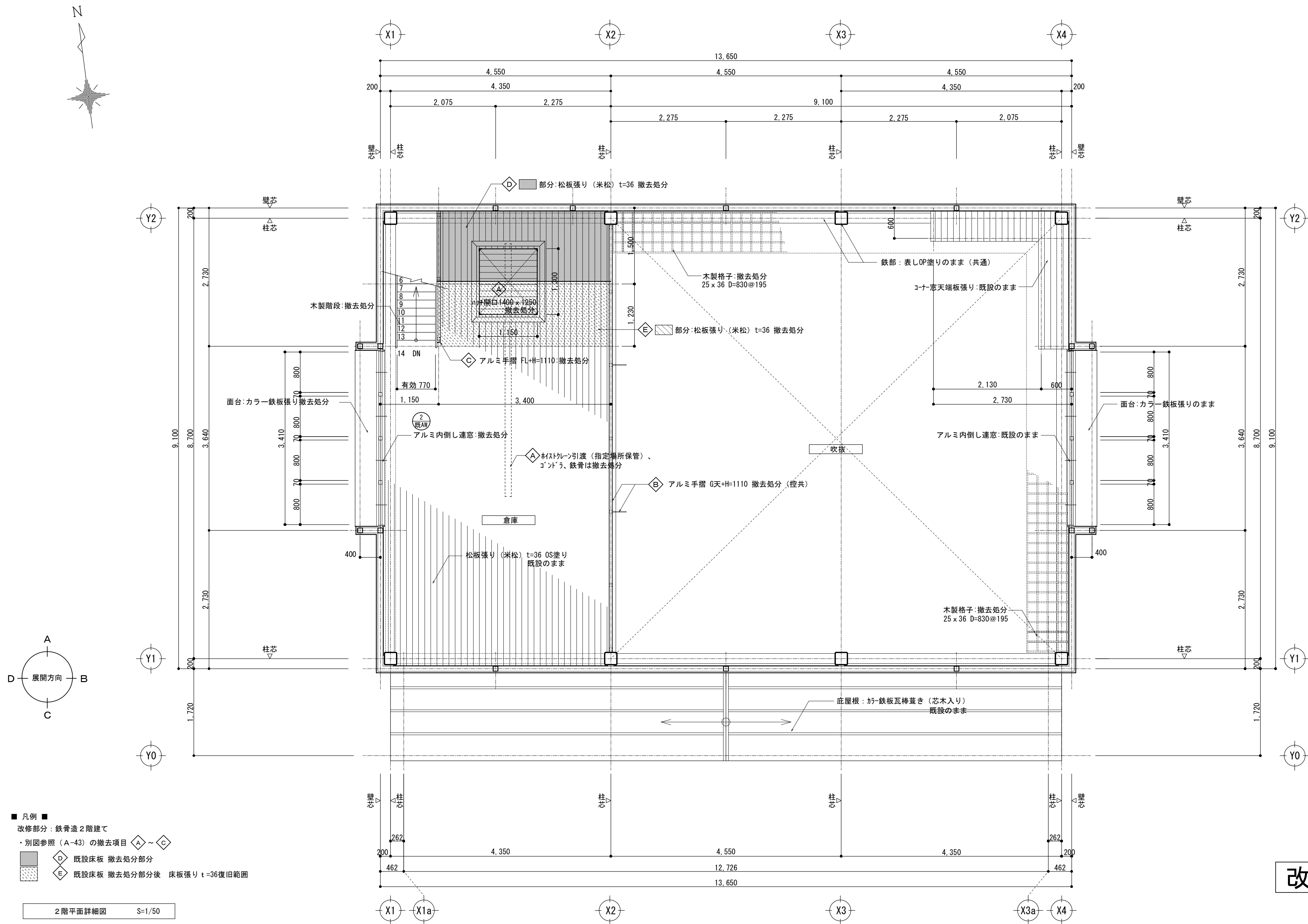
(A)	日本瓦（桧瓦）新磨き 一文字葺	(E)	腰壁：300角タイル斜め貼り 撤去処分	(I)	面台：カラー鉄板張り	(M)	軒樋：硬質塩化ビニル（既製品） 壁樋：硬質塩化ビニル60φ（既製品）（掴み金物共）撤去処分	(Q)	袖壁撤去処分（基礎立上り部は既設のまま）
(B)	カラー鉄板瓦葺き（芯木入り）	(F)	巾木：モルタル塗り金ナ	(J)	既設7ミリサッシのまま	(N)	既設鉄骨柱□-100×100×4.5 既設のまま		
(C)	鼻隠し・破風：珪藻土塗り刷毛引き仕上吹付け	(G)	軒樋：硬質塩化ビニル（既製品）	(K)	鉄部SOP塗りのまま	(O)	既設角波鉄板張り撤去処分		
(D)	外壁：珪藻土塗り刷毛引き仕上吹付け	(H)	壁樋：硬質塩化ビニル60φ（既製品）（掴み金物共）	(L)	既設木製建具撤去処分	(P)	既設7ミリサッシ、面台、袖壁一部 撤去処分		原図：A2



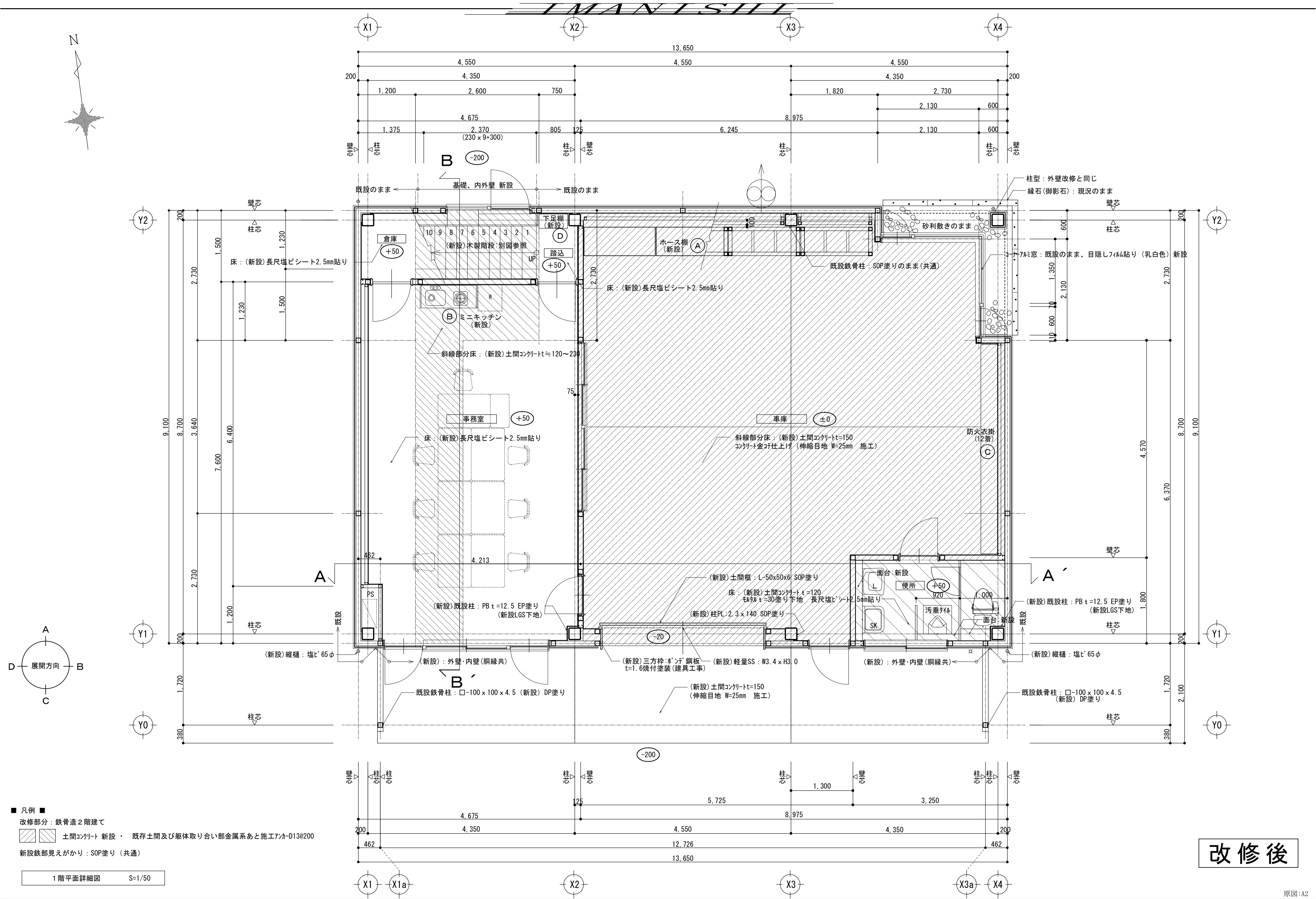
改修後

○ - 既設のまま		◇ - 改修(既設仕上材撤去後下地処理の上)及び新設	
(A)	日本瓦(棧瓦)新磨き 一文字葺 (既設のまま)	(E)	腰壁:水洗い、下地調整塗材(CM-2)の上、可とう形外装薄塗材E吹付け(色分け)
(B)	庇:既設カラー鉄板瓦棒葺き(芯木入り)下地処理の上、DP塗り	(F)	巾木:珪藻土塗り金コ (既設のまま)
(C)	鼻隠し・破風:水洗い、下地調整塗材(C-1)の上、可とう形外装薄塗材E吹付け	(G)	軒樋:硬質塩化ビニル (既製品) (既設のまま)
(D)	外壁:水洗い、下地調整塗材(C-1)の上、可とう形外装薄塗材E吹付け	(H)	縦樋:硬質塩化ビニルφ60φ(既製品) (掘み金物共) (既設のまま)
		(I)	面台:カラー鉄板張り (既設のまま)
		(J)	7&ミサッ (既設のまま)
		(K)	有圧換気扇600φ 1ヶ所
		(L)	腰壁・外壁新設:珪藻土塗り金コ、下地調整塗材(CM-2、C-1)の上、可とう形外装薄塗材E吹付け(新設鉄骨胴縁下地)
		(M)	軒樋:硬質塩化ビニルW120(既製品) 新設
		(N)	鉄骨柱:□-100×100×4.5 DP塗り
		(O)	鼻隠し:既設合板張り撤去処分後、化粧鼻隠し(既製品)H=150+240新設
		(P)	破風:化粧破風板(既製品)H=240 新設 + ケラバ 水切り:カラーガルバリウム鋼板0.5加工 新設
		(Q)	新設7&ミサッ、軽量シャッター
		(R)	新設基礎巾木:珪藻土塗り金コ
		(S)	袖壁一部:珪藻土塗り金コ、下地調整塗材(C-1)の上、7&ミサッ新設、面台新設
		(T)	既設7&ミサッ:目隠しフィルム貼り(乳白色)新設

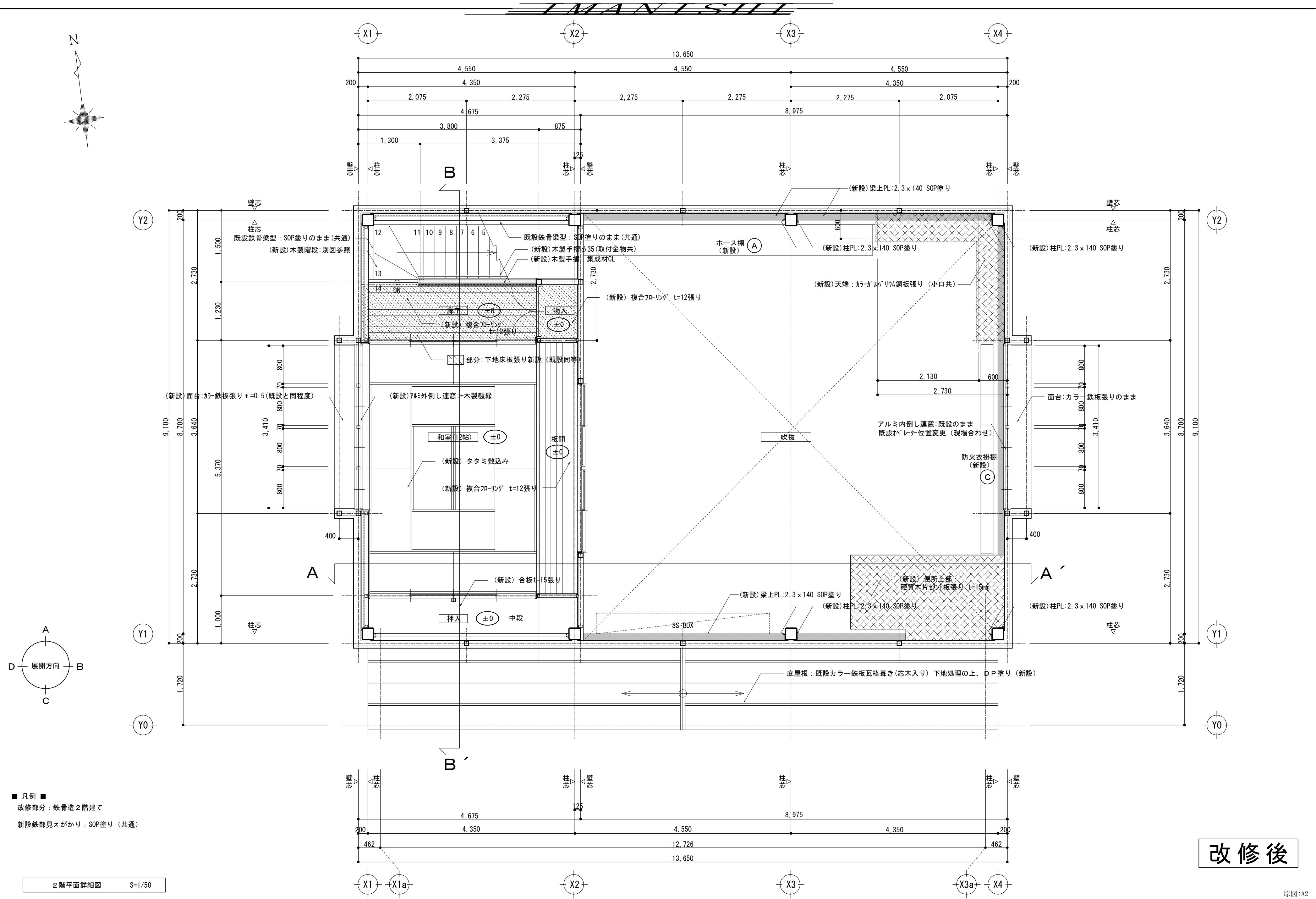




改修前

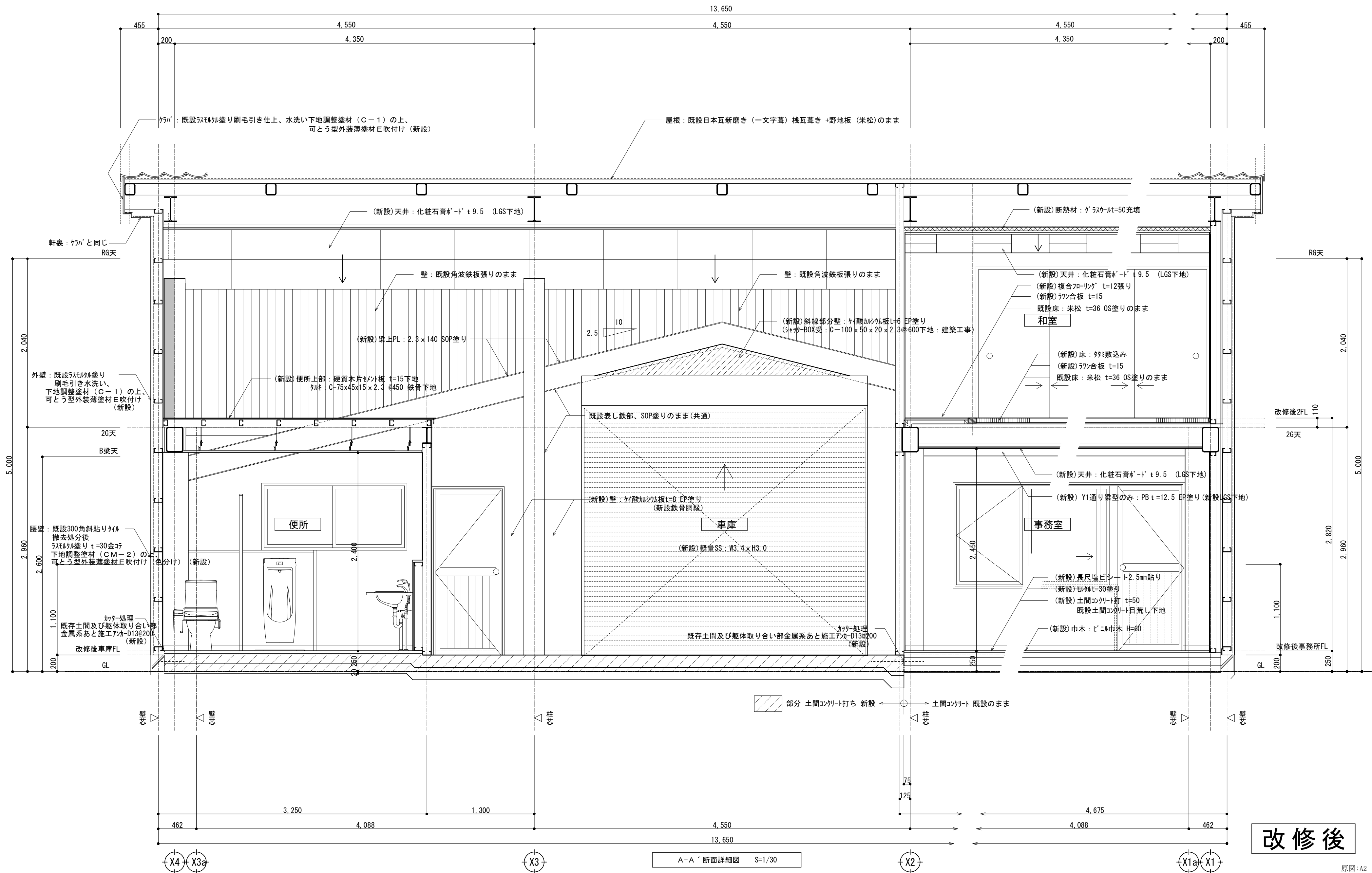


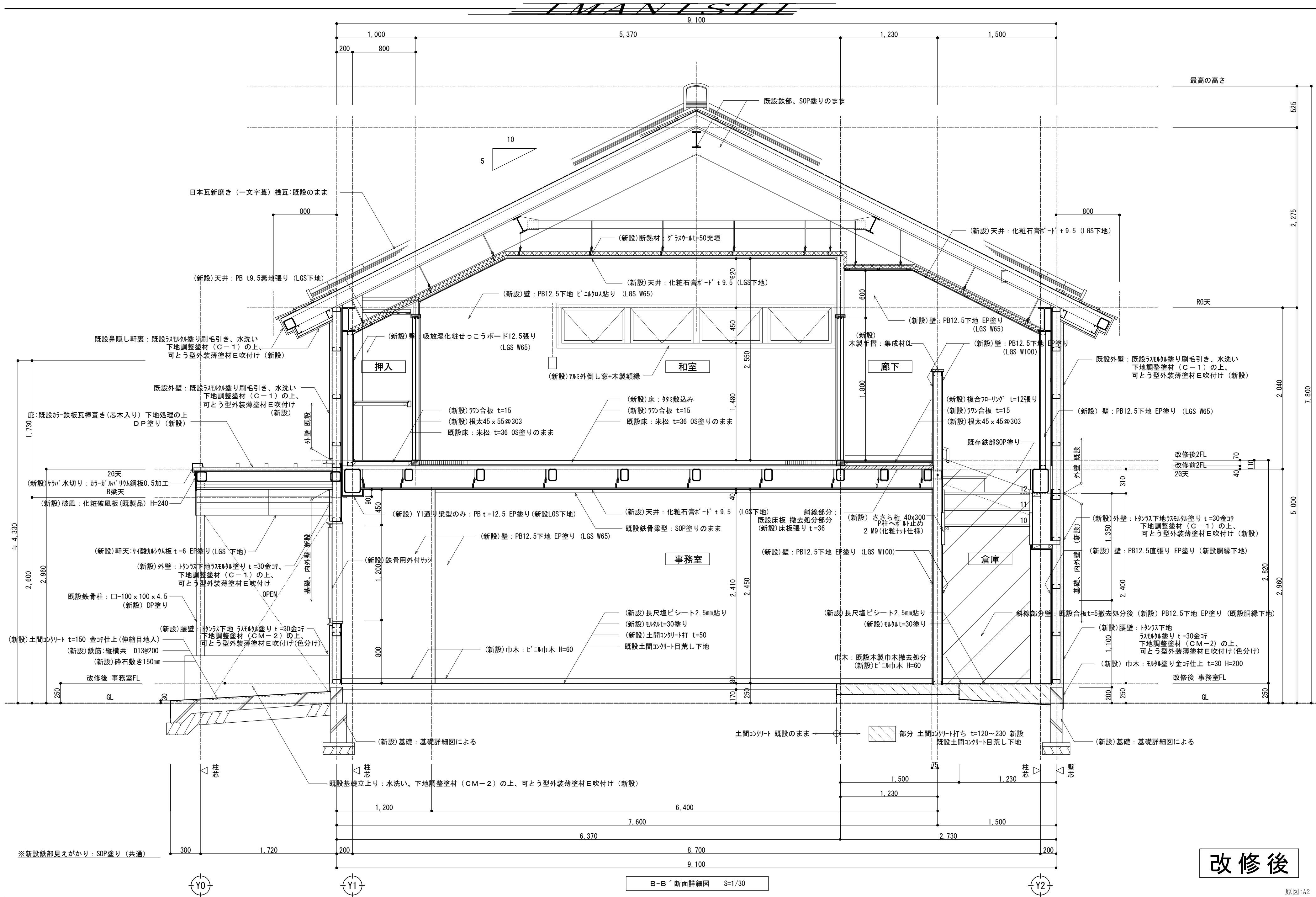
改修後

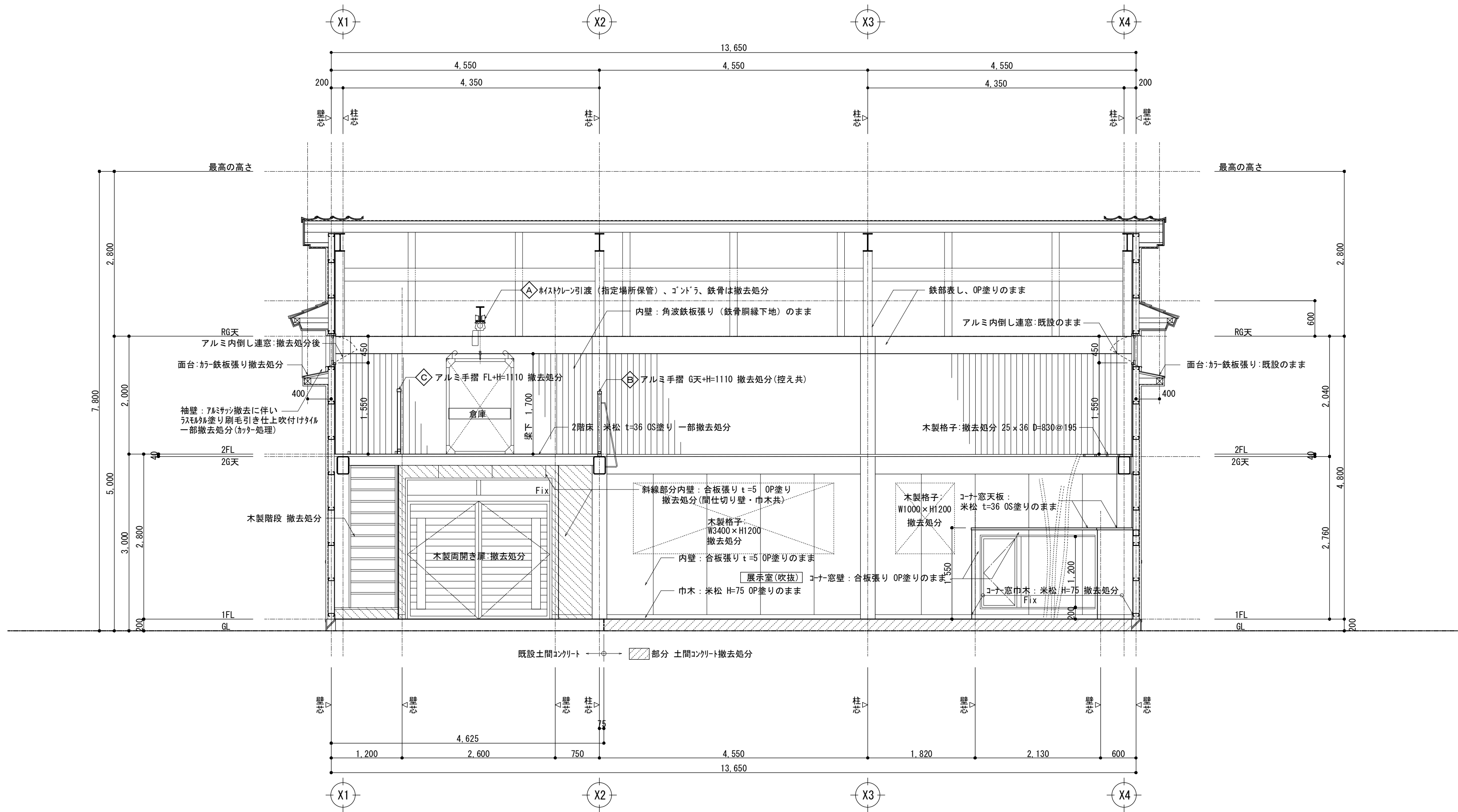


■ 凡例 ■
改修部分：鉄骨造2階建て
新設鉄部見えがかり：SOP塗り（共通）

改修後

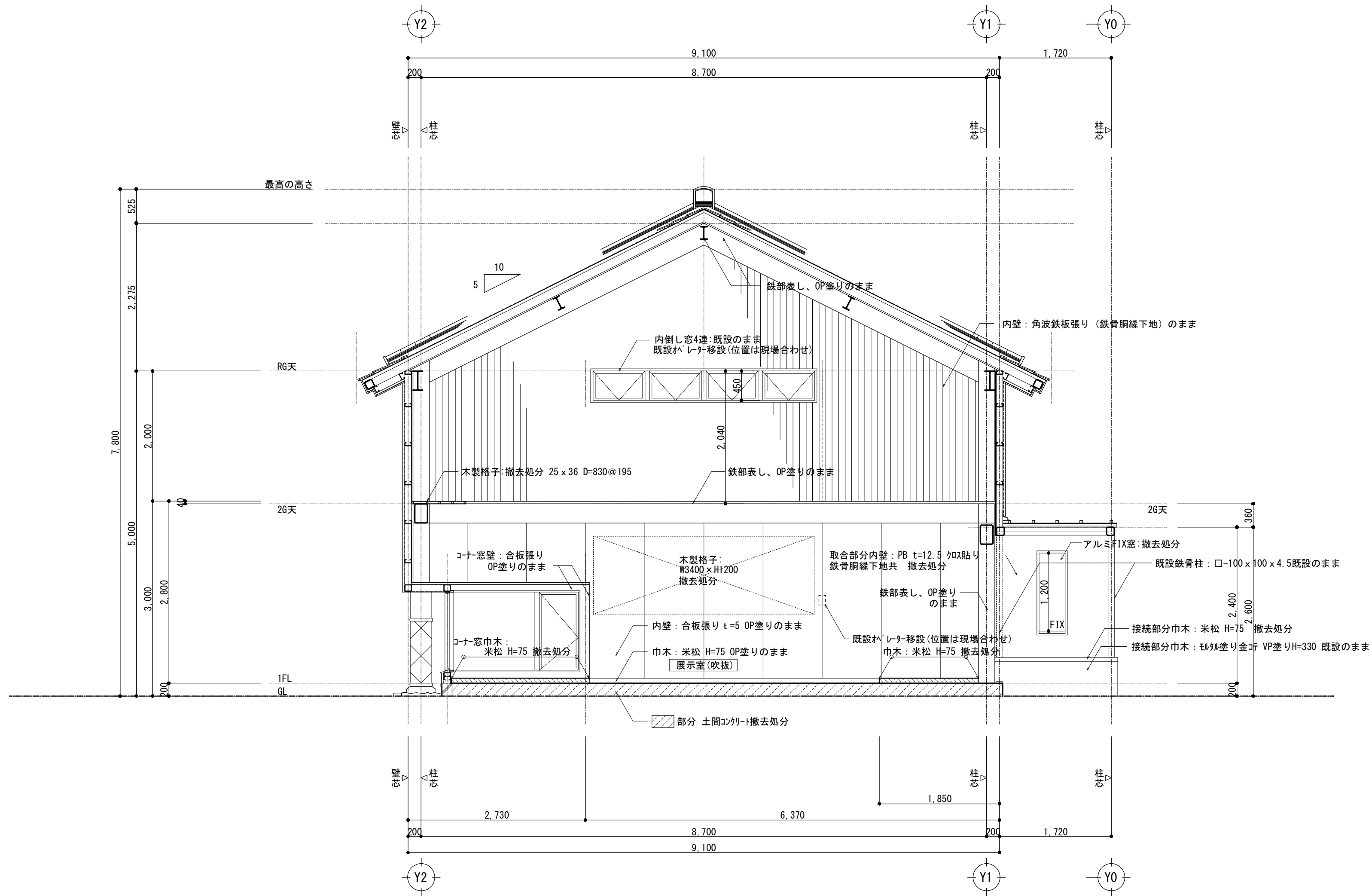






展示室(吹抜) 展開図 A面 S=1/50 ※表し鉄部: OP塗りのまま

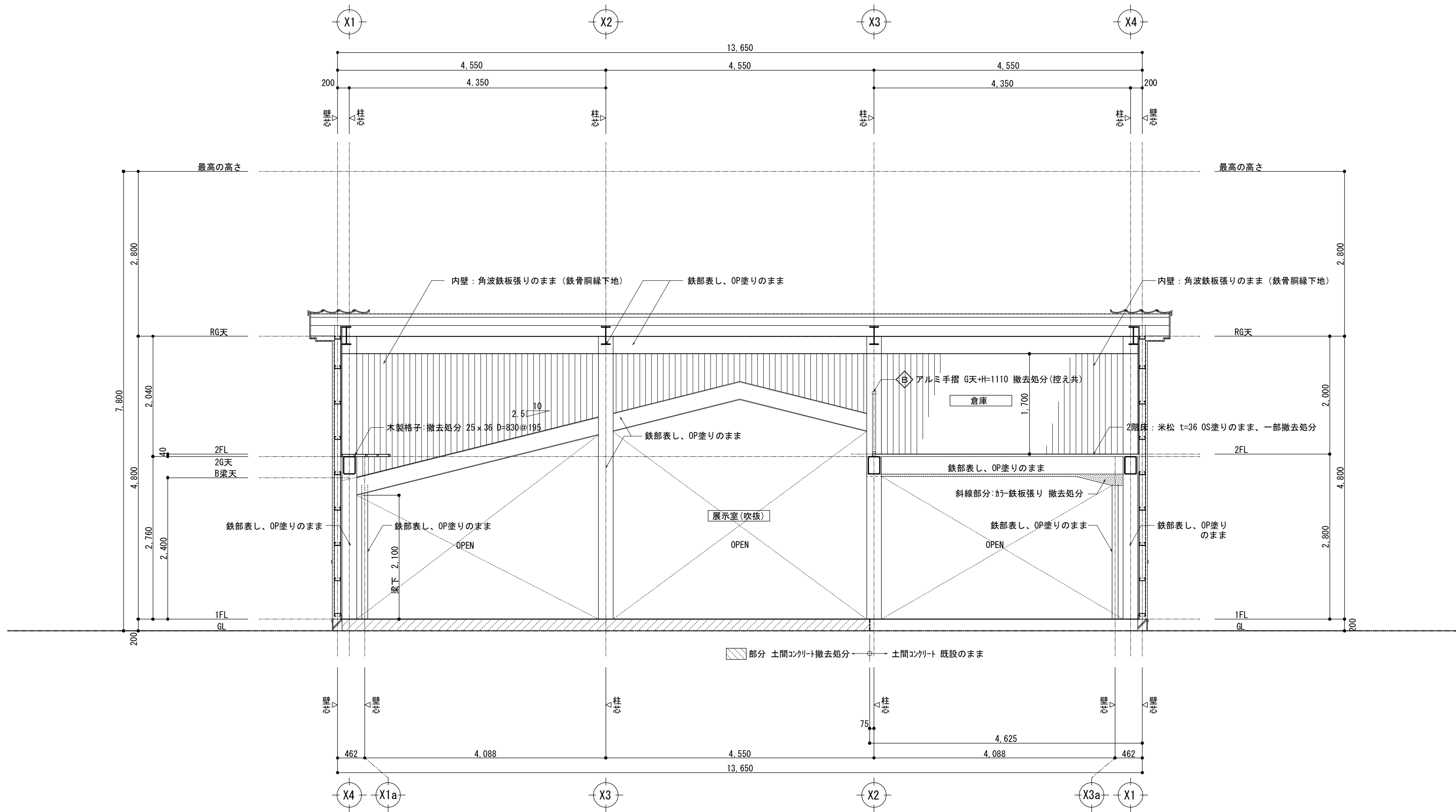
改修前



展示室(吹抜) 展開図 B面 S=1/50

※表し鉄部：OP塗りのまま

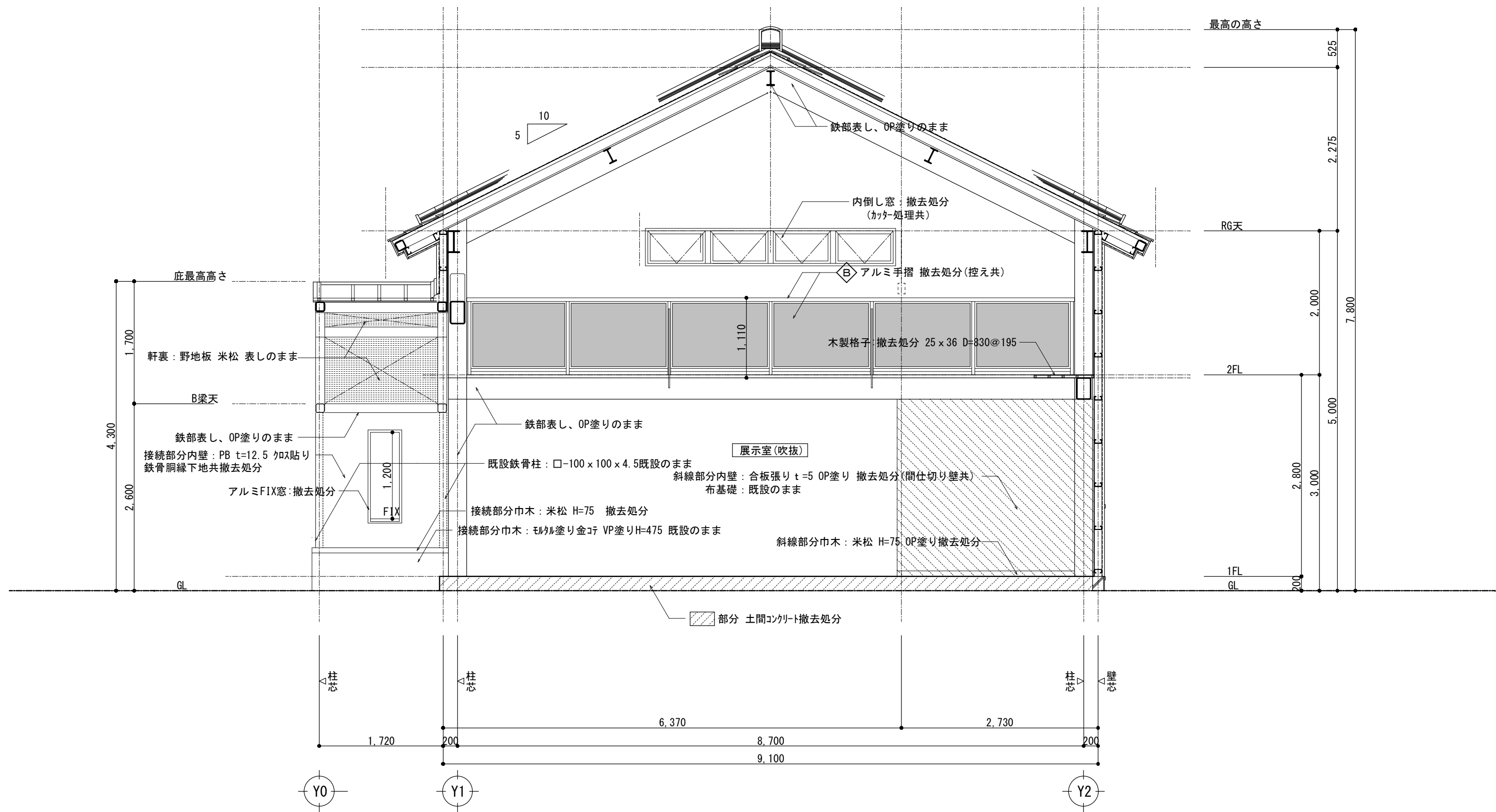
改修前



展示室(吹抜) 展開図 C面 S=1/50

※表し鉄部：OP塗りのまま

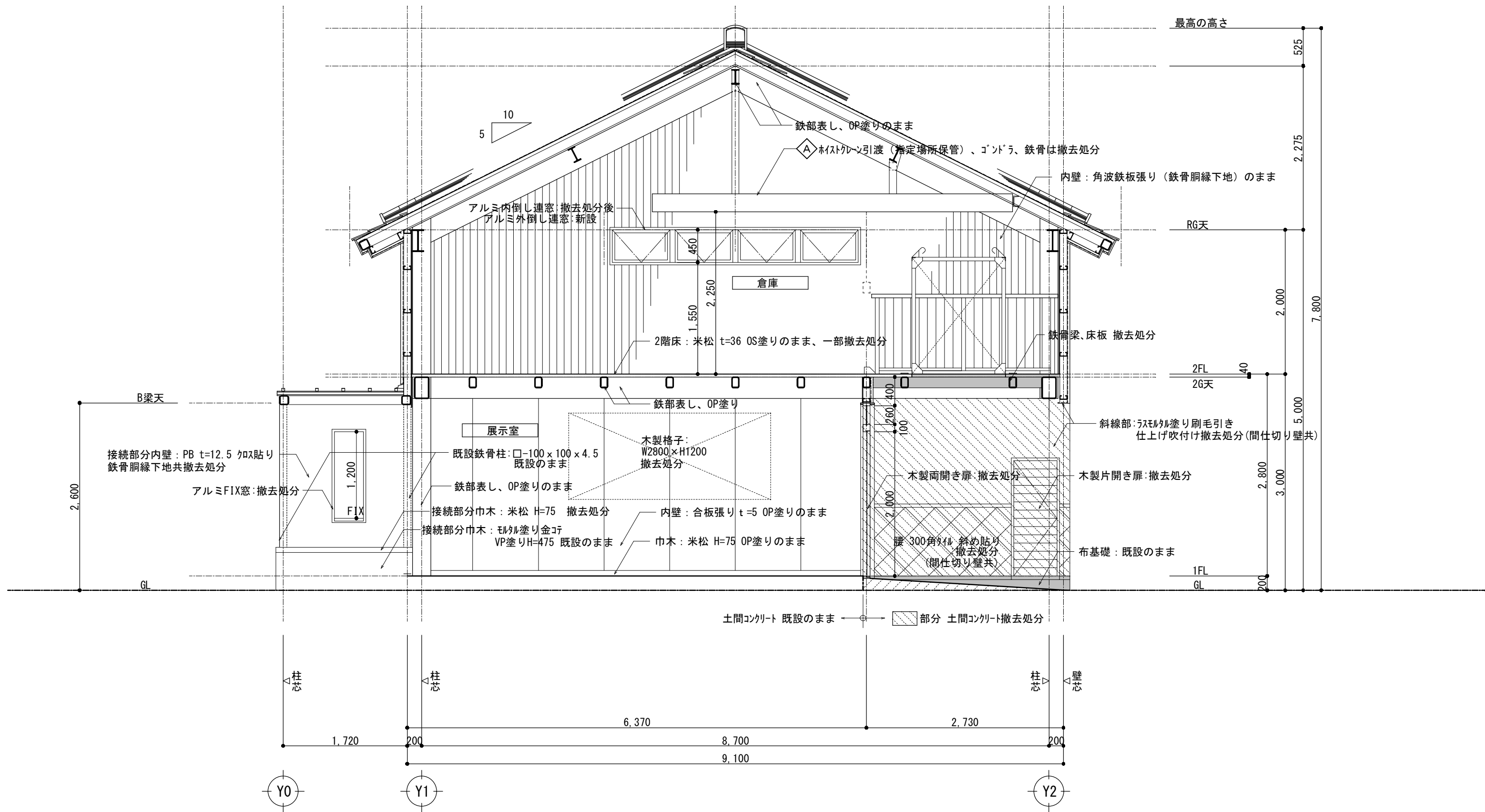
改修前



展示室(吹抜) 展開図 D面 S=1/50

※表し鉄部：OP塗りのまま

改修前

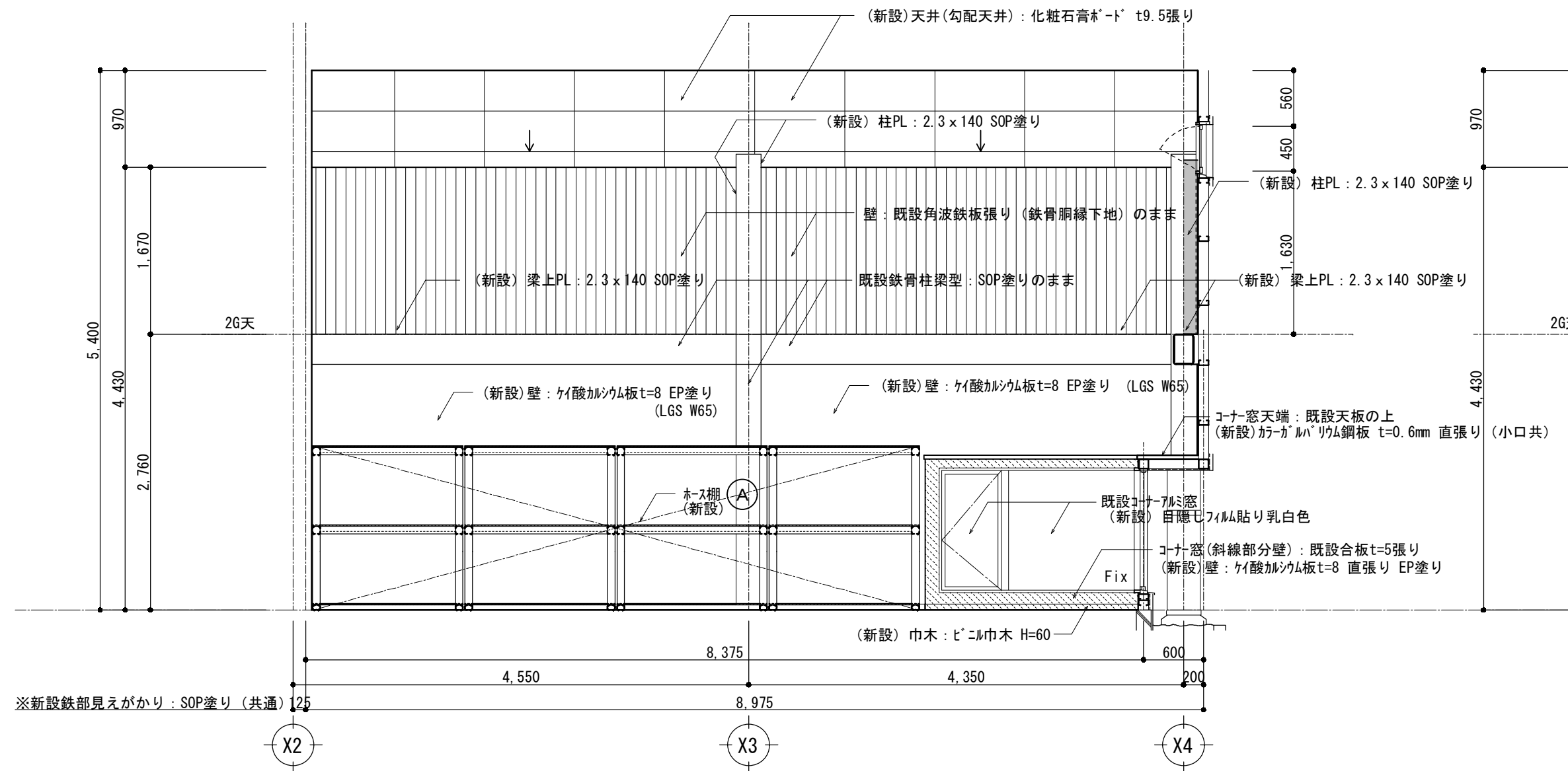


展示室・倉庫 展開図 D面 S=1/50

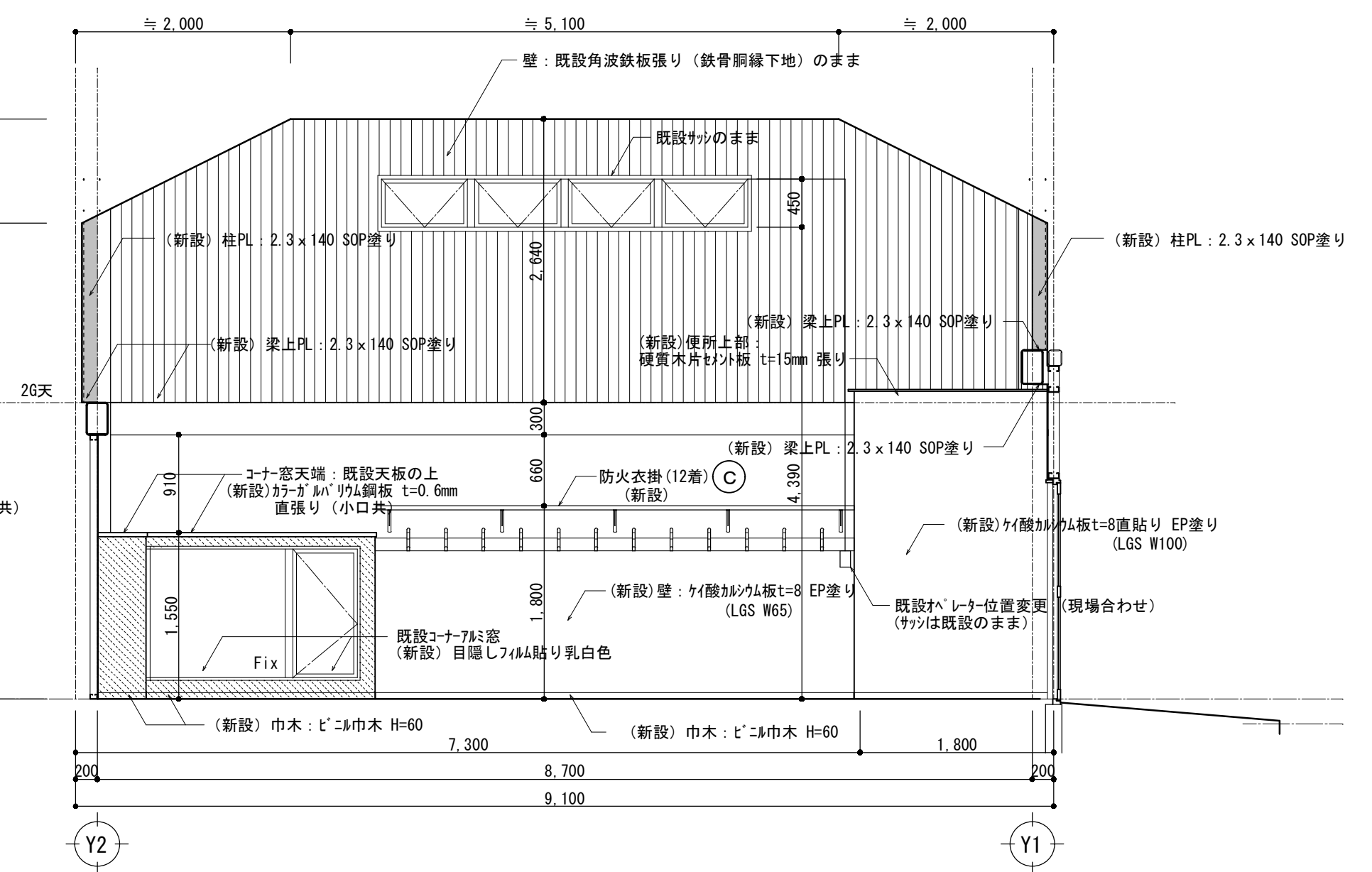
※表し鉄部：OP塗のまま

改修前

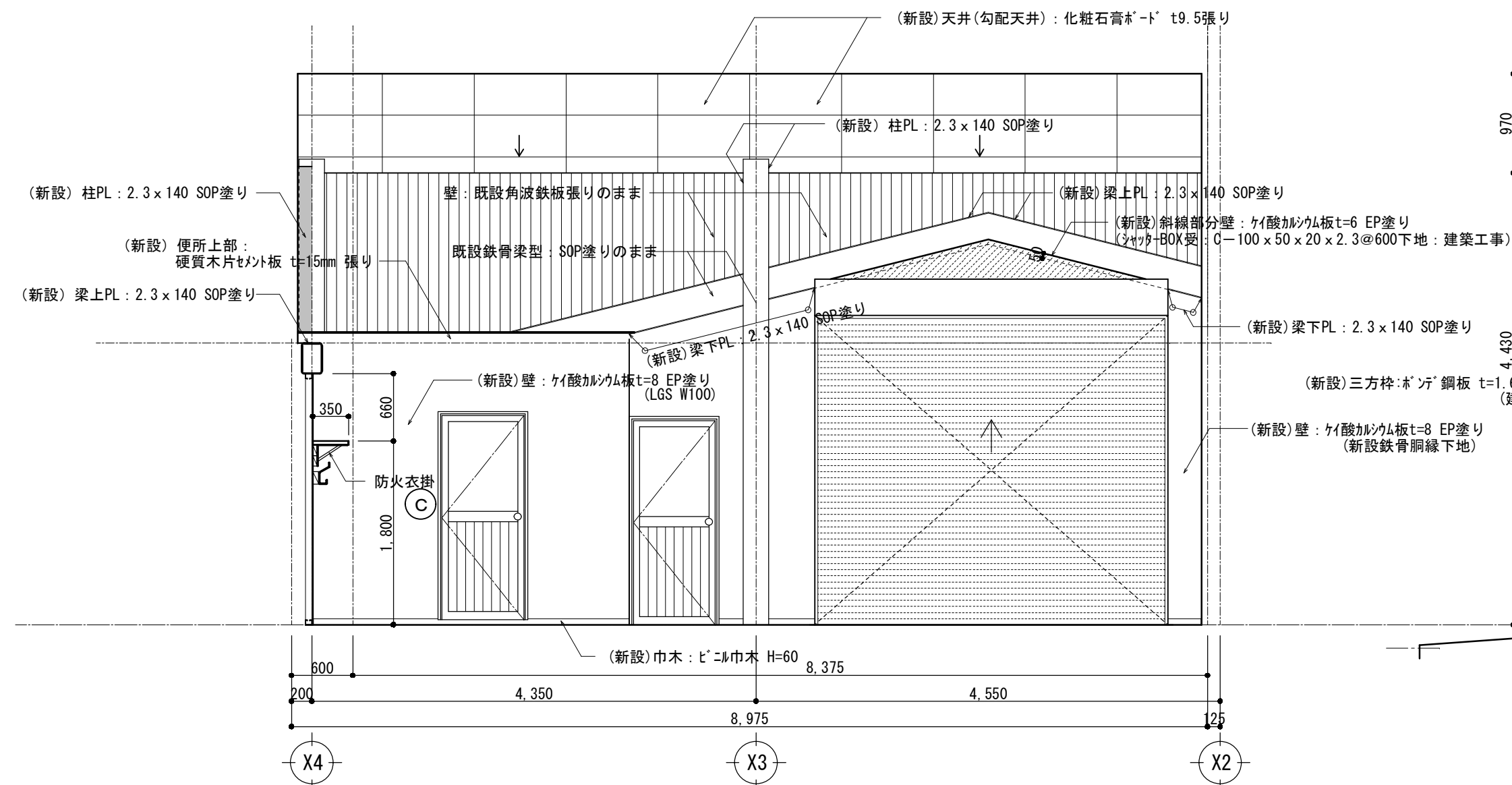
【車庫 A】



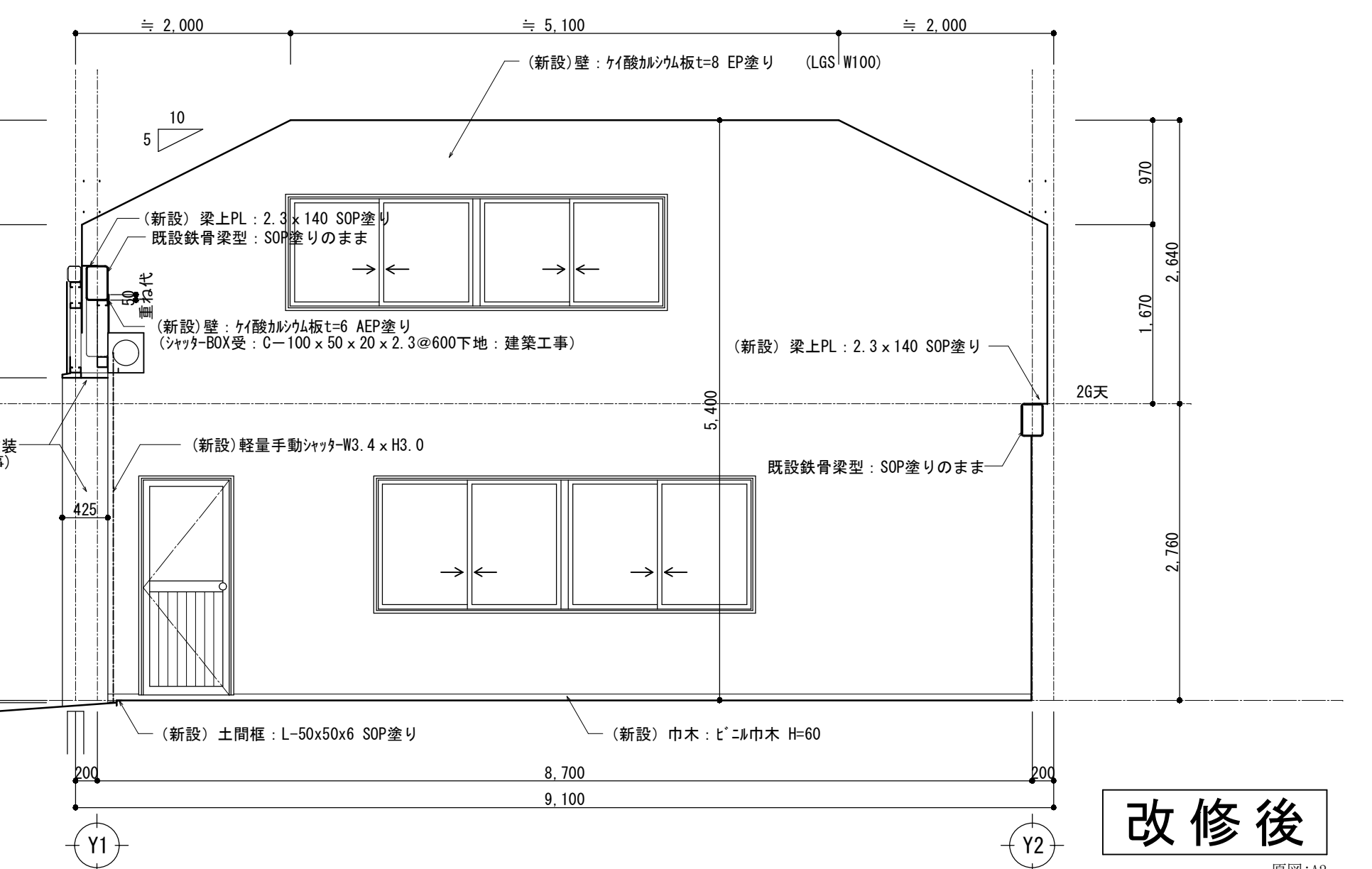
【B】



【C】

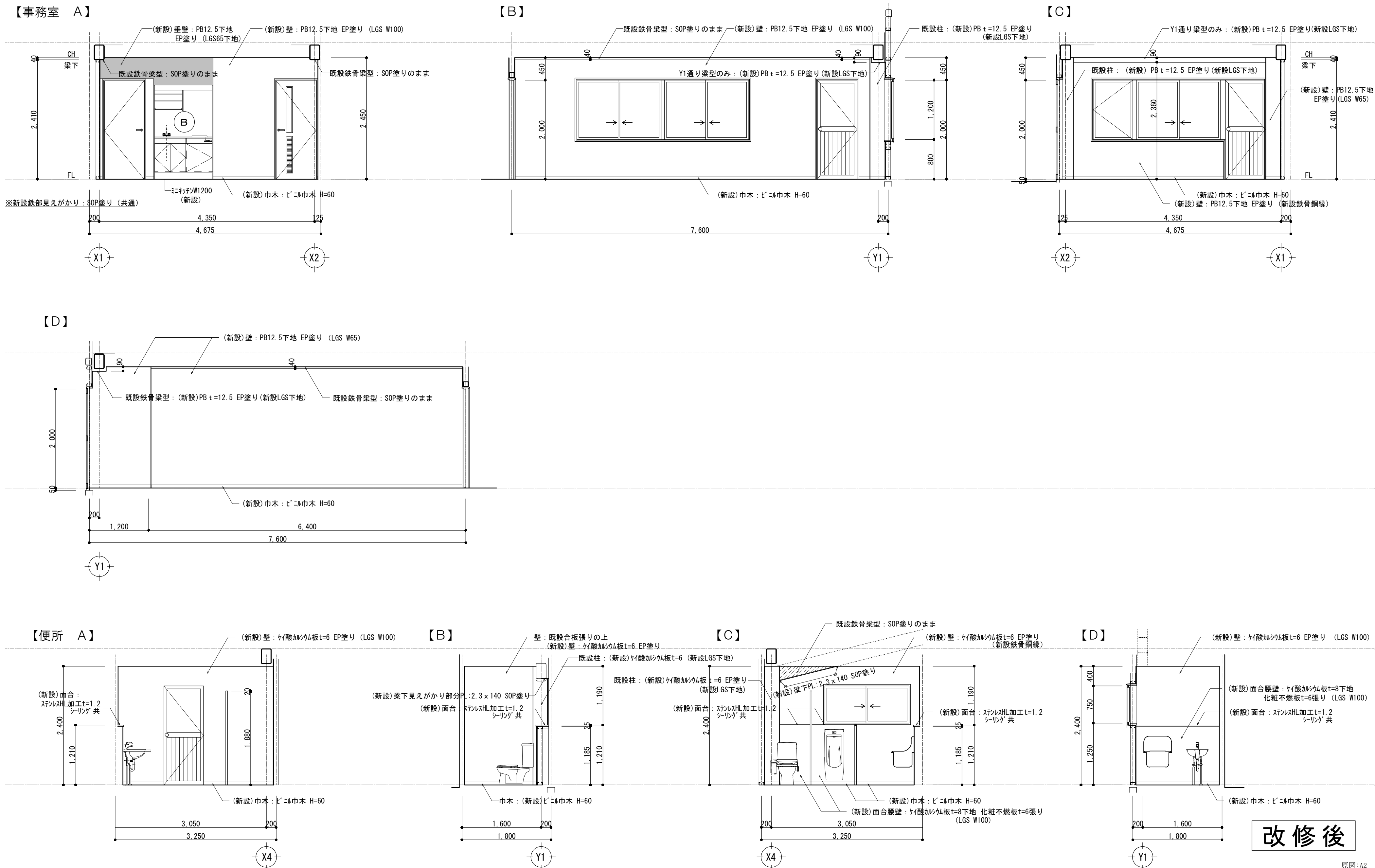


【D】

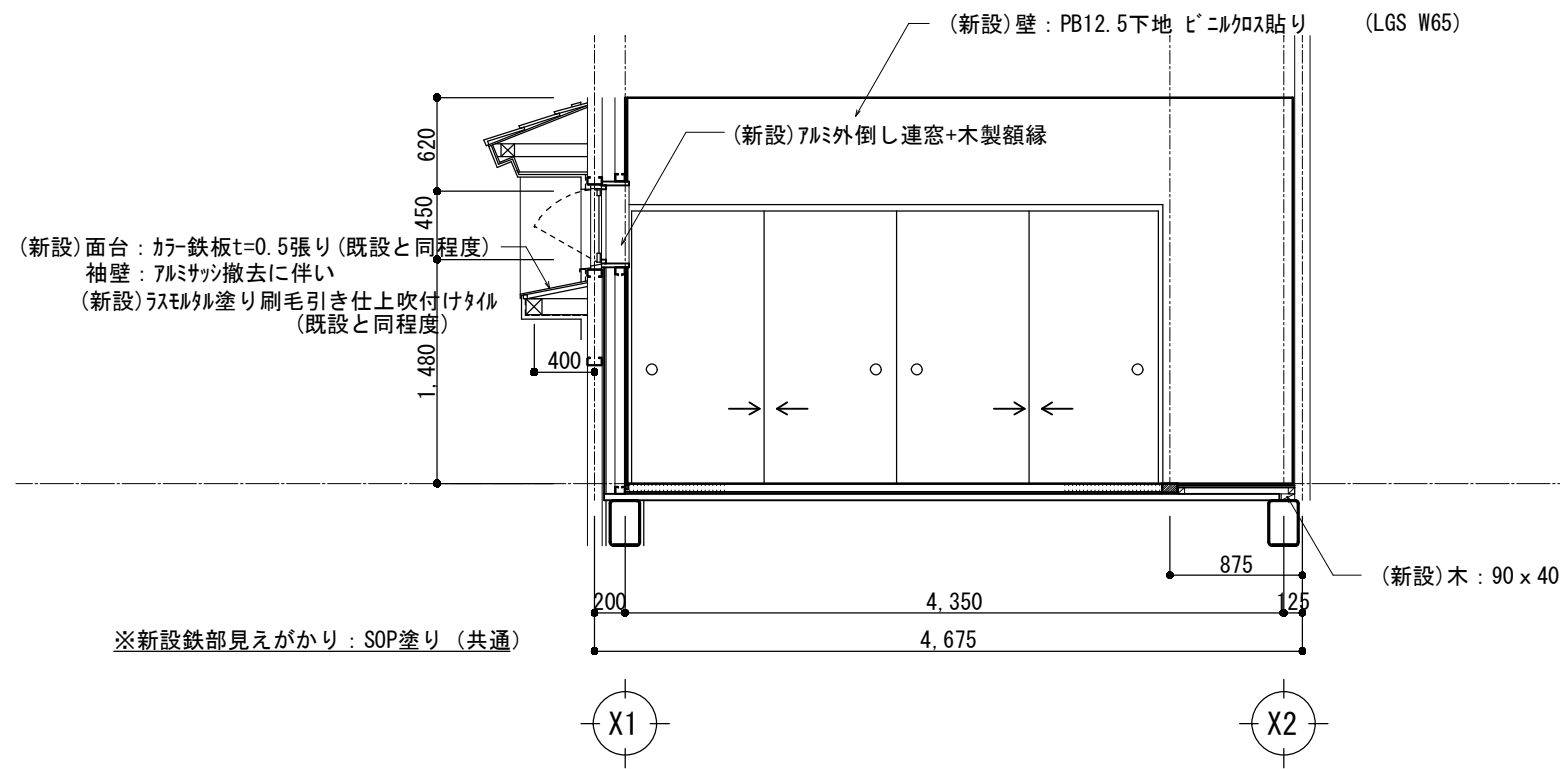


改修後

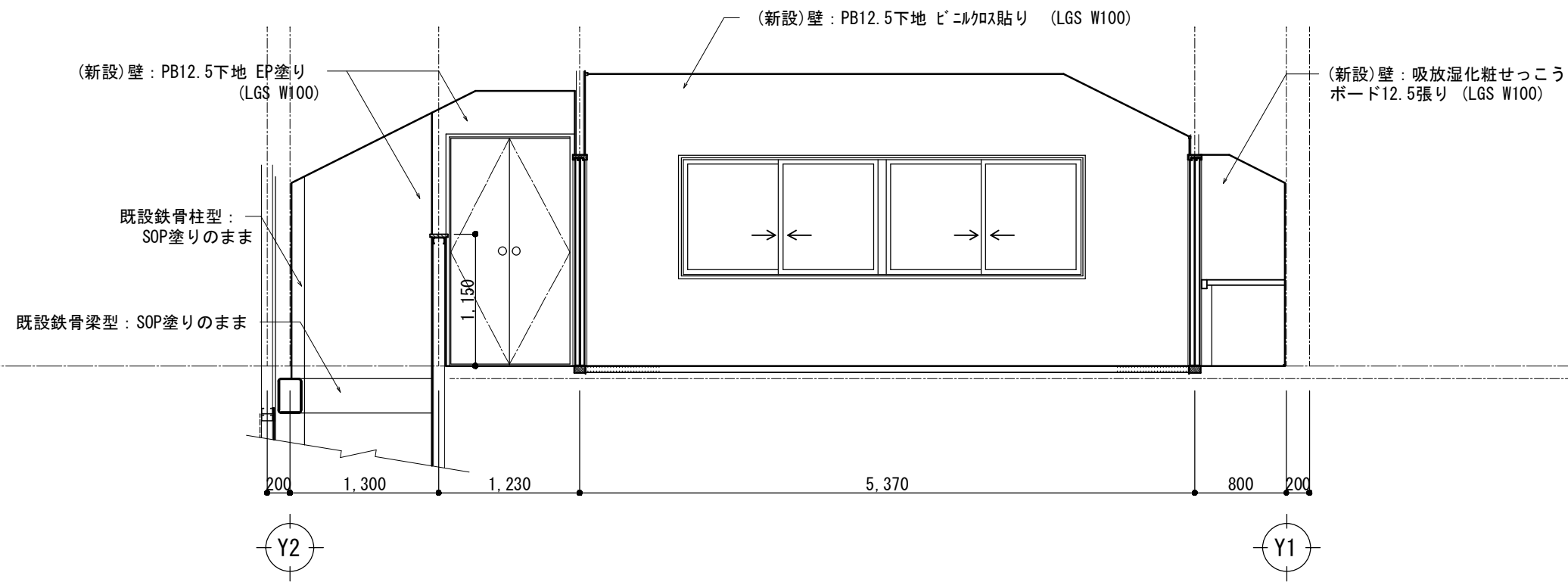
☒: A2



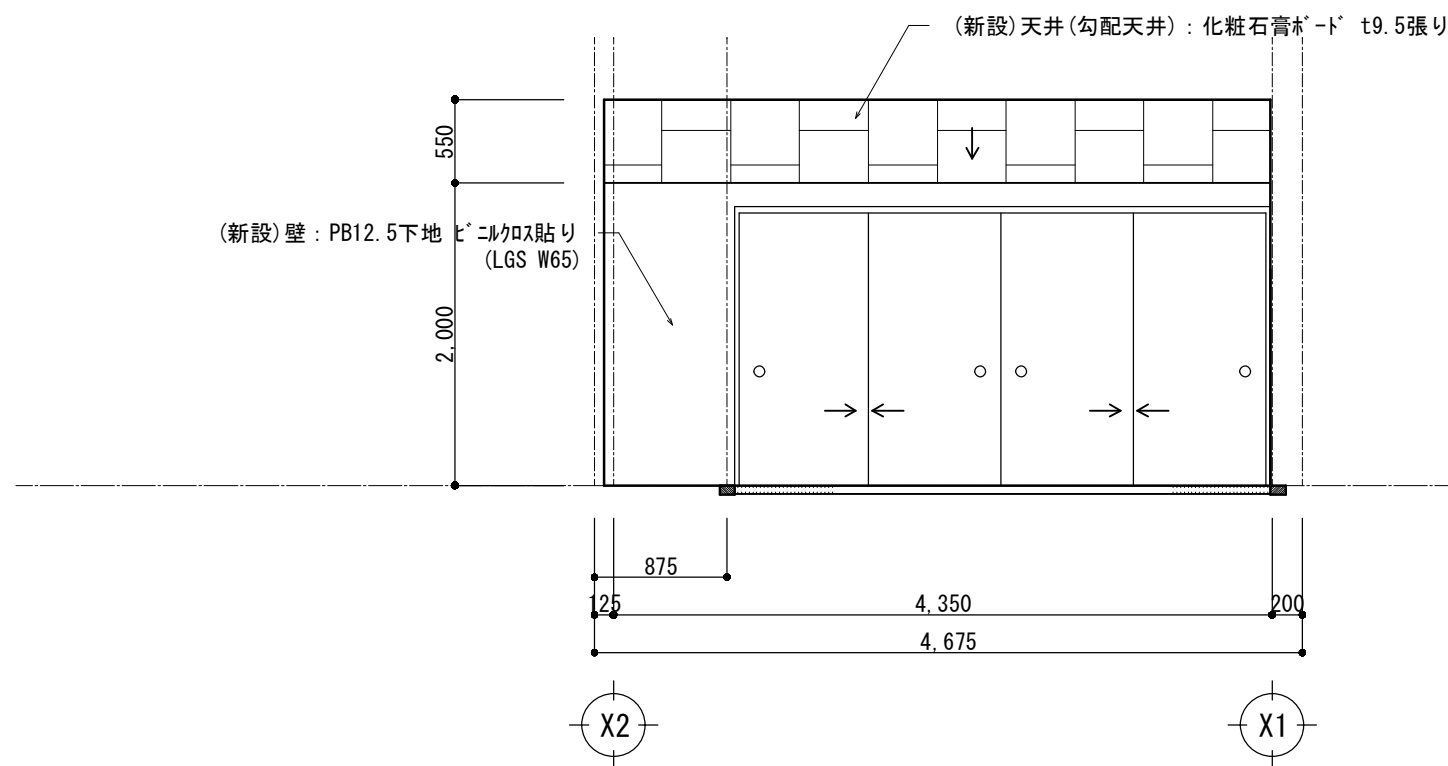
【押入・和室・廊下 A】



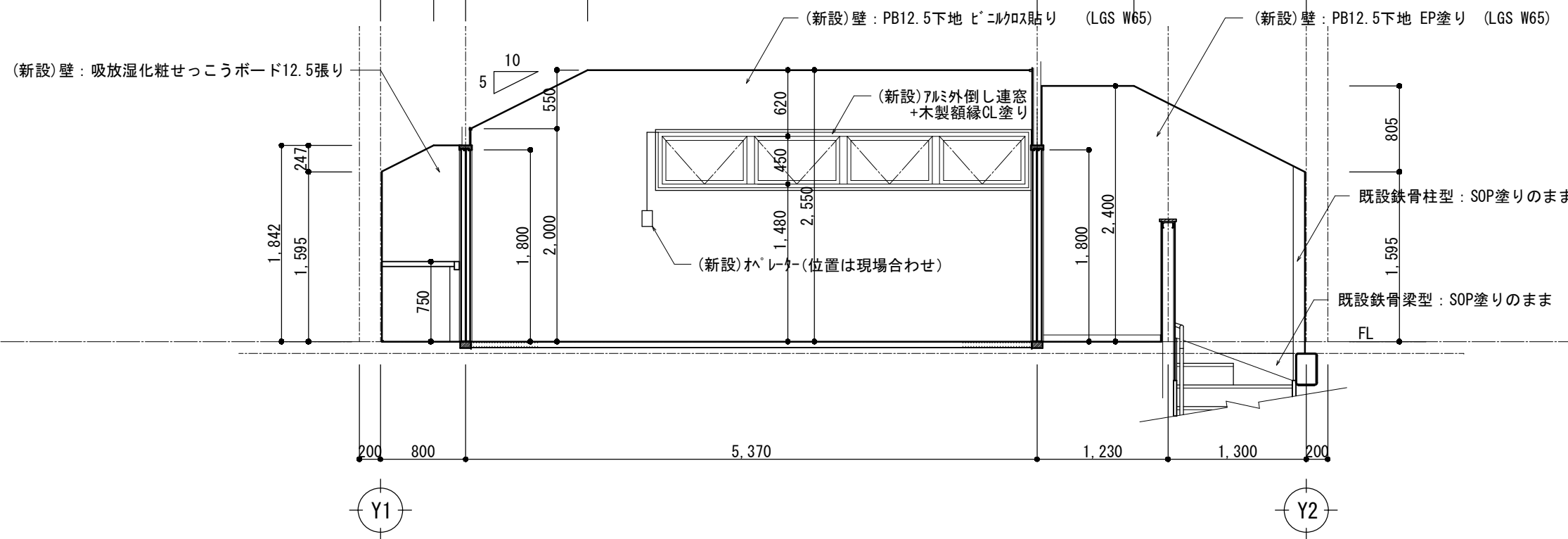
【B】



【C】

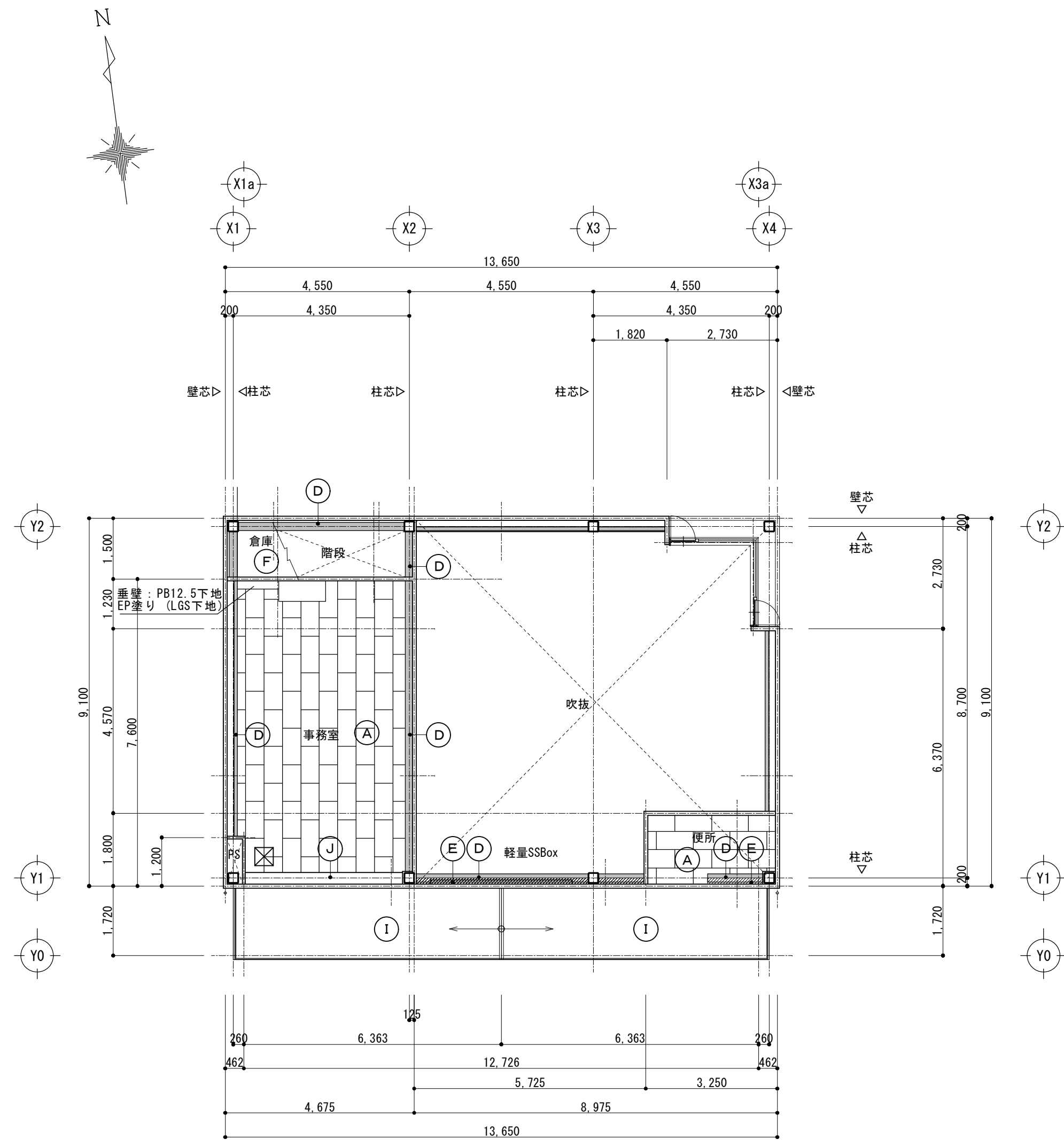


【D】

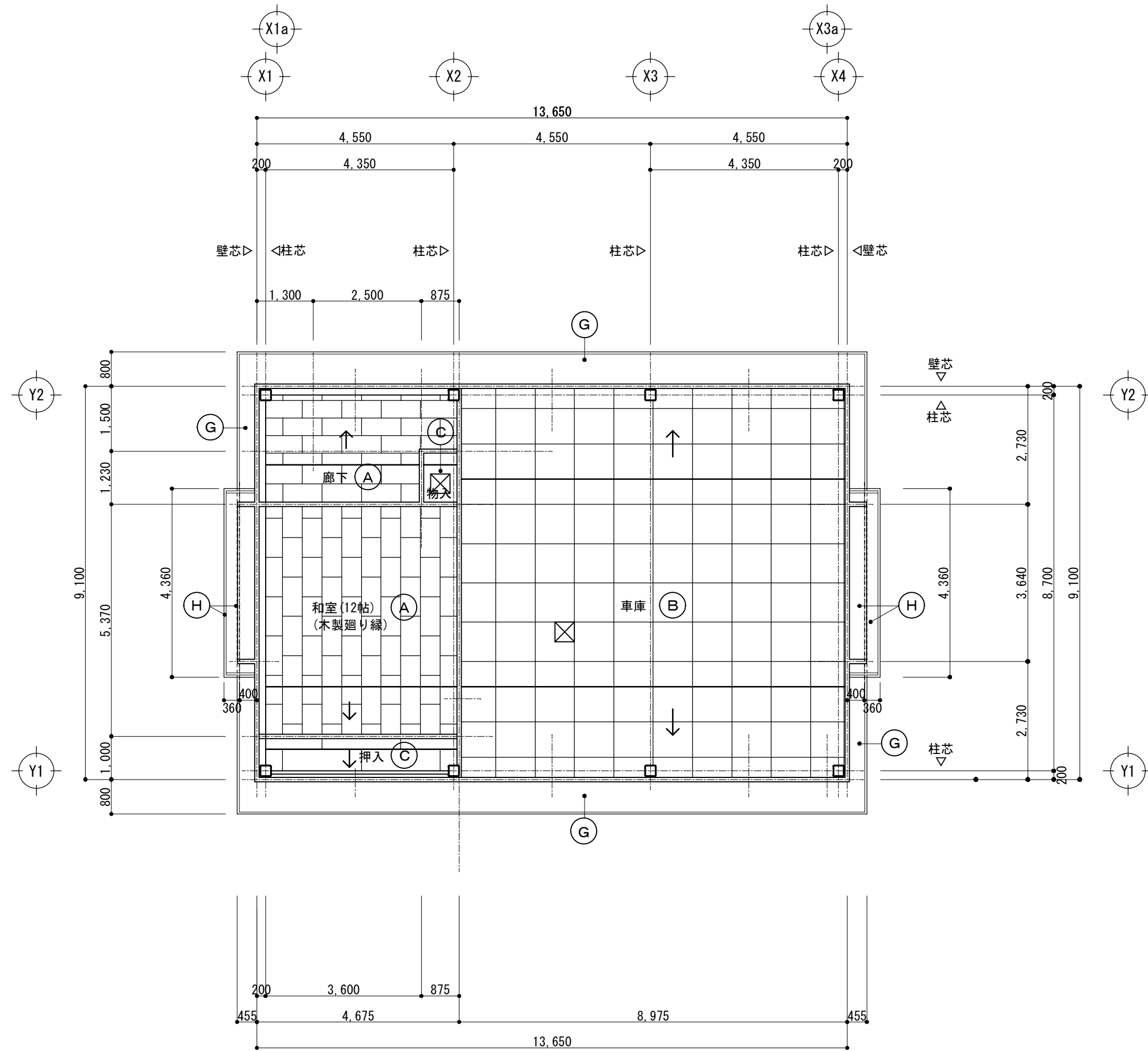


改修後

原図:A2



1 階天井伏図 S=1/100



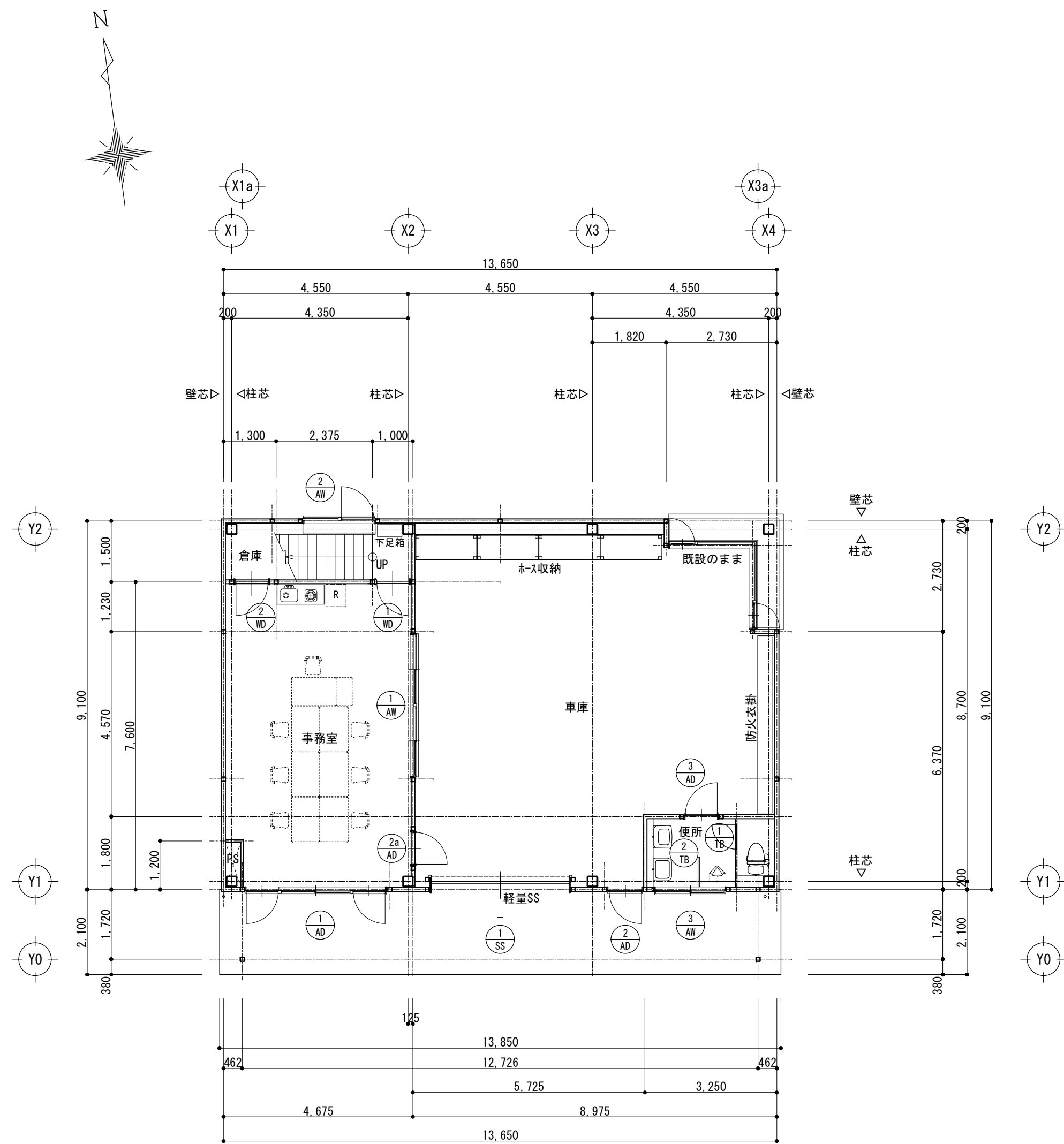
2 階天井伏図 S=1/100

改修後

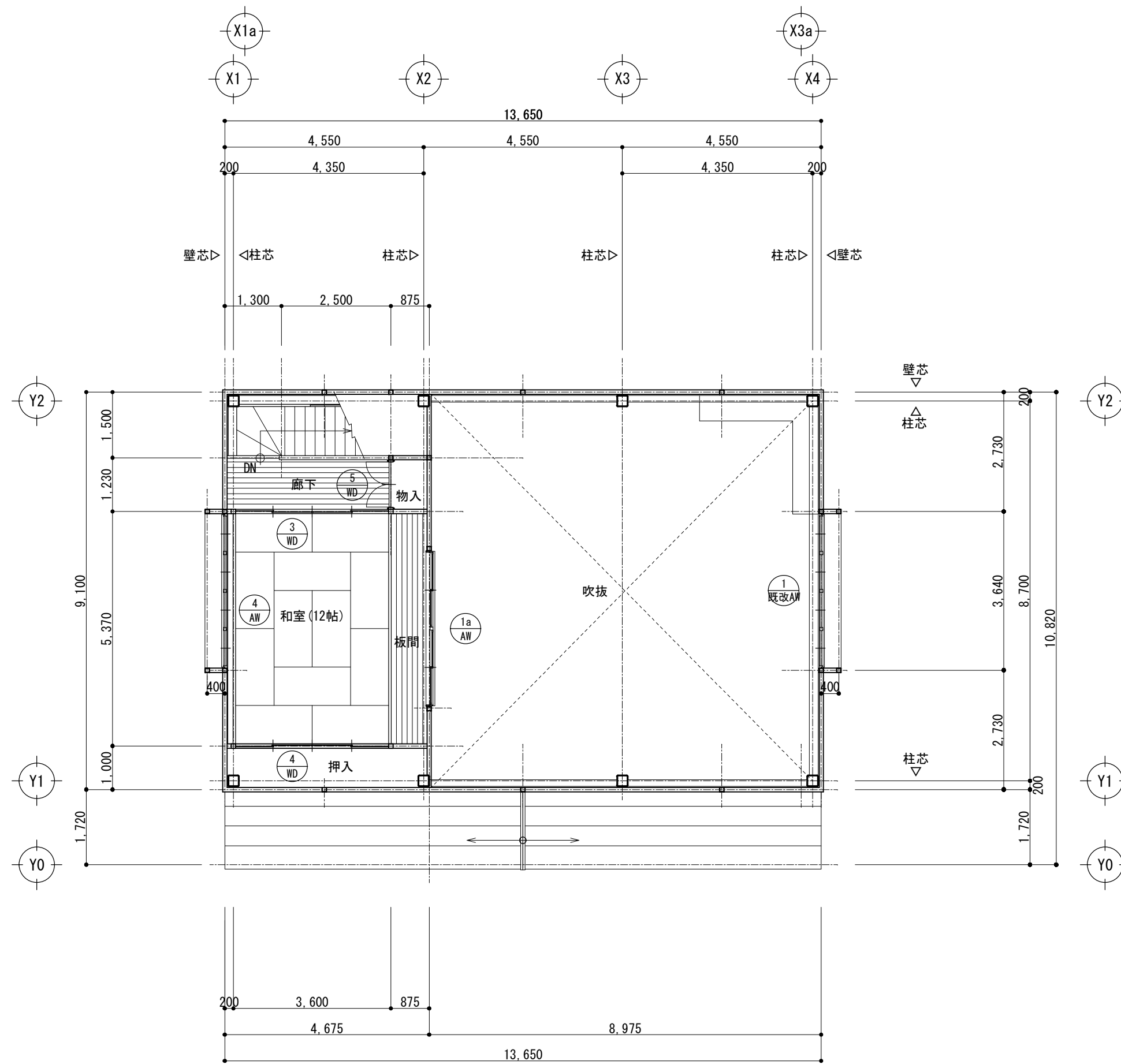
■天井仕上表■

(A)	(新設) 化粧石膏ボード t 9.5 455×910 一部5寸勾配	(D)	部分 既設鉄骨梁型 : SOP塗り (既設のまま)	(G)	外部軒裏・鼻隠し : 既設ラモル塗り刷毛引き仕上吹付け 下地処理の上、可とう型外装薄塗材E吹付け (新設)	(J)	(新設) 事務室Y1通り梁型のみ : PB t=12.5 EP塗り (新設LGS下地)
(B)	(新設) 化粧石膏ボード t 9.5 910×910 一部5寸勾配	(E)	部分 (新設) 梁下PL:2.3×140 SOP塗り	(H)	小庇 : 既設ラモル塗り刷毛引き仕上吹付け 下地処理の上、可とう型外装薄塗材E吹付け (新設)	☒	(新設) 天井点検口 450角 アルミ枠 計3ヶ所
(C)	(新設) PB t 9.5 素地 一部5寸勾配	(F)	(新設) 木製階段表し	(I)	庇軒裏 : 既設野地板の上、ケイ酸カルシウム板 t=6 EP塗り (新設) 鼻隠し : 化粧破風板 (既製品) H=240+H=150 (新設)、破風 : H=240 (新設)	廻り縁	(新設) 特記以外 塩ビ廻り縁

原図:A2



1階建具配置図 S=1/100

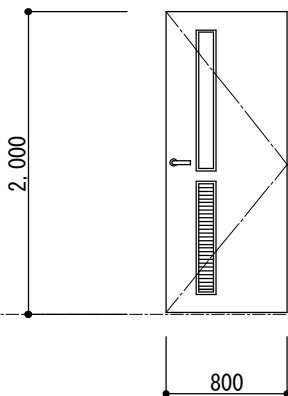
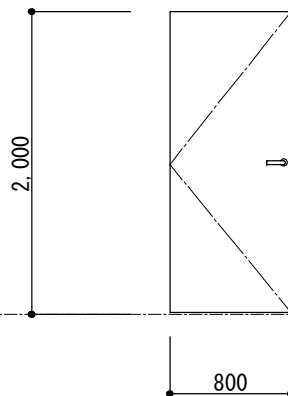
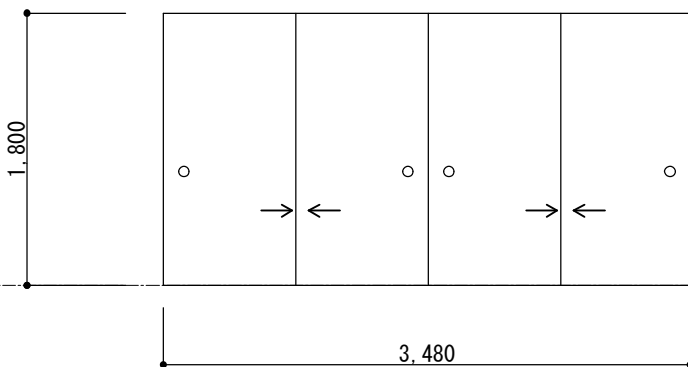
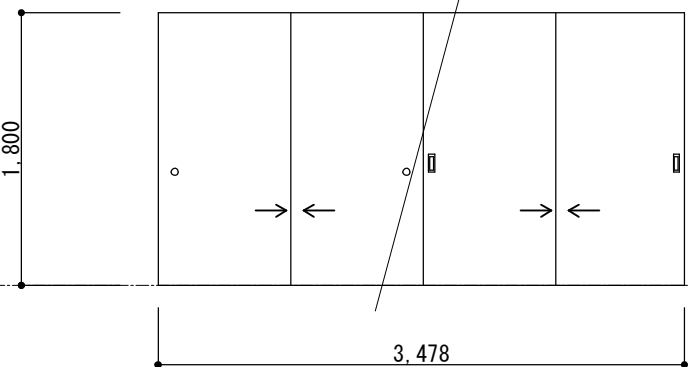
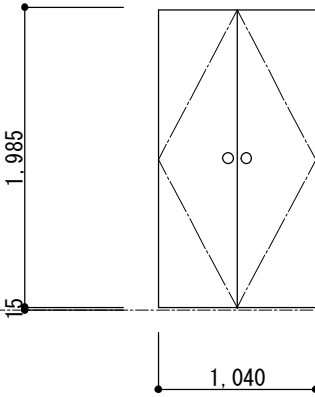
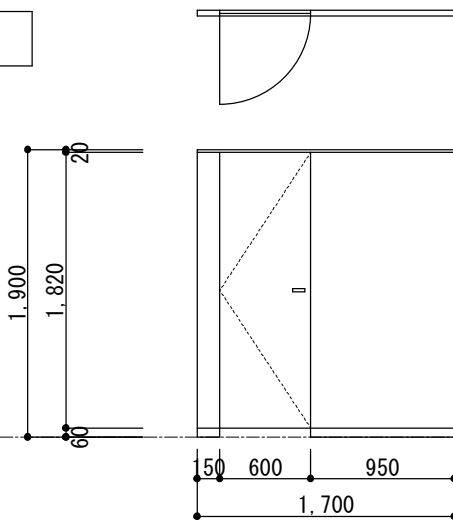
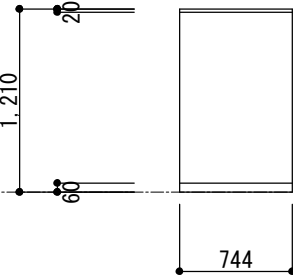
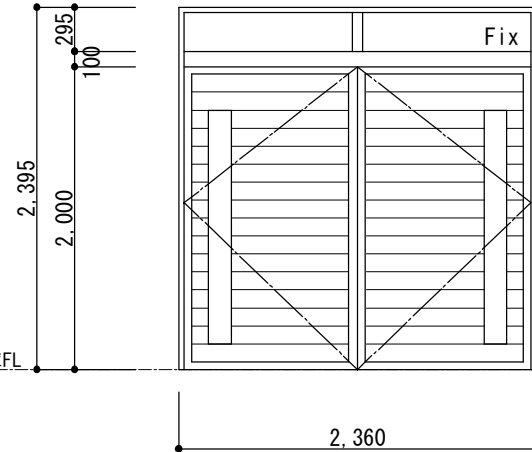
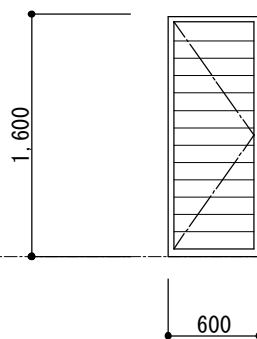
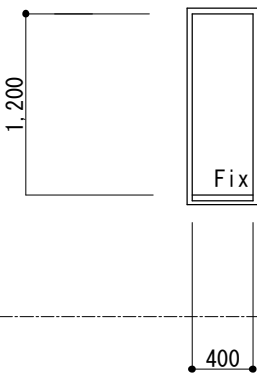
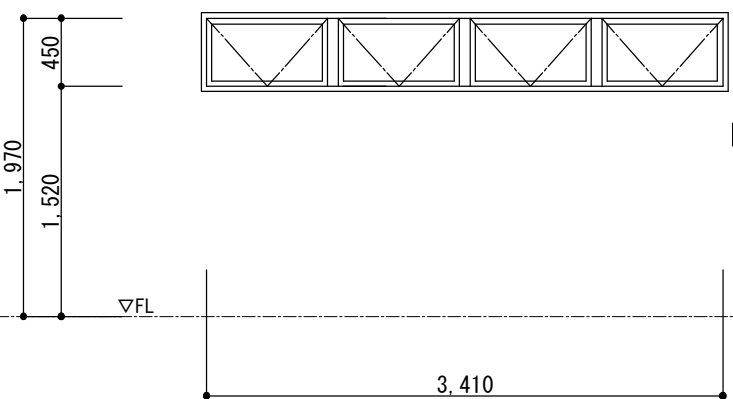


2階建具配置図 S=1/100

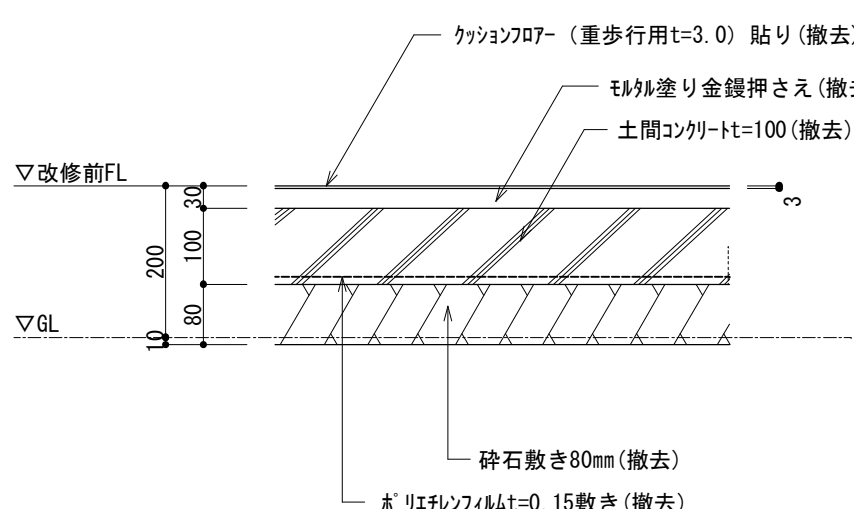
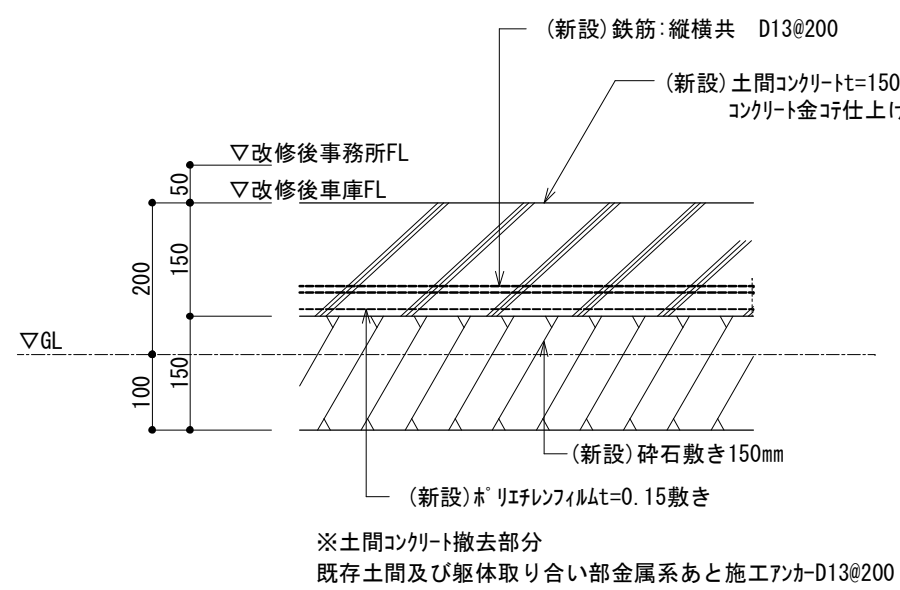
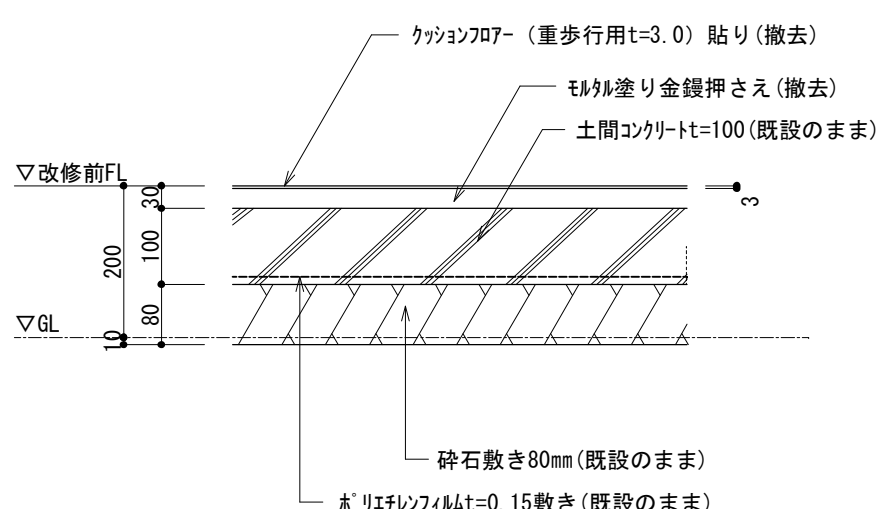
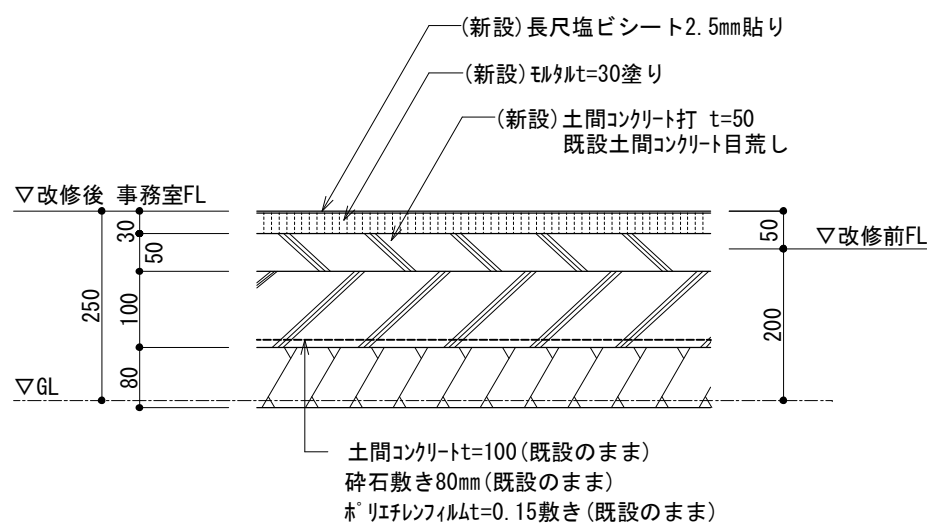
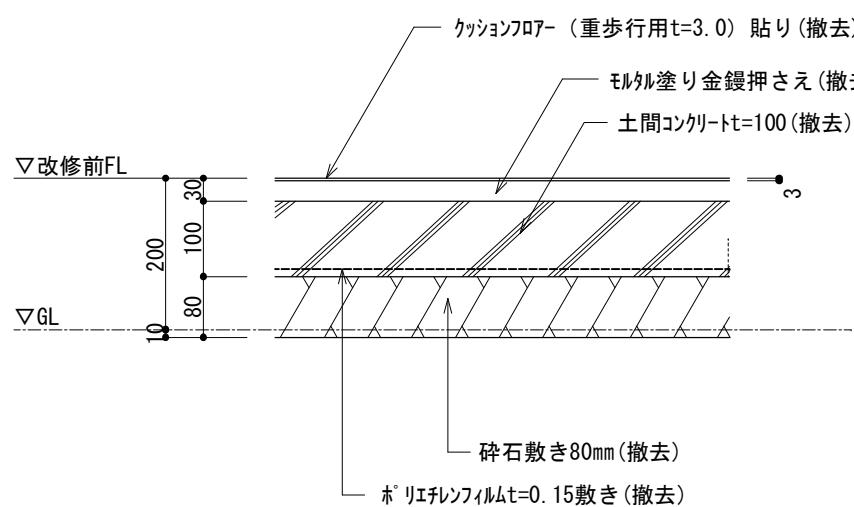
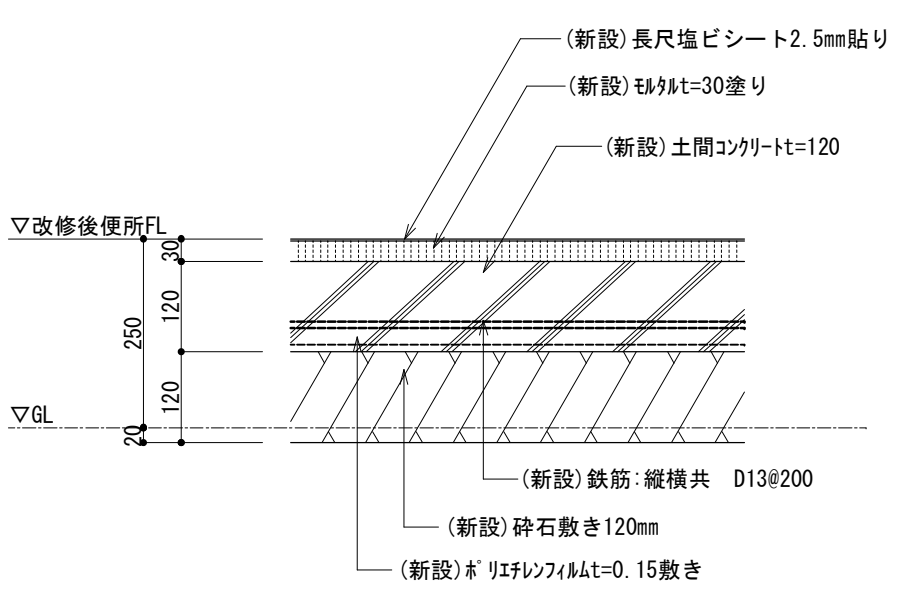
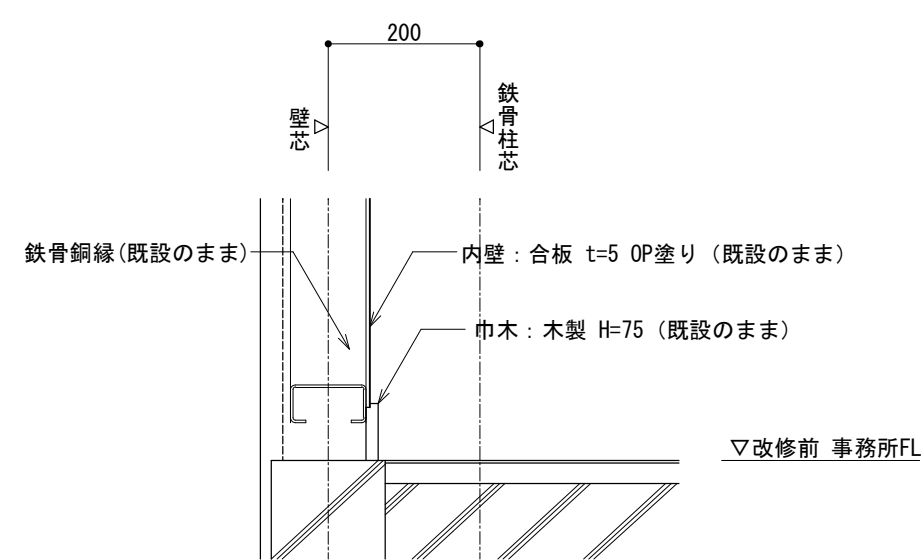
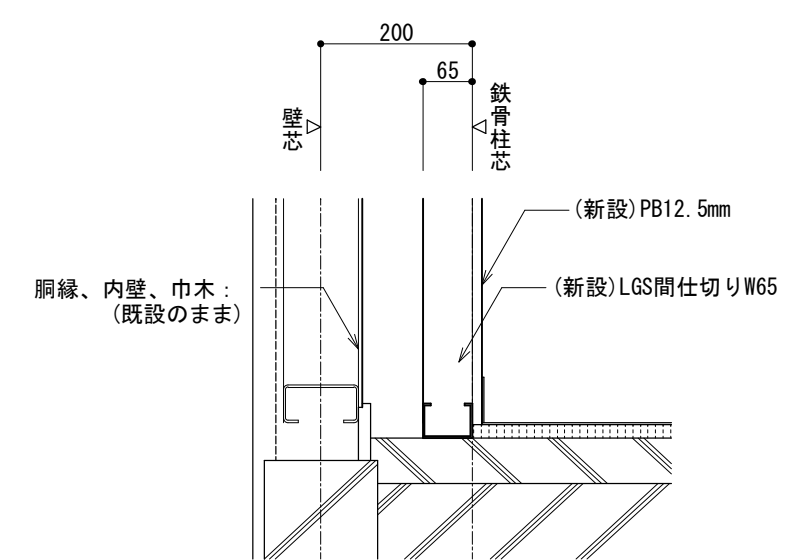
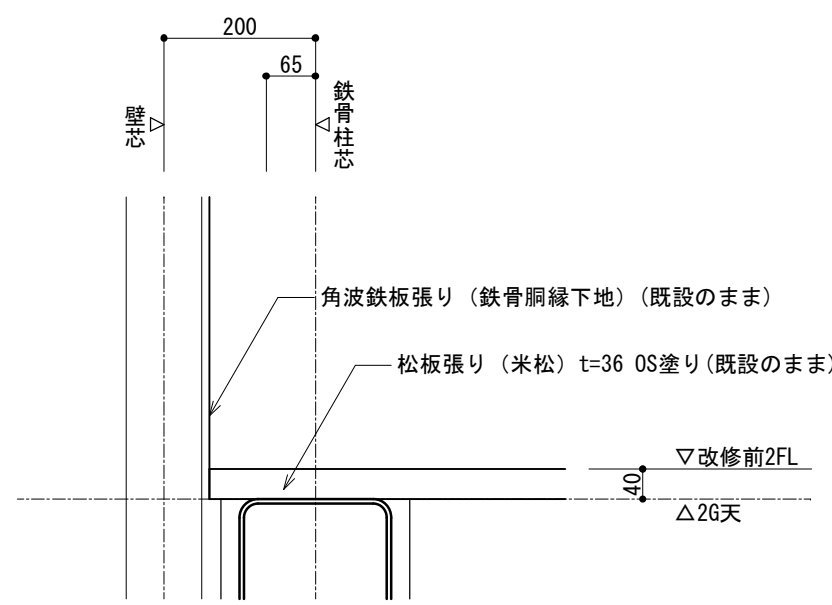
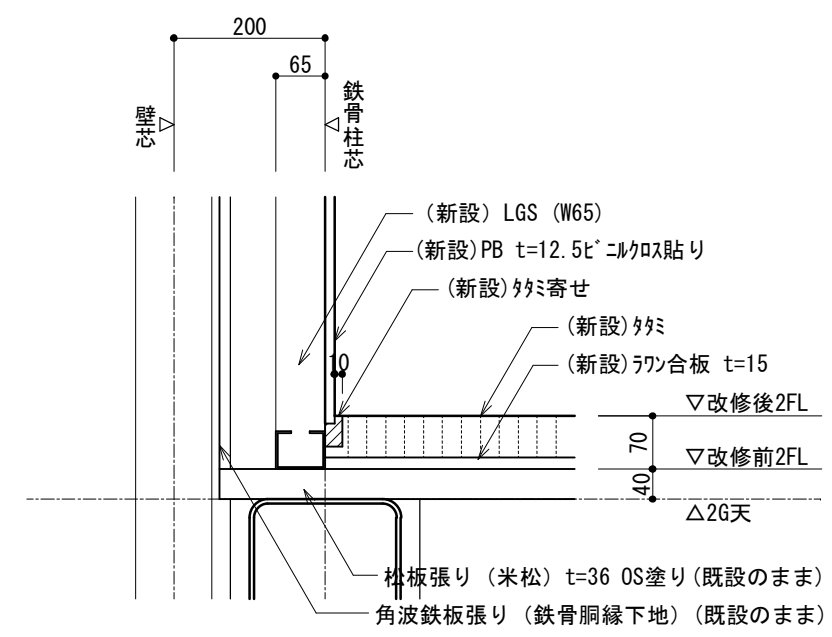
改修後

記号	数量	位置	<div><div>1SS</div>1ヶ所</div>	車庫	<div><div>1AD</div>1ヶ所</div>	事務室	<div><div>2AD</div>1ヶ所</div>	車庫	<div><div>2aAD</div>1ヶ所</div>	事務室	<div><div>3AD</div>1ヶ所</div>	便所
姿図	<div>新設</div> <div>S=1/100</div> <div></div>		<div>新設</div> <div></div>		<div>新設</div> <div>※2a姿図は逆勝手</div> <div></div>		<div>新設</div> <div></div>					
型式	軽量手動シャッター				アルミ片開き扉 + アルミ引違い窓 + アルミ片開き窓 連窓		アルミ片開き扉				アルミ片開き扉	
材質・仕上	カラー鋼板t=0.8				カラーアルミ		カラーアルミ				カラーアルミ	
見込	70				70		70				70	
硝子					型板強化ガラス4mm + アルミパネル2mm		AD-2：型板強化ガラス4mm + アルミパネル2mm AD-2a：透明強化ガラス5mm + アルミパネル2mm				型板強化ガラス4mm + アルミパネル2mm	
金物	ガイドレール、まぐさ、ケース、座板、内錠ロック、附属金物一式 三方枠・ボンド鋼板 t=1.6焼付塗装				握り玉付シリンダー錠、丁番、ステンレス沓摺、DC、ステンレス網戸、クレセント、戸車、附属金物一式、		握り玉付シリンダー錠、丁番、ステンレス沓摺、附属金物一式、				握り玉付空錠、丁番、ステンレス沓摺、附属金物一式、	
備考	シャッター看板文字：別途				木製額縁、枠 SOP塗り		木製額縁、枠 SOP塗り				木製額縁、枠 SOP塗り	
記号	数量	位置	<div><div>1AW</div>1ヶ所</div>	事務室	<div><div>1aAW</div>1ヶ所</div>	和室	<div><div>2AW</div>1ヶ所</div>	階段室	<div><div>3AW</div>1ヶ所</div>	便所	<div><div>4AW</div>1ヶ所</div>	和室
姿図	<div>新設</div> <div></div>		<div>新設</div> <div></div>		<div>新設</div> <div></div>		<div>新設</div> <div></div>					
型式	引違いアルミ窓 2連窓				片開きアルミ窓 + FIX窓 連窓		引違いアルミ窓				外倒し窓4連	
材質・仕上	カラーアルミ				カラーアルミ		カラーアルミ				カラーアルミ	
見込	70				70		70				70	
硝子	透明強化ガラス5mm				型板強化ガラス4mm		型板強化ガラス4mm				網入り(ｸﾗｽｸﾞﾗｽ)透明ガラス6.8mm	
金物	クレセント、戸車、附属金物一式、				ステンレス網戸、クレセント、戸車、附属金物一式、		ステンレス網戸、クレセント、戸車、附属金物一式、				内部開きステンレス網戸、パネラー、附属金物一式	
備考	()内寸法は1aを示す、鉄骨用半外付けサッシ 木製額縁、枠 SOP塗り				木製額縁、枠 SOP塗り		木製額縁、枠 SOP塗り				木製額縁、枠CL塗り	
記号	数量	位置									<div><div>1既設AW</div>1ヶ所</div>	車庫
姿図	<div>改修</div> <div></div>											
型式											既設4連内倒し窓のまま	
材質・仕上											既設のまま	
見込											既設のまま	
硝子											既設のまま	
金物											既設のまま	
備考											既設パネラー位置変更 (現場合わせ)	

原図:A2

記号	数量	位置	<div><div>1WD</div></div> 1ヶ所	階段室	<div><div>2WD</div></div> 1ヶ所	倉庫	<div><div>3WD</div></div> 1ヶ所	和室	<div><div>4WD</div></div> 1ヶ所	押入						
姿図	<div>新設</div> 		<div>新設</div> 		<div>新設</div> 		<div>新設</div> 									
型式	木製片開き扉(木製がり、明かり窓付き)				木製片開き扉				木製4本引違い戸				木製4本引違い戸			
材質・仕上	ポリ合板フラッシュ				ポリ合板フラッシュ				化粧合板フラッシュ				ポリ合板フラッシュ			
見込	36				36				36				36			
硝子	半透明アクリル板 5mm															
金物	レバーハンドル付空錠、丁番、DC、				レバーハンドル付空錠、丁番、DC、				引手、戸車				引手、戸車			
備考	木製額縁、枠 SOP塗り				木製額縁、枠 SOP塗り				木製額縁、枠 CL塗り				木製額縁、枠 CL塗り			
記号	<div><div>5WD</div></div> 1ヶ所	物入			<div><div>1TB</div></div> 1ヶ所	便所			<div><div>2TB</div></div> 1ヶ所	便所						
姿図	<div>新設</div> 		<div>新設</div> 		<div>新設</div> 											
型式	木製両開き扉				トイレブース				トイレブース							
材質・仕上	ポリ合板フラッシュ				ポリ合板フラッシュ				ポリ合板フラッシュ							
見込	36				40				40							
硝子																
金物	把手、丁番、キャッチ錠				表示付スライドラッチ錠、アルミ笠木、SUS巾木、ラバトリーヒンジ、戸当たりアルミエッジ				アルミ笠木、SUS巾木、アルミエッジ							
備考	木製額縁、枠 CL塗り															
記号	<div><div>1既WD</div></div> 1ヶ所	1階			<div><div>2既WD</div></div> 1ヶ所	1階			<div><div>1既AW</div></div> 2ヶ所	1階			<div><div>2既AW</div></div> 1ヶ所	和室		
姿図	<div>撤去</div> 		<div>撤去</div> 		<div>撤去</div> 		<div>撤去</div> 									
型式	既設木製両開きフラッシュ扉 + 欄間Fix				既設木製片開きフラッシュ扉				アルミ製Fix窓				既設4連内倒し窓			
材質・仕上	木製				木製				アルミブラック				カラーアルミ			
見込	扉:45mm				扉:40mm				70mm				70			
硝子	米松(ピーラー) OS、ランマ:FL3mm、扉:FL5mm				米松(ピーラー) OS				アルミブラック、FL5mm				網入り型板ガラス6.8mm			
金物	押棒、フランス落し、シリンドー錠、ステンレス沓摺り、ピボットヒンジ				丁番、レバーハンドル付シリンドー錠、ステンレス沓摺り				アングルピース、他一式				木レバー撤去			
備考																

原図:A2

車庫 床 土間コンクリート撤去：改修参考図 S=1/10		事務室（斜線以外の部分） 床仕上材撤去：改修参考図 S=1/10	
<div>撤去</div>  <p>クッションパッド（重歩行用t=3.0）貼り（撤去） モルタル塗り金鍍押さえ（撤去） 土間コンクリートt=100（撤去） 砕石敷き80mm（撤去） ※ポリエチレンフィルムt=0.15敷き（撤去）</p>	<div>改修</div>  <p>（新設）鉄筋：縦横共 D13@200 （新設）土間コンクリートt=150 コンクリート金コシ仕上げ （新設）砕石敷き150mm （新設）※ポリエチレンフィルムt=0.15敷き ※土間コンクリート撤去部分 既存土間及び躯体取り合い部金属系あと施工アンカーD13@200</p>	<div>撤去</div>  <p>クッションパッド（重歩行用t=3.0）貼り（撤去） モルタル塗り金鍍押さえ（撤去） 土間コンクリートt=100（既設のまま） 砕石敷き80mm（既設のまま） ※ポリエチレンフィルムt=0.15敷き（既設のまま）</p>	<div>改修</div>  <p>（斜線以外） （新設）長尺塩ビシート2.5mm貼り （新設）モルタルt=30塗り （新設）土間コンクリート打 t=50 既設土間コンクリート目荒し 土間コンクリートt=100（既設のまま） 砕石敷き80mm（既設のまま） ※ポリエチレンフィルムt=0.15敷き（既設のまま）</p>
便所 床 土間コンクリート撤去：改修参考図 S=1/10			
<div>撤去</div>  <p>クッションパッド（重歩行用t=3.0）貼り（撤去） モルタル塗り金鍍押さえ（撤去） 土間コンクリートt=100（撤去） 砕石敷き80mm（撤去） ※ポリエチレンフィルムt=0.15敷き（撤去）</p>	<div>改修</div>  <p>（新設）長尺塩ビシート2.5mm貼り （新設）モルタルt=30塗り （新設）土間コンクリートt=120 （新設）鉄筋：縦横共 D13@200 （新設）砕石敷き120mm （新設）※ポリエチレンフィルムt=0.15敷き</p>		
LGSふかし壁 改修参考図 S=1/10		和室 床・壁 改修参考図 S=1/10	
<div>既設</div>  <p>壁芯 鉄骨柱芯 鉄骨鋼縁（既設のまま） 内壁：合板 t=5 OP塗り（既設のまま） 巾木：木製 H=75（既設のまま） ▽改修前 事務所FL</p>	<div>改修</div>  <p>（新設）PB12.5mm （新設）LGS間仕切りW65 胴縁、内壁、巾木：（既設のまま）</p>	<div>既設</div>  <p>壁芯 鉄骨柱芯 角波鉄板張り（鉄骨鋼縁下地）（既設のまま） 松板張り（米松）t=36 OS塗り（既設のまま） ▽改修前2FL △26天</p>	<div>改修</div>  <p>（新設）LGS（W65） （新設）PB t=12.5tニルクロス貼り （新設）タミ寄せ （新設）タミ （新設）ラワン合板 t=15 ▽改修後2FL ▽改修前2FL △26天 松板張り（米松）t=36 OS塗り（既設のまま） 角波鉄板張り（鉄骨鋼縁下地）（既設のまま）</p>

原图:A2

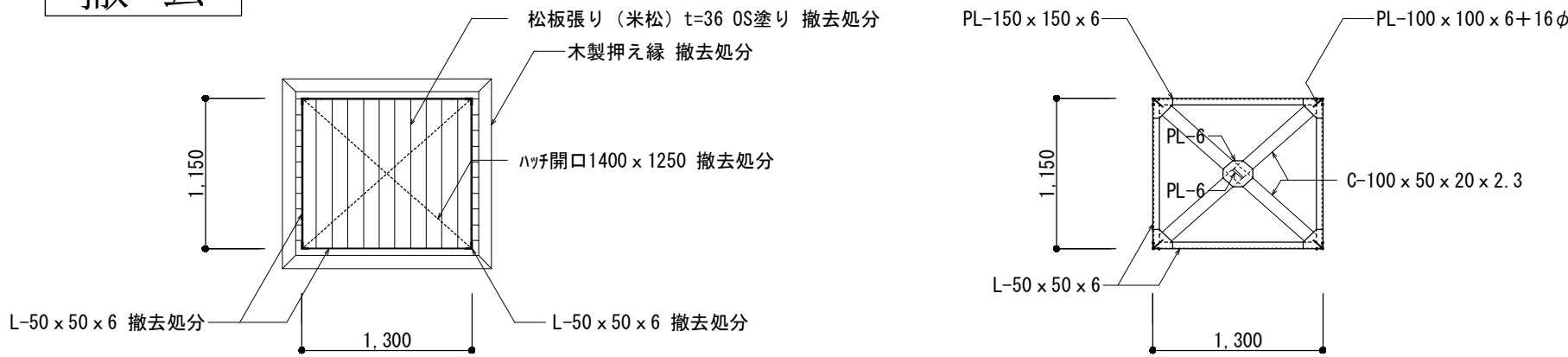
A

ホイストクレーン(ゴンドラ付) 鉄骨詳細図

2 階倉庫

※ホイストクレーンは、発注者に引渡すこと。

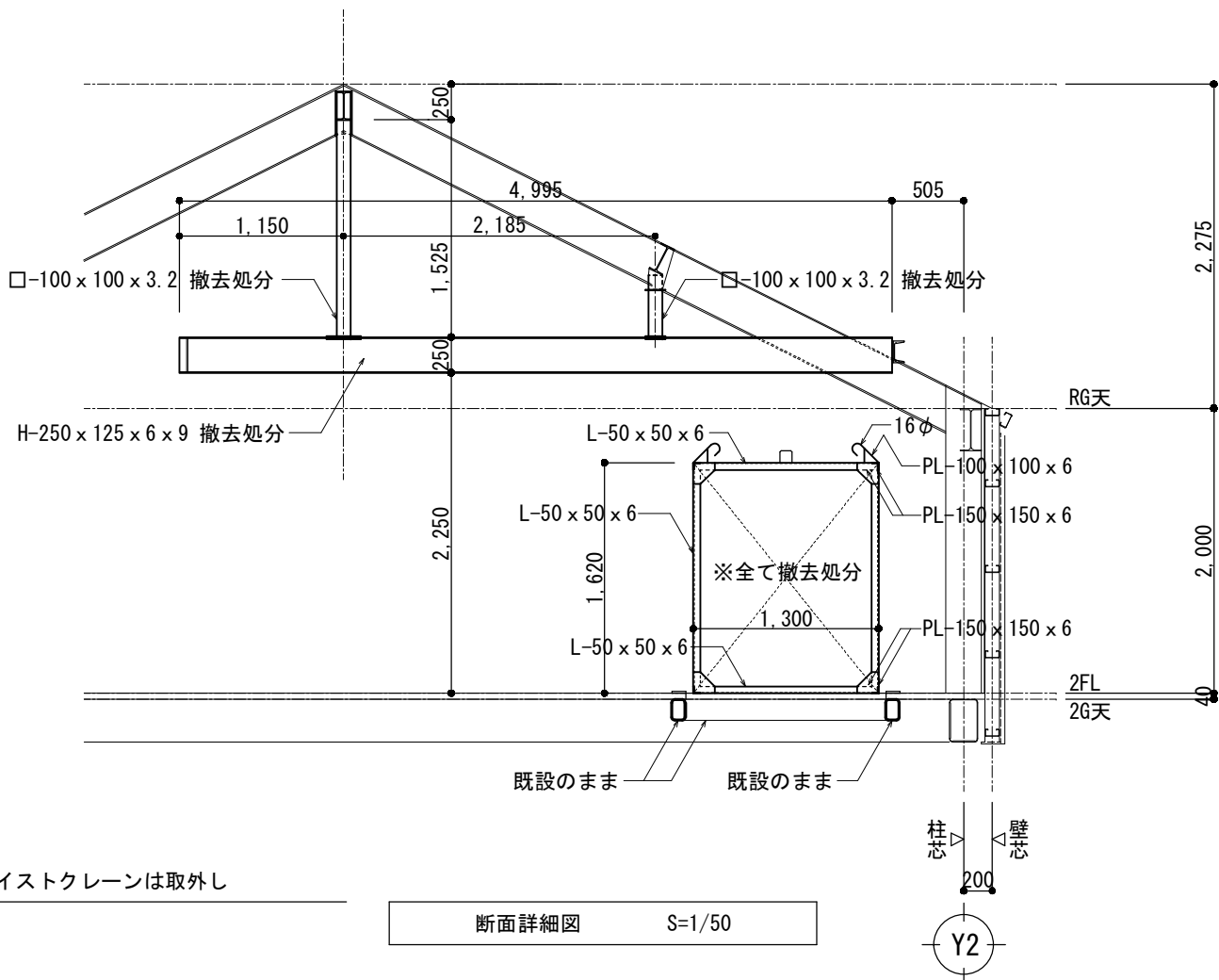
撤 去



平面図 S=1/50

ゴンドラ鉄骨伏図 S=1/50

※全て撤去処分



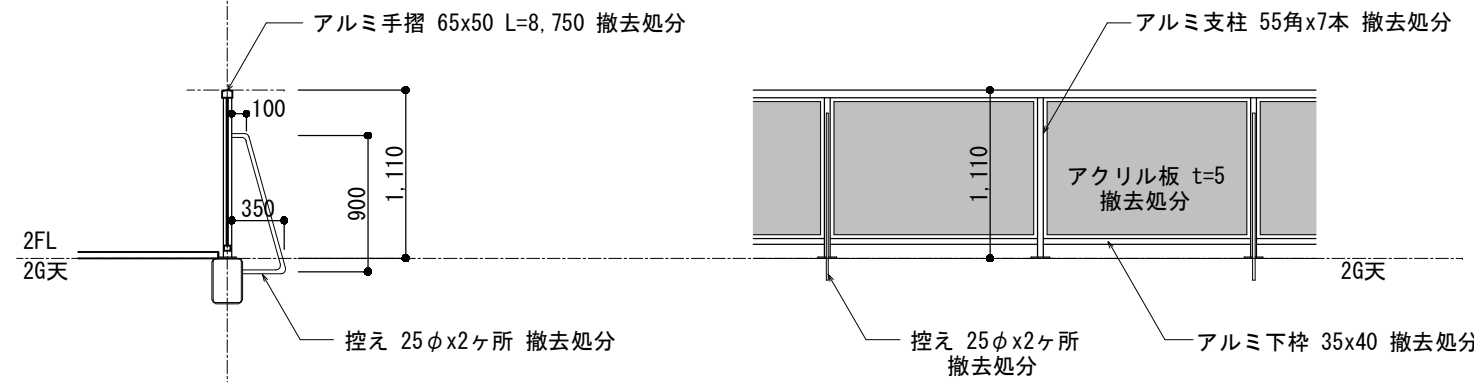
断面詳細図 S=1/50

B

アルミ手摺

2階倉庫

撤 去



断面詳細図 S=1/50

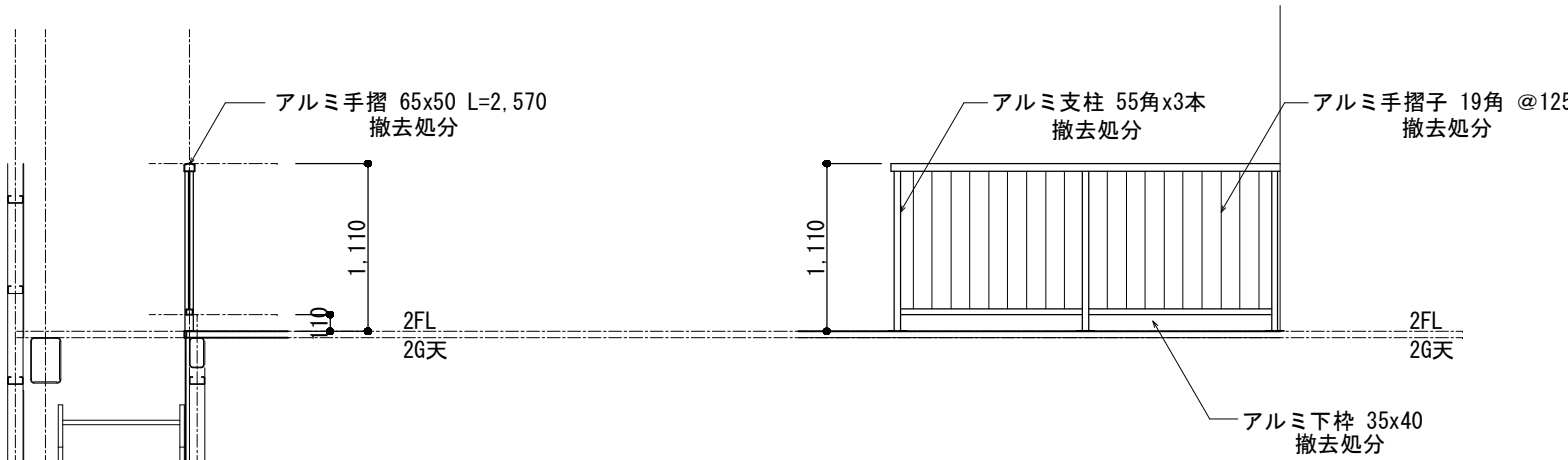
立面図 S=1/50

C

アルミ階段手摺

2階階段

撤 去



断面詳細図 S=1/50

立面図 S=1/50

工事名

津市消防団白山方面団第4分団詰所・車庫整備に伴う
旧津市白山郷土資料館改修工事

一級建築士事務所登録
三重県 第1-496号

今西建築設計事務所

三重県津市野田21番地776

一級建築士
第195768号
今西 清次

設計年月

図面名

【改修工事】 雑詳細図4 (撤去)

図面縮尺

A2 : S=1/50、1/10

図面番号

A-43

原図:A2

適用は 印を記入する。

原図:A2

鉄筋コンクリート構造配筋標準図（１）

1. 一般事項

- (1) 構造図面に記載された事項は、本標準図に優先して適用する。
- (2) 記号
- d…異形鉄筋の呼び名に用いた数値 丸鋼では径 D…部材の成 R…直径
@…間隔 r…半径 Q…中心線 Qo…部材間の内法距離 ho…部材間の内法高さ
S T…あばら筋 HOOP…帯筋 S、HOOP…補強帯筋 φ…直径又は丸鋼

2. 鉄筋加工、かぶり

(1) 鉄筋末端部の折曲げの形状

折曲げ角度	180°	135°	90°	折曲げ角度90°はスラブ・壁筋の末端部またはスラブと同時に打ち込むT形およびL形変のキャップタイにのみ用いる。 ※片持スラブ上端筋の先端
図				
鉄筋の余長	4d以上	6d以上 (※4d以上)	8d以上 (※4d以上)	
折曲げの内法寸法Rは、SR235は3d以上、SD295A、SD295B、SD345のD16以下は、3d以上、D19以上は4d以上				

(2) 鉄筋中間部の折曲げの形状 鉄筋の折曲げ角度 以下 90°

図	鉄筋の使用箇所による呼称	鉄筋の種類	鉄筋の径による区分	鉄筋の折り曲げ内径寸法(R)
	帯筋 あばら筋 スパイラル筋	SR235、SD295A SD295B、SD345	16φ以下 D16 19φ以下 D19	3d以上 4d以上
	上記以外の鉄筋	SR235、SD295A SD295B、SD345	16φ以下 D16 19φ~25φ D19~D25 28φ~32φ D29~D38	6d以上 8d以上

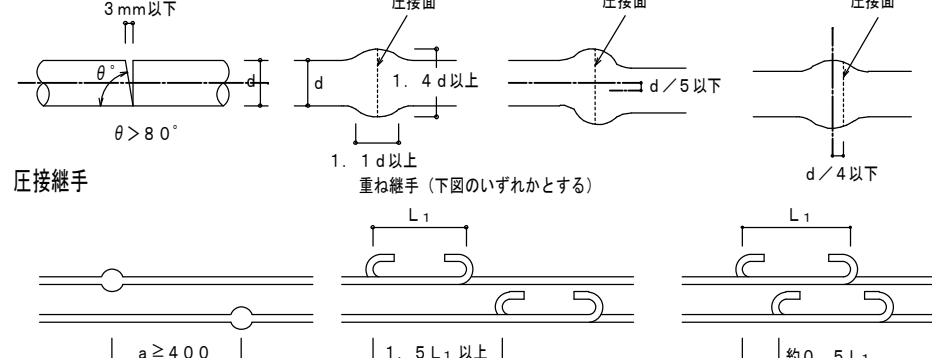
(3) 鉄筋の定着及び重ね継手の長さ

鉄筋の種類	普通、軽量コン クリートの設計 基準強度の範囲 (N/mm ²)	定 着 の 長 さ				特別の定着及び 重ね継手の長さ (L ₁)
		一般 (L ₂)	下 端 筋 (L _a)			
			小 梁	スラブ		
S R 2 3 5	21～36	3.5d フックつき	3.5dフック	1.5cmフック	3.5dフックつき	
	18 以下	4.5d フックつき	つき	つき	4.5dフックつき	
S D 2 9 5 A S D 2 9 5 B S D 3 4 5	21～36	3.5d または 2.5d フックつき	2.5dまたは 3.0dフック	1.0d かつ 1.5cm以上	4.0dまたは 3.0dフックつき	
	18 以下	4.0d または 3.0d フックつき	1.5dフック	つき	4.5dまたは 3.5dフックつき	


継 手

- 末端のフックは、定着および重ね継手の長さに含まない
- 継手位置は、応力の小さい位置に設けることを原則とする
- 直径の異なる鉄筋の重ね継手長さは、細い方の鉄筋の継手長さとする
- D29以上の異形鉄筋は、原則として、重ね継手としてはならない
- 鉄筋径の差が7mmを超える場合は、圧接としてはならない

ガス圧接形状

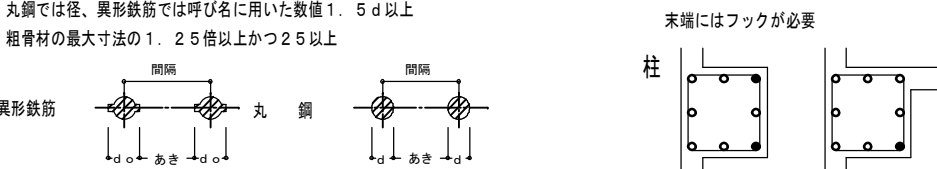


(4) かぶり厚さ

ひびわれ発見目地部など鉄筋のかぶり厚さが部分的に減少する箇所についても最小かぶり厚さを確保する。				
	□ かぶり厚さ			
土に接しない部分	屋根・スラブ	屋 内	30	20
	床・スラブ	屋 外	40 (1)	30 (20)
	非耐力壁	屋 内	40	30
		屋 外	50 (2)	40 (1) (30)
	耐力壁	50 (3)	30	
土に接する部分	柱・梁・床スラブ・耐力壁	50	40 (4)	
	基礎・擁壁	70	60 (4)	
	擁壁	50 (3)	30	

- [注] (1) 耐久性上有効な仕上げのある場合、工事監督者の承認を受けて30mmとすることができる。
(2) 耐久性上有効な仕上げのある場合、工事監督者の承認を受けて40mmとすることができる。
(3) コンクリートの品質および施工方法に応じ、工事監督者の承認を受けて40mmとすることができる。
(4) 軽量コンクリートの場合は、10mm増しの値とする。
(5) () 内は仕上げがある場合。
(6) 土に接する部分のかぶりは増加する厚さを打ち増しとする。

(5) 鉄筋のあき



(6) 鉄筋のフック

- a. 丸鋼 b. あばら筋、帯筋 c. 煙突の鉄筋
d. 柱、梁（基礎梁は除く）の出すみ部分の鉄筋（右図参照）
e. 単純梁の下端筋
f. その他、本配筋標準に記載する箇所

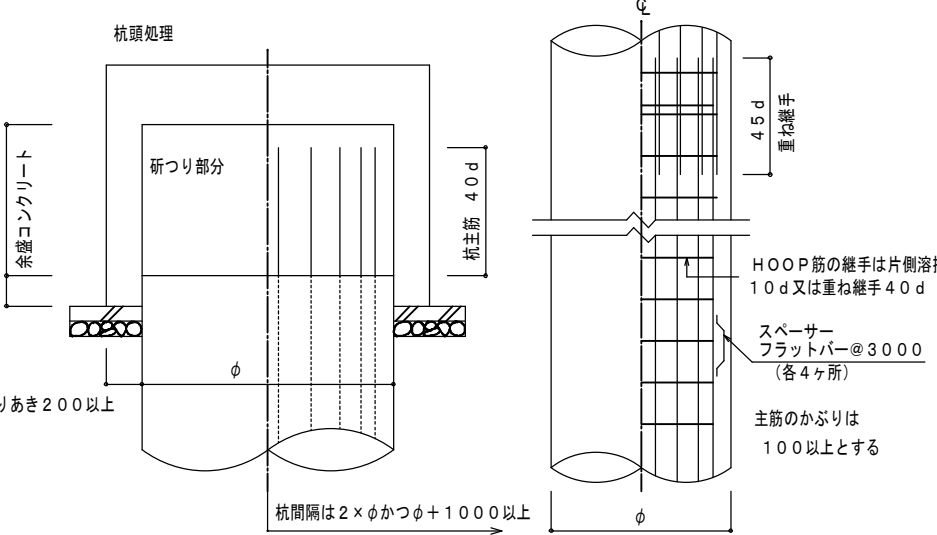
3. 杭

（地震力等の水平力を考慮する必要がある場合は、別途検討すること。）

(1) PC杭、又はPHC杭の全てに補強を行う

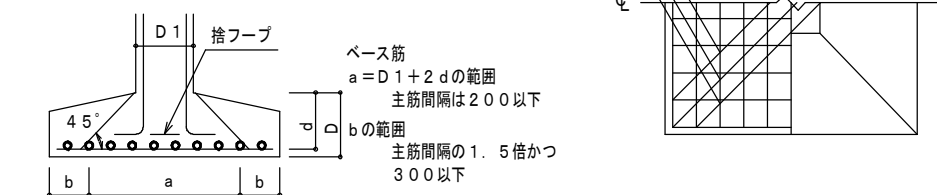
所定位置に止まった場合		所定より低く止まった場合	
	補強筋 HOOP@150 基礎下端 φ コンクリート止め板		但しQ≤φの場合 Q>φの場合は工事監督者の指示による HOOP@150 3-D16 基礎下端 φ コンクリート止め板
杭 径	300φ、350φ、400φ	450φ、500φ、600φ	
補 強 筋	6-D13、HOOP	10-D13、8-D16、10-D16	
		D10-@150	

(2) 現場打ちコンクリート杭

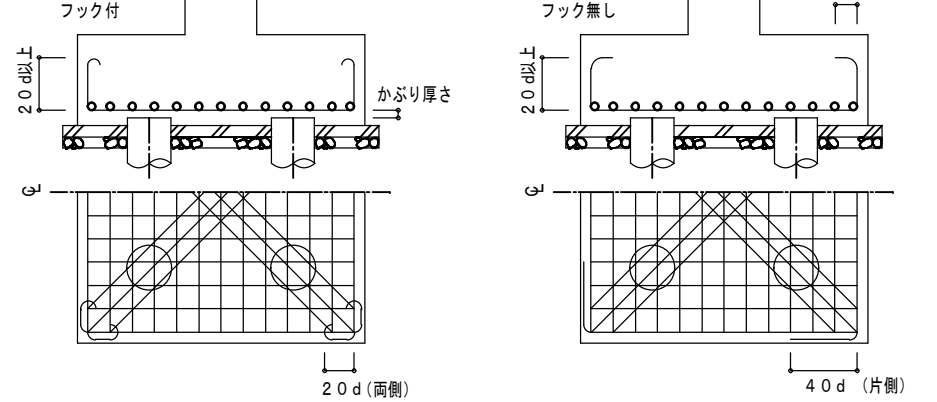


4. 基礎

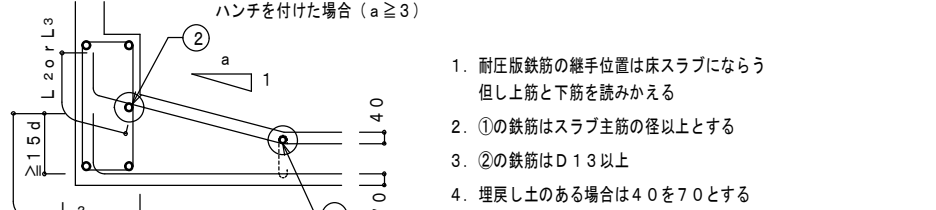
(1) 直接基礎



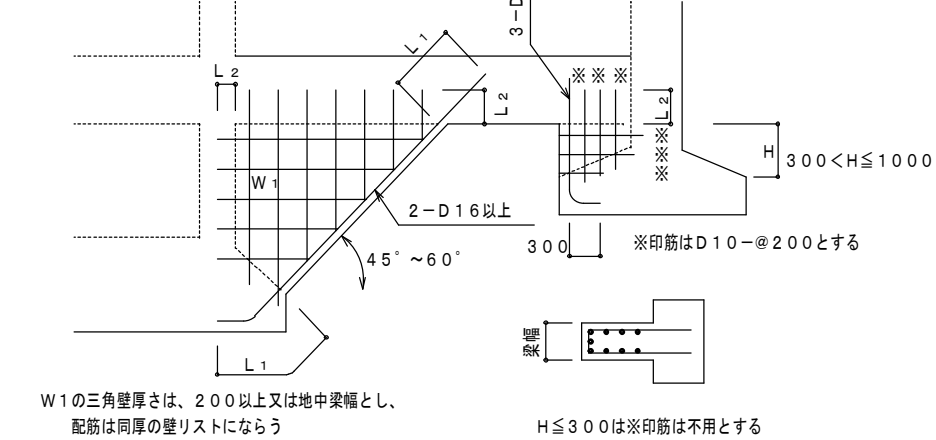
(2) 杭基礎



(3) べた基礎

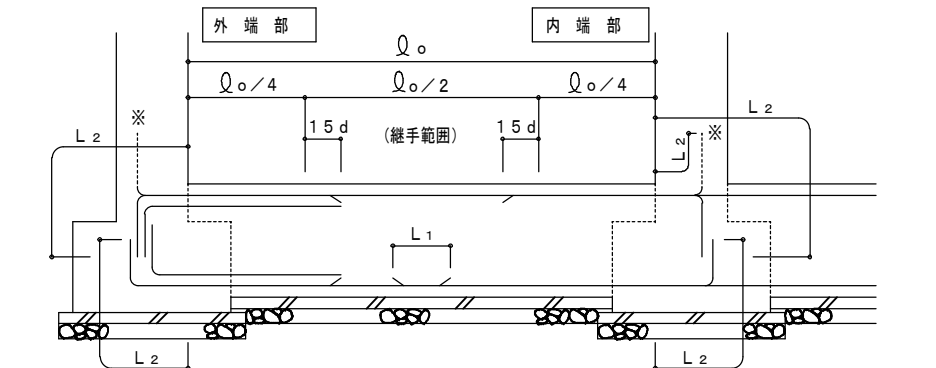


(4) 基礎接合部の補強

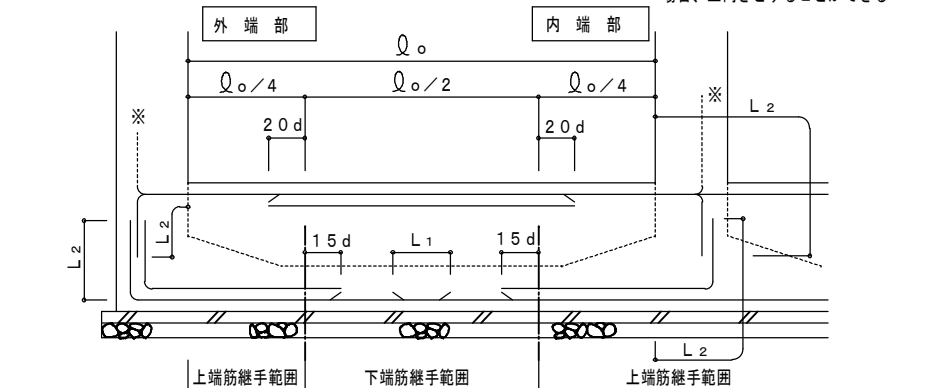


5. 地中梁

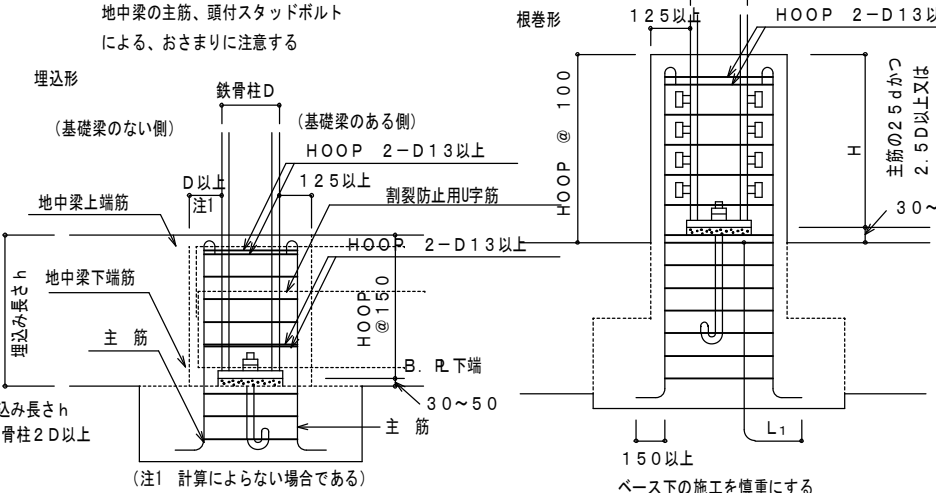
(1) 独立基礎、杭基礎の場合



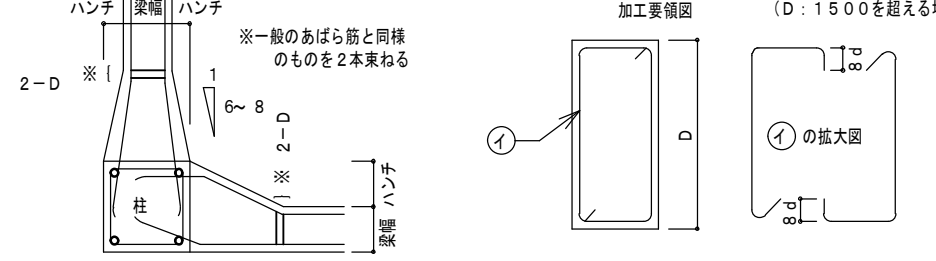
(2) 布基礎、べた基礎の場合



(3) 小規模鉄骨造の柱脚固定の配筋

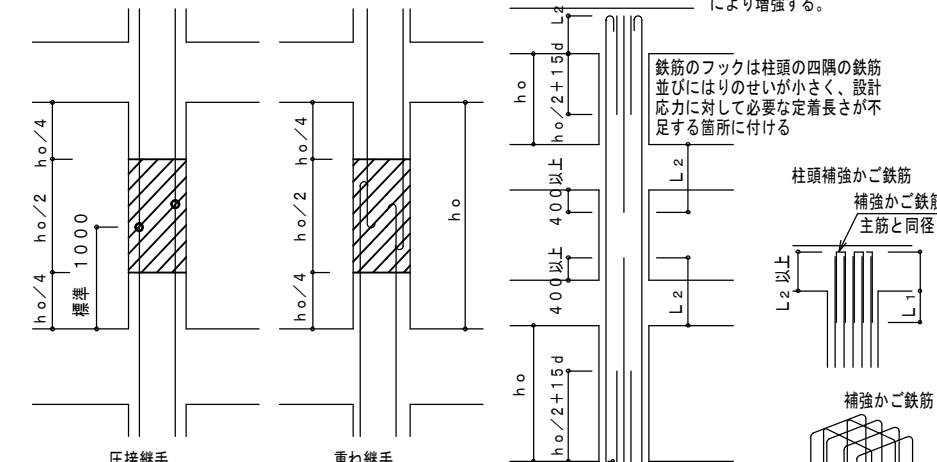


(4) 水平ハンチの場合のあばら筋加工要領



6. 柱

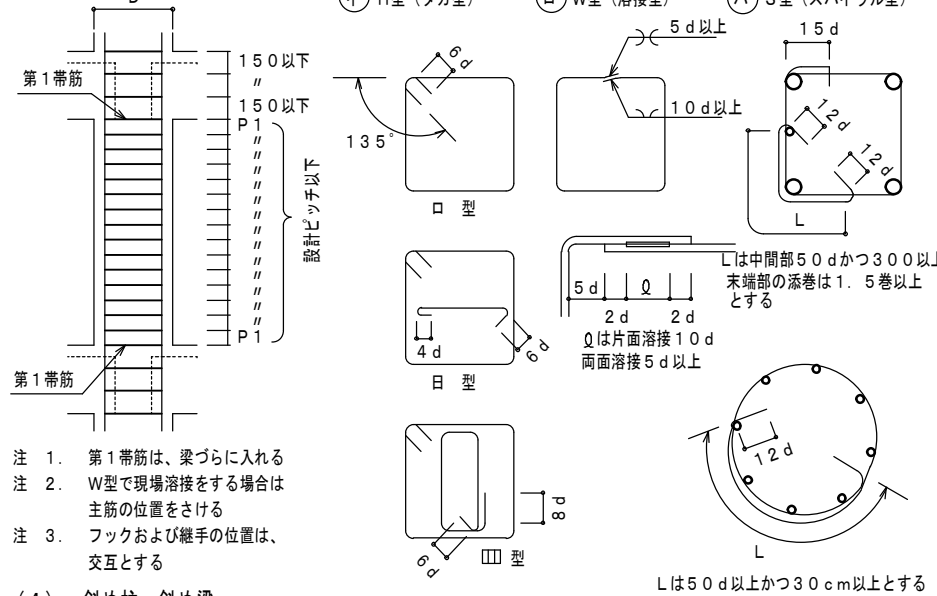
(1) 柱主筋の継手



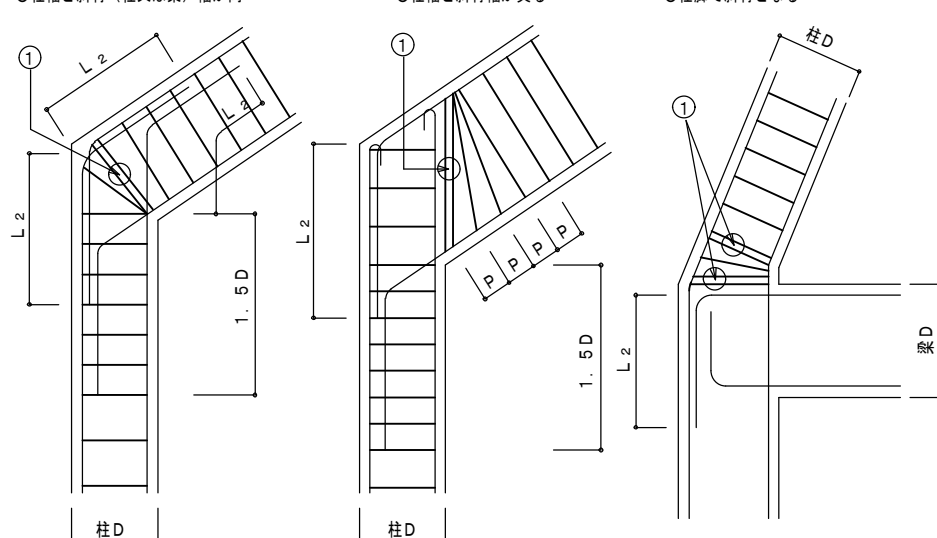
(2) 柱主筋の定着



(3) 帯筋

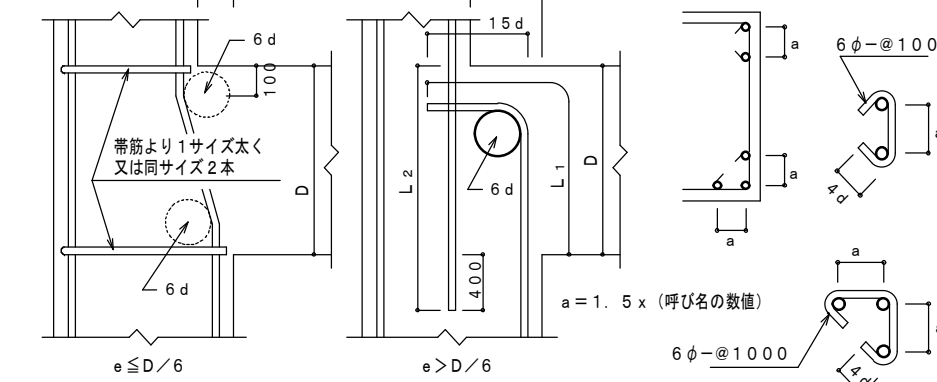


(4) 斜め柱・斜め梁



- 注 1. 1.5Dの範囲の柱の帯筋は一段太いもの、又はダブル巻きとし100以下とする
注 2. ①の鉄筋は2-D13かつ、2本の一段太い鉄筋とする

(5) 絞リ

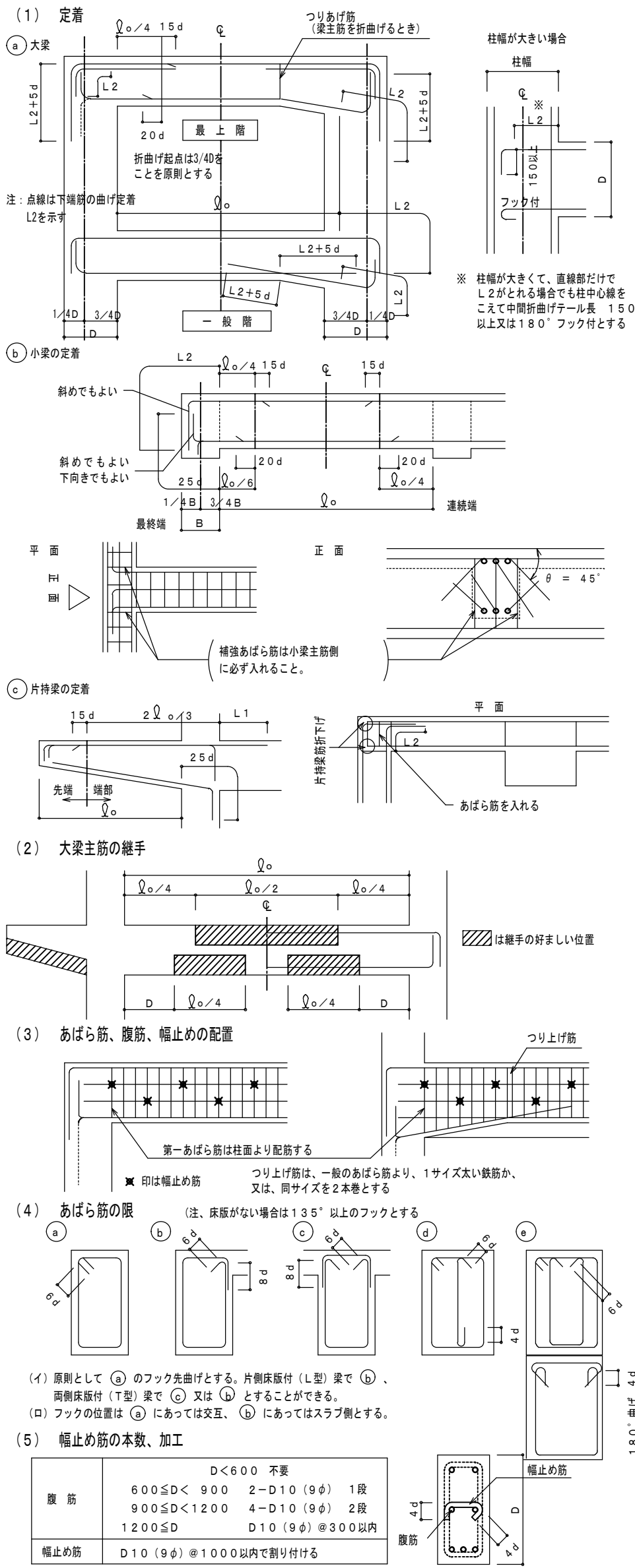


原図:A2

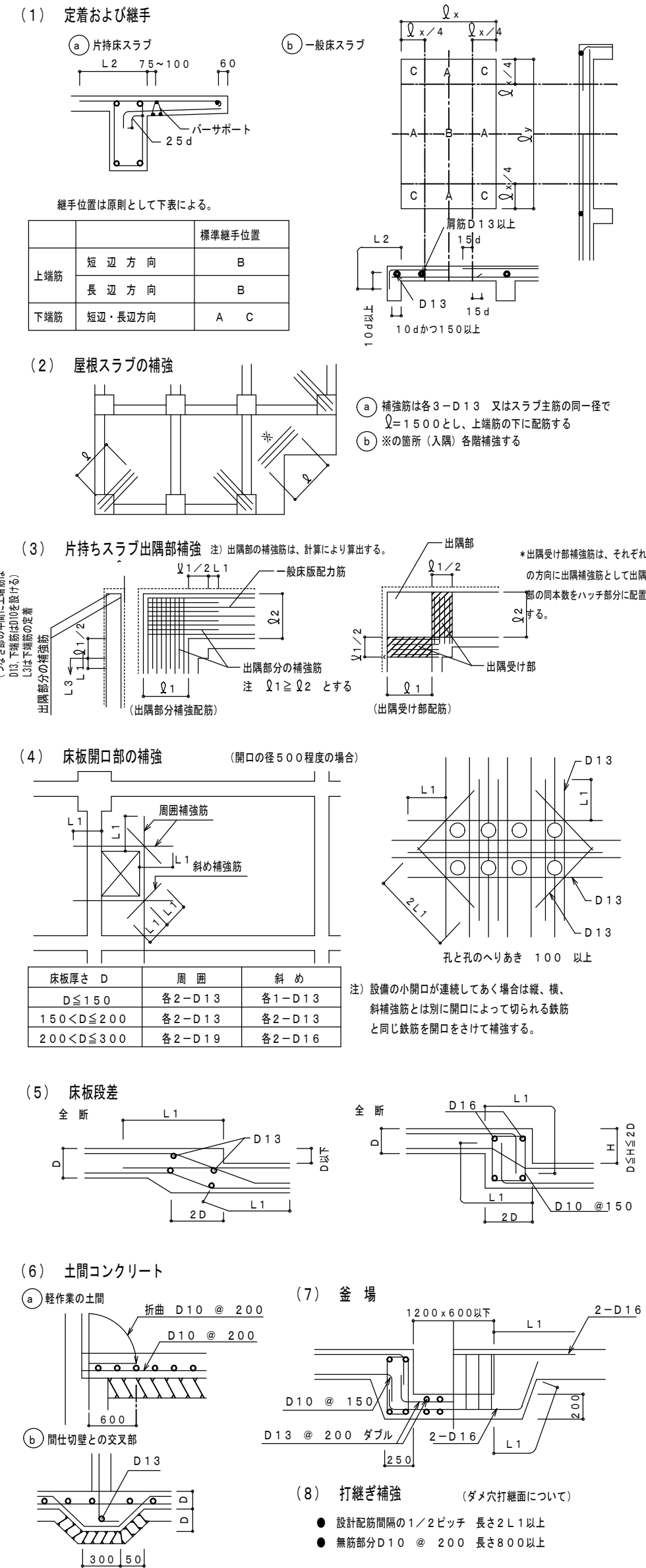
鉄筋コンクリート構造配筋標準図（2）

L=本構造配筋標準図（1）の2-（3）による。

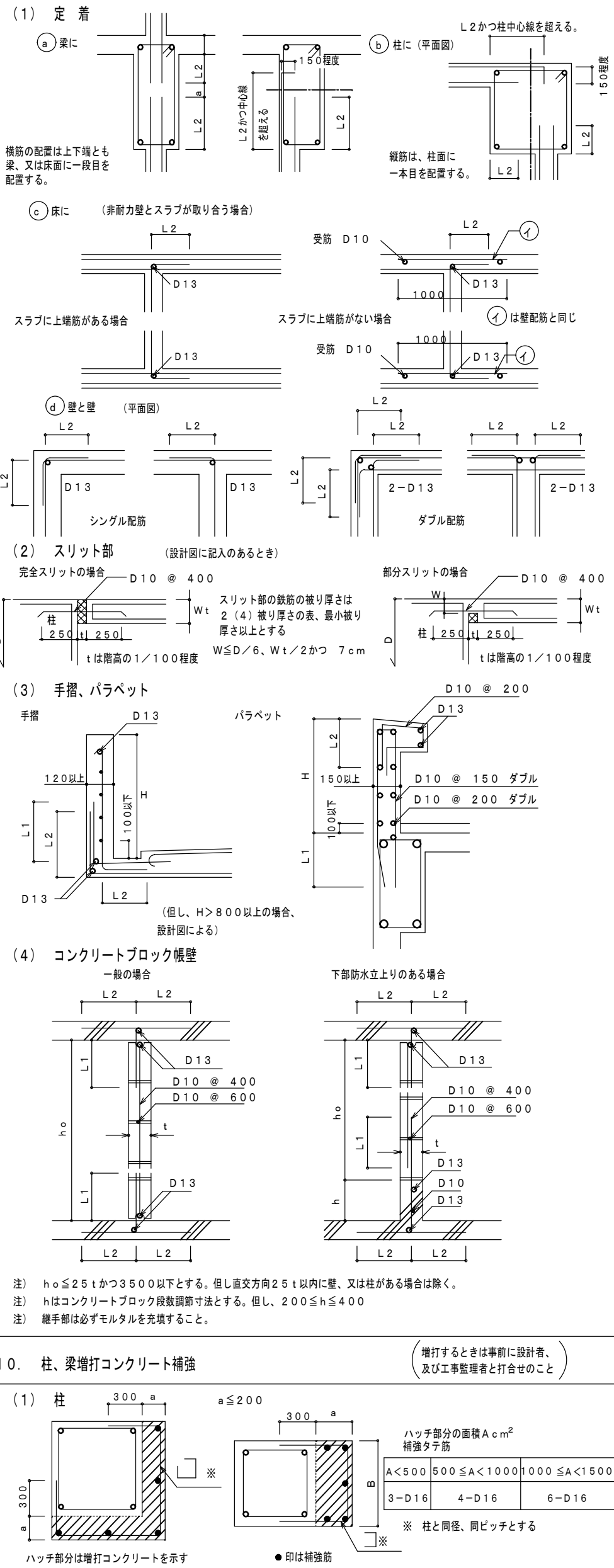
7. 大梁、小梁、片持梁



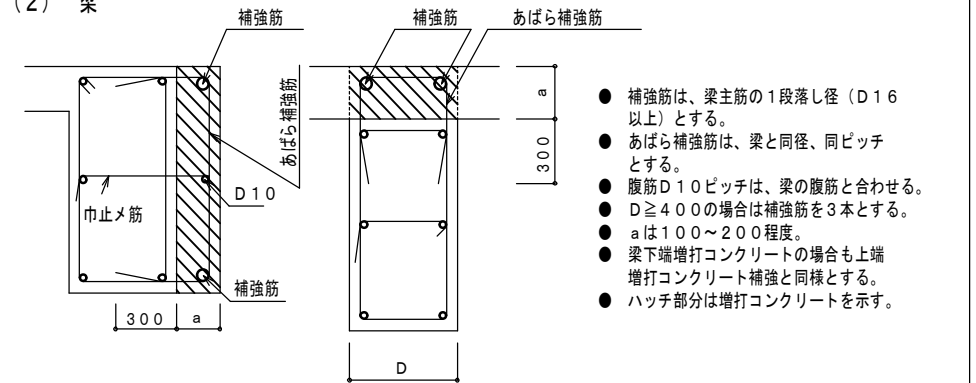
8. 床板



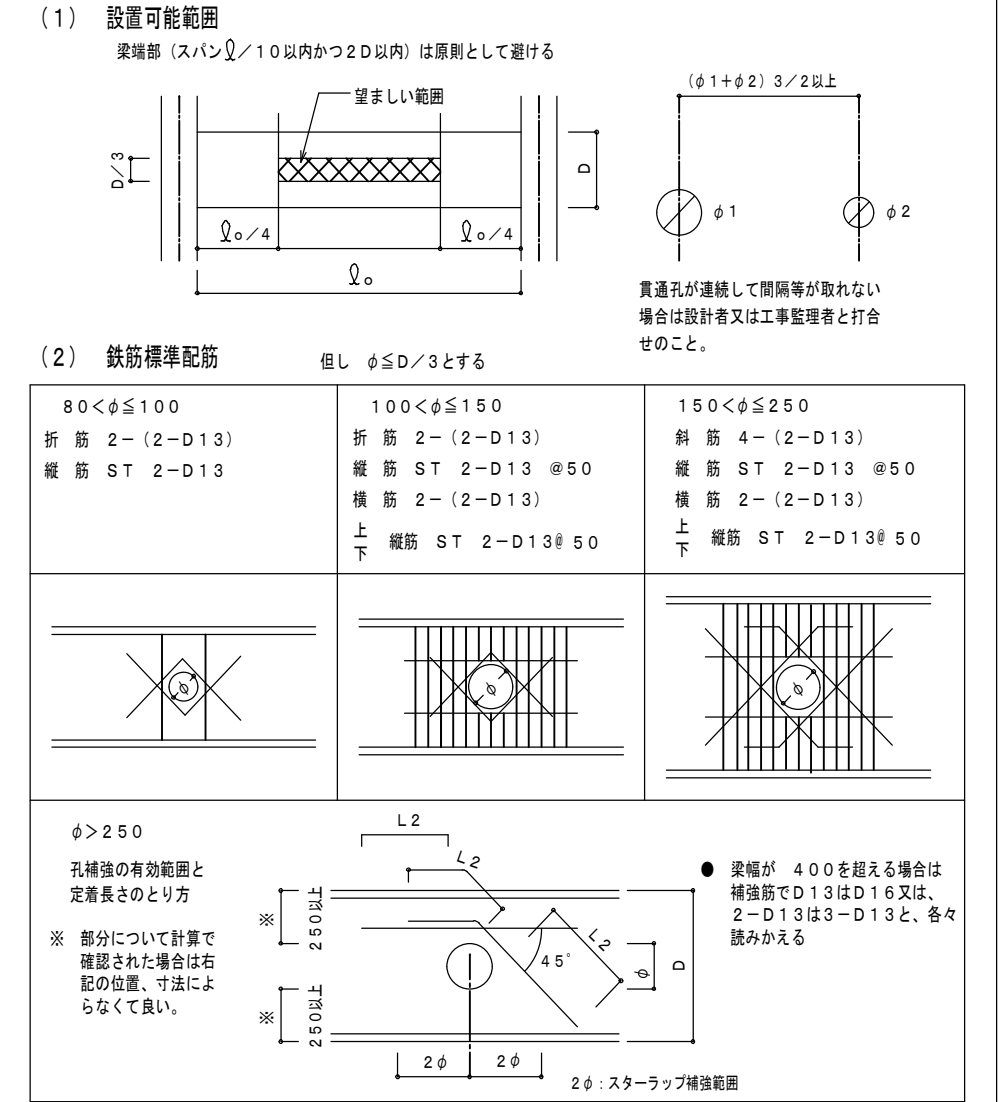
9. 壁



(2) 梁



11. 梁貫通孔補強



原図:A2

鉄骨構造標準図（１）

1. 一般事項

(1) 材料及び検査

- (a) 構造設計仕様による
(b) 適用範囲は、鋼材を用いる工事に適用し、かつ鋼材の厚さが40mm以下のものとする
(c) 社内検査結果の検査報告書には、鉄骨の寸法、精度及びその他の結果を添付する

(2) 工作一般

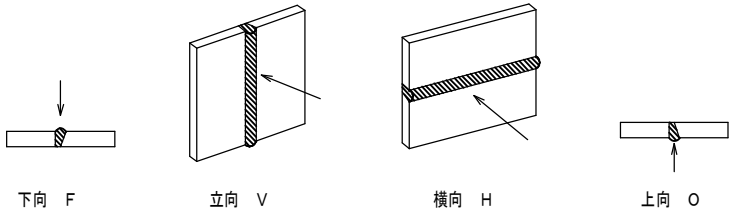
- (a) 鉄骨制作及び施工に先立って「鉄骨工事施工要領書」を提出し工事監理者の承認を得る
(b) 鋼管部材の分岐継ぎ手部の相貫切断は、鋼管自動切断機による
(c) 高強度鋼のひずみきょう正は、冷間きょう正とする

(3) 高力ボルト接合

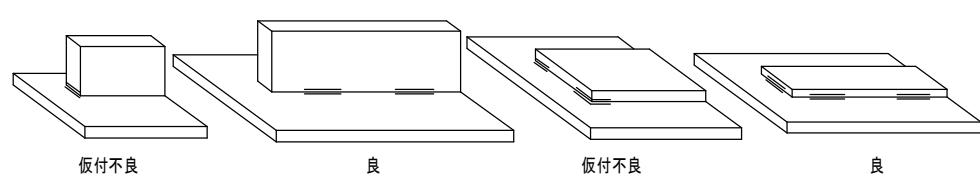
- (a) 本総めに使用するボルトと、仮締めボルトの併用はしてはならない

(4) 溶接接合

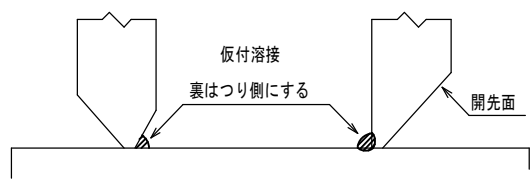
- (a) 溶接技能者
溶接技能者は施工する溶接に適用するJIS Z 3801（手溶接）又はJIS Z 3841（半自動溶接）の溶接技術検定試験に合格し引続き、半年以上溶接に従事している者とする
- (b) 溶接機器
(イ) 交流アーク溶接機 300A～500A (ニ) 炭酸ガスアーク半自動溶接機
(ロ) アークエアークラウジング機（直流） (ホ) 溶接電流を測定する電流計
(ハ) サブマージアーク溶接機1式 (ヘ) 溶接棒乾燥器
- (c) 溶接方法
アーク手溶接 (MC) ガスシールドアーク半自動溶接 (GC)
セルフ (ノンガス) シールドアーク半自動溶接 (NGC) アークエアークラウジング (AAG)
- (d) 溶接姿勢



- (e) 組立て溶接技能者は、原則として本工事に従事する者が行う
(イ) 仮付位置
組立て溶接は溶接の始、終端、隅角部など強度上、工作上、問題となり易い箇所は避ける



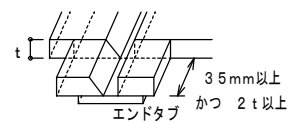
- (ロ) 完全溶込み溶接部の仮付溶接は必ず裏はつり側に施工する



(f) 溶接施工

(イ) エンドタブ

- I) 完全溶込み溶接、部分溶込み溶接の両端部に母材と同厚で同開先形状のエンドタブを取り付ける
- II) エンドタブの材質は、母材と同質とする
- III) エンドタブの長さは、MC: 35mm 以上
NGC, GC: 40mm 以上とし特記のない場合は、溶接終了後、母材より10mm 程度残し切断して、グラインダー仕上げとする
- IV) プレス鋼板タブ、固形タブ使用については、資料を提出して設計者又は工事監理者の承認を得る

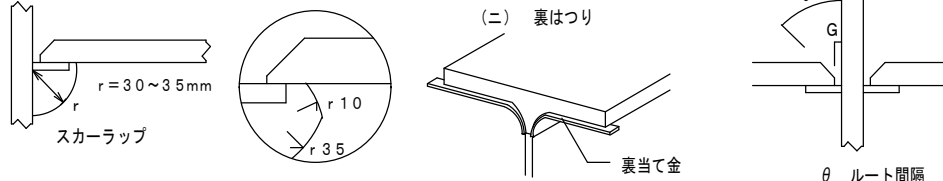


(ロ) 裏あて金

材質母材と同質材料とし厚さは手溶接で6mm、半自動溶接で9mm 以上とする

(ハ) スカーラップ

スカーラップ半径は30～35mmと、10mm のダブルールとする
但し梁成がD=150mm未満の場合のスカーラップはr=20mmとする



(ニ) 裏はつり

標準図の溶接においてAAGと記載のある部分は全て、溶接監理者の確認を 励行し、部材に確認マークをつける

(ホ) 現場溶接の開先面には、溶接に支障のない防錆材を塗布する。又、開先部を いためないように、養生を行なう

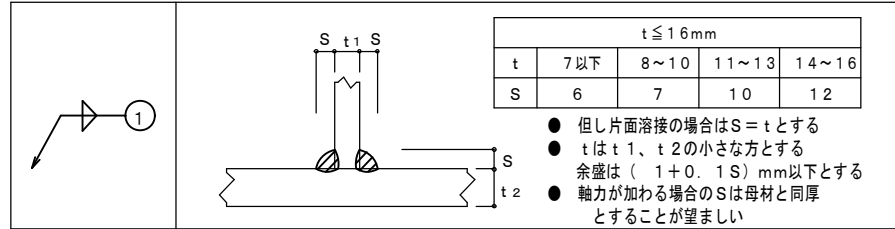
(5) 塗装

コンクリートに埋め込まれる部分及びコンクリートの接触面で、コンクリートと一体とする設計仕様になっている部分は、塗装をしない

2. 溶接標準図

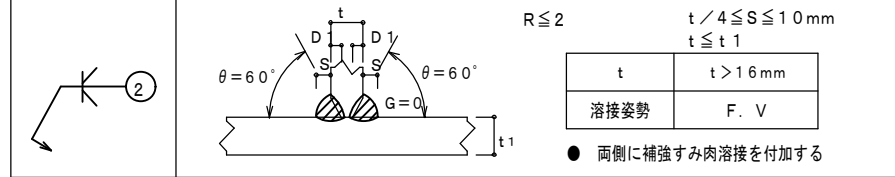
(注) f: 余盛 G: ルート間隔 R: フェース S: 脚長 (単位mm)

(1) スミ肉溶接



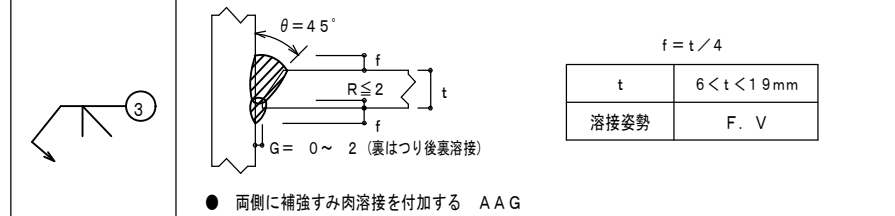
(2) 部分溶け込み溶接

(使用箇所)に注意

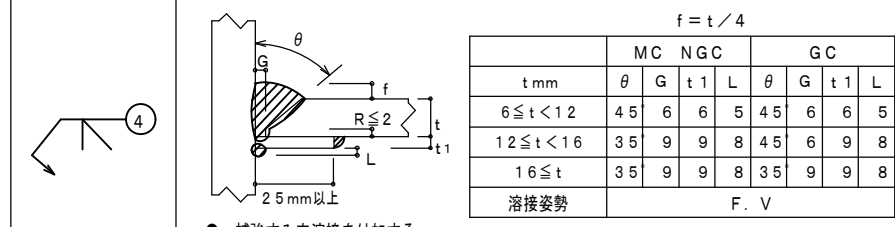


(3) 完全溶込み溶接

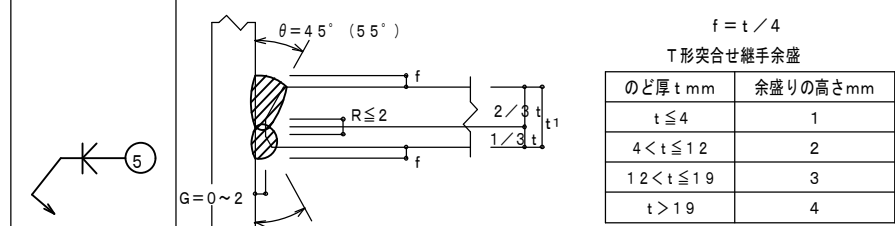
(平継手 T形継手)



- 両側に補強すみ肉溶接を付加する AAG

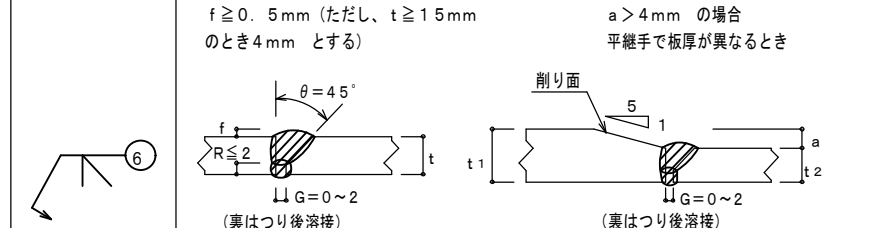


- 補強すみ肉溶接を付加する

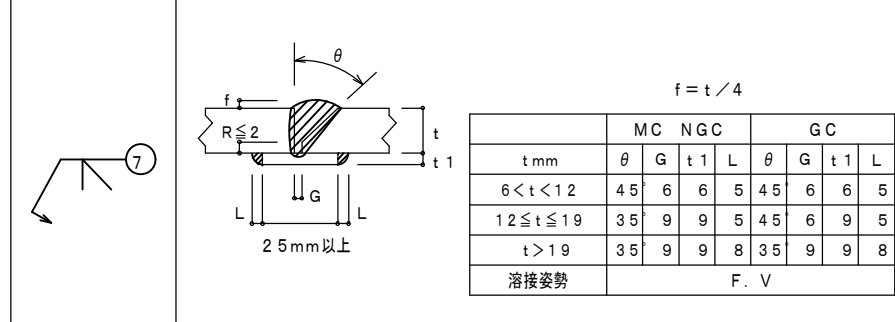


- AAG () 内はGCでF、Hの場合

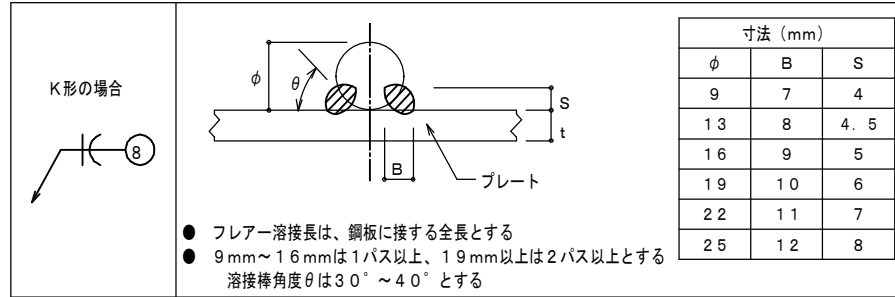
- 両側に補強すみ肉溶接を付加する



- 両側に補強すみ肉溶接を付加する



(4) フレアー溶接

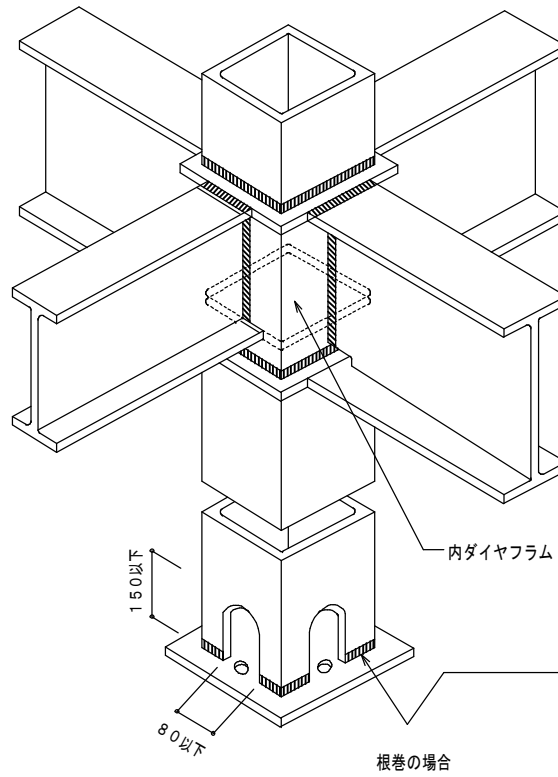


- フレアー溶接長は、鋼板に接する全長とする
● 9mm～16mmは1パス以上、19mm以上は2パス以上とする
溶接棒角度θは30°～40°とする

○ 溶接記号番号を ○中に記入のこと

● BOX型

(通しダイヤフラムの場合)



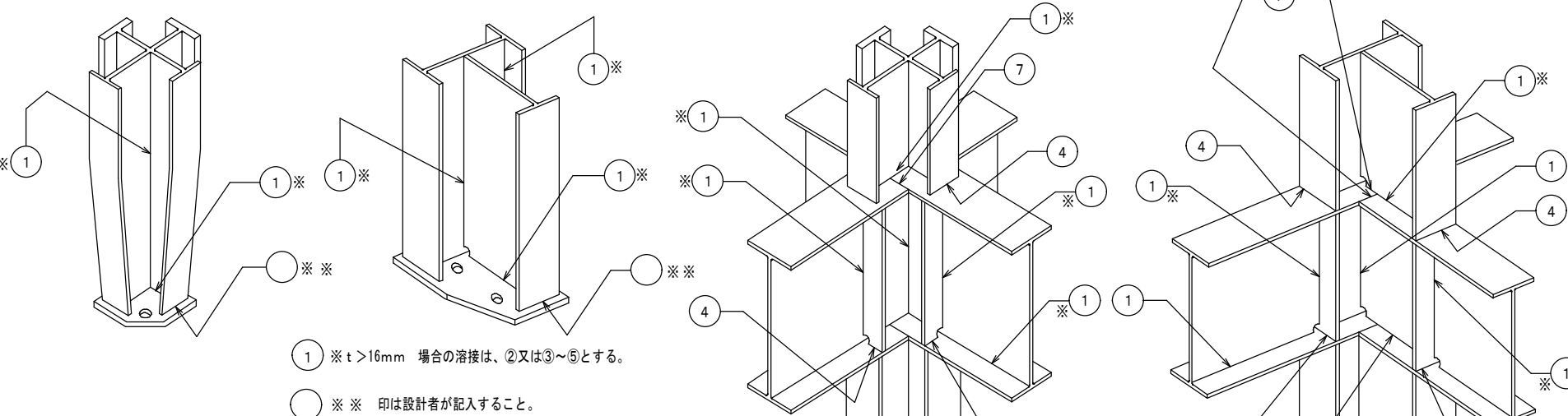
- 柱が途中で折れる場合
及び梁成が異なる場合

(柱材料: BCR295, BCP325を使用する場合)
通しダイヤフラムは、SN490B・C、SM490同等以上の鋼材を使用する事。
通しダイヤフラム厚は、接合する柱、梁の最大圧の2サイズアップとする事。

・鋼材種別による溶接条件

鋼材の種類	溶接材料	入熱 (KJ/cm)	パス温度差 (℃)
400N級鋼	JIS Z 3211, 3212, 3214	40以下	350以下
	YGW-11, 15		
	YGW-18, 19		
	YGA-50W, 50P		
490N級鋼	JIS Z 3212, 3214	40以下	350以下
	YGW-11, 15		
	YGW-18, 19		
	YGA-50W, 50P		

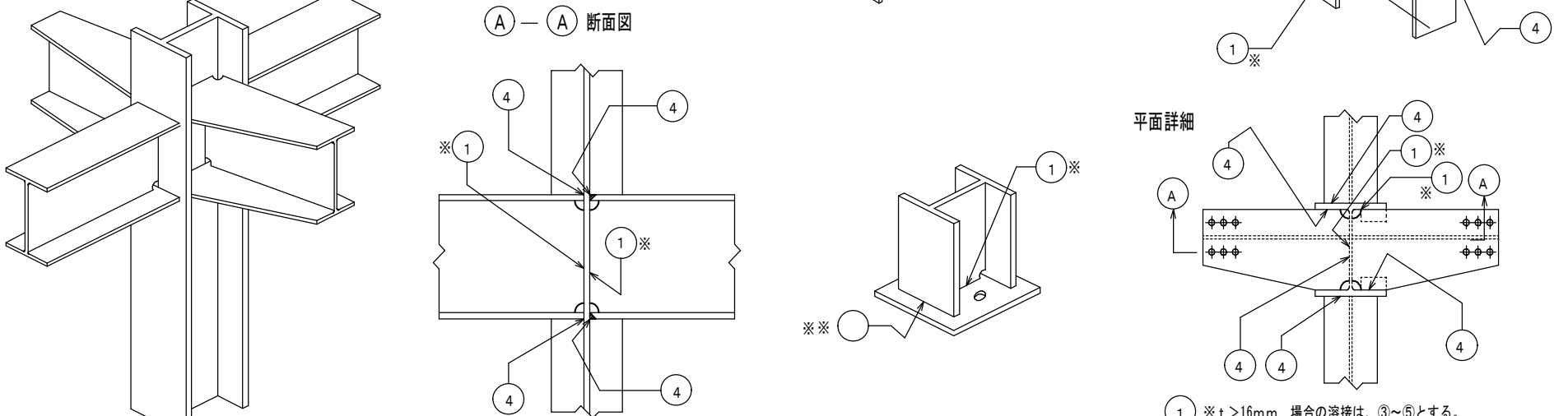
● F, I, H型



- ① ※ t>16mm 場合の溶接は、②又は③～⑤とする。

- ※ ※ 印は設計者が記入すること。

● B、H方式



- ① ※ t>16mm 場合の溶接は、③～⑤とする。

原図:A2

工事名

津市消防団白山方面団第4分団詰所・車庫整備に伴う
旧津市白山郷土資料館改修工事

一級建築士事務所登録
三重県 第1-496号

今西建築設計事務所

三重県津市野田21番地776

一級建築士
第195768号
今西 清次

設計年月

図面名

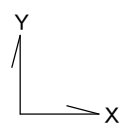
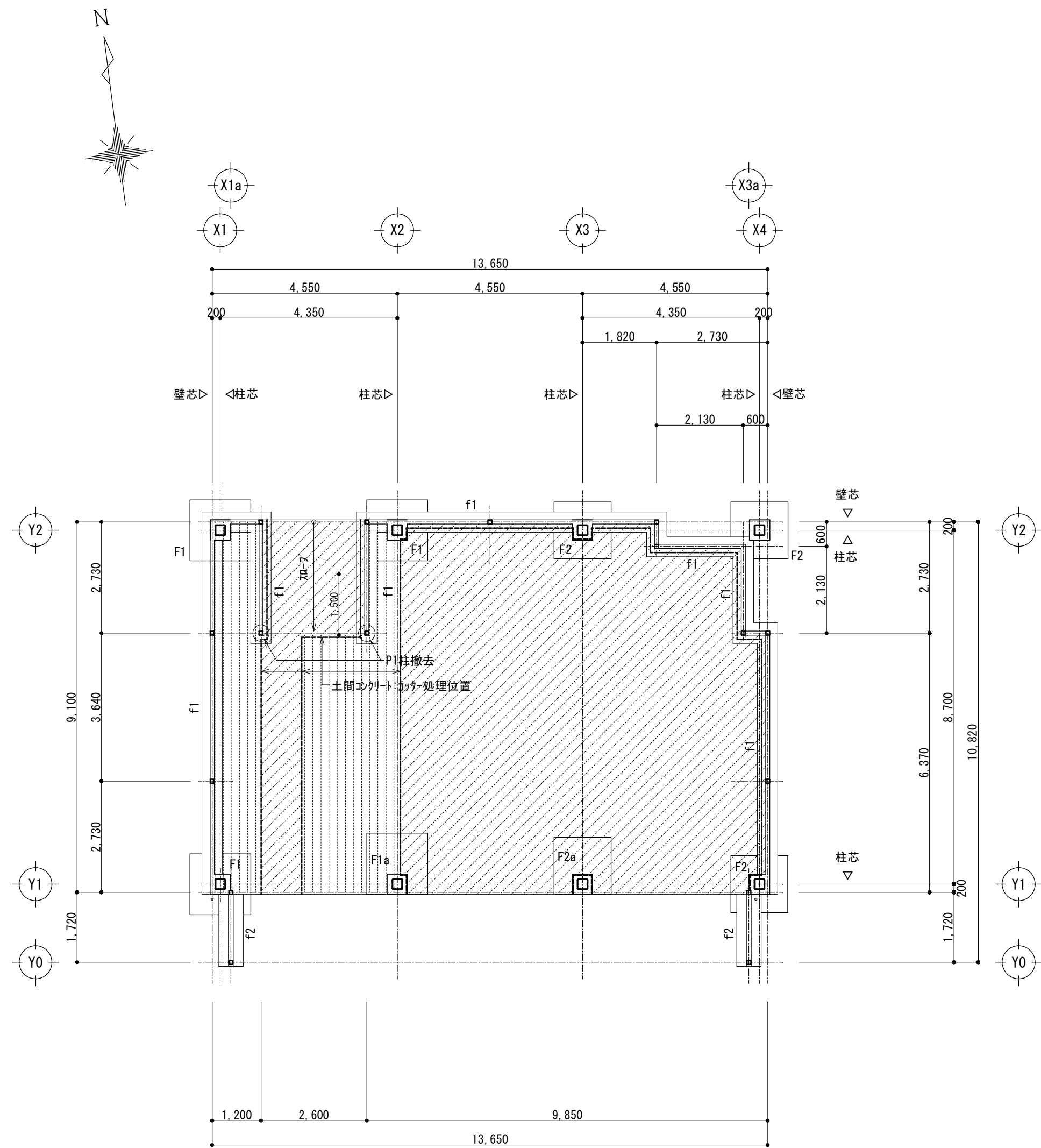
【改修工事】鉄骨構造標準図1

図面縮尺

A2: S=NS

図面番号

S-O 4



基礎伏図 S=1/100



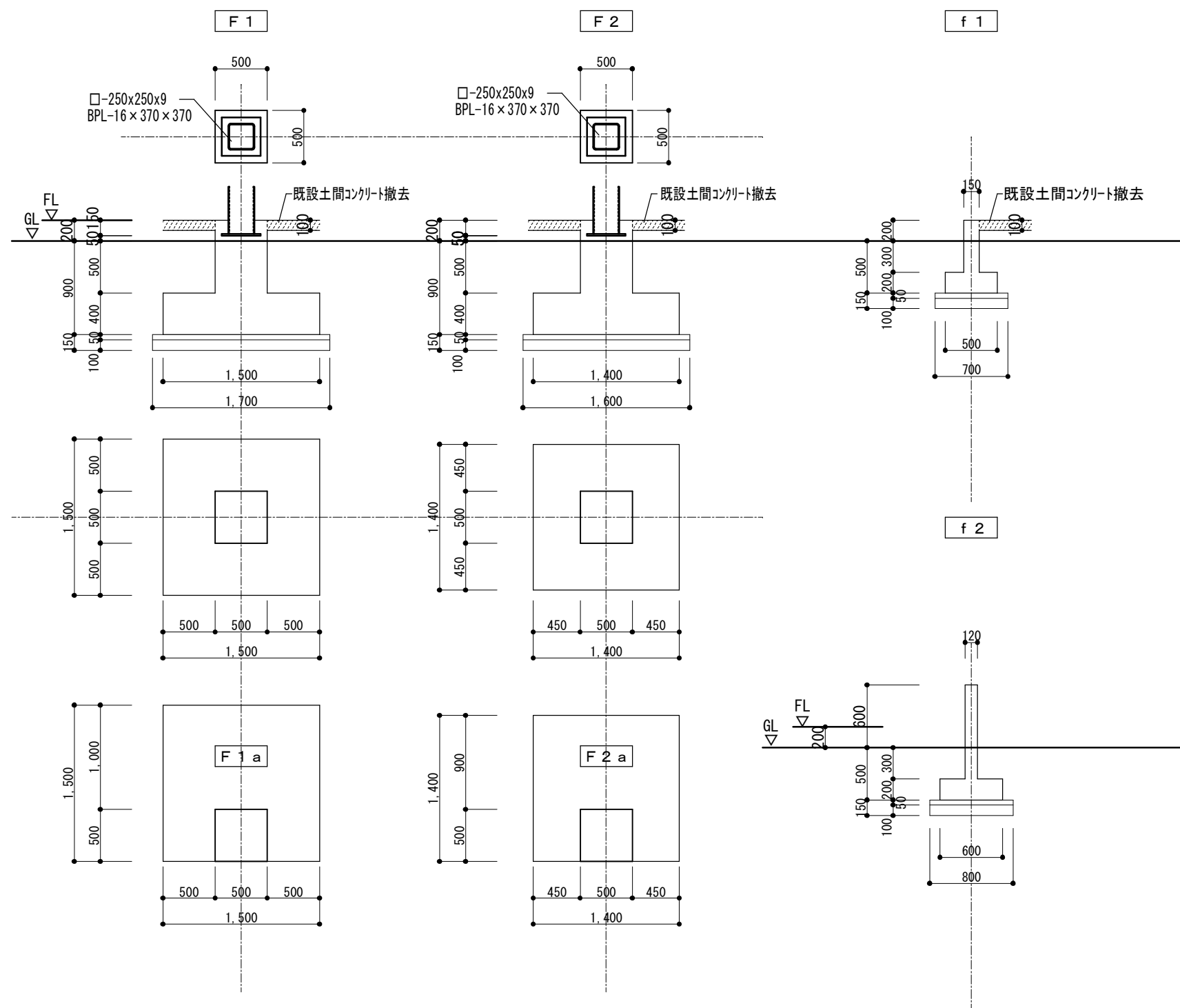
: 土間コンクリート(鉄筋共)撤去処分



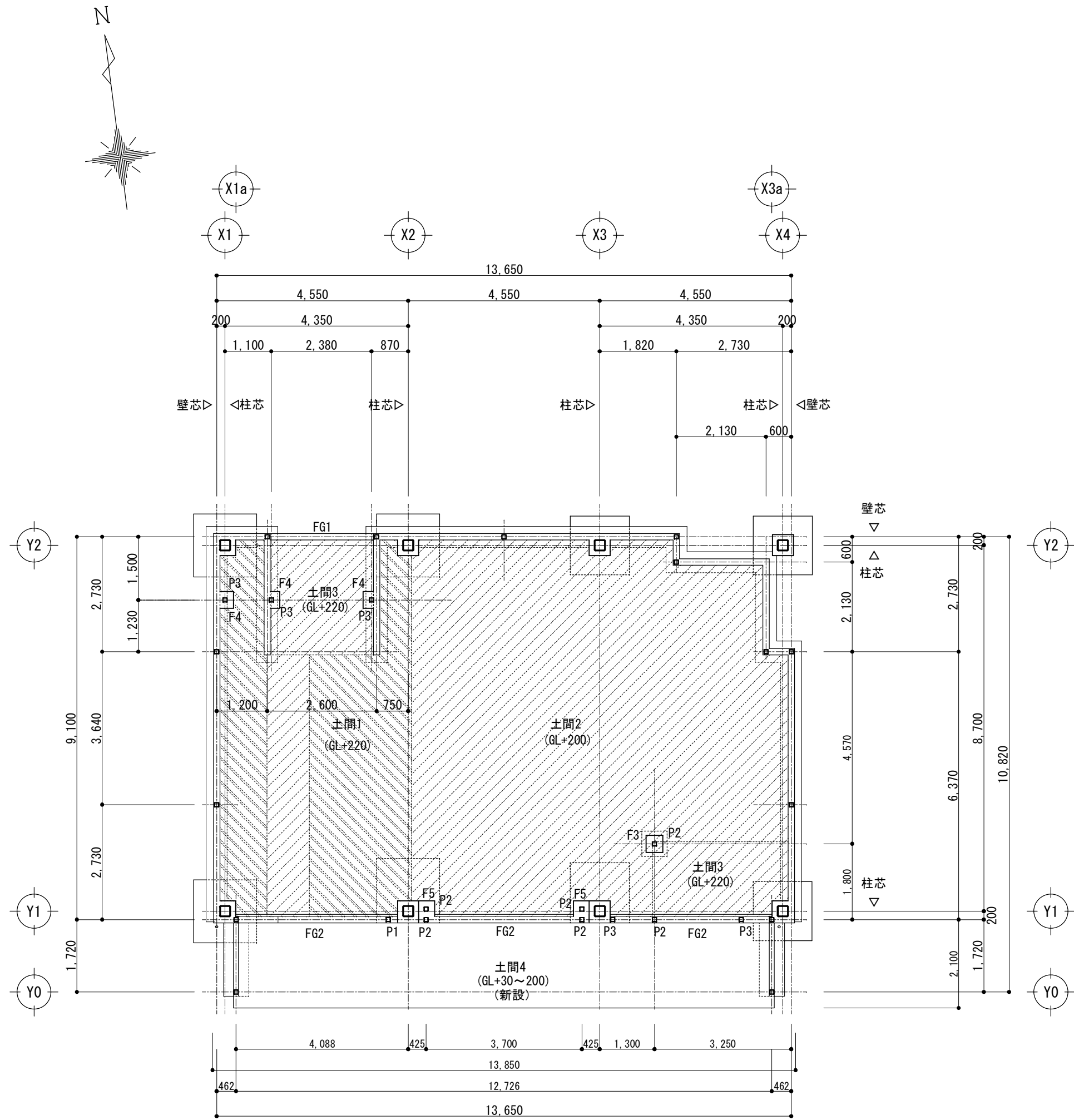
: 土間コンクリート表面目あらし処理

■土間仕様:

1. 土間コンクリート t=100
2. 栗石敷き t=80



基礎詳細図 S=1/50

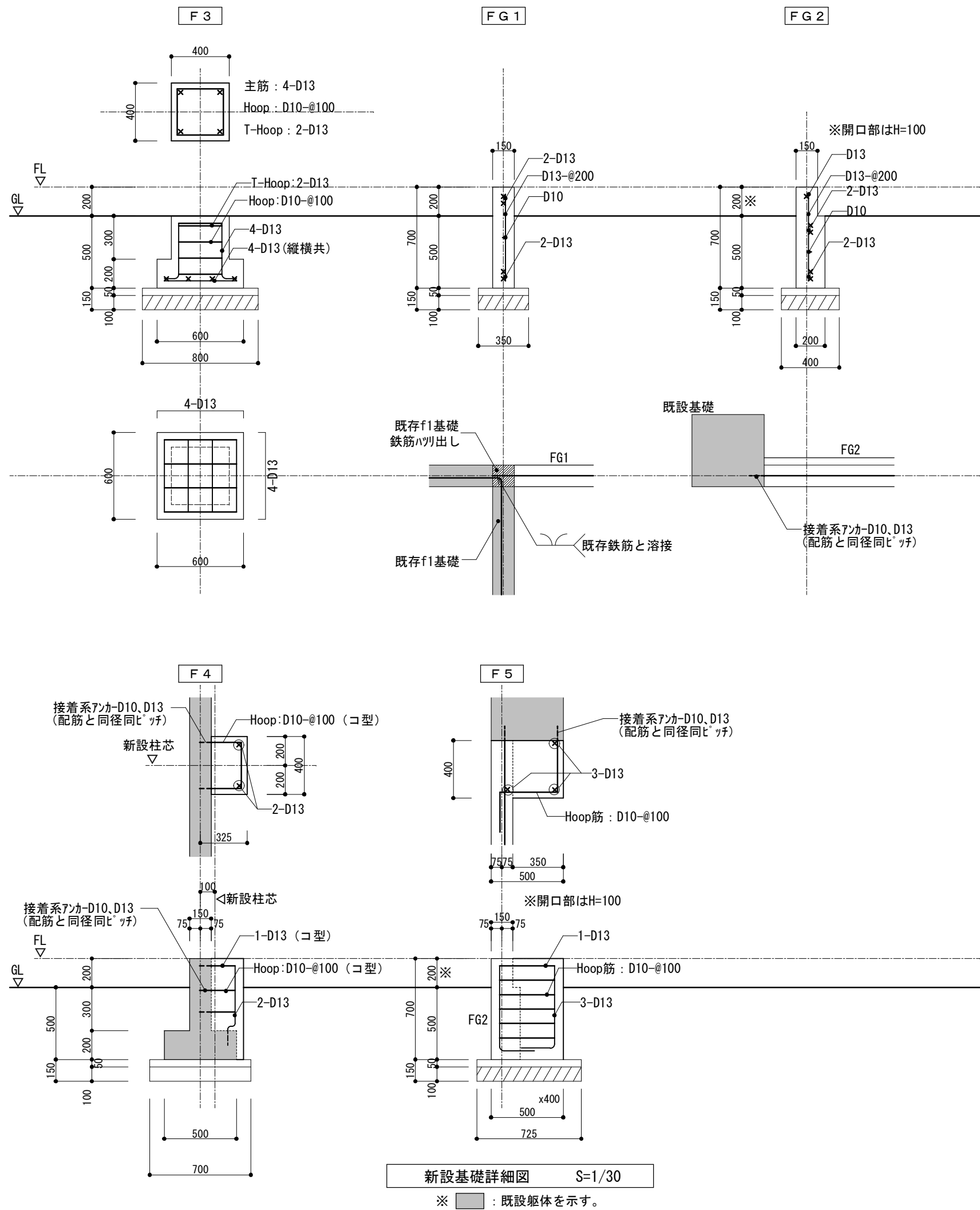


基礎伏図 S=1/100
※特記無き限り、既設部材を示す。

凡 例

新設土間コンクリート(鉄筋共)

既設土間コンクリートの上嵩上げコンクリート打設



■土間仕様

土間 1	コンクリート厚 t=50	仕上げ:珪藻塗り金コ押しえ
土間 2	コンクリート厚 t=150 鉄筋:D13@200(縦横共) 〆リフレンフィルム 0.15mm敷き 砕石厚 t=150	仕上げ:金コ押しえ
土間 3	コンクリート厚 t=120 鉄筋:D13@200(縦横共) 〆リフレンフィルム 0.15mm敷き 砕石厚 t=120	仕上げ:珪藻塗り金コ押しえ
土間 4	コンクリート厚 t=150 鉄筋:D13@200(縦横共) 〆リフレンフィルム 0.15mm敷き 砕石厚 t=150	仕上げ:金コ押しえ

■特記事項

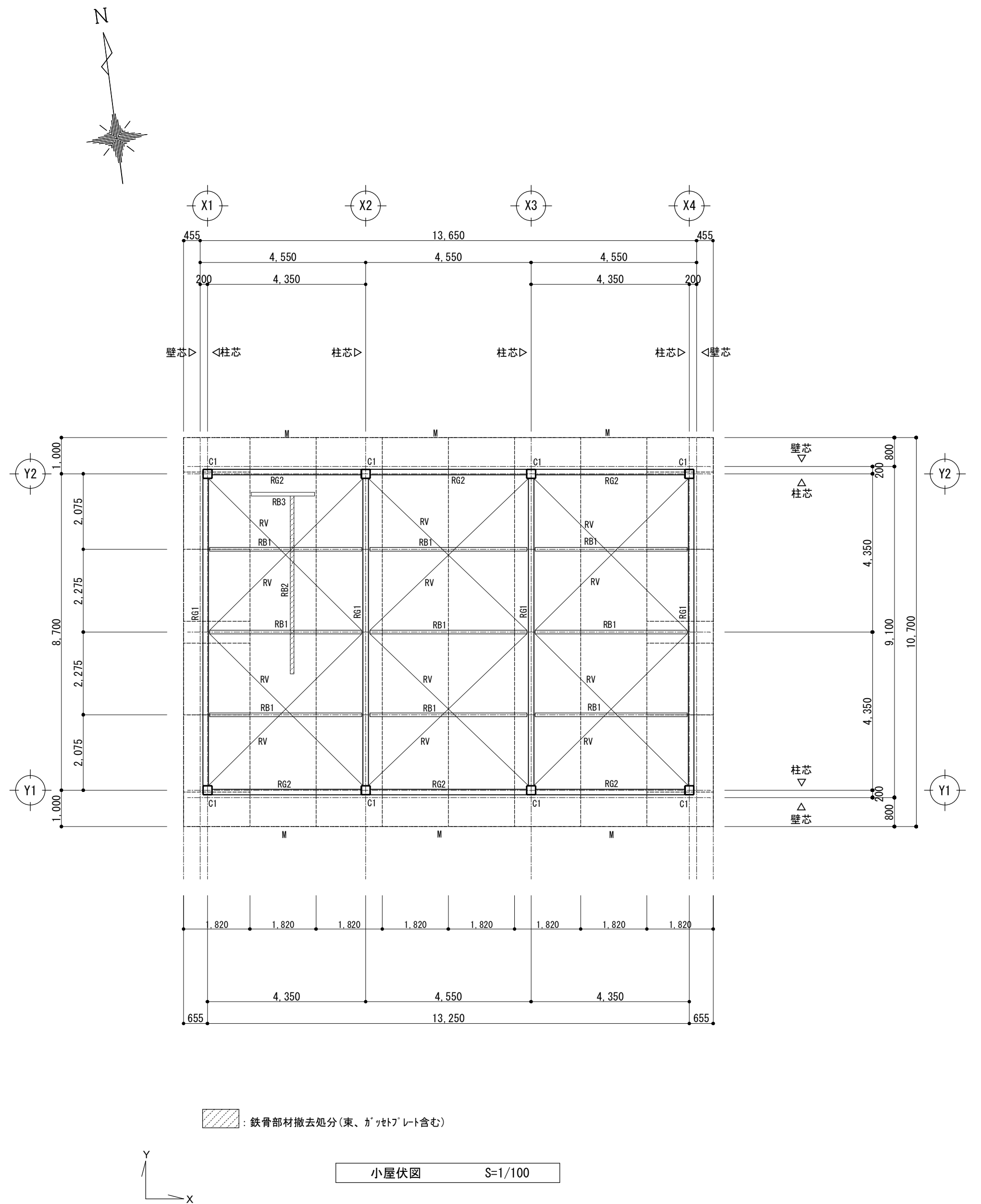
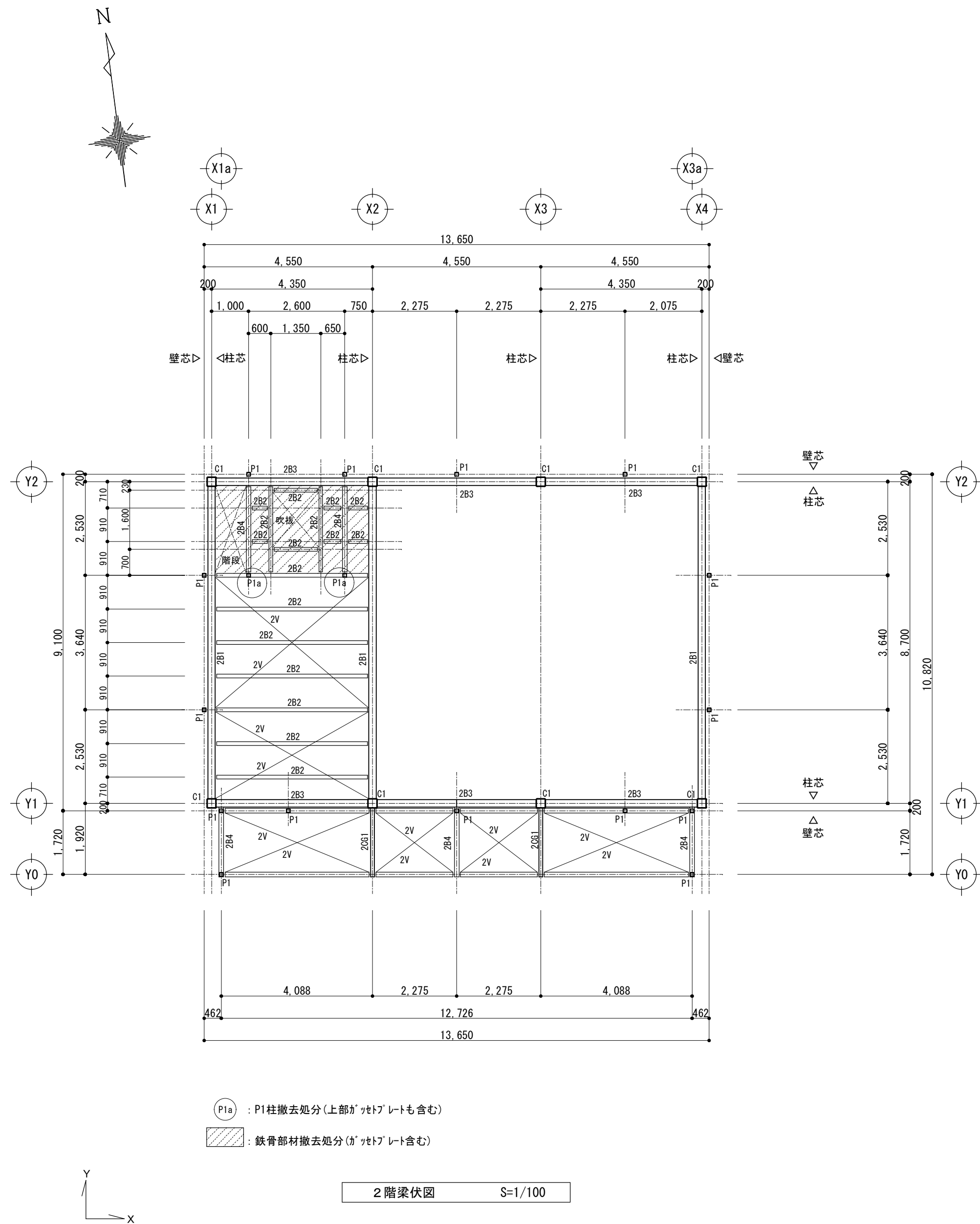
1: コンクリート

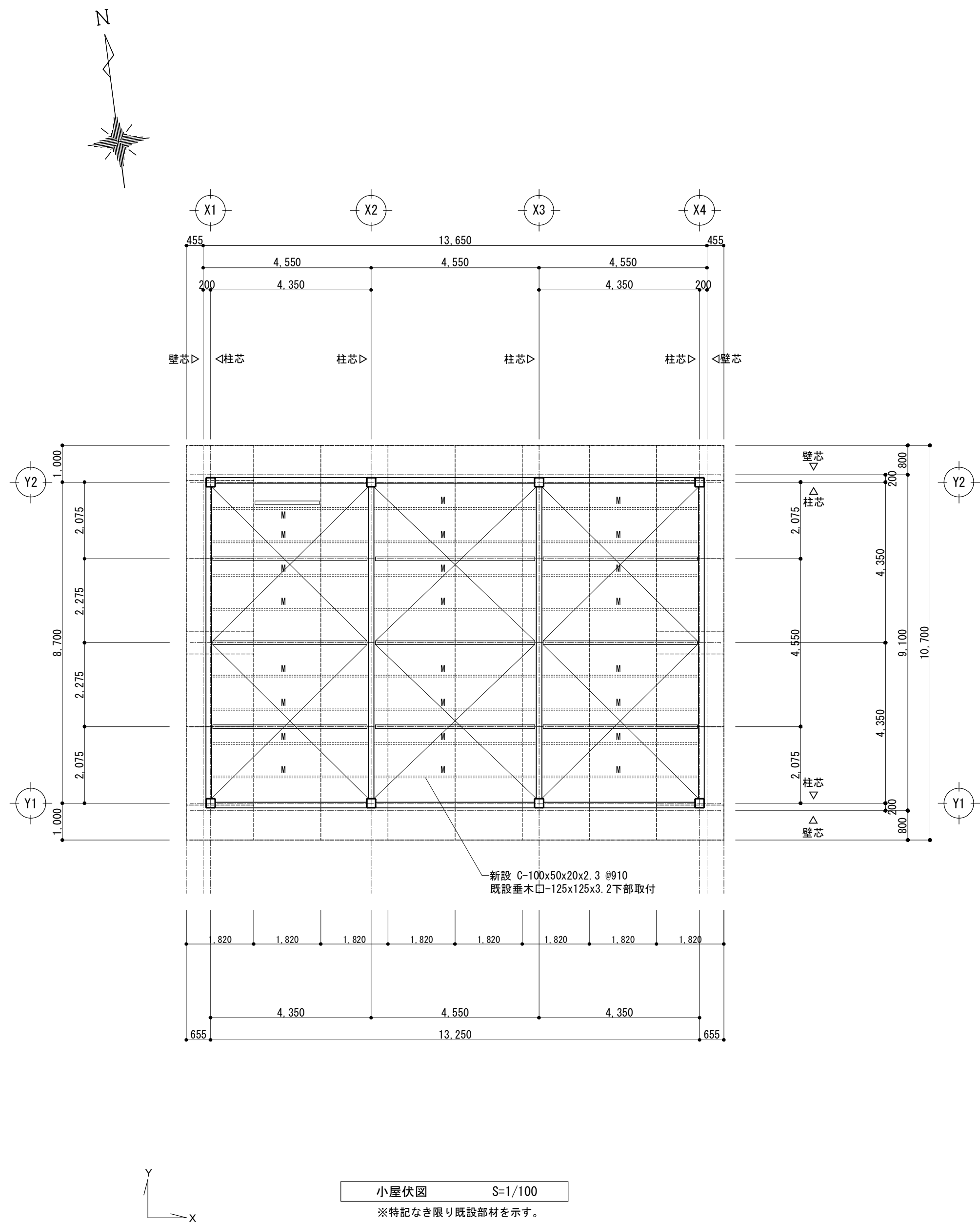
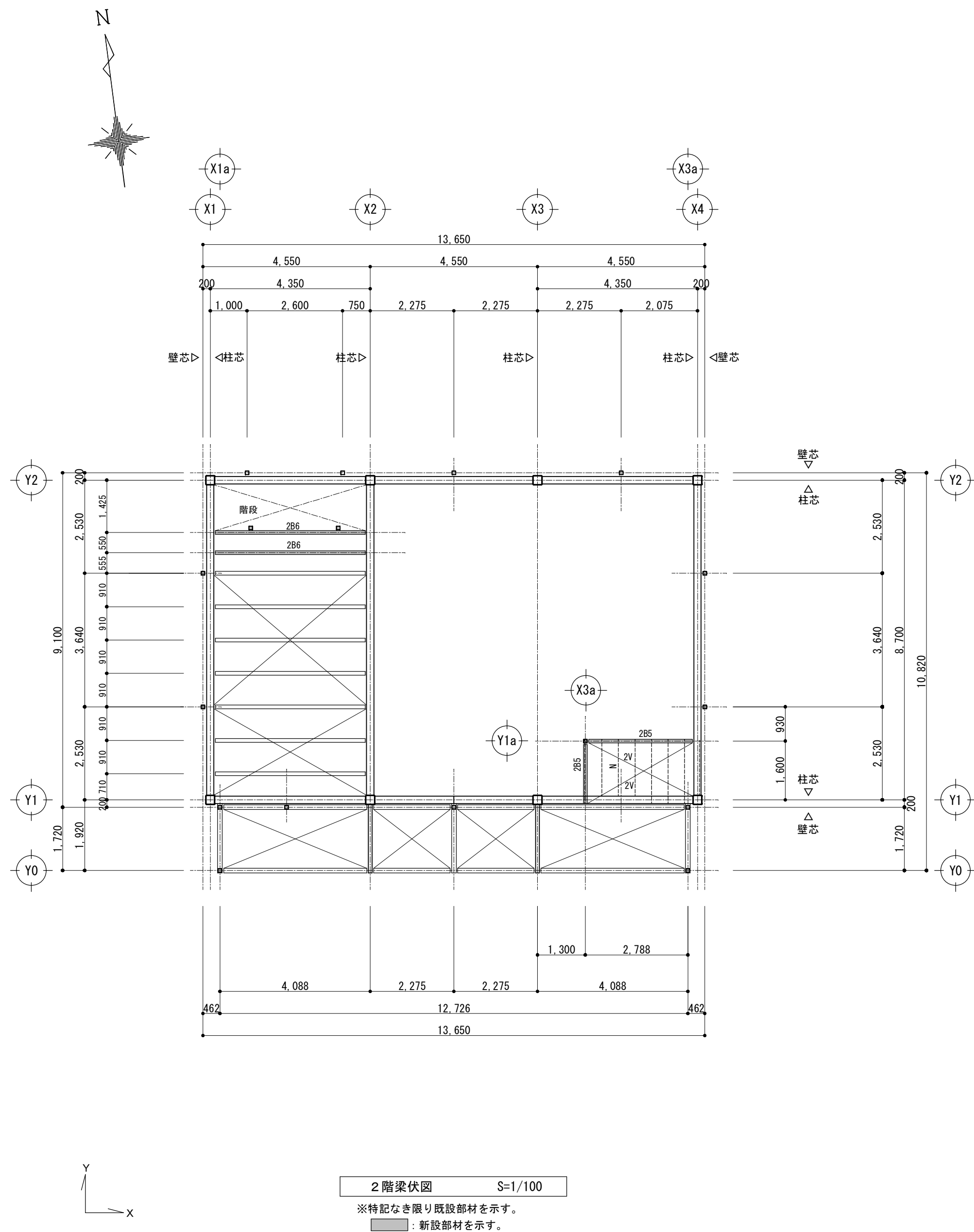
Fc=21+S (鉄筋・基礎コンクリート)

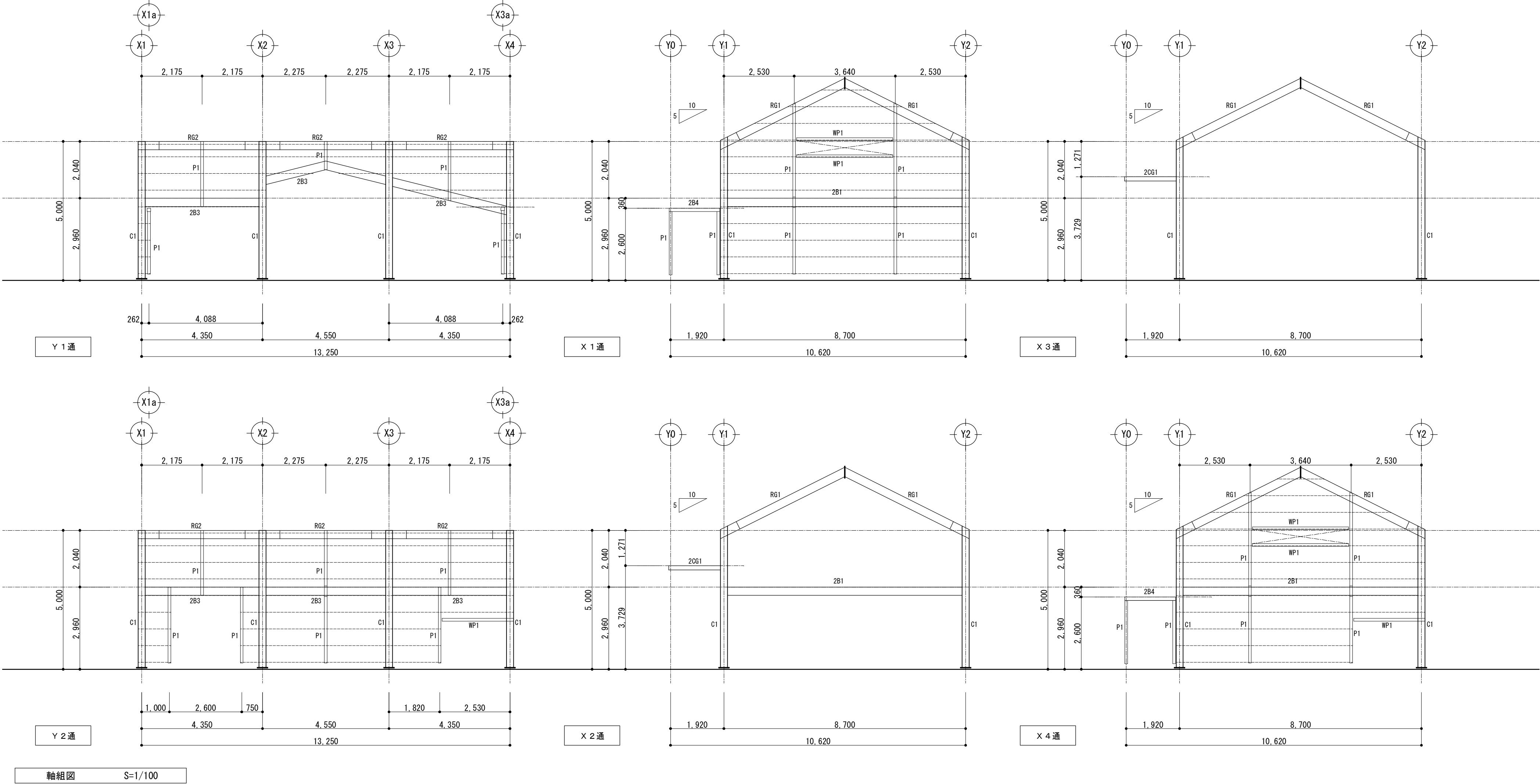
Fc=21 (土間コンクリート、捨コンクリート)

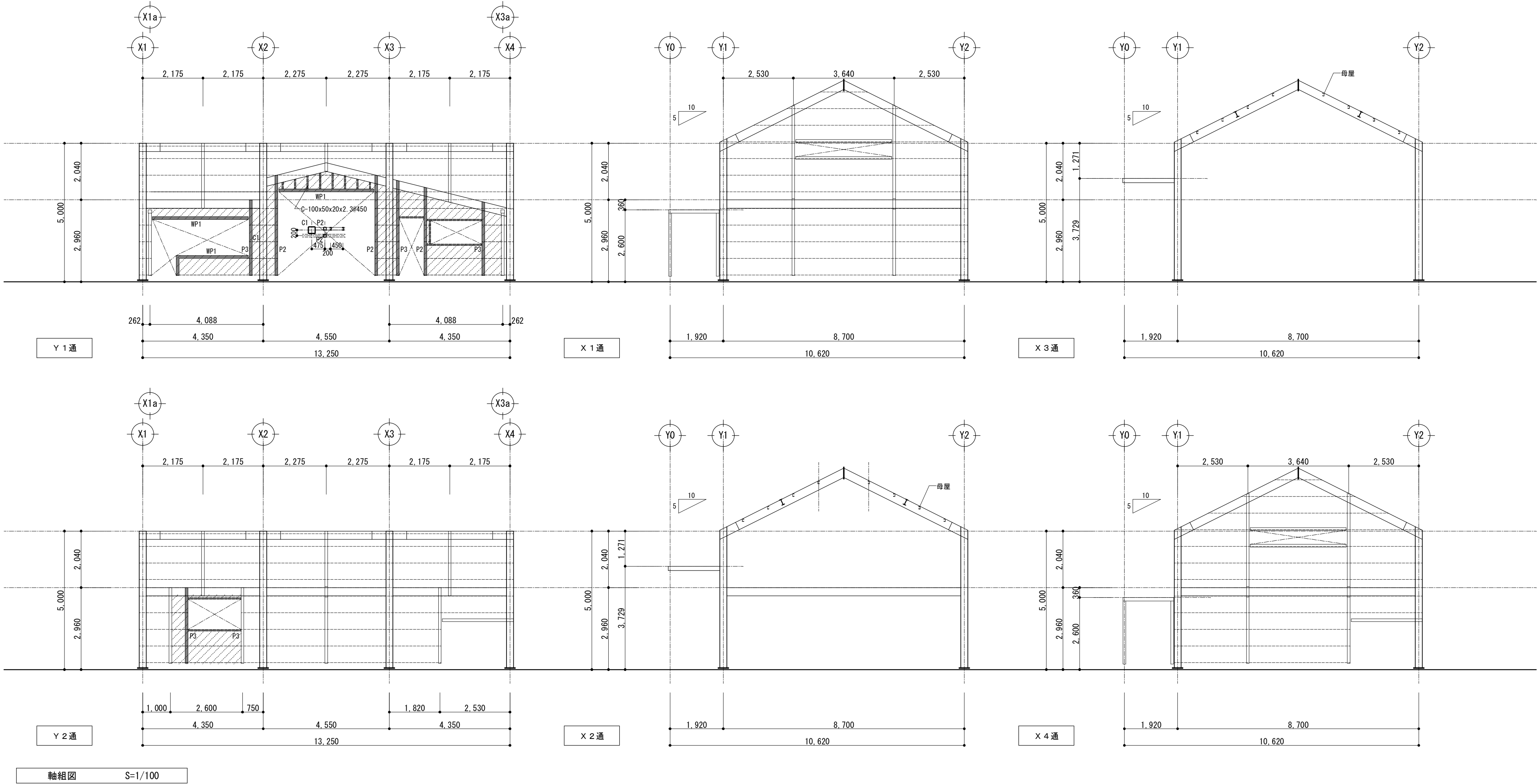
改修後

原図:A2





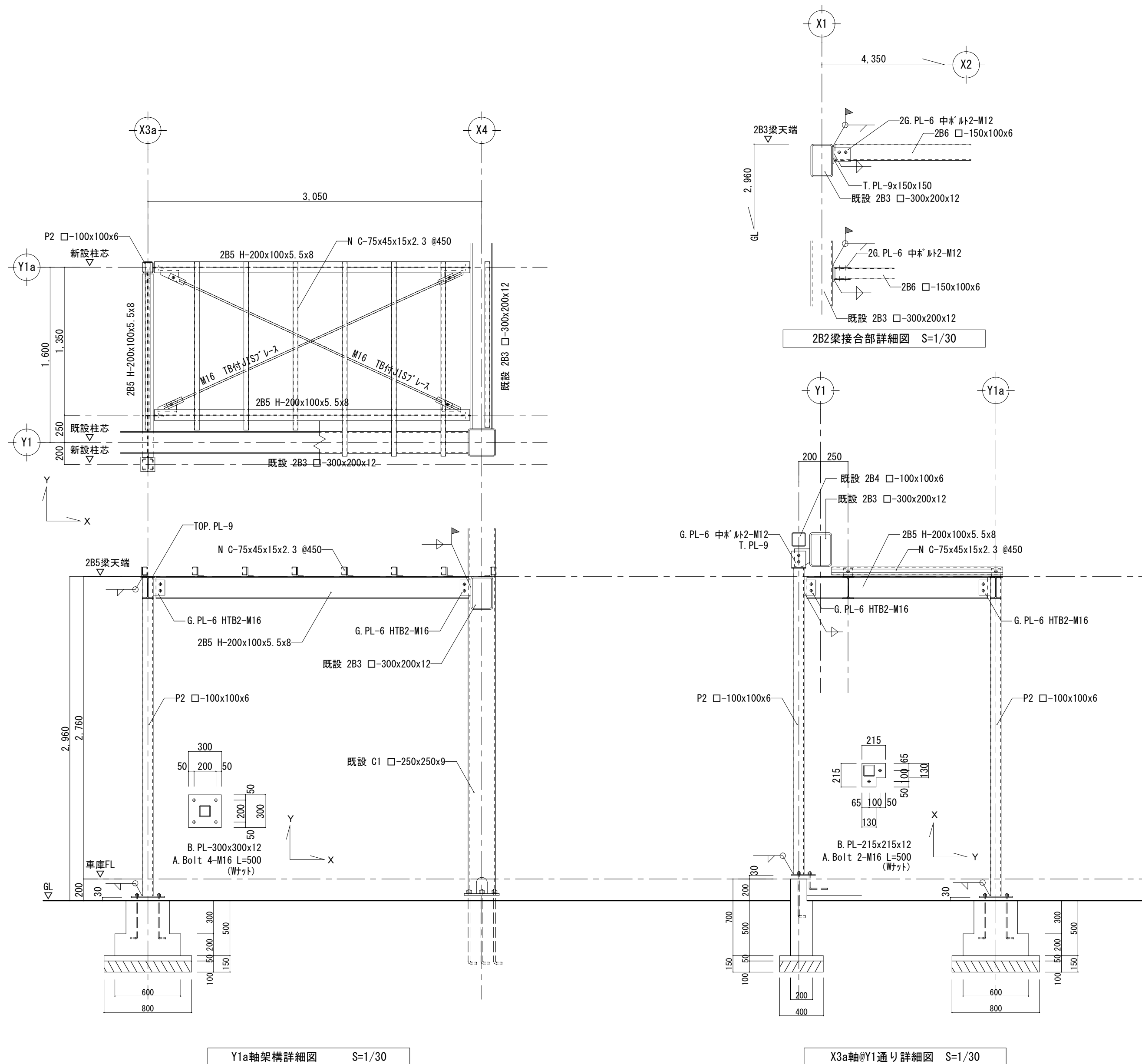




※特記無き限り、既設部材を示す。

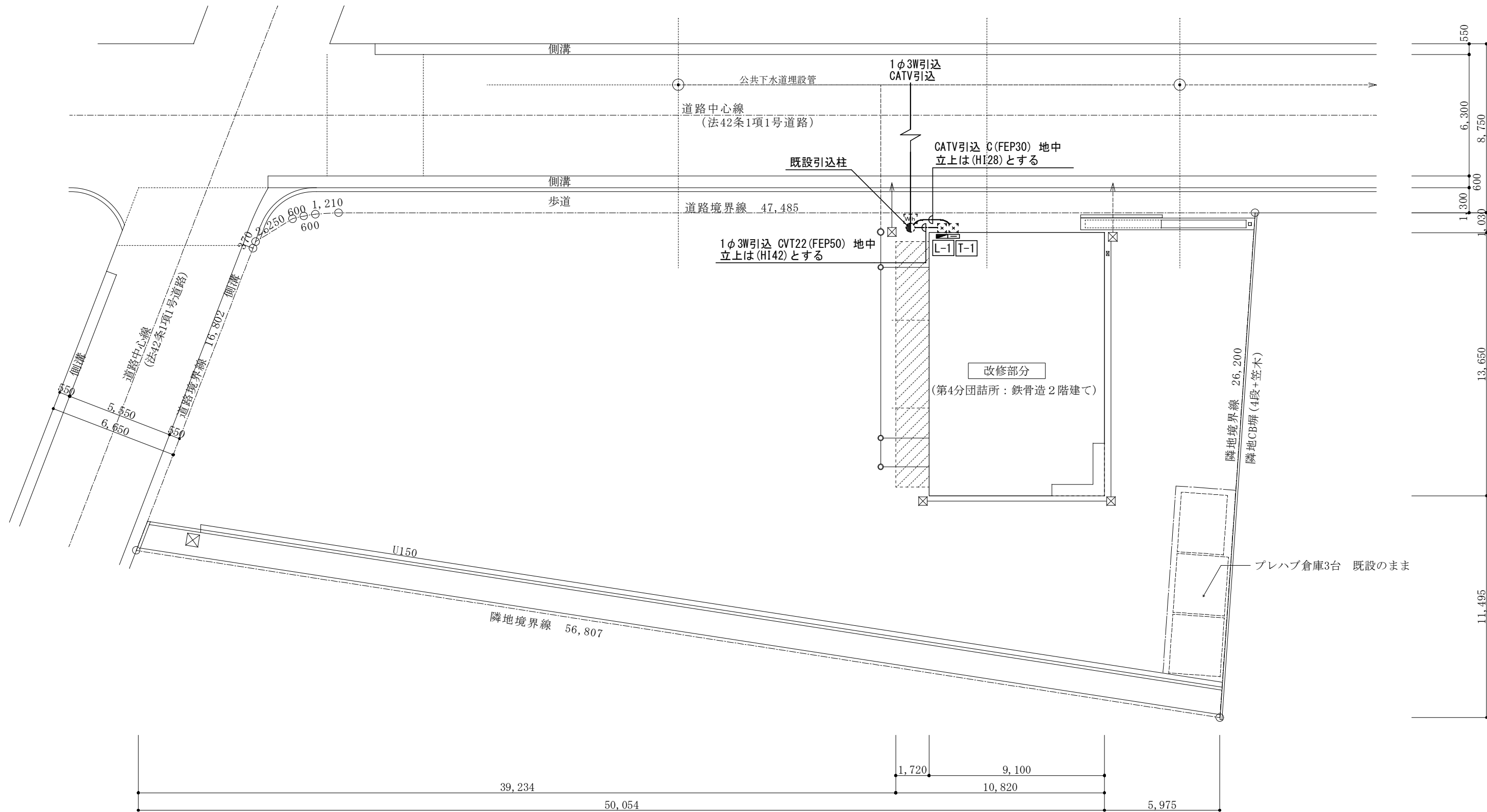
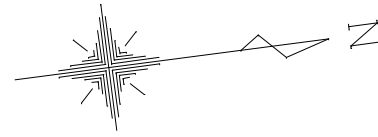
- 新設鉄骨柱 P1, P2, WP1 (ガットプレート含む)
- 新設開口部補強 C-100x50x20x2.3
- 新設外壁を示す。

■新設部材リスト				
P2	□-100x100x6.0	2G. PL-6 中板 ㇗t2-M12 PL-12x300x130 A. Bolt2-M16 L=500	WP1	□-100x100x4.5 2G. PL-6 中板 ㇗t1-M12
P3	□-100x100x4.5	2G. PL-6 中板 ㇗t2-M12 PL-12x300x130 A. Bolt2-M16 L=500	胴縁	C-100x50x20x3.2 @600 ㇗: L-75x75x6 L=80 中板 ㇗t1-M12 接合部: L-75x75x6 L=120 中板 ㇗t2-M12
2B5	H-200x100x5.5x8	G. PL-6 HTB2-M16	M (母屋)	C-100x50x20x2.3 @910 ㇗: L-75x75x6 L=200 中板 ㇗t1-M12 端部: G. PL-6 中板 ㇗t1-M12
2B6	□-150x100x6	T. PL-9, 2G. PL-6 中板 ㇗t2-M12		
N	C-75x45x15x2.3 @450	㇗: L-75x75x6 L=120 中板 ㇗t2-M12		
2V	M16	G. PL-9 HTB1-M20		



20. 配線器具の設置	(1)特殊コンセントはプラグ付とする。 (2)電源の種類により色を区別する。 (3)絶縁器具を取り付ける場所が金属の場合は、絶縁棒を使用する。 (4)プレートは、図面に特記なき場合、新金属製とする。 (5)カバープレートは、原則として新金属製とする。 なお、器具を突装しない位置ボックスには用途表示をすること。 (6)フロアプレートは、水平高低調整型(変転防止リング付)とする。	3. 機器仕様 下記の該当する項目を適用する。また、特記事項において選択する事項は、●印のついたものを適用する。 なお、詳細については、図面による。	(5)断路器	1)形式 ・3極単投 ・単極単投 (避雷器用に限る) 2)操作方式 ・遠方手動操作 ・フック棒操作 (避雷器用に限る)	11. 太陽光発電設備 (1)機器 ・太陽電池アレイ ・情報処理装置 (2)太陽電池アレイ ・発電能力 2) 認定式: JIS C 8955「太陽電池アレイ用支持設計標準」による。 (3)パワーコンディショナ及び系統連系保護装置 1) 出力電気方式 ・三相3線式 (・200V・() V) ・単相3線式 (200/100V) ・単相2線式 (・200V・100V・() V) 2) 定格周波数 ・60Hz ・屋内 ・壁掛型 ・自立型 ・その他 5) 機能 ・系統連系 (・高圧連系・みなし低圧連系・低圧連系) ・自立運転 ・その他 6) 系統連系技術要件は、関係法令や技術基準等を遵守し、電気事業者と十分協議する。	12. 風力発電設備 (1)機器 ・風車発電装置 ・制御装置 ・系統連系保護装置 ・支持構造物 ・情報処理装置 ・その他 発電能力 定格出力 () kW (3)制御盤 1) 出力電気方式 ・三相3線式 (・200V・() V) ・単相3線式 (200/100V) ・単相2線式 (・200V・100V・() V) 2) 定格周波数 ・60Hz 3) 設置場所 ・屋内 ・屋外 ・壁掛型 ・自立型 4) 設置方式 ・自立型 ・その他 5) 機能 ・系統連系 (・高圧連系・みなし低圧連系・低圧連系) ・自立運転 ・その他 6) 系統連系技術要件は、関係法令や技術基準等を遵守し、電気事業者と十分協議する。 自重、積載荷重、積雪、振動、衝撃等に対し、安全が確保されたものとする。
21. 照明器具の設置	(1)コードペンダント以外の放電灯及び水気のある場所の器具は接地する。なお、金属配管の場合は、配管を利用してもよい。(乾燥した場所のコンパクト形器具 (27W以下) を除く。) (2)接地線は電灯配線と同一太さのケーブルの1芯 (緑色) を使用する。ただし、監督員の指示により1.6mmの絶縁電線 (緑線) を添えることもできる。 (3)照明器具を設置する前に、照度分布図を作成し監督員の承認を得ること。 (4)照明器具取付完了後、照度測定を行う。照度計は一般形A級とする。 (5)天井下地域より支持する場合は、ワイヤ等により脱落防止の措置を行う。 (6)ハイクラスの照明器具は撤れ止めを施工する。	1. 電灯設備 (1)既設等との取り扱い (2)機器類 (3)一般照明器具	(7)変圧器	1)形式 ・油入 ・モールド 2)設置方式 ・屋外型 ・屋内型 3)ダイアル温度計 ・有 (・最大値指針 有・最大値指針 無)・無 油入500kVA以上、モールド150kVA以上の場合は必須とする	(4)情報処理装置 (5)仕様詳細 仕様詳細は「太陽光発電設備特記仕様書」による。	13. その他発電設備 (通信・情報設備) 14. 構内情報通信網設備 (1)インターフェース (2)機器 (3)ケーブル (4)アウトレット 15. 構内交換設備 (1)機器 (2)交換装置 (3)電話機 (4)端子盤類 (5)アウトレット 16. 情報表示設備 (1)設備 (2)マルチサイン装置 (3)出込表示装置 (4)時刻表示装置 (5)警報等表示装置
22. 照明改修の際の測定	対象室の改修前後の照度及び回路電流値の測定を次のとおり行うこと。 測定箇所 () 回 測定回数 () 回	(4)照明制御装置	(8)直列リアクトル (直相コンデンサ用)	1)絶縁方式 ・油入 ・モールド 2)その他 ① 内部異常を検知して動作する保護接点をつけること ② 放電装置を所属又は内蔵すること	(4)支持構造物 (5)情報処理装置 (6)仕様詳細 仕様詳細は「風力発電設備特記仕様書」による。	14. 構内情報通信網設備 (1)インターフェース (2)機器 (3)ケーブル (4)アウトレット 15. 構内交換設備 (1)機器 (2)交換装置 (3)電話機 (4)端子盤類 (5)アウトレット 16. 情報表示設備 (1)設備 (2)マルチサイン装置 (3)出込表示装置 (4)時刻表示装置 (5)警報等表示装置
23. 分電盤、制御盤、キュービクル等	(1)図面ホルダー内には、完成図及び回路の行き先がわかる図面を備える。 また、既設分電盤・制御盤等を改造した場合は、図面を修正するものとする。 (2)屋外キュービケットで露出配管をボックスに接続する場合は、カップリングを溶接等行い接続部から雨水等が浸入しない方とする。ただし、既設ボックスに接続する場合はロックナットとボックスの間にゴムパッキン等を取付け、接続部からの雨水等が浸入しないようにする。	(5)外灯 (単独設置)	(9)基礎	1)絶縁方式 ・油入 ・モールド 2)容量 ・6% ・13% 3)その他 内部異常を検知して動作する警報接点をつけること 高圧受電の三相3線式における不平衡の制限は、設備不平衡率が3.0%以下となるようにする。	(4)支持構造物 (5)情報処理装置 (6)仕様詳細 仕様詳細は「風力発電設備特記仕様書」による。	14. 構内情報通信網設備 (1)インターフェース (2)機器 (3)ケーブル (4)アウトレット 15. 構内交換設備 (1)機器 (2)交換装置 (3)電話機 (4)端子盤類 (5)アウトレット 16. 情報表示設備 (1)設備 (2)マルチサイン装置 (3)出込表示装置 (4)時刻表示装置 (5)警報等表示装置
24. 受変電設備、発電設備の設置場所	(1)保守点検、防火上有効な空間、維持管理の空間を考慮する。 (2)基礎の高さは周囲の状況を考慮する。 (3)電気室には水管、蒸気管、ガス管、ダクト等を通過させない。	(6)照明制御装置	(10)設備不平衡	1)形式 ・油入 ・モールド 2)設置方式 ・屋外型 ・屋内型 3)ダイアル温度計 ・有 (・最大値指針 有・最大値指針 無)・無 油入500kVA以上、モールド150kVA以上の場合は必須とする	(4)支持構造物 (5)情報処理装置 (6)仕様詳細 仕様詳細は「風力発電設備特記仕様書」による。	14. 構内情報通信網設備 (1)インターフェース (2)機器 (3)ケーブル (4)アウトレット 15. 構内交換設備 (1)機器 (2)交換装置 (3)電話機 (4)端子盤類 (5)アウトレット 16. 情報表示設備 (1)設備 (2)マルチサイン装置 (3)出込表示装置 (4)時刻表示装置 (5)警報等表示装置
25. 発電設備の燃料配管	(1)フレキシブルジョイント取付位置は、施工前に所轄の消防署と十分に打合せを行う。 (2)配管の接続は、機器の取外し又は保守点検を考慮し施工する。	(7)分電盤、制御盤等	(11)キュービクル等	1)銘板には、公共建築工事標準仕様書 (電気設備工編) に定める事項に加えて、施工年月、受注者名、施工者を記載する。 2)図面ホルダーは、A4サイズ以上 (キュービネットのサイズ等により取付けできない場合を除く。) とする。 3)表示ランプ等がある場合は、ランプテストボタンを取付ける。 4)接地用端子又は接地線用銅帯は点検のしやすい場所に設ける。 5)絶縁抵抗測定用接地端子は室内の作業のしやすい場所に設ける。	(4)支持構造物 (5)情報処理装置 (6)仕様詳細 仕様詳細は「風力発電設備特記仕様書」による。	14. 構内情報通信網設備 (1)インターフェース (2)機器 (3)ケーブル (4)アウトレット 15. 構内交換設備 (1)機器 (2)交換装置 (3)電話機 (4)端子盤類 (5)アウトレット 16. 情報表示設備 (1)設備 (2)マルチサイン装置 (3)出込表示装置 (4)時刻表示装置 (5)警報等表示装置
26. 電波関係の計算及び測定	(1)計算書の提出 電界強度測定結果による計算書を提出 ・施工前 ・躯体上がり時 ・その他 (2)測定の実施 1)項目 全受信チャンネルの電界強度、受信面質、等価C/N、ビット誤り率の測定及び映像写真の撮影を行う。 2)測定時期 ・施工前 ・躯体上がり時 ・その他 3)報告書提出回数 ・2部 ・() 部	(7)分電盤、制御盤等	(12)基礎	1)銘板には、公共建築工事標準仕様書 (電気設備工編) に定める事項に加えて、施工年月、受注者名、施工者を記載する。 2)図面ホルダーは、A4サイズ以上 (キュービネットのサイズ等により取付けできない場合を除く。) とする。 3)表示ランプ等がある場合は、ランプテストボタンを取付ける。 4)接地用端子又は接地線用銅帯は点検のしやすい場所に設ける。 5)絶縁抵抗測定用接地端子は室内の作業のしやすい場所に設ける。 6)配線用遮断器の定格電流は、予備を含めた負荷電流以上とし、定格遮断容量は、系統に流れる短絡電流の値以上とする。	(4)支持構造物 (5)情報処理装置 (6)仕様詳細 仕様詳細は「風力発電設備特記仕様書」による。	14. 構内情報通信網設備 (1)インターフェース (2)機器 (3)ケーブル (4)アウトレット 15. 構内交換設備 (1)機器 (2)交換装置 (3)電話機 (4)端子盤類 (5)アウトレット 16. 情報表示設備 (1)設備 (2)マルチサイン装置 (3)出込表示装置 (4)時刻表示装置 (5)警報等表示装置
27. 土工事	(1)埋戻しの材料及び工法 ・B種 (材料: 根切り土の中の良質土 / 工法: 機器による締固め) ・その他 ただし、配管周りの埋戻し材料は山砂とする。 (2)特記なき地中埋設配管の深さは、GL+600mm以上とする。 (3)根切りの種類は、マンホール、ハンドホール、屋外受変電設備及び自家発電装置の基礎等は総掘り、埋設管路等は布掘り、外灯基礎、電柱等はつば掘りとする。 (4)機械掘削は根切り底を乱さないようにする。	(7)分電盤、制御盤等	(13)配線ビッド及び蓋	1)施工 ・本工事 ・別途工事 ・既設利用 ・その他 2)ビッド蓋の加工が必要な場合は、本工事に行うこと。 ・屋内 ・屋外 (・地上 ・屋上)	(4)支持構造物 (5)情報処理装置 (6)仕様詳細 仕様詳細は「風力発電設備特記仕様書」による。	14. 構内情報通信網設備 (1)インターフェース (2)機器 (3)ケーブル (4)アウトレット 15. 構内交換設備 (1)機器 (2)交換装置 (3)電話機 (4)端子盤類 (5)アウトレット 16. 情報表示設備 (1)設備 (2)マルチサイン装置 (3)出込表示装置 (4)時刻表示装置 (5)警報等表示装置
28. ハンドホール、マンホール	1) 地中線路及びハンドホール等沈下が考慮される場合は、沈下対策を施す。 2) 地耐力 ① 地耐力は、建築基準法施行令第93条の短期応力度とする。 ② 衝撃係数は、設置場所に応じた衝撃係数とする。 3) 高さ900mmを超えるものについては、タラップ付とする。 なお、タラップの取付は450mm間隔以内とし、原則として接地を施すこと。	(7)分電盤、制御盤等	(14)設置場所	1)銘板には、公共建築工事標準仕様書 (電気設備工編) に定める事項に加えて、施工年月、受注者名、施工者を記載する。 2)図面ホルダーは、A4サイズ以上 (キュービネットのサイズ等により取付けできない場合を除く。) とする。 3)表示ランプ等がある場合は、ランプテストボタンを取付ける。 4)接地用端子又は接地線用銅帯は点検のしやすい場所に設ける。 5)絶縁抵抗測定用接地端子は室内の作業のしやすい場所に設ける。 6)配線用遮断器の定格電流は、予備を含めた負荷電流以上とし、定格遮断容量は、系統に流れる短絡電流の値以上とする。	(4)支持構造物 (5)情報処理装置 (6)仕様詳細 仕様詳細は「風力発電設備特記仕様書」による。	14. 構内情報通信網設備 (1)インターフェース (2)機器 (3)ケーブル (4)アウトレット 15. 構内交換設備 (1)機器 (2)交換装置 (3)電話機 (4)端子盤類 (5)アウトレット 16. 情報表示設備 (1)設備 (2)マルチサイン装置 (3)出込表示装置 (4)時刻表示装置 (5)警報等表示装置
29. 地中配線路の表示杭	下記の箇所に、地中配線路の表示杭を設置する。 ① 建物への引込口及び出入口付近 ② マンホール・ハンドホール付近 ③ 地中線路の曲折箇所 ④ 道路横断面 ⑤ 直線部分では30m程度に1個	(7)分電盤、制御盤等	【発電設備】 6. 直流電源設備 (1)用途 ・非常用照明器具電源 ・受変電設備制御電源 ・その他 (2)容量 () kVA (3)整流装置 (4)蓄電池 1)種類 ・鉛蓄電池 (・HS・MSE・長寿命形MSE) ・アルカリ蓄電池 (・AH・AMH) ・その他 2)最低蓄電池温度 ・5℃ ・15℃ ・25℃ ・-5℃ ・() ℃ 停電補償時間 ()	11. 太陽光発電設備 (1)機器 ・太陽電池アレイ ・情報処理装置 (2)太陽電池アレイ ・発電能力 2) 認定式: JIS C 8955「太陽電池アレイ用支持設計標準」による。 (3)パワーコンディショナ及び系統連系保護装置 1) 出力電気方式 ・三相3線式 (・200V・() V) ・単相3線式 (200/100V) ・単相2線式 (・200V・100V・() V) 2) 定格周波数 ・60Hz ・屋内 ・壁掛型 ・自立型 ・その他 5) 機能 ・系統連系 (・高圧連系・みなし低圧連系・低圧連系) ・自立運転 ・その他 6) 系統連系技術要件は、関係法令や技術基準等を遵守し、電気事業者と十分協議する。 自重、積載荷重、積雪、振動、衝撃等に対し、安全が確保されたものとする。	(4)支持構造物 (5)情報処理装置 (6)仕様詳細 仕様詳細は「風力発電設備特記仕様書」による。	14. 構内情報通信網設備 (1)インターフェース (2)機器 (3)ケーブル (4)アウトレット 15. 構内交換設備 (1)機器 (2)交換装置 (3)電話機 (4)端子盤類 (5)アウトレット 16. 情報表示設備 (1)設備 (2)マルチサイン装置 (3)出込表示装置 (4)時刻表示装置 (5)警報等表示装置
		2. 動力設備 (1)既設等との取り扱い (2)機器類 (3)負荷設備 (4)負荷設備への接続 (5)電動機等の接地 (6)電動機等の力率の改善 (7)保護継電器 (8)分電盤、制御盤等	【発電設備】 6. 直流電源設備 (1)用途 ・非常用照明器具電源 ・受変電設備制御電源 ・その他 (2)容量 () kVA (3)整流装置 (4)蓄電池 1)種類 ・鉛蓄電池 (・HS・MSE・長寿命形MSE) ・アルカリ蓄電池 (・AH・AMH) ・その他 2)最低蓄電池温度 ・5℃ ・15℃ ・25℃ ・-5℃ ・() ℃ 停電補償時間 ()	11. 太陽光発電設備 (1)機器 ・太陽電池アレイ ・情報処理装置 (2)太陽電池アレイ ・発電能力 2) 認定式: JIS C 8955「太陽電池アレイ用支持設計標準」による。 (3)パワーコンディショナ及び系統連系保護装置 1) 出力電気方式 ・三相3線式 (・200V・() V) ・単相3線式 (200/100V) ・単相2線式 (・200V・100V・() V) 2) 定格周波数 ・60Hz ・屋内 ・壁掛型 ・自立型 ・その他 5) 機能 ・系統連系 (・高圧連系・みなし低圧連系・低圧連系) ・自立運転 ・その他 6) 系統連系技術要件は、関係法令や技術基準等を遵守し、電気事業者と十分協議する。 自重、積載荷重、積雪、振動、衝撃等に対し、安全が確保されたものとする。	(4)支持構造物 (5)情報処理装置 (6)仕様詳細 仕様詳細は「風力発電設備特記仕様書」による。	14. 構内情報通信網設備 (1)インターフェース (2)機器 (3)ケーブル (4)アウトレット 15. 構内交換設備 (1)機器 (2)交換装置 (3)電話機 (4)端子盤類 (5)アウトレット 16. 情報表示設備 (1)設備 (2)マルチサイン装置 (3)出込表示装置 (4)時刻表示装置 (5)警報等表示装置
		3. 雷保護設備 (1)避雷針 (2)雷サージ保護 (3)電源回路の保護 (4)通信回線の保護 (5)接地設備 (1)接地工事 (2)接地抵抗の測定 (3)接地極埋設機 【受変電設備】 5. 受変電設備 (1)既設等との取り扱い (2)機器類 (3)盤類 (4)交流遮断器	【発電設備】 6. 直流電源設備 (1)用途 ・非常用照明器具電源 ・受変電設備制御電源 ・その他 (2)容量 () kVA (3)整流装置 (4)蓄電池 1)種類 ・鉛蓄電池 (・HS・MSE・長寿命形MSE) ・アルカリ蓄電池 (・AH・AMH) ・その他 2)最低蓄電池温度 ・5℃ ・15℃ ・25℃ ・-5℃ ・() ℃ 停電補償時間 ()	11. 太陽光発電設備 (1)機器 ・太陽電池アレイ ・情報処理装置 (2)太陽電池アレイ ・発電能力 2) 認定式: JIS C 8955「太陽電池アレイ用支持設計標準」による。 (3)パワーコンディショナ及び系統連系保護装置 1) 出力電気方式 ・三相3線式 (・200V・() V) ・単相3線式 (200/100V) ・単相2線式 (・200V・100V・() V) 2) 定格周波数 ・60Hz ・屋内 ・壁掛型 ・自立型 ・その他 5) 機能 ・系統連系 (・高圧連系・みなし低圧連系・低圧連系) ・自立運転 ・その他 6) 系統連系技術要件は、関係法令や技術基準等を遵守し、電気事業者と十分協議する。 自重、積載荷重、積雪、振動、衝撃等に対し、安全が確保されたものとする。	(4)支持構造物 (5)情報処理装置 (6)仕様詳細 仕様詳細は「風力発電設備特記仕様書」による。	14. 構内情報通信網設備 (1)インターフェース (2)機器 (3)ケーブル (4)アウトレット 15. 構内交換設備 (1)機器 (2)交換装置 (3)電話機 (4)端子盤類 (5)アウトレット 16. 情報表示設備 (1)設備 (2)マルチサイン装置 (3)出込表示装置 (4)時刻表示装置 (5)警報等表示装置
		1) 避雷針 ・突針 ・棟上導体 ・笠木等の別途施工物 2) 避雷導線 ・引下げ導線 ・建築構造体利用 ・測定用補助接地極 3) 接地極埋設機 ・建築構造体利用 ・測定用補助接地極 4) 接地抵抗の測定 ① 測定方法 ・電位差計方式 ・電圧降下法 ② 測定回数 ・3回 ・() 回 5) 接地極埋設機 ・設置 (・単相用 ・動力用) ・設置しない ・SPD ・低圧用 (・クラスⅠ ・クラスⅡ) ・通信用 (・カテゴリC2 ・カテゴリD1) ・低圧用SPDクラスⅠの性能 ・別図による ・通信用SPDカテゴリD1の性能 ・別図による	【発電設備】 6. 直流電源設備 (1)用途 ・非常用照明器具電源 ・受変電設備制御電源 ・その他 (2)容量 () kVA (3)整流装置 (4)蓄電池 1)種類 ・鉛蓄電池 (・HS・MSE・長寿命形MSE) ・アルカリ蓄電池 (・AH・AMH) ・その他 2)最低蓄電池温度 ・5℃ ・15℃ ・25℃ ・-5℃ ・() ℃ 停電補償時間 ()	11. 太陽光発電設備 (1)機器 ・太陽電池アレイ ・情報処理装置 (2)太陽電池アレイ ・発電能力 2) 認定式: JIS C 8955「太陽電池アレイ用支持設計標準」による。 (3)パワーコンディショナ及び系統連系保護装置 1) 出力電気方式 ・三相3線式 (・200V・() V) ・単相3線式 (200/100V) ・単相2線式 (・200V・100V・() V) 2) 定格周波数 ・60Hz ・屋内 ・壁掛型 ・自立型 ・その他 5) 機能 ・系統連系 (・高圧連系・みなし低圧連系・低圧連系) ・自立運転 ・その他 6) 系統連系技術要件は、関係法令や技術基準等を遵守し、電気事業者と十分協議する。 自重、積載荷重、積雪、振動、衝撃等に対し、安全が確保されたものとする。	(4)支持構造物 (5)情報処理装置 (6)仕様詳細 仕様詳細は「風力発電設備特記仕様書」による。	14. 構内情報通信網設備 (1)インターフェース (2)機器 (3)ケーブル (4)アウトレット 15. 構内交換設備 (1)機器 (2)交換装置 (3)電話機 (4)端子盤類 (5)アウトレット 16. 情報表示設備 (1)設備 (2)マルチサイン装置 (3)出込表示装置 (4)時刻表示装置 (5)警報等表示装置
		1) 避雷針 ・突針 ・棟上導体 ・笠木等の別途施工物 2) 避雷導線 ・引下げ導線 ・建築構造体利用 ・測定用補助接地極 3) 接地極埋設機 ・建築構造体利用 ・測定用補助接地極 4) 接地抵抗の測定 ① 測定方法 ・電位差計方式 ・電圧降下法 ② 測定回数 ・3回 ・() 回 5) 接地極埋設機 ・設置 (・単相用 ・動力用) ・設置しない ・SPD ・低圧用 (・クラスⅠ ・クラスⅡ) ・通信用 (・カテゴリC2 ・カテゴリD1) ・低圧用SPDクラスⅠの性能 ・別図による ・通信用SPDカテゴリD1の性能 ・別図による	【発電設備】 6. 直流電源設備 (1)用途 ・非常用照明器具電源 ・受変電設備制御電源 ・その他 (2)容量 () kVA (3)整流装置 (4)蓄電池 1)種類 ・鉛蓄電池 (・HS・MSE・長寿命形MSE) ・アルカリ蓄電池 (・AH・AMH) ・その他 2)最低蓄電池温度 ・5℃ ・15℃ ・25℃ ・-5℃ ・() ℃ 停電補償時間 ()	11. 太陽光発電設備 (1)機器 ・太陽電池アレイ ・情報処理装置 (2)太陽電池アレイ ・発電能力 2) 認定式: JIS C 8955「太陽電池アレイ用支持設計標準」による。 (3)パワーコンディショナ及び系統連系保護装置 1) 出力電気方式 ・三相3線式 (・200V・() V) ・単相3線式 (200/100V) ・単相2線式 (・200V・100V・() V) 2) 定格周波数 ・60Hz ・屋内 ・壁掛型 ・自立型 ・その他 5) 機能 ・系統連系 (・高圧連系・みなし低圧連系・低圧連系) ・自立運転 ・その他 6) 系統連系技術要件は、関係法令や技術基準等を遵守し、電気事業者と十分協議する。 自重、積載荷重、積雪、振動、衝撃等に対し、安全が確保されたものとする。	(4)支持構造物 (5)情報処理装置 (6)仕様詳細 仕様詳細は「風力発電設備特記仕様書」による。	14. 構内情報通信網設備 (1)インターフェース (2)機器 (3)ケーブル (4)アウトレット 15. 構内交換設備 (1)機器 (2)交換装置 (3)電話機 (4)端子盤類 (5)アウトレット 16. 情報表示設備 (1)設備 (2)マルチサイン装置 (3)出込表示装置 (4)時刻表示装置 (5)警報等表示装置
		1) 避雷針 ・突針 ・棟上導体 ・笠木等の別途施工物 2) 避雷導線 ・引下げ導線 ・建築構造体利用 ・測定用補助接地極 3) 接地極埋設機 ・建築構造体利用 ・測定用補助接地極 4) 接地抵抗の測定 ① 測定方法 ・電位差計方式 ・電圧降下法 ② 測定回数 ・3回 ・() 回 5) 接地極埋設機 ・設置 (・単相用 ・動力用) ・設置しない ・SPD ・低圧用 (・クラスⅠ ・クラスⅡ) ・通信用 (・カテゴリC2 ・カテゴリD1) ・低圧用SPDクラスⅠの性能 ・別図による ・通信用SPDカテゴリD1の性能 ・別図による	【発電設備】 6. 直流電源設備 (1)用途 ・非常用照明器具電源 ・受変電設備制御電源 ・その他 (2)容量 () kVA (3)整流装置 (4)蓄電池 1)種類 ・鉛蓄電池 (・HS・MSE・長寿命形MSE) ・アルカリ蓄電池 (・AH・AMH) ・その他 2)最低蓄電池温度 ・5℃ ・15℃ ・25℃ ・-5℃ ・() ℃ 停電補償時間 ()	11. 太陽光発電設備 (1)機器 ・太陽電池アレイ ・情報処理装置 (2)太陽電池アレイ ・発電能力 2) 認定式: JIS C 8955「太陽電池アレイ用支持設計標準」による。 (3)パワーコンディショナ及び系統連系保護装置 1) 出力電気方式 ・三相3線式 (・200V・() V) ・単相3線式 (200/100V) ・単相2線式 (・200V・100V・() V) 2) 定格周波数 ・60Hz ・屋内 ・壁掛型 ・自立型 ・その他 5) 機能 ・系統連系 (・高圧連系・みなし低圧連系・低圧連系) ・自立運転 ・その他 6) 系統連系技術要件は、関係法令や技術基準等を遵守し、電気事業者と十分協議する。 自重、積載荷重、積雪、振動、衝撃等に対し、安全が確保されたものとする。	(4)支持構造物 (5)情報処理装置 (6)仕様詳細 仕様詳細は「風力発電設備特記仕様書」による。	14. 構内情報通信網設備 (1)インターフェース (2)機器 (3)ケーブル (4)アウトレット 15. 構内交換設備 (1)機器 (2)交換装置 (3)電話機 (4)端子盤類 (5)アウトレット 16. 情報表示設備 (1)設備 (2)マルチサイン装置 (3)出込表示装置 (4)時刻表示装置 (5)警報等表示装置
		1) 避雷針 ・突針 ・棟上導体 ・笠木等の別途施工物 2) 避雷導線 ・引下げ導線 ・建築構造体利用 ・測定用補助接地極 3) 接地極埋設機 ・建築構造体利用 ・測定用補助接地極 4) 接地抵抗の測定 ① 測定方法 ・電位差計方式 ・電圧降下法 ② 測定回数 ・3回 ・() 回 5) 接地極埋設機 ・設置 (・単相用 ・動力用) ・設置しない ・SPD ・低圧用 (・クラスⅠ ・クラスⅡ) ・通信用 (・カテゴリC2 ・カテゴリD1) ・低圧用SPDクラスⅠの性能 ・別図による ・通信用SPDカテゴリD1の性能 ・別図による	【発電設備】 6. 直流電源設備 (1)用途 ・非常用照明器具電源 ・受変電設備制御電源 ・その他 (2)容量 () kVA (3)整流装置 (4)蓄電池 1)種類 ・鉛蓄電池 (・HS・MSE・長寿命形MSE) ・アルカリ蓄電池 (・AH・AMH) ・その他 2)最低蓄電池温度 ・5℃ ・15℃ ・25℃ ・-5℃ ・() ℃ 停電補償時間 ()	11. 太陽光発電設備 (1)機器 ・太陽電池アレイ ・情報処理装置 (2)太陽電池アレイ ・発電能力 2) 認定式: JIS C 8955「太陽電池アレイ用支持設計標準」による。 (3)パワーコンディショナ及び系統連系保護装置 1) 出力電気方式 ・三相3線式 (・200V・() V) ・単相3線式 (200/100V) ・単相2線式 (・200V・100V・() V) 2) 定格周波数 ・60Hz ・屋内 ・壁掛型 ・自立型 ・その他 5) 機能 ・系統連系 (・高圧連系・みなし低圧連系・低圧連系) ・自立運転 ・その他 6) 系統連系技術要件は、関係法令や技術基準等を遵守し、電気事業者と十分協議する。 自重、積載荷重、積雪、振動、衝撃等に対し、安全が確保されたものとする。	(4)支持構造物 (5)情報処理装置 (6)仕様詳細 仕様詳細は「風力発電設備特記仕様書」による。	14. 構内情報通信網設備 (1)インターフェース (2)機器 (3)ケーブル (4)アウトレット 15. 構内交換設備 (1)機器 (2)交換装置 (3)電話機 (4)端子盤類 (5)アウトレット 16. 情報表示設備 (1)設備 (2)マルチサイン装置 (3)出込表示装置 (4)時刻表示装置 (5)警報等表示装置
		1) 避雷針 ・突針 ・棟上導体 ・笠木等の別途施工物 2) 避雷導線 ・引下げ導線 ・建築構造体利用 ・測定用補助接地極 3) 接地極埋設機 ・建築構造体利用 ・測定用補助接地極 4) 接地抵抗の測定 ① 測定方法 ・電位差計方式 ・電圧降下法 ② 測定回数 ・3回 ・() 回 5) 接地極埋設機 ・設置 (・単相用 ・動力用) ・設置しない ・SPD ・低圧用 (・クラスⅠ ・クラスⅡ) ・通信用 (・カテゴリC2 ・カテゴリD1) ・低圧用SPDクラスⅠの性能 ・別図による ・通信用SPDカテゴリD1の性能 ・別図による	【発電設備】 6. 直流電源設備 (1)用途 ・非常用照明器具電源 ・受変電設備制御電源 ・その他 (2)容量 () kVA (3)整流装置 (4)蓄電池 1)種類 ・鉛蓄電池 (・HS・MSE・長寿命形MSE) ・アルカリ蓄電池 (・AH・AMH) ・その他 2)最低蓄電池温度 ・5℃ ・15℃ ・25℃ ・-5℃ ・() ℃ 停電補償時間 ()	11. 太陽光発電設備 (1)機器 ・太陽電池アレイ ・情報処理装置 (2)太陽電池アレイ ・発電能力 2) 認定式: JIS C 8955「太陽電池アレイ用支持設計標準」による。 (3)パワーコンディショナ及び系統連系保護装置 1) 出力電気方式 ・三相3線式 (・200V・() V) ・単相3線式 (200/100V) ・単相2線式 (・200V・100V・() V) 2) 定格周波数 ・60Hz ・屋内 ・壁掛型 ・自立型 ・その他 5) 機能 ・系統連系 (・高圧連系・みなし低圧連系・低圧連系) ・自立運転 ・その他 6) 系統連系技術要件は、関係法令や技術基準等を遵守し、電気事業者と十分協議する。 自重、積載荷重、積雪、振動、衝撃等に対し、安全が確保されたものとする。	(4)支持構造物 (5)情報処理装置 (6)仕様詳細 仕様詳細は「風力発電設備特記仕様書」による。	14. 構内情報通信網設備 (1)インターフェース (2)機器 (3)ケーブル (4)アウトレット 15. 構内交換設備 (1)機器 (2)交換装置 (3)電話機 (4)端子盤類 (5)アウトレット 16. 情報表示設備 (1)設備 (2)マルチサイン装置 (3)出込表示装置 (4)時刻表示装置 (5)警報等表示装置
		1) 避雷針 ・突針 ・棟上導体 ・笠木等の別途施工物 2) 避雷導線 ・引下げ導線 ・建築構造体利用 ・測定用補助接地極 3) 接地極埋設機 ・建築構造体利用 ・測定用補助接地極 4) 接地抵抗の測定 ① 測定方法 ・電位差計方式 ・電圧降下法 ② 測定回数 ・3回 ・() 回 5) 接地極埋設機 ・設置 (・単相用 ・動力用) ・設置しない ・SPD ・低圧用 (・クラスⅠ ・クラスⅡ) ・通信用 (・カテゴリC2 ・カテゴリD1) ・低圧用SPDクラスⅠの性能 ・別図による ・通信用SPDカテゴリD1の性能 ・別図による	【発電設備】 6. 直流電源設備 (1)用途 ・非常用照明器具電源 ・受変電設備制御電源 ・その他 (2)容量 () kVA (3)整流装置 (4)蓄電池 1)種類 ・鉛蓄電池 (・HS・MSE・長寿命形MSE) ・アルカリ蓄電池 (・AH・AMH) ・その他 2)最低蓄電池温度 ・5℃ ・15℃ ・25℃ ・-5℃ ・() ℃ 停電補償時間 ()	11. 太陽光発電設備 (1)機器 ・太陽電池アレイ ・情報処理装置 (2)太陽電池アレイ ・発電能力 2) 認定式: JIS C 8955「太陽電池アレイ用支持設計標準」による。 (3)パワーコンディショナ及び系統連系保護装置 1) 出力電気方式 ・三相3線式 (・200V・() V) ・単相3線式 (200/100V) ・単相2線式 (・200V・100V・() V) 2) 定格周波数 ・60Hz ・屋内 ・壁掛型 ・自立型 ・その他 5) 機能 ・系統連系 (・高圧連系・みなし低圧連系・低圧連系) ・自立運転 ・その他 6) 系統連系技術要件は、関係法令や技術基準等を遵守し、電気事業者と十分協議する。 自重、積載荷重、積雪、振動、衝撃等に対し、安全が確保されたものとする。	(4)支持構造物 (5)情報処理装置 (6)仕様詳細 仕様詳細は「風力発電設備特記仕様書」による。	14. 構内情報通信網設備 (1)インターフェース (2)機器 (3)ケーブル (4)アウトレット 15. 構内交換設備 (1)機器 (2)交換装置 (3)電話機 (4)端子盤類 (5)アウトレット 16. 情報表示設備 (1)設備 (2)マルチサイン装置 (3)出込表示装置 (4)時刻表示装置 (5)警報等表示装置
		1) 避雷針 ・突針 ・棟上導体 ・笠木等の別途施工物 2) 避雷導線 ・引下げ導線 ・建築構造体利用 ・測定用補助接地極 3) 接地極埋設機 ・建築構造体利用 ・測定用補助接地極 4) 接地抵抗の測定 ① 測定方法 ・電位差計方式 ・電圧降下法 ② 測定回数 ・3回 ・() 回 5) 接地極埋設機 ・設置 (・単相用 ・動力用) ・設置しない ・SPD ・低圧用 (・クラスⅠ ・クラスⅡ) ・通信用 (・カテゴリC2 ・カテゴリD1) ・低圧用SPDクラスⅠの性能 ・別図による ・通信用SPDカテゴリD1の性能 ・別図による	【発電設備】 6. 直流電源設備 (1)用途 ・非常用照明器具電源 ・受変電設備制御電源 ・その他 (2)容量 () kVA (3)整流装置 (4)蓄電池 1)種類 ・鉛蓄			

参考資料：高齢者が居住する住宅の設計に係る指針（最終改正 平成21年国交省告示第906号）
ユニバーサルデザインのまちづくり推進条例 整備基準の解説等（平成25年4月 三重県）


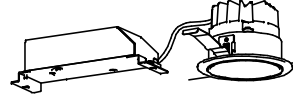
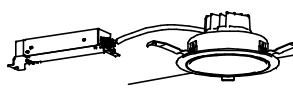

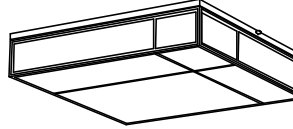

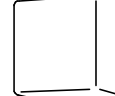
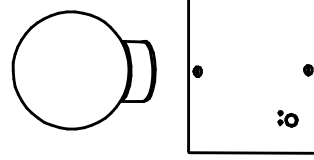
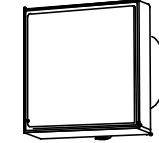
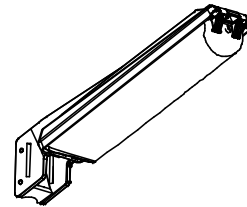
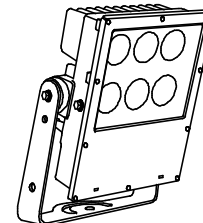



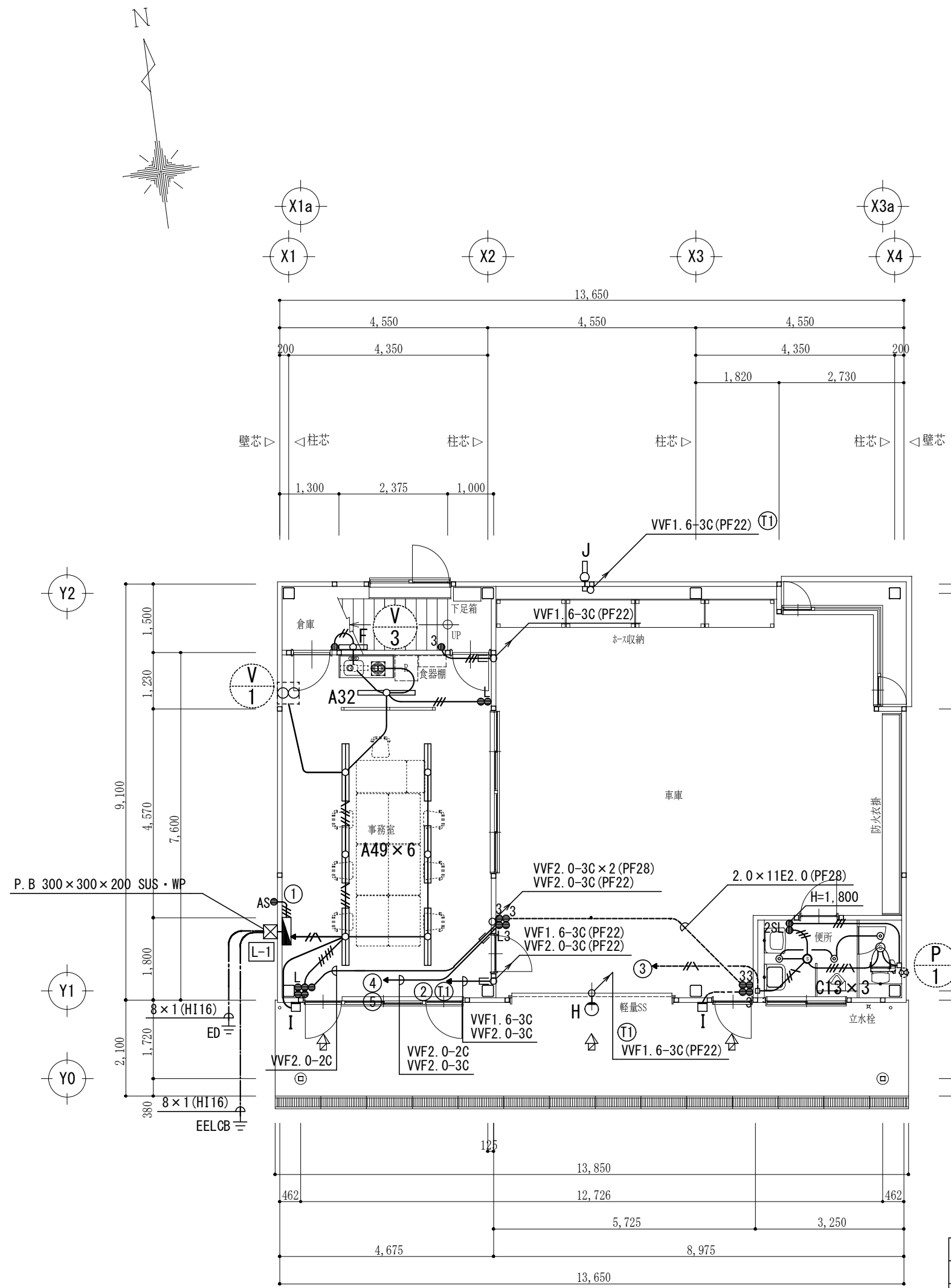
配置図 S=1/200

電 灯 分 電 盤 リ ス ト									
盤 名 称	盤 結 線 図	回 路 番 号	電 圧 (V)	分岐開閉器			負荷容量 (VA)	負 荷 名 称	備 考
				種類	P	AF	AT		
<div>L-1</div> <div>屋内壁掛型 上部ﾀﾞｲ付</div> <div>1φ3W 100/200V (9,740VA)</div> <div></div>	(誘導)	100	MCCB	2	50	20	10	誘導灯	
	①	100	ELCB	2	50	20	300	照明 1階 事務室他	
	②	100	MCCB	2	50	20	120	照明 2階 和室	
	③	100	ELCB	2	50	20	50	照明 便所	
	④	100	ELCB	2	50	20	980	照明 車庫・投光器他	
	⑤	100	ELCB	2	50	20	390	換気扇 車庫	
	⑪	100	ELCB	2	50	20	20	照明 赤色灯・防犯灯	
	①	200	ELCB	2	50	30	2160	空調 AC-1 1階事務室	
	②	200	ELCB	2	50	20	890	空調 AC-2 2階和室	
	端子	100	MCCB	2	50	20	100	コンセント 端子盤内	
	①	100	MCCB	2	50	20	100	コンセント 事務室	
	②	100	MCCB	2	50	20	100	コンセント 事務室	
	③	100	MCCB	2	50	20	200	コンセント 事務室	
	④	100	MCCB	2	50	20	200	コンセント 事務室	
	⑤	100	MCCB	2	50	20	200	コンセント 事務室	
	⑥	100	ELCB	2	50	20	400	コンセント 事務室(冷蔵庫)	
	⑦	100	ELCB	2	50	20	1300	コンセント 事務室(ヒーター)	
	⑧	100	ELCB	2	50	20	1100	コンセント 事務室(電気温水器)	
	⑨	100	MCCB	2	50	20	200	コンセント 車庫	
	⑩	100	MCCB	2	50	20	200	コンセント 車庫	
	⑪	100	ELCB	2	50	20	320	コンセント 便所(洗浄便座)	
	⑫	100	ELCB	2	50	20	100	コンセント 屋外	
	⑬	100	MCCB	2	50	20	300	コンセント 2階和室	
	○	100	MCCB	2	50	20		予備	
	○	100	MCCB	2	50	20		予備	
	○	100	ELCB	2	50	20		予備	
	○	100	ELCB	2	50	20		予備	

端子盤 T-1 屋内壁掛型
上部ﾀﾞｲ付

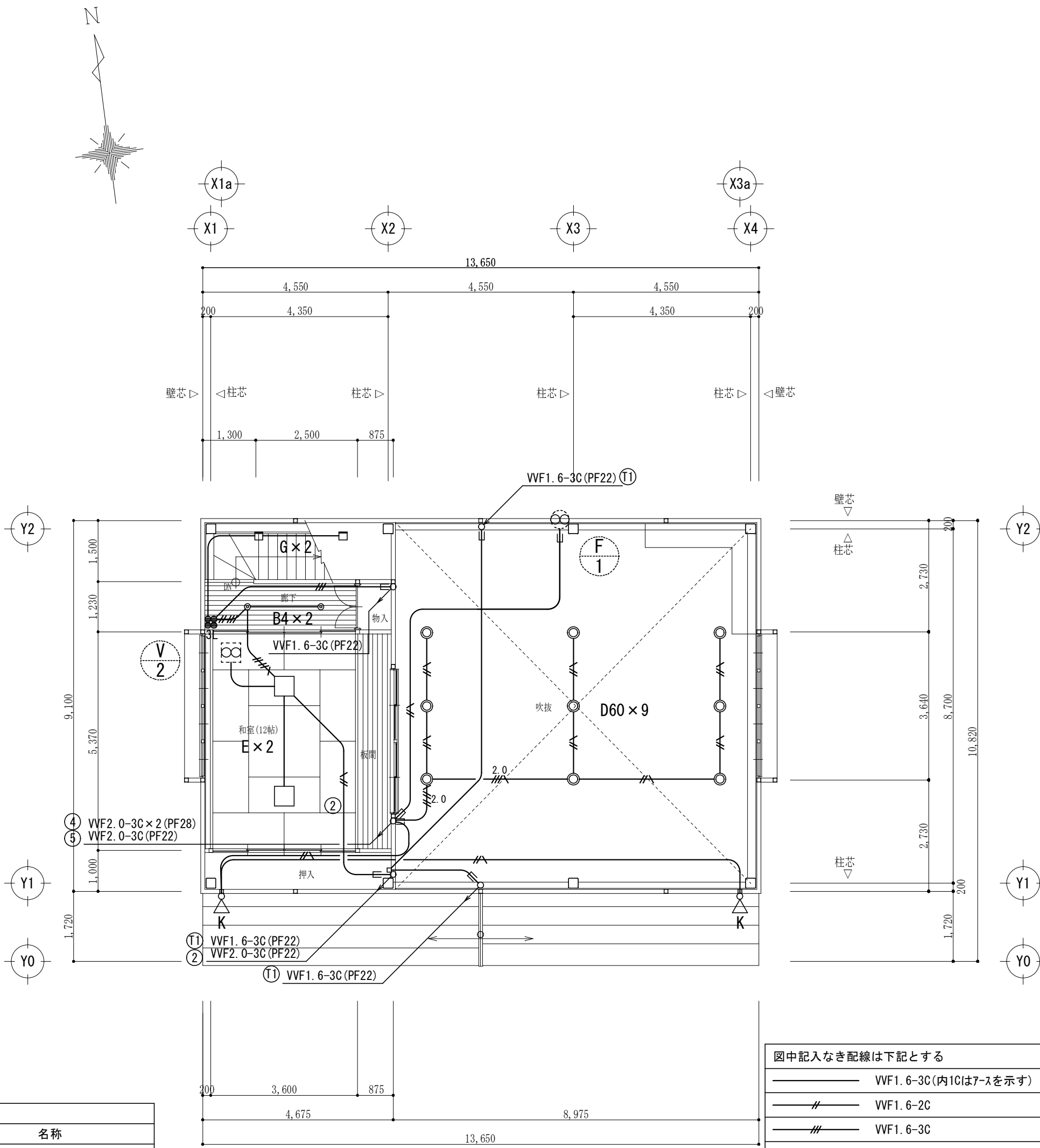
テレビ	ﾌﾞｰｽﾀｰｱﾝﾌﾞ CATV-1
	2分配器×1 CS-D2W
	CATV用保安器ｽﾍﾞｰｽ
	露出角形コンセント2ケロE付×1

														
A32	LEDへースライト	LSS9-3200MLN	LRS1-400LM-1LN			LRS1-1300LM-1LN			LRS1-6000MLZ			参考型番 : LGBZ1864		
A49	LEDへースライト	LSS9-4900MLN	B4	LEDダウナライト		C13	LEDダウナライト		D60	LEDダウナライト		E	LEDシーリングライト	
 参考型番 : LGB85032 LE1			 参考型番 : LGB81700 LE1			 参考型番 : NNF20242C			 参考型番 : LGWC80305 LE1			 参考型番 : NNY20364 LE1		
F	LEDダウラケット		G	LEDダウラケット		H	LED赤色灯		I	LEDダウラケット		J	LED防犯灯	
 参考型番 : NYS10345 LF2														
K	LED投光器													
 SH1-FBF20-C、SH1-FSF20-C														
7	LED誘導灯 C級 片面													



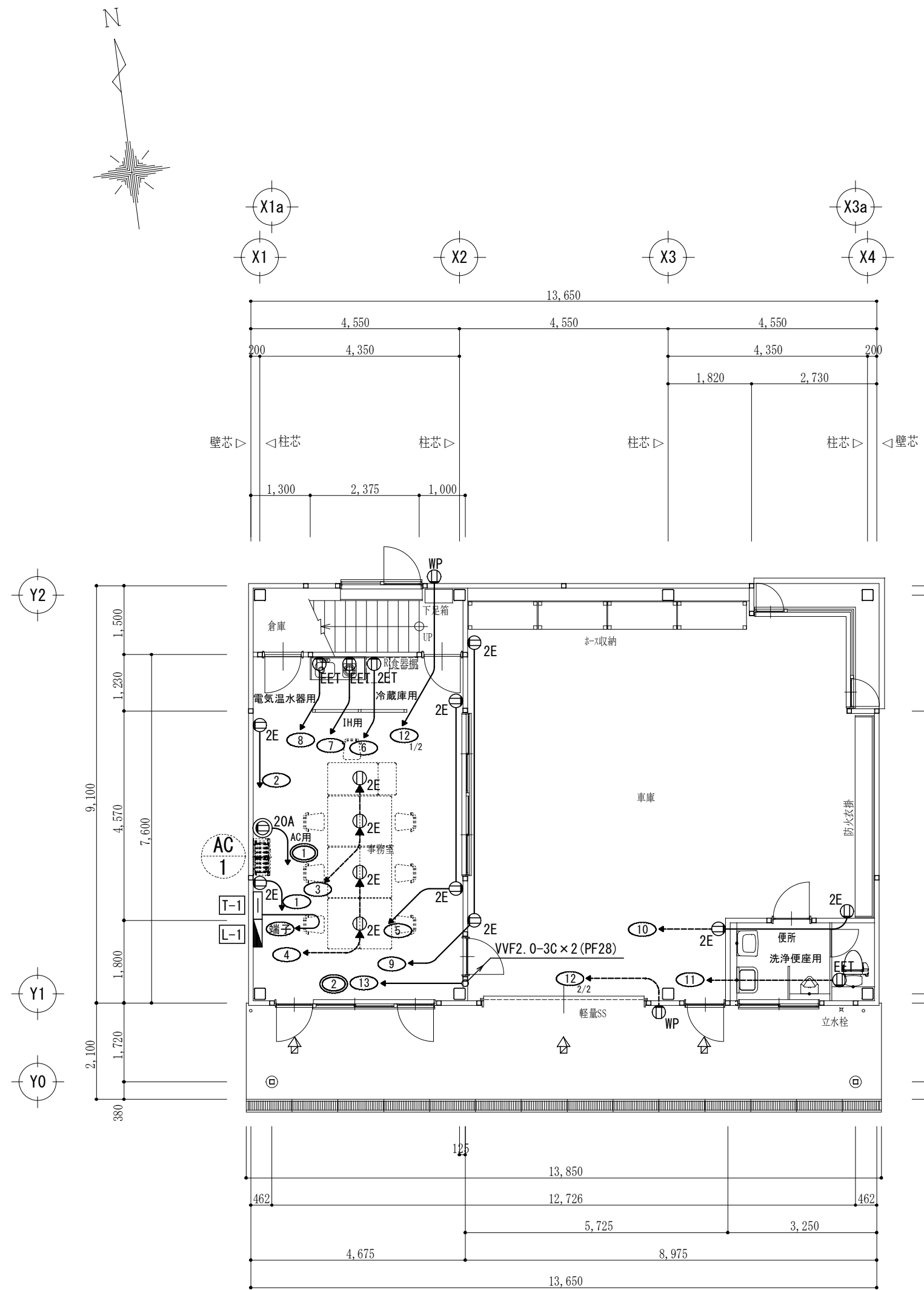
1 階平面図 S=1/100

凡例			
記号	名称	記号	名称
	電灯分電盤		コンセント 2P15A×1ET
	LEDベースライト 1灯相当		片切×1
	LEDベースライト 2灯相当		3路×1
	LEDタッチライト		自動点滅器
	LEDリングライト		PLS×1
	LED赤色灯		操作ユニット 2回路用
	LEDスポットライト		熱線センサー付自動スイッチ親機
	LEDスポットライト 高輝度タイプ		熱線センサー付自動スイッチ子器
	LED投光器		アウトレットボックス
	LED防犯灯		電力量計(別途工事)
	ミニLED照明(建築工事)		天井換気扇(機械工事)
			ミニLED照明(建築工事)

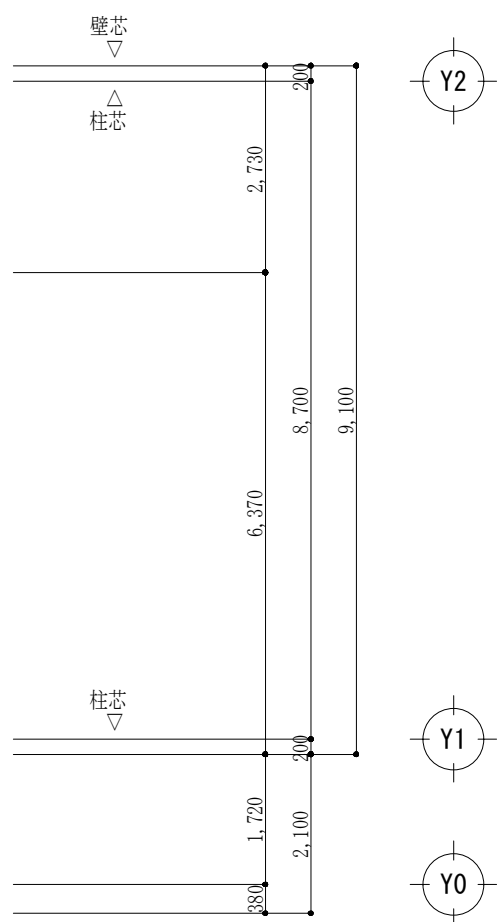


2 階平面図 S=1/100

図中記入なき配線は下記とする		保護管
	VVF1.6-3C(内1Cは7-スを示す)	(PF22)
	VVF1.6-2C	(PF22)
	VVF1.6-3C	(PF22)
	VVF1.6-2C + VVF1.6-3C	(PF28)
	VVF1.6-2C + VVF1.6-3C	(PF28)
	VVF1.6-3C×2	(PF28)
	1.6×2E1.6(PF16)	
	VVF2.0-3C	(PF22)
	VVF2.0-2C×2	(PF28)
	VVF2.0-2C + VVF2.0-3C	(PF28)
	2.0×2E2.0(PF16)	
壁内配線はPF管にて保護とする		

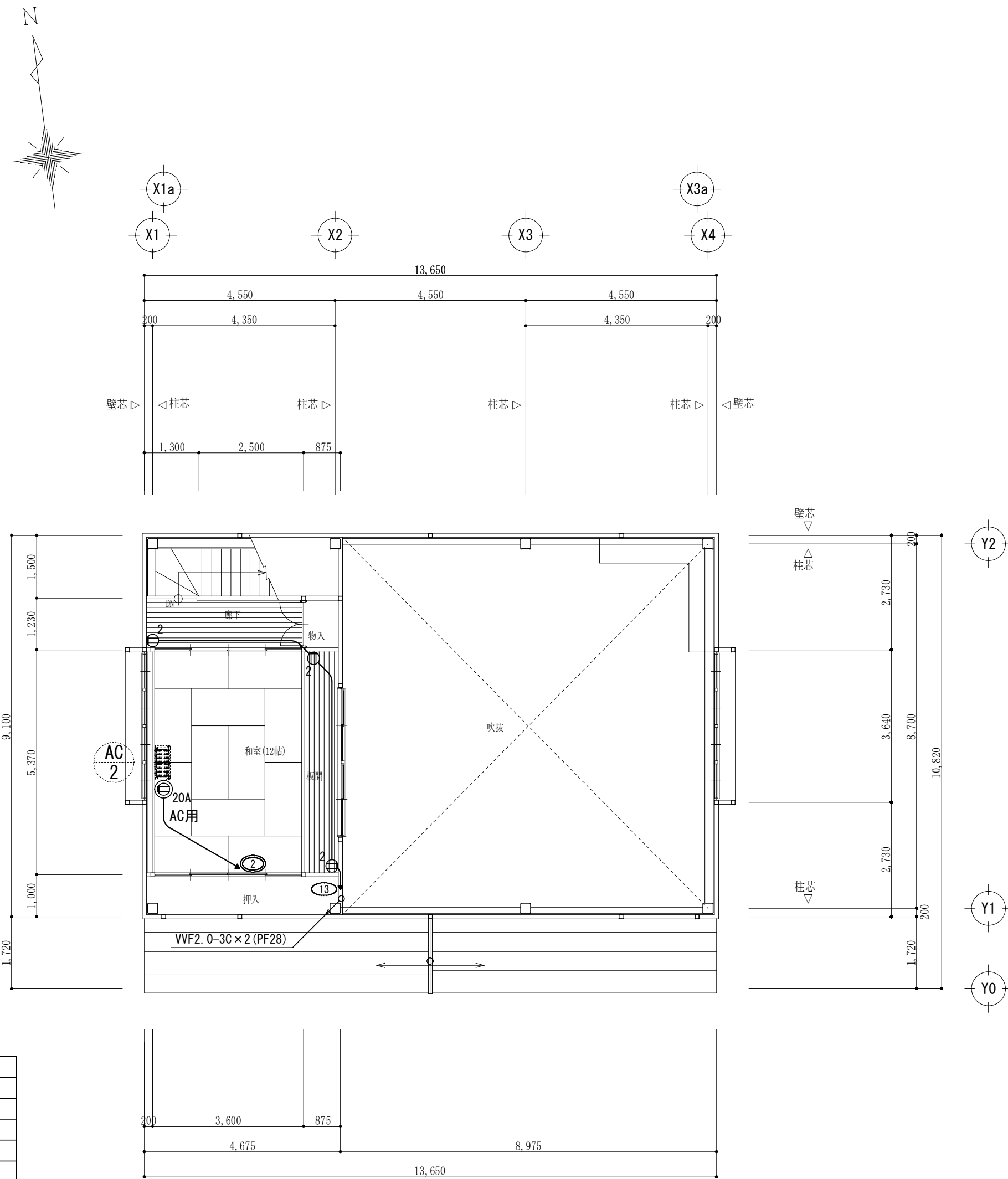


1 階平面図 S=1/100

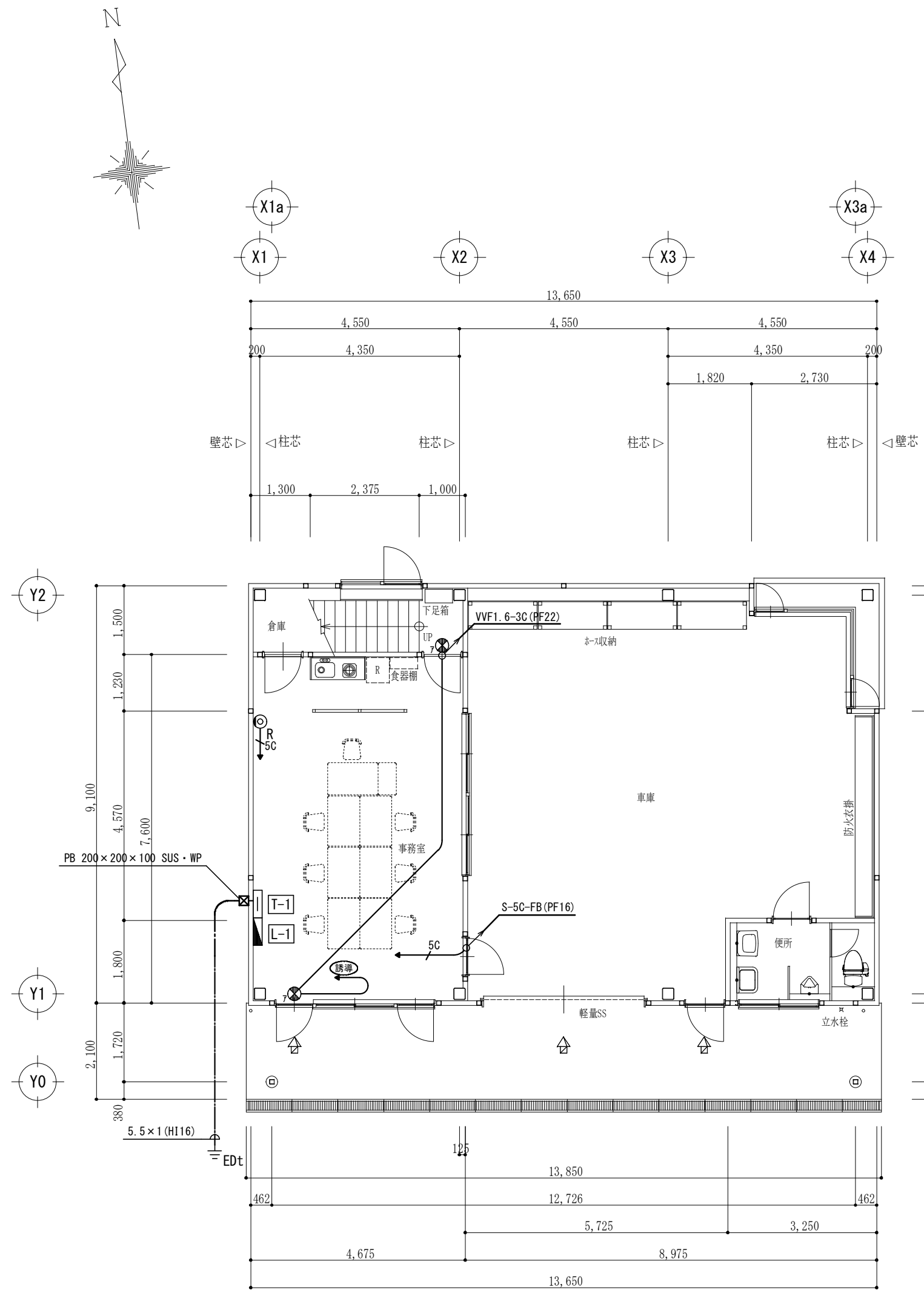


凡例	
記号	名称
	電灯分電盤
	端子盤
	コンセント 2P15A×1E・ET
	コンセント 2P15A×2
	コンセント 2P15A×2E
	コンセント 2P15A×2ET
	コンセント 2P15A・20A兼用×1E・ET 200V用
	エアコン 2P15A×2E
	防水コンセント 2P15A×2E・ET

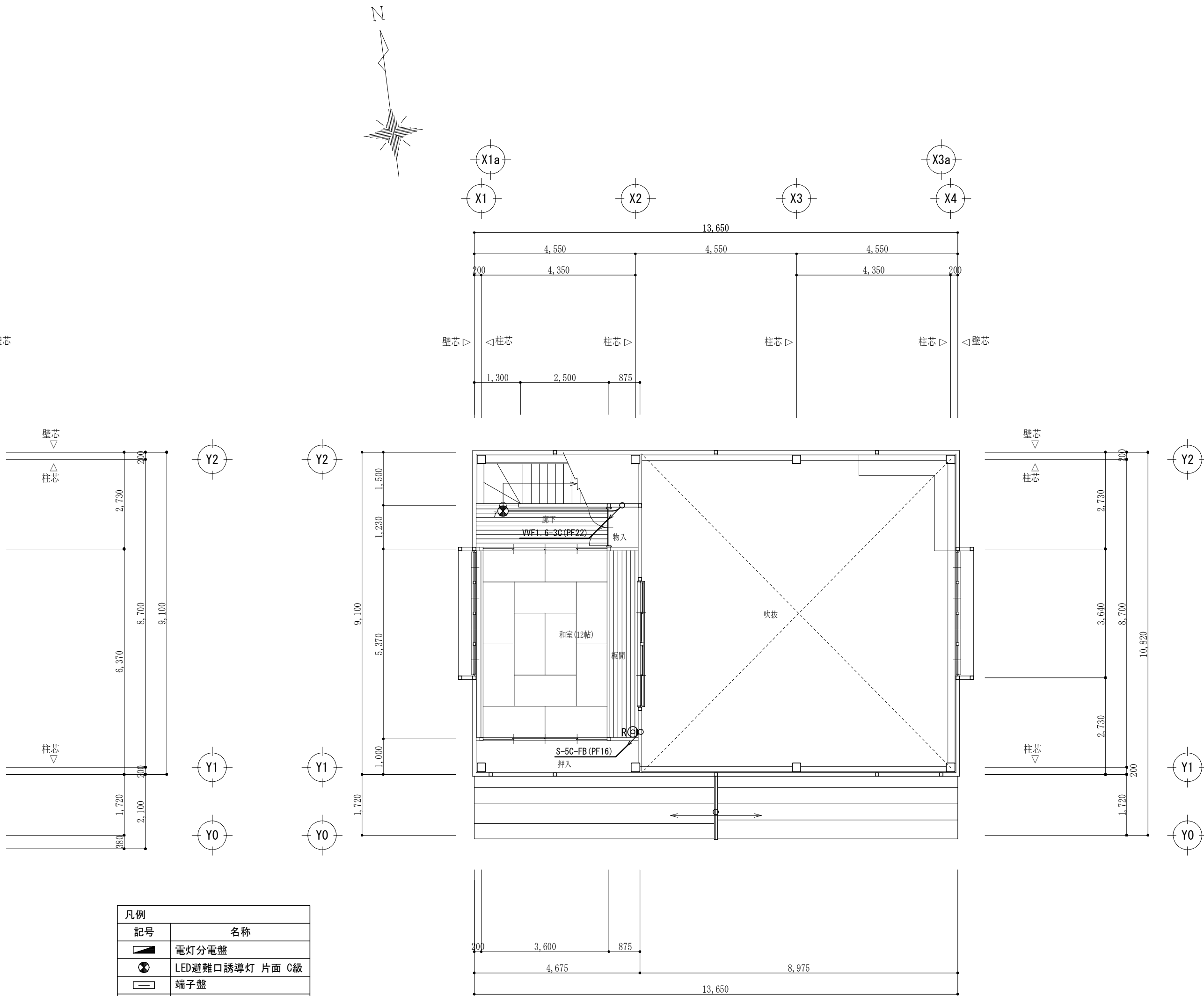
図中記入なき配線は下記とする		保護管
	VVF2.0-3C	(PF22)
	2.0×2E2.0 (PF16)	
壁内配線はPF管にて保護とする		



2 階平面図 S=1/100



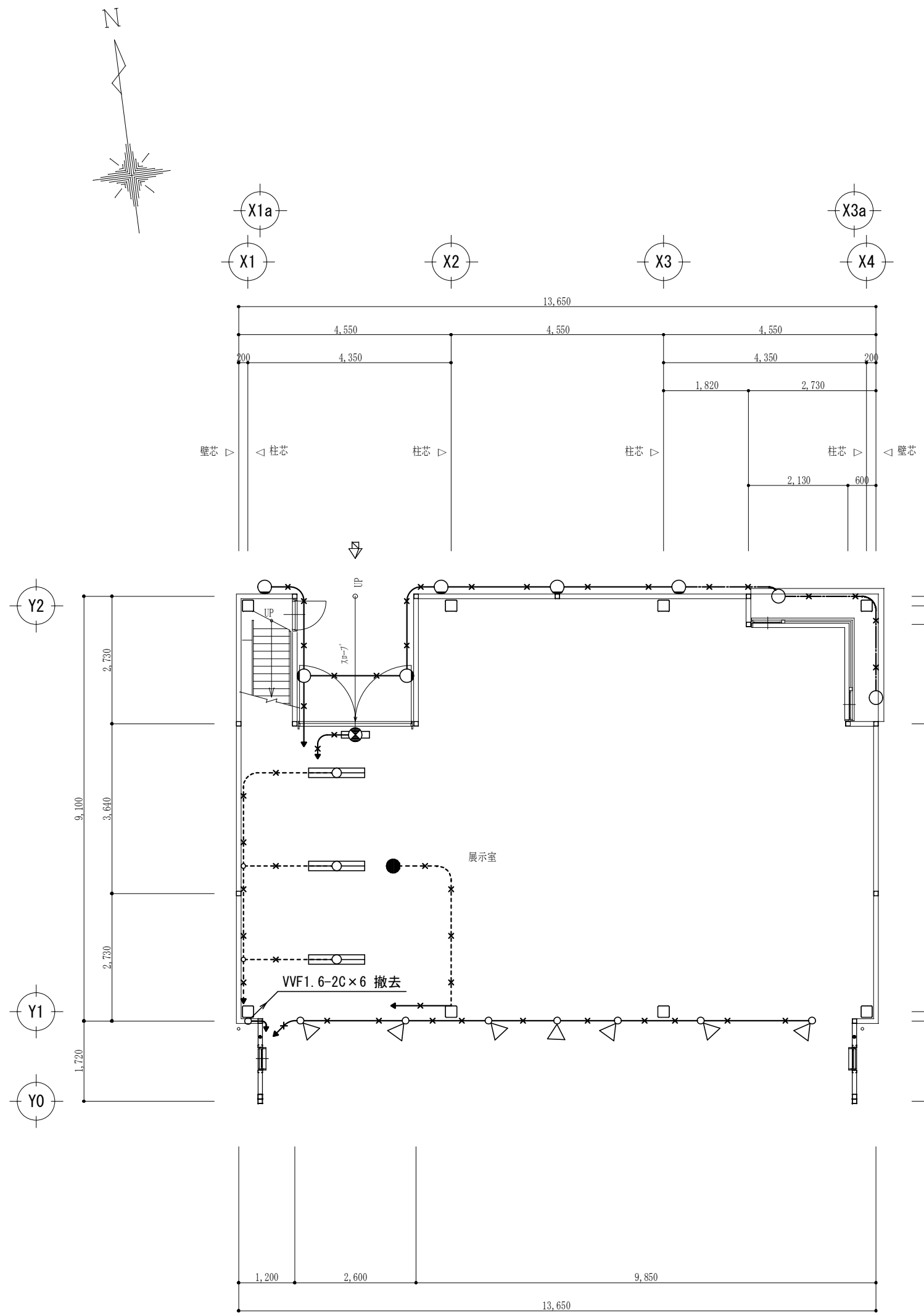
1 階平面図 S=1/100



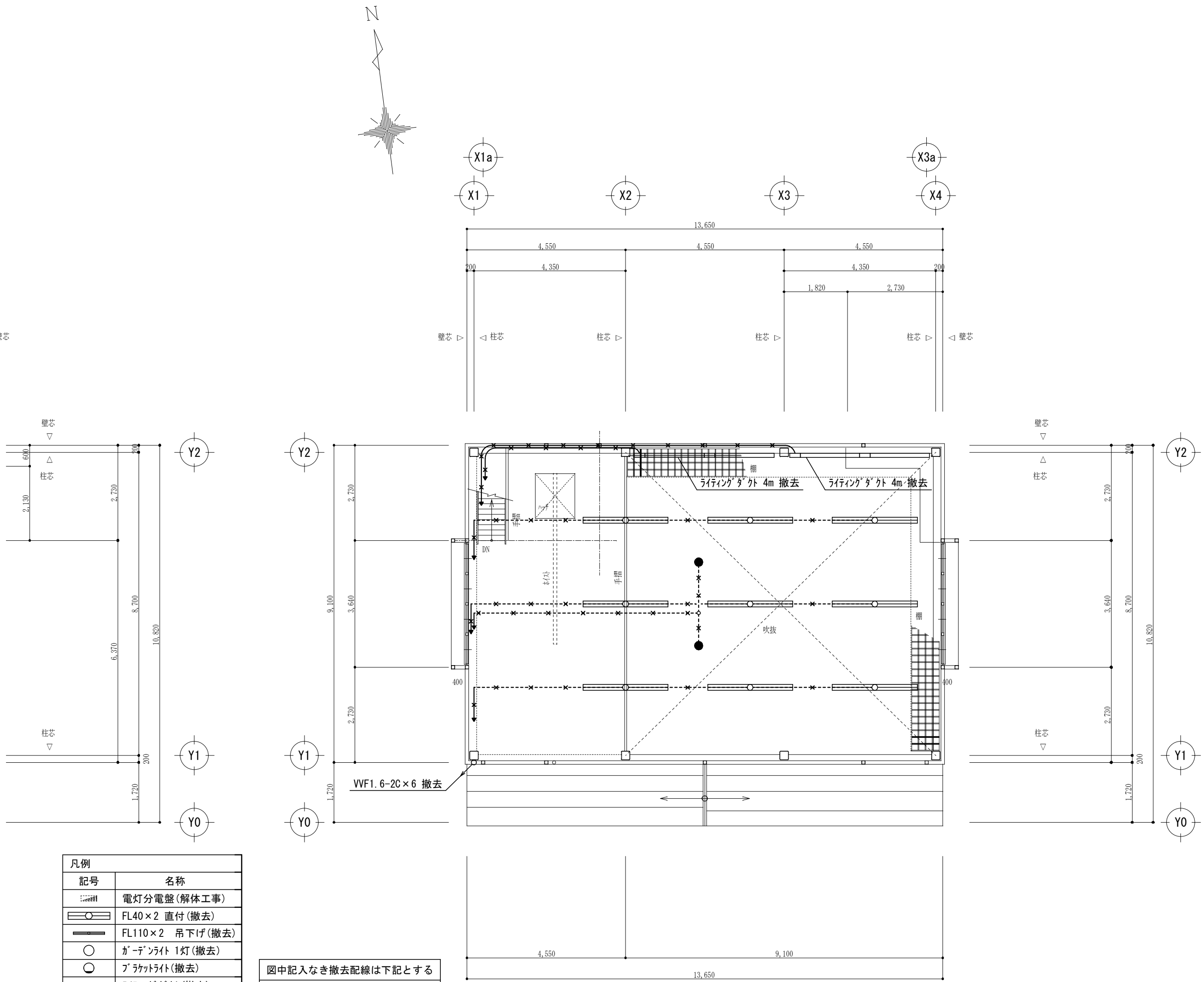
2 階平面図 S=1/100

凡例	
記号	名称
	電灯分電盤
	LED避難口誘導灯 片面 C級
	端子盤
	直列ユニット 端末

図中記入なき配線は下記とする		保護管
誘導灯	VVF1. 6-3C	(PF22)
テレビ	S-5C-FB (PF16)	
壁内配線はPF管にて保護とする		



1 階平面図 S=1/100

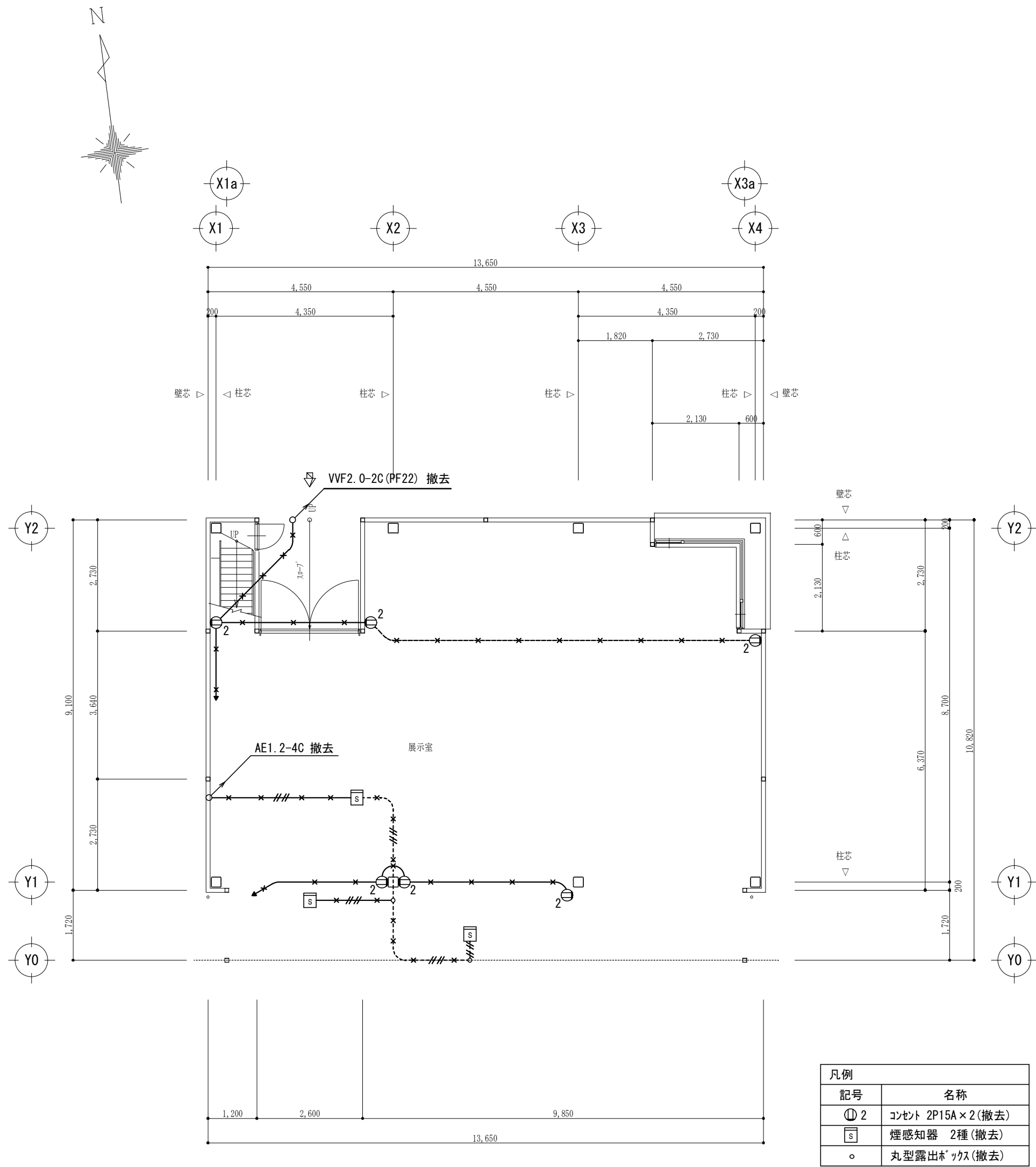


2 階平面図 S=1/100

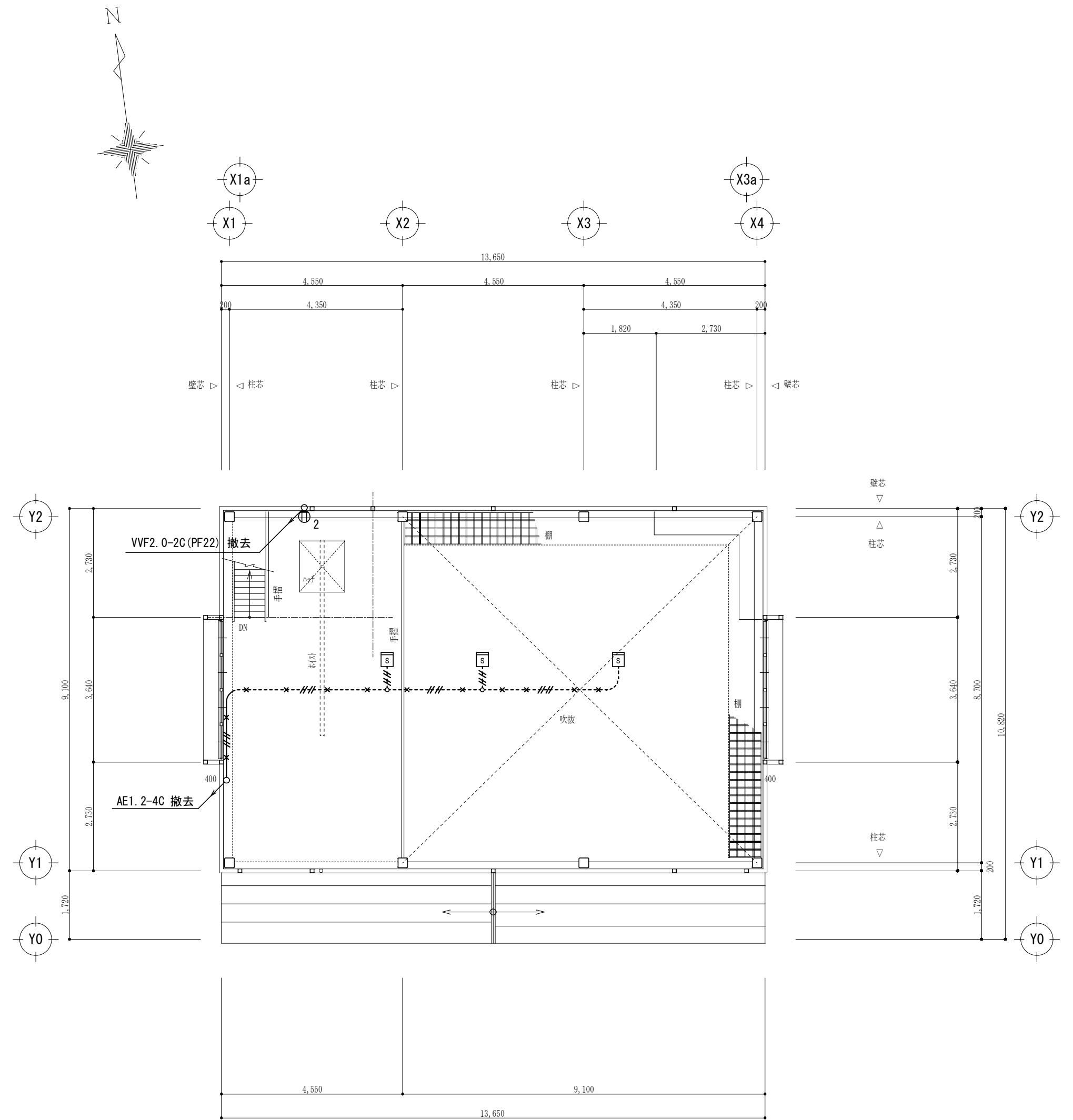
凡例	
記号	名称
	電灯分電盤(解体工事)
	FL40×2 直付(撤去)
	FL110×2 吊下げ(撤去)
	ガーデンライト 1灯(撤去)
	ブラケットライト(撤去)
	ライティングダクト(撤去)
	丸型露出ボックス(撤去)
	非常照明 直付(撤去)
	誘導灯 B級(撤去)
	スポットライト(撤去)

図中記入なき撤去配線は下記とする
—×—×— VVF1.6-2C
—×—×— VVF1.6-2C(PF16)
---×----- VVF1.6-2C(VE16)
可能な限り配管・配線は撤去とする

撤去照明器具リスト		
部屋名	型式	数量
改修部分展示室	FL40W×2 直付	3
	スポットライト	7
	非常照明 直付	1
	誘導灯 B級	1
	ブラケット	6
屋外	ガーデンライト1灯型	2
改修部分吹抜	FL110W×2 吊下げ	9
	非常照明 直付	2



図中記入なき撤去配線は下記とする	
コンセント	—×—×— VVF2. 0-2C
	---×---×--- VVF2. 0-2C (PF22)
火報	—×///×— AE1. 2-4C
	---×-///-×- AE1. 2-4C (VE16)
可能な限り配管・配線は撤去とする	



機械設備工事特記仕様書		(11) 発生材の処理等 ■建築工事に準じる		(23) その他		9 工事細目	
1 工事名称	津市消防団白山方面団第4分団詰所車庫改修その他工事	1) 引渡しを要するもの () 上記以外の引き渡しを要するものについては別途、監督員が指示する。		1) 使用機械 低騒音型、低振動型の建設機械の使用に努めること。		9 (1) 配管材料	
2 工事場所	津市 白山町中ノ村 地内	2) 特別管理産業廃棄物 () 処理方法 ()		2) 測定機器の校正記録 工事で使用する測定機器に対しては適正に校正した器具を使用しなければならない。 測定に先立ち使用する測定機器の検査済証 (写し) 又は校正記録 (写し) を監督員に提示すること。		■ 給水管	
3 建築概要	消火栓の適用 図面及び特記仕様書に記載されていない事項は、以下による 国土交通省大臣官房官庁営繕部監修 「公共建築工事標準仕様書 (建築、電気、機械設備工事編) 平成28年版」 「公共建築改修工事標準仕様書 (建築、電気、機械設備工事編) 平成28年版」 「公共建築設備工事標準図 (電気、機械設備工事編) 平成28年版」 「建築、電気、機械設備工事監理指針平成28年版」 独立行政法人 建築研究所監修 「建築設備前蔵設計・施工指針2014年版」 下記の該当する項目を適用する。また、特記事項において選択する事項は、 ■印のついたものを適用する。	3) 現場内において再利用を図るもの □発生土 □その他 () 4) 再資源化を図るもの (□コンクリート塊 □アスファルトコンクリート塊 □建設発生材)		3) フロン回収及び充填 当該工事を施工するに当たって施工時にフロン類の充填、回収作業を行う場合は、フロン類の使用の合理化及び管理の適正化に関する法律 (平成27年4月1日施行) 等の関係法令を遵守し、第1種フロン類充填回収登録業者が行うこと。		部分的に配管種類を変更する場合は、図面内に明記すること。	
4 適用基準		(12) 電気保安技術者 □ 適用する ■ 適用しない		6 工事種目		配管材料	
5 一般事項	工事の詳細については、本設計図面及び仕様書による他、上記各適用基準に準拠し、監督員指示の下に意図かつ誠実に施工すること。 設計図面に定められた内容、現場の納まり、取り合い等の不明な点や施工上の困難・不都合、図面上の誤記及び記載漏れ等に起因する問題点及び疑義、設計図書とおりに施工することで将来不具合が発生しうると判断される場合については、その都度、監督員と協議すること。なお設計図書と通りの施工であっても使用上の不具合が発生した場合は協議の上、改善策を講じること。 他工事との取り合いについては予め当該工事関係者間において協議し、円滑な工事進捗に努めること。なお調整不足による意匠的な仕上り不備や不具合が発生した場合は監督員の指示により手直し施工を行うこと。	(13) 施工条件 監督員及び依頼部局と協議調整し決定すること。 1) 施工可能日 □ 一部に土、日曜日、祝祭日施工あり ■ 指定なし () 2) 施工可能時間帯 ■ 指定なし □ 指定あり (時 ~ 時)		給排水衛生設備工事 ■ 屋外給水設備工事 ■ 屋内給水設備工事 ■ 屋外排水設備工事 ■ 屋内排水通気設備工事 ■ 衛生器具設備工事 □ 消火設備工事 ■ 給湯設備工事 □ 屋外ガス設備工事 □ 屋内ガス設備工事 □ 浄化槽設備工事 □ 厨房機器設備 空調設備工事 ■ 機器設備工事 ■ 配管設備工事 ■ 換気設備工事		■ 雑排水管	
(1) 提出図書 ■建築工事に準じる	1) 工事書類 : ・施工計画書 ・打合記録 ・施工要領書 ・機器使用欄 ・機器明細図 ・工程表 ・施工図等 2) 工事完成図書: ・品質確認書類 ・工事日報 ・工事写真 ・安全・訓練実施記録 ・竣工図 (製本4 (原寸 2部、A3 (見開き) 2部)) ・機器完成図 (ファイル等1部) ・保守に関する説明書 (取扱説明書・保証書) 2部 ・機器性能試験成績書 1部 ・総合測定測定表 (試験結果・測定結果等) 1部 ・官公署届出事項控、検査済証 1部 ・出来形確認書類 1部 等 ※ 竣工図・施工図はCADにより作成すること。 ※ 工事写真は営繕工事写真撮影要領 (平成28年版) に従い撮影すること。 ※ 建築包含工事の場合、監督員に確認のこと。	(14) 概成工期 建築物等の使用を想定して総合試運転調整を行ううえで、関連工事を含めた各工事が支障のない状態で完了していること。 ■ 指定なし □ 指定あり (平成 年 月 日)		7 工事概要		配管材料	
(2) 機器及び材料等	工事に使用する機器及び材料等については、予め使用機材届出書 (メーカーリスト)、機器明細図、現品、カタログ、その他諸資料を事前に届け出ること。 尚、図面に記載の品番は、参考品番として便宜上メーカー品番を使用しているので、メーカー選定にあたっては、同等品以上の性能を有するものとする。また、国等による環境物品等の調達推進に関する法律 (グリーン購入法) を考慮し、再生品などの環境に優しい (環境物品) の調達に努める。 又、重量機器については、機器据付要領・前蔵計算書もあわせて提出すること。	(15) 仮設工事 構内既存の施設 ■建築工事に準じる 1) 便所 □ 利用できる □ 利用できない 2) 工事用水 □ 利用できる (有償) □ 利用できる (無償) □ 利用できない 3) 工事用電力 □ 利用できる (有償) □ 利用できる (無償) □ 利用できない ※ 本工事で新規受電または既設電気回路に接続し通電した時から工事に起因する電力料金は本工事に含まれる。		給排水衛生設備工事 (1) 給水設備工事 本工事は図示のごとくを工事範囲とし、直圧式により所要の各所に給水する。直圧部の弁類は、水道局規格品JIS 10K を使用する。 (2) 屋外排水設備工事 本工事は、汚水、雑排水を合流方式とし、敷地内最終樹に至る配管、樹を勾配に十分留意し敷設するものとする。 樹は公園型、現場打ちまたはプラスチック樹とする。 (3) 屋内排水通気設備工事 本工事は汚水、雑排水を合流式により屋外樹に接続放流する。 (4) 衛生器具設備工事 衛生器具を所定の位置に附属金具により壁面に取り付けるものとし、陶器の色は監督員と協議の上決定する。 (5) 給湯設備工事 電気温水器による局所給湯方式とし、図示の各所に給湯する。		給水設備工事 (1) 給水設備工事 本工事は図示のごとくを工事範囲とし、直圧式により所要の各所に給水する。直圧部の弁類は、水道局規格品JIS 10K を使用する。 (2) 屋外排水設備工事 本工事は、汚水、雑排水を合流方式とし、敷地内最終樹に至る配管、樹を勾配に十分留意し敷設するものとする。 樹は公園型、現場打ちまたはプラスチック樹とする。 (3) 屋内排水通気設備工事 本工事は汚水、雑排水を合流式により屋外樹に接続放流する。 (4) 衛生器具設備工事 衛生器具を所定の位置に附属金具により壁面に取り付けるものとし、陶器の色は監督員と協議の上決定する。 (5) 給湯設備工事 電気温水器による局所給湯方式とし、図示の各所に給湯する。	
(3) 官公署等への届出手続	工事に伴う関係官公署への必要な諸手続きは、受注者が遅滞なく行い、これに要する費用も負担する。 1) 消火器に係る消防用設備等設置届出書の作成 □本工事 (□建築工事 □電気設備工事 □機械設備工事) □別途工事 2) 防火対象物使用開始届出書 書類の作成 (機械設備図面の作成及び機械設備に関する部分の記入) を行うこと。	(16) 足場 ■建築工事に準じる 1) 内部足場 □ 樹立 □ 足場板 2) 外部足場 □ A種 □ B種 □ C種 □ D種 □ E種 □ F種 3) 防護シート等による養生 □ 適用する □ 適用しない ※設置する足場については、「手すり先行工法等に関するガイドライン」 (厚生労働省平成21年4月) により、「動きやすい安心感のある足場に関する基準」に適合する手すり、中さん及び幅木の機能を有する足場とし、足場の組立て、解体又は変更の作業は、「手すり先行工法により足場の組立て等に関する基準」の2の (2) 手すり据置き方式又は (3) 手すり先行専用足場方式により行うこと。		空調設備工事 (1) 機器設備工事 本工事は、ルームエアコンにより冷暖房をおこなうものとする。 各機器の据付・試運転調整を含めて機器設備工事とする。 空調設備工事に於ける外気、室内の温湿度条件		給湯設備工事 (1) 給湯設備工事 本工事は図示のごとくを工事範囲とし、直圧式により所要の各所に給湯する。直圧部の弁類は、水道局規格品JIS 10K を使用する。 (2) 屋外排水設備工事 本工事は、汚水、雑排水を合流方式とし、敷地内最終樹に至る配管、樹を勾配に十分留意し敷設するものとする。 樹は公園型、現場打ちまたはプラスチック樹とする。 (3) 屋内排水通気設備工事 本工事は汚水、雑排水を合流式により屋外樹に接続放流する。 (4) 衛生器具設備工事 衛生器具を所定の位置に附属金具により壁面に取り付けるものとし、陶器の色は監督員と協議の上決定する。 (5) 給湯設備工事 電気温水器による局所給湯方式とし、図示の各所に給湯する。	
(4) 品質管理	工事施工に関して、着手前・施工中・施工後の自主検査を実施すること。 チェックリスト等を作成し、管理を行うこと。	(17) 建築材料等 1) 本工事に使用する建築材料等は、設計図面に定める品質及び性能を有する新品とするほか別記記載の指定資材及び参考見積メーカー又はこれらと同等品以上とする。 品質が求められる水準以上であれば、市内生産品の優先使用に努めること。 2) 本工事で使用する建設資材の調達にあたっては、極力市内の取り扱い業者から購入するよう努めること。 3) 下記製品を本工事で使用する場合は、三重県リサイクル製品利用推進条例に基づく認定製品を使用すること。ただし認定製品が入手できない場合は、監督員と別途協議を行うこと。 (認定製品の品名:) 4) 下記製品を本工事で使用する場合は、三重県リサイクル製品利用推進条例に基づく認定製品を使用するように努めること。 (認定製品の品名: ・間伐材製工事用バリーカード・間伐材工事看板・間伐材表示板 ())		5 空調設備工事		給湯設備工事 (1) 給湯設備工事 本工事は図示のごとくを工事範囲とし、直圧式により所要の各所に給湯する。直圧部の弁類は、水道局規格品JIS 10K を使用する。 (2) 屋外排水設備工事 本工事は、汚水、雑排水を合流方式とし、敷地内最終樹に至る配管、樹を勾配に十分留意し敷設するものとする。 樹は公園型、現場打ちまたはプラスチック樹とする。 (3) 屋内排水通気設備工事 本工事は汚水、雑排水を合流式により屋外樹に接続放流する。 (4) 衛生器具設備工事 衛生器具を所定の位置に附属金具により壁面に取り付けるものとし、陶器の色は監督員と協議の上決定する。 (5) 給湯設備工事 電気温水器による局所給湯方式とし、図示の各所に給湯する。	
(5) 出来形管理	以下の項目について、出来形管理の対象として管理を行うこと。 1) 各種機器据付 ・耐震強度 (設計標準震度、アンカーの種類・サイズ確認・埋め込み深さ) ・基礎寸法 ・水平、垂直等 2) 配管・ダクト工事 ・支持間隔 ・振れ止め支持間隔 3) 屋外排水工事 ・排水勾配 ・樹の深さ 4) 水栓、リモコンスイッチ類の取付高さ	(18) 建設副産物 1) 請負額1億円以上の工事について、再生資源の利用又は建設副産物の搬出がある場合、受注者は工事の着手までに「再生資源利用計画書」 (建設資材を搬入する場合) 及び「再生資源利用促進計画書」 (建設副産物を搬出する場合) を施工計画書に綴じ込んで監督員に提出する。 また、工事が変更又は完了した場合には「再生資源利用実施書」 (建設資材を搬入した場合) 及び「再生資源利用促進実施書」 (建設副産物を搬出した場合) を作成し、監督員に提出する。 なお、計画書及び実施書の提出とともにJ A C I C が運営する「建築副産物情報交換システム」へのデータ入力も併せて行う。 2) 請負額1億円以上の工事について、「建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律」に従い、再資源化等が完了した後に報告書を提出すること。		6 空調設備工事		給湯設備工事 (1) 給湯設備工事 本工事は図示のごとくを工事範囲とし、直圧式により所要の各所に給湯する。直圧部の弁類は、水道局規格品JIS 10K を使用する。 (2) 屋外排水設備工事 本工事は、汚水、雑排水を合流方式とし、敷地内最終樹に至る配管、樹を勾配に十分留意し敷設するものとする。 樹は公園型、現場打ちまたはプラスチック樹とする。 (3) 屋内排水通気設備工事 本工事は汚水、雑排水を合流式により屋外樹に接続放流する。 (4) 衛生器具設備工事 衛生器具を所定の位置に附属金具により壁面に取り付けるものとし、陶器の色は監督員と協議の上決定する。 (5) 給湯設備工事 電気温水器による局所給湯方式とし、図示の各所に給湯する。	
(6) 製品確認	発注者、受注者において仕様を決定し、製作するような規格品ではない製品については、試験・検査等を行う機器が整備された施設内において、監督員等が製品の確認を行うものとする。 □ 適用する ■ 適用しない	(19) 三重県産業廃棄物税 本工事は産業廃棄物税相当分が計上されていないため、受注者が課税対象となった場合には完成年度の翌年度の4月1日から8月31日までの間に別に定める様式に産業廃棄物税納付証明書を添付して当該工事の発注者に対して支払請求を行うことができる。なお、この期間を超えて請求することはできない。また、産業廃棄物処理集計表 (マニフェストの数量の集計) を超えて請求することはできない。		7 空調設備工事		給湯設備工事 (1) 給湯設備工事 本工事は図示のごとくを工事範囲とし、直圧式により所要の各所に給湯する。直圧部の弁類は、水道局規格品JIS 10K を使用する。 (2) 屋外排水設備工事 本工事は、汚水、雑排水を合流方式とし、敷地内最終樹に至る配管、樹を勾配に十分留意し敷設するものとする。 樹は公園型、現場打ちまたはプラスチック樹とする。 (3) 屋内排水通気設備工事 本工事は汚水、雑排水を合流式により屋外樹に接続放流する。 (4) 衛生器具設備工事 衛生器具を所定の位置に附属金具により壁面に取り付けるものとし、陶器の色は監督員と協議の上決定する。 (5) 給湯設備工事 電気温水器による局所給湯方式とし、図示の各所に給湯する。	
(7) 耐震安全性の分類	構造体 () 類 建築非構造部材 () 類 建築設備 () 類	(20) 事故の発生時 工事の施工中に事故が発生した場合には、直ちに監督員へ通報するとともに、所定の様式により事故発生報告書を監督員が指示する期日までに監督員へ提出すること。 なお、事故発生後の措置について、監督員と協議を行うとともに、当該事故に係る状況聴取、調査、検証等に協力すること。		8 総合調整		給湯設備工事 (1) 給湯設備工事 本工事は図示のごとくを工事範囲とし、直圧式により所要の各所に給湯する。直圧部の弁類は、水道局規格品JIS 10K を使用する。 (2) 屋外排水設備工事 本工事は、汚水、雑排水を合流方式とし、敷地内最終樹に至る配管、樹を勾配に十分留意し敷設するものとする。 樹は公園型、現場打ちまたはプラスチック樹とする。 (3) 屋内排水通気設備工事 本工事は汚水、雑排水を合流式により屋外樹に接続放流する。 (4) 衛生器具設備工事 衛生器具を所定の位置に附属金具により壁面に取り付けるものとし、陶器の色は監督員と協議の上決定する。 (5) 給湯設備工事 電気温水器による局所給湯方式とし、図示の各所に給湯する。	
(8) 機器の地震力 (主要機器) 図示による	機器名 設置階 () 設計標準震度Ks () 地域係数 (1.0) 水槽類 設置階 () 設計標準震度Ks () 地域係数 (1.0)	(21) 既設との取合い・養生 本工事施工に伴う、既存設備の軽微な加工・改造は、本工事とする。 また、工事施工に際し、既存部分を汚損・破損等しないよう養生を行うこと。なお汚損・破損等した場合は、機能・仕上り共、既設にならい復旧すること。		9 総合調整		給湯設備工事 (1) 給湯設備工事 本工事は図示のごとくを工事範囲とし、直圧式により所要の各所に給湯する。直圧部の弁類は、水道局規格品JIS 10K を使用する。 (2) 屋外排水設備工事 本工事は、汚水、雑排水を合流方式とし、敷地内最終樹に至る配管、樹を勾配に十分留意し敷設するものとする。 樹は公園型、現場打ちまたはプラスチック樹とする。 (3) 屋内排水通気設備工事 本工事は汚水、雑排水を合流式により屋外樹に接続放流する。 (4) 衛生器具設備工事 衛生器具を所定の位置に附属金具により壁面に取り付けるものとし、陶器の色は監督員と協議の上決定する。 (5) 給湯設備工事 電気温水器による局所給湯方式とし、図示の各所に給湯する。	
(9) 冷媒 (フロン類) の回収	□ 適用する ■ 適用しない 冷媒機等の撤去に伴う冷媒の回収方法は、改修標準仕様書第3編 2 ． 4 ． 3により、次の書類の写しを監督員に提出すること。 ・フロン回収行程管理票 ・特定家庭用機器廃棄物管理票 (家電リサイクル券) 撤去する前にフロンを屋外機ユニットに集める作業 (ポンプダウン) を行うこと。 バッテリー形空調機の移設等により、冷媒の回収が必要となる場合においても、上記に準じて冷媒の大気中への飛散を防止する措置を講じること。	(22) 不正軽油の使用の禁止 1) 一般事項 工事の施工に当たり、工事現場で使用し、又は使用される車両 (資機材等の搬入車両を含む。) 並びに建設機械等の燃料として、不正軽油 (地方税法第144条の32 (製造等の承認を受ける義務等) の規定に違反する燃料をいう。) を使用してはならない。 2) 調査の協力 受注者は、市が使用燃料の採油調査を行う場合には、その調査に協力しなければならない。 また、受注者は下請負者等に同調査を協力するよう管理及び監督しなければならない。 3) 是正措置 受注者は、不正軽油の使用が判明した場合は、速やかに是正措置を講じなければならない。 また、受注者は下請負者等に不正軽油の使用が判明した場合は速やかに是正措置を講じるよう管理及び監督しなければならない。		10 総合調整		給湯設備工事 (1) 給湯設備工事 本工事は図示のごとくを工事範囲とし、直圧式により所要の各所に給湯する。直圧部の弁類は、水道局規格品JIS 10K を使用する。 (2) 屋外排水設備工事 本工事は、汚水、雑排水を合流方式とし、敷地内最終樹に至る配管、樹を勾配に十分留意し敷設するものとする。 樹は公園型、現場打ちまたはプラスチック樹とする。 (3) 屋内排水通気設備工事 本工事は汚水、雑排水を合流式により屋外樹に接続放流する。 (4) 衛生器具設備工事 衛生器具を所定の位置に附属金具により壁面に取り付けるものとし、陶器の色は監督員と協議の上決定する。 (5) 給湯設備工事 電気温水器による局所給湯方式とし、図示の各所に給湯する。	
(10) 中間技術検査	実施回数 () 回					※ 弁類 揚水ポンプ (二次側)、消火ポンプ (二次側)、水道直圧部は 10K とし、それ以外は 5K とする。 塩ビライニング鋼管に使用する際は、管端防食コブ付き、又はライニング弁を使用すること。	

※ 横走り管の吊り間隔

鋼管	100A以下 125A以上	－ －	2m 以下 3m以下
ビニル管 耐火二層管 銅管	80A以下 100A以上	－ －	1m 以下 2m以下
鉛管			1.5m以下
鉄鉄管	標準図による		

※ 横走り管形鋼振れ止め支持間隔

支持間隔	6m以下	8m以下	12m以下
鋼管	－	50A～100 A	125A～
鉄鉄管			
ビニル管 耐火二層管 銅管	25A～40A	50A～100A	125A～

※ 冷媒用銅管の横走り管の支持間隔

基準外径 9.52mm 以下 吊り間隔 1.5m以下
基準外径 12.70mm 以上 吊り間隔 2.0m以下
形鋼振れ止めの支持間隔は、銅管に準ずる。

※ 液管・ガス管共吊りの場合は
液管の外径を基準とする。

(2) ダクト工事

矩形ダクト ☐ 亜鉛鉄板 JIS G 3302 (SGCC、SGCCA) 鍍金付着Z18以上

☐ ステンレス鋼板 JIS G4305

工法 ☐ アングルフランジ工法

☐ 共板フランジ工法

☐ スライドオンフランジ工法

形鋼補強 ☐ 山形鋼 JIS G 3101 ☐ SUS鋼材 JIS G 4317

丸ダクト ☐ スパイラルダクト

☐ 下水道用リサイクル三層硬質塩化ビニル管 (多湿箇所) AS-62 (RS-VU)

(3) 保温塗装工事

1) 材料 部分的に材料を変更する場合は、図面に明記すること。

■ グラスウール保温材 保温筒 JIS A 9504 2号 40K (屋内一般等) 保温板、保温帯 JIS A 9504 2号 40K			
■ 給水管	<input type="checkbox"/> 排水管	■ 給湯管	<input type="checkbox"/> 温水管
<input type="checkbox"/> 蒸気管	<input type="checkbox"/> 冷水・冷温水管	<input type="checkbox"/> 冷媒管	<input type="checkbox"/>
(屋外等)			
<input type="checkbox"/> 給湯管	<input type="checkbox"/> 温水管	<input type="checkbox"/> 蒸気管	<input type="checkbox"/> 冷水・冷温水管
<input type="checkbox"/> 冷媒管	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

□ ロックウール保温材 保温板、保温帯、ブランケット (防火区画貫通部等) 1号JIS A 9504			
□ 給水管	<input type="checkbox"/> 排水管	□ 給湯管	<input type="checkbox"/> 温水管
□ 蒸気管	<input type="checkbox"/> 冷水・冷温水管	<input type="checkbox"/> 冷媒管	<input type="checkbox"/> 消火管

□ ポリスチレンフォーム保温材 保温筒 JIS A 9511 3号 (屋内一般等) 保温板 JIS A 9511 3号			
□ 給水管	<input type="checkbox"/> 排水管	<input type="checkbox"/> 冷水・冷温水管	<input type="checkbox"/> 冷水管 (2～4℃)
□ プライン管	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
(屋外等)			
□ 給水管	<input type="checkbox"/> 排水管	<input type="checkbox"/> 給湯管	<input type="checkbox"/> 冷水・冷温水管
□ プライン管	<input type="checkbox"/> 消火管	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

□ 調合ベイント塗り塗料 JIS K 5516 (合成樹脂調合ベイント) 1種 (露出)			
□ 給水管	<input type="checkbox"/> 排水管	<input type="checkbox"/> 通気管	<input type="checkbox"/> ドレン管
□ ガス管	<input type="checkbox"/> 消火管	<input type="checkbox"/> 油管	<input type="checkbox"/> 冷却水管

2) 保温厚

・ グラスウール、ロックウール

保温厚 (mm)	20	25	30	40	50
給水・排水・ドレン・給湯	～80A	100～150A	－	200A～	－
膨張・温水・消火管					
蒸気管	～25A	－	32～50A	65A～	－
冷水・冷温水・冷媒管	－	－	～25A	32～200A	250A～

・ ポリスチレンフォーム

保温厚 (mm)	20	25	30	40	50	65
給水・消火・排水管	～80A	100A～	－	－	－	－
冷水・冷温水管	－	－	～25A	32～200A	250A～	－
冷水管 (冷水温度2～4℃)	－	－	～20A	25A～100A	125A～	－
プライン管	－	－	－	～25A	32～80A	100A～

・ 機器ダクト保温厚

保温厚	
25mm	ダクト(屋内露出 [機械室、書庫、倉庫]、隠蔽部)、消音チャンバー・エルボ 膨張タンク、鋼板製タンク、排煙ダクト隠蔽部(ロックウール)
50mm	ダクト(屋内露出 [一般居室、廊下])、サブライチチャンバー、貯温タンク類 冷水・冷温水・温水・環水タンク、熱交換器、冷水・冷温水・温水・蒸気ヘッダー 排気筒隠蔽部 (ロックウール)
75mm	煙導 (ロックウール)

3) 種別

給排水衛生設備配管の保温仕様

	1	2	3	4
屋内露出	保温筒	鉄線	合成樹脂製カパー	
機械室・書庫・倉庫	保温筒	鉄線	原紙	7A51g' 52K01仕上
天井内・P・S内	7A15' 52K01配保温筒	アルミガラスクロス粘着テープ		
暗渠内 (ピット内)	保温筒	鉄線	ポリエチレンフィルム	青色7A51g' 52K02
屋外露出	保温筒	鉄線	ポリエチレンフィルム	SUS鋼板仕上

※ 1) 排水管については、上表暗渠内 (ピット内) の仕様を防食テープ巻きに読み替える。

※ 2) サヤ管工法：架橋ポリエチレン・ポリブデン管使用の場合は、上表保温不要。

※ 3) 消火管の外部露出のは保温を行う。

空調設備配管の保温仕様 (R、6保温材の仕様のみ)

	1	2	3	4	5
屋内露出	保温筒	鉄線	8' 15K127A4A	合成樹脂製カパー	
機械室・書庫・倉庫	保温筒	鉄線	8' 15K127A4A	原紙	アルミガラスクロス仕上
天井内・P・S内 (温水・蒸気管以外)	保温筒	鉄線	8' 15K127A4A	アルミガラスクロス仕上	
暗渠内 (ピット内)	保温筒	鉄線	8' 15K127A4A	青色アルミガラスクロス仕上	
屋外露出	保温筒	鉄線	8' 15K127A4A	SUS鋼板仕上	

※ 1) 冷媒管に断熱材被覆鋼管を使用した場合の保温種別

☐ 保温化粧ケース仕上 ☒ ポリスチレン成形の上、SUS鋼板仕上 (屋外露出部分)

機器保温仕様

	1	2	3	4	5
冷水・冷温水タンク 鋼板製タンク	鉄	保温板	ポリエチレン フィルム	鉄線	SUS鋼板仕上 カラー鉄板 (屋内)
冷水・冷温水ヘッダ 温水・膨張・還水 貯温タンク 温水・蒸気ヘッダ 熱交換器	鉄	保温板	鉄線	SUS鋼板仕上 カラー鉄板 (屋内)	

※ 1) 密閉式膨張タンク及び、プレート形熱交換器は、保温施工不要

ダクト・チャンバー・煙道 保温仕様

		1	2	3	4	5
長方形ダクト	屋内露出	一般・廊下	鉄	保温板	カラー鉄板	
	機械室		鉄	アルミガラスクロス化粧保温板		アルミガラスクロス粘着テープ
	屋内隠蔽、D・S内		鉄	アルミガラスクロス化粧保温板		アルミガラスクロス粘着テープ
	屋外露出、多湿箇所		鉄	保温板	ポリエチレンフィルム	鉄線 SUS鋼板
スパイラルダクト	屋内露出	一般・廊下	保温帯	鉄線	カラー鉄板	
	機械室		アルミガラスクロス化粧保温帯		アルミガラスクロス粘着テープ	
	屋内隠蔽、多湿箇所		アルミガラスクロス化粧保温帯		アルミガラスクロス粘着テープ	
	屋外露出、多湿箇所		保温帯	鉄線	ポリエチレンフィルム	鉄線 SUS鋼板
サブライチャンバー			鉄	保温板	ガラスクロス	銅亀甲金網
消音チャンバー、エルボ			鉄	保温板	ガラスクロス	
排煙ダクト長方形	屋内隠蔽	鉄	アルミガラスクロス化粧保温板			アルミガラスクロス粘着テープ
排煙ダクト円形	屋内隠蔽	アルミガラスクロス化粧保温帯		アルミガラスクロス粘着テープ		
煙道	ブランケット	鉄線		カラー鉄板		

※ 1) 排煙ダクトは、ロックウール保温板、保温帯、1号を使用。

※ 2) 煙道ブランケットは、JIS G 3554 (亀甲金網) による亜鉛鍍金を施した網目16線径0.55
による防錆処理を施したプラス0号で外面補強したものを使用。

※ 3) 銅亀甲金網は、JIS H 3260 網目10、線径0.5

配管用炭素鋼鋼管の塗装仕様

機材	状態	塗料の種類	塗り回数			備考
			下塗り	中塗り	上塗り	
白管	露出	調合ベイント	1	1	1	下塗りはさび止めベイント
黒管	露出	調合ベイント	2	1	1	下塗りはさび止めベイント

※ 1) ねじ切りした部分の鉄面は、さび止めベイント2回塗りを行う。

4) 施工

ダクト保温施工範囲

- SA
☐ 保温あり ☐ 保温なし ☐ 図面による ☐ その他 ()
 - EA
☐ 保温あり ☐ 保温なし ☐ 図面による ☐ その他 ()
 - RA
☐ 保温あり ☐ 保温なし ☐ 図面による ☐ その他 ()
 - OA
☐ 保温あり ☐ 保温なし ☐ 図面による ☐ その他 ()
- チャンバー内貼施工 ☐ 内貼あり (mm) ☐ 内貼なし ☐ 図面による ☐ その他 ()

(4) スリーブ工事

- 管スリーブの径は、原則として、管の外径 (保温されるものは、保温厚さを含む)
より40mm程度大 (≒2サイズUP) なるものとする。
箱抜きスリーブは、木枠又は鋼板 (実管ダクト) とする。
- 地中部分のスリーブは、塩化ビニル管 (VU) とし、水密を要する部分のスリーブは、
つば付き鋼管とする。
- その他のスリーブは、特記なき限り、紙ボイドとする。紙ボイド使用の際は、
配管前に必ず撤去のこと。

共通事項

- 陸上ポンプ、送排風機 (エアハン含む) の電動機は、すべて全閉防まつ形とする。
- 配管途中、要所にはフランジ接続箇所を設置し、取り外しを容易にすること。
- 系統が分かるように、必要箇所 (機械室、P・S内等) に文字書き・矢印記入・バルブ札取付を
行うこと。手書きもしくはカッティングシートとする。
- 機器・配管・支持金物には、絶縁処理を行うこと。
- 配管に空気が滞留する恐れのある箇所には、エア抜き弁を設置し、最寄りの
ドレン管に接続すること。
- 屋外機器設置基礎のアンカーボルトは、構造体鉄筋より取り出す、
もしくはあと施工アンカー工法の類とする。使用アンカーについては、
機器仕様書、耐震クラス等を確認すること。また、重量機器にあと施工アンカー
工法を採用する場合、ケミカルアンカーを使用し施工すること。
- 機器、配管の耐震措置及び機器、ダクトの防振・消音については、標準仕様書
、標準図、施工監理指針及び建築設備耐震設計・施工指針に基づき十分考慮
すること。
- 雨がかり部に取り付けるガラのりチャンバーには、水抜きを設けること。
- 屋外埋設管 (給水、消火、ガス) には、埋設シートを敷設し、曲がり・分岐部には、
地中埋設機を施工すること。
- 冷水及び冷温水管の支持材には、合成樹脂製支持受けを使用すること。
- 水栓は、節水機構付きのものを使用すること。
- 冷媒管等防火区画貫通部は、建築基準法・消防法に適合する工法にて
防火処理を行うこと。
- 地中埋設配管については、下記の次下対策を講ずること。
 - 管は継ぎ手の組み合わせにより可とう性をもたせる。
 - 接続箇所は必要に応じコンクリートで保護する。
 - 土間配管は、土間筋に吊り下げるなど埋設配管を保持すること。
 - 呼び径100A以下はM10、125A～250AはM12、250A以上はM16のステンレス
棒鋼を使用する。
- 屋外露出及び多湿箇所 (トレンチピット等) の配管架台は、SUS又はSS溶融亜鉛
メッキ仕上げとすること。
- 屋外設置のマンホール類には用途名を入れること。
- 合成樹脂製カパーの仕上げについては、保温見切り箇所には菊座の取り付けを
行うこと。
- 送風機用ベルトカバーには点検口を設けること。
- 建設発生土は場外自由処分とすること。

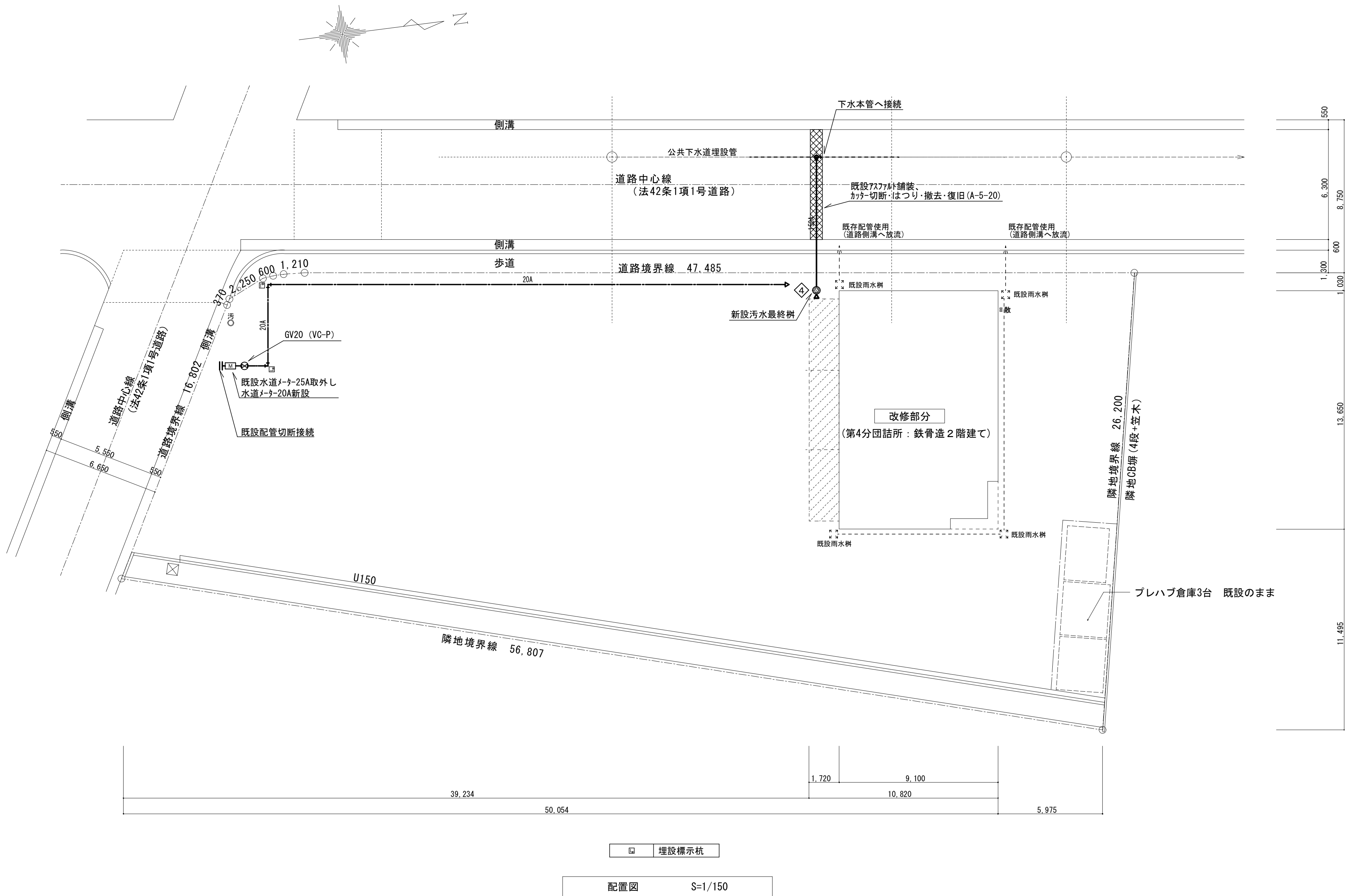
衛生設備 器具表

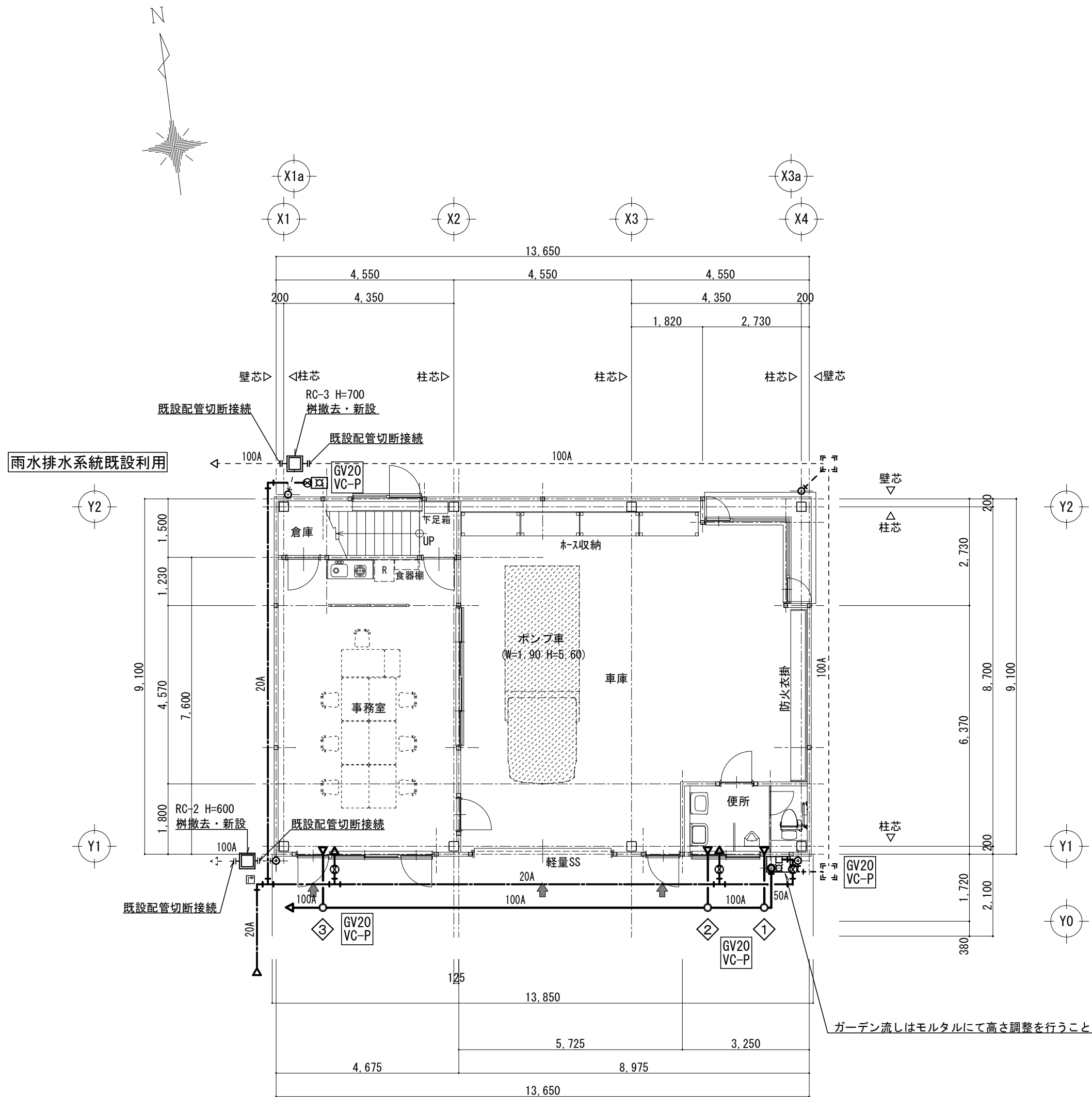
名 称	型 番 (上段：L I X I L) (下段：T O T O)	1 階		屋 外 計	合 計
		便 所	事 務 室		
洋風便器	BC-P20S、DT-PA250CH、CF-39CK-U(普通便座)、CF-63HST CS597BS、SH596BAYR、TC301(普通便座)、YH702	1			1
小便器	U-406RU、UF-3JT、SF-10E、UF506BWP UFH500、TG600PN、T9R、HH04060	1			1
壁掛洗面器	L-176 L250	1			1
L型手すり	KF-926AE80D25 T112GL10	1			1
化粧鏡	KF-3545 YM3545A	1			1
掃除用流し	S-202A、LF-7E-19、SF-20SAF-P、SF-10E、SF-202 SK22A、T23AE20C、T37SGEP、TH406G、TK22、T9R、HH04060、TN114	1			1
散水栓	LF-33-13-CV、B-3 (BOX) T28UNH13、B-3 (BOX)			1	1
横水栓	LF-7R-13、水栓柱(アルミ H=1200) T200SNR13C、水栓柱(アルミ H=1200)			1	1
同上用下流し	ガ-デ-ン流し(550-G型・タロン)			1	1

樹 明 細

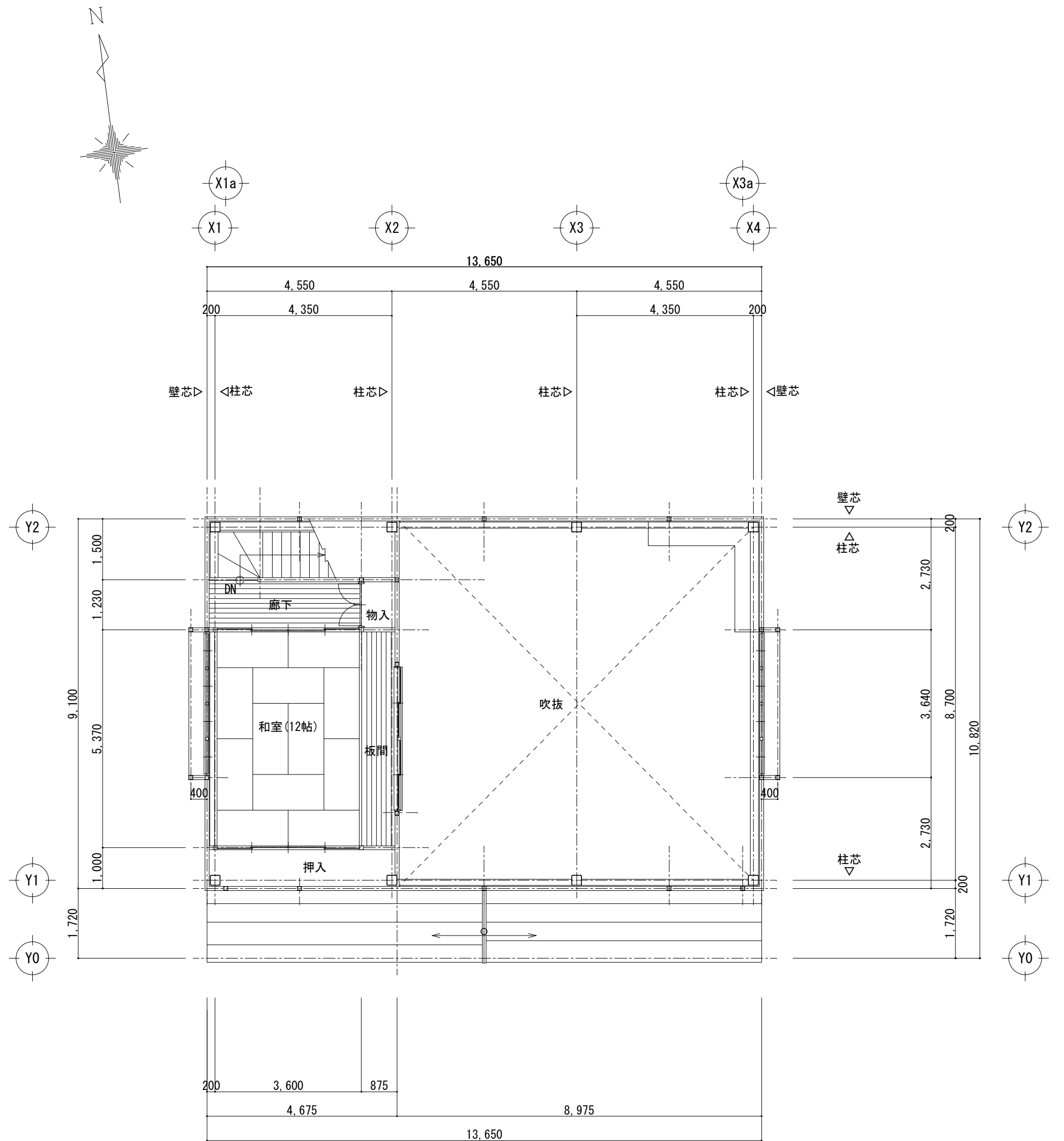
記号	樹種	樹径 (排水管径－立上管径)	蓋	樹深さ (GL-管底)
①	塩ビ製小口径樹 90 Y	100-200	鋳鉄製防護蓋 (T-8)	600
②	塩ビ製小口径樹 45 Y	100-200	鋳鉄製防護蓋 (T-8)	615
③	塩ビ製小口径樹 45 Y	100-200	鋳鉄製防護蓋 (T-8)	715
④	塩ビ製小口径樹 ト-ロツフ	100-200	鋳鉄製防護蓋 (T-8)	800

記 号	名 称	仕 様 及 び 附 属 品	電気容量	台数	設置場所	参考型番 (上段：LIXIL 下段：TOTO)
	電気温水器	型式 : 据置型 飲料・洗い物用 タンク容量 : 12 リットル 付属品 : 耐震用脚、排水ホッパ-、アンガ-ル形止水栓 水栓接続用フレキチューブ	AC100V-1.1kW	1	事務室	EHPN-KB12ECV2、ELF-3SEK、EFH-5MK、EFH-DA1 EFH-CP1、他付属品共 REKB12Ai2、RHE708R、RHE22H-50N、TL348CU 連結管、ニップル、他付属品共

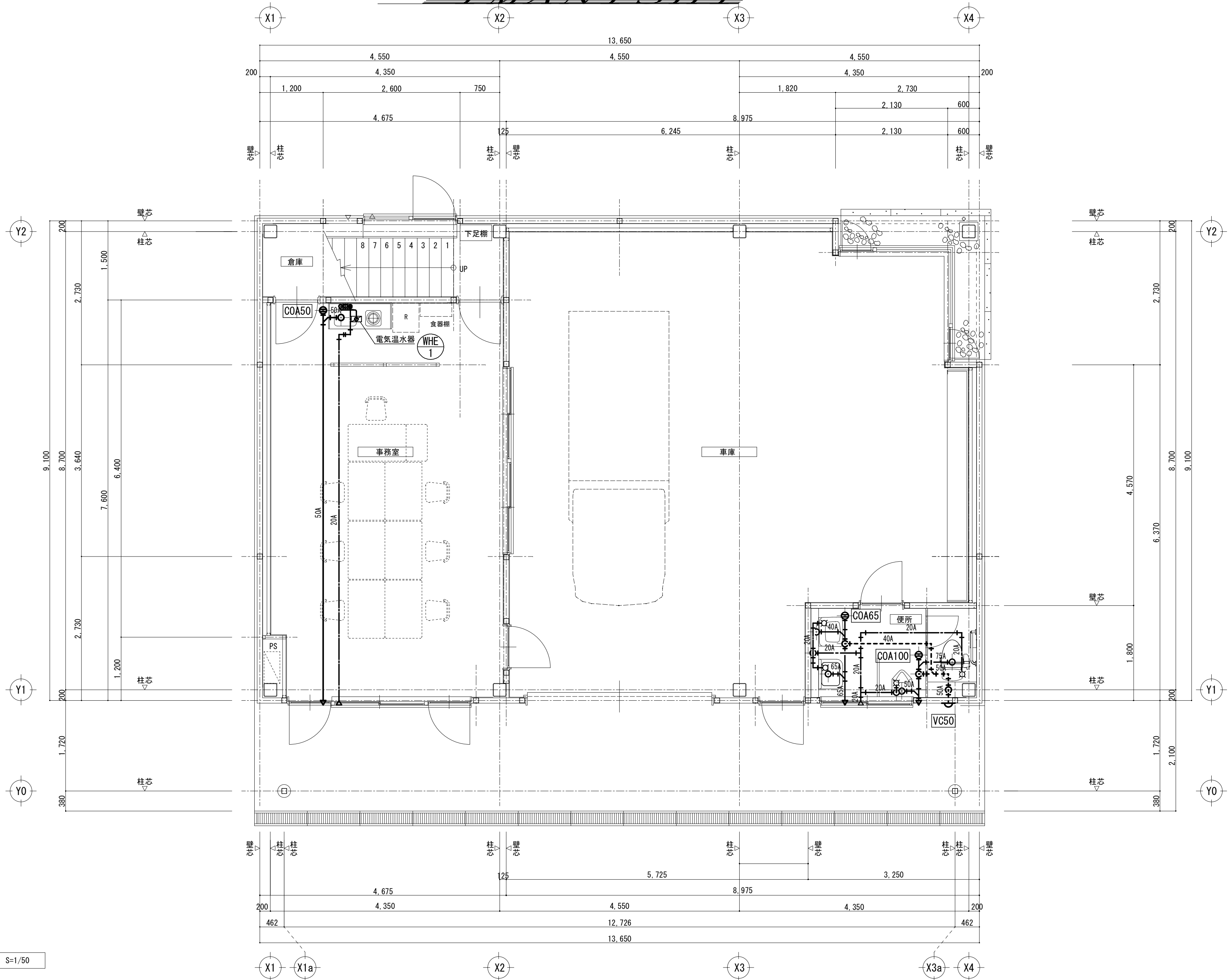
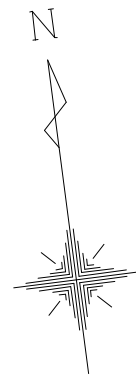




1 階平面図 S=1/100



2 階平面図 S=1/100



1 階平面詳細図 S=1/50

空調機器表

記号	名 称	冷房能力 (kW)	暖房能力 (kW)	消費電力(W)		圧縮機電動機 出力(W)	送風機出力 (W)	電 源 (V)	冷媒	冷媒配管 液管/ガス管	付属品	台数	設置個所	備考
				冷房時	暖房時									
AC 1	空冷ヒートポンプ ルームエアコン 壁掛型・室内電源	7.1 (0.5～7.3)	8.5 (0.4～12.4)	2,160 (115～2,250)	1,960 (100～3,960)	1,900	71+71 ----- 106	単相200V	R32	6.4/12.7	ワイヤレスリモコン リモコンホルダー	1	事務室	
AC 2	空冷ヒートポンプ ルームエアコン 壁掛型・室内電源	4.0 (0.5～5.3)	5.0 (0.4～12.2)	790 (85～1,330)	890 (80～3,730)	1,100	71+71 ----- 106	単相200V	R32	6.4/9.5	ワイヤレスリモコン リモコンホルダー	1	和室	
※ 運転特性、能力はJIS条件による。電源容量値は参考とする。 ※ 空調機トッランナー基準改定仕様とする。冷媒ガスはオゾン破壊係数ゼロとする。 ※ 室外機－室内機間の2次側配線は冷媒管と抱き合わせの上本工事とする。 ※ 室外機はSUS製ボルトにて固定、Wナットにて締付けの事。アンカーはケミカルアンカー仕様。 ※ 機器は同等品以上とする。室外機は防振ゴムシート（t＝10以上）を敷くこと。 ※ 機器の製作仕様は国土交通省仕様とする。 但し該当しない機器については製造者標準仕様による。 ※ 室外機基礎は建築工事とする。														

換気機器表

記号	名 称	風 量 (m ³ /h)	静 圧 (Pa)	騒 音 (dB)	口 径 (φ)	電 源 (V)	消費電力 (W)	付 属 品	台数	設置個所	備考
V 1	壁掛扇	540／285		41／22.5	200	1φ100	18／9.5	SUS製ウェア－カバー 防鳥網	1	事務室	
V 2	天井扇・インテリ格子タイプ	250／125	70／30	33／20	150	1φ100	36／13	深形フード 取り付け φ150・SUS製	1	和室	
V 3	レンジフードファン 建築工事（ミキシン付属）							深形フード 取り付け φ100・SUS製（本工事）	1	事務室	
P 1	ハイパワーファン・角形格子グリル	150		38.5	150	1φ100	6.1	深形フード 取り付け φ150・SUS製	1	便所	
F 1	有圧換気扇・低騒音	5,000		50	450	1φ100	390	ウェア－カバー 防鳥網 電気式シャッター バックガード φ450・SUS製	1	車庫	
OA 1	給気グリル・風量調整機構付				150			深型フード 防虫網 φ150・SUS製	2	事務室 和室	

換気計算書

階数	部屋名	面積 (㎡) Af	天井高 (m) H	気積 (m³) V	居室 判定	機械 換気 種類	無窓居室 法定居室換気量		居室必要換気量			換気回数法 による換気量			火気使用室の換気量			一般換気風量 (m³/h)	常時換気風量 (24時間)		常時換気風量 (m³/h)	常時換気 換気回数	給排気経路	選定換気扇機種・能力								
							V1＝20Af/N		V2＝30・Af・N			V3＝V・換気回数			V4＝e・P		V4	V1・2・3・4 ＜一般換気風量		V5＝V・係数		V5 ＜常時換気風量		常時換気量 ÷ V	記号	型式	一般換気	常時換気	台数			
							N	V1	n	N	V2	換気回数	V3	合計	e	P		係数	V5	風量 CMH	風量 CMH											
							N	V1	n	N	V2	換気回数	V3	合計	e	P		係数	V5	風量 CMH	風量 CMH											
1	車庫	75.82	2.80	212.30		3種					10	2,123	4,663				5,000					OA└─┐EA	F-1	有圧換気扇	5000		1					
2	車庫吹き抜け	81.67	3.11	254.00		3種					10	2,540																				
1	便所	5.85	2.40	14.10		3種					10	141	141					150	0.3	27	125							1.44		P-1	ﾊﾞｲﾌﾟﾌｧﾝ	150
1	事務室	35.53	2.45	87.10	○	3種	3	237	0.15	5	150						300	0.3	27	125	1.44	OA└─┐EA	V-1	壁換気扇	250	125	1					
														30	1.0	30	100						└─┐EA	V-2	天井扇	100		1				
2	和室(12帖)	25.10	2.55	64.10	○	3種			0.3	8	240						250	0.3	20	125	1.95	OA──┐EA	V-1	壁換気扇	250	125	1					

